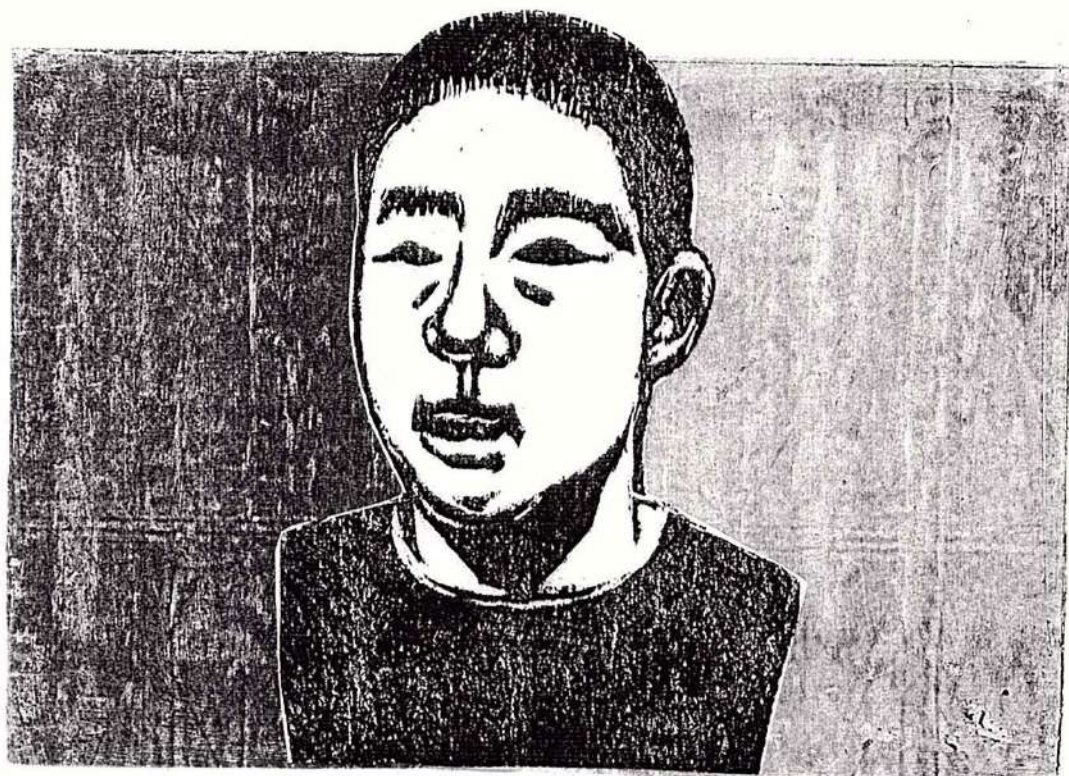


町田市障がい者青年学級

実践報告集

2021年度 第47号



はじめに

2021年度に実施した、町田市障がい者青年学級（以下「青年学級」といいます。）事業における活動内容をまとめた「実践報告集 第47号」を刊行しました。

町田市では、おもに知的障害のある方を中心とした青年学級を1974年に開設しました。青年学級は、障がいのある青年たちが、当事者同士、あるいは地域住民や学生といった様々な人々と交流し、音楽・スポーツ・演劇・創作などの集団活動を行うことにより「生きる力・働く力」を獲得することをねらいとしています。

この報告集は、青年学級の活動の様子を一年ごとに綴っています。青年学級における多数ある活動を分野ごとに細かく分析し、各々の課題を明らかにしたうえで今後の活動の展望を語ることを目的に編集しました。編集にあたっては、日頃から活動をご支援いただいているボランティアスタッフ（以下「担当者」といいます。）の皆様にご尽力いただきました。

2021年度は、「公民館学級」・「ひかり学級」・「土曜学級」の3つの学級に158名の学級生が在籍し、学級を支えるおよそ55名の担当者とともに活動してまいりました。この一年を振り返りますと、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動時間の短縮や学級日の中止を余儀なくされた年となりました。また、コロナ禍によって学級活動の参加を自粛される学級生・担当者も少なくありませんでした。

しかしながら、そのような状況においても、消毒やマスクの着用など感染症対策を講じたうえで学級活動を続け、一方では、減少する担当者を補うため近隣の大学の授業などで青年学級のPR活動も行っていました。

人間関係がますます疎遠になりつつあるコロナ禍においても、障がいがあるといわれる人々が主体的に学び、社会参加し、自らの人生を肯定し、地域で生活していくために、社会教育事業としての青年学級を行ってまいります。

末筆になりましたが、事業の実施にあたり、日頃から活動をご支援いただいている担当者の皆様、関係者の皆様のご尽力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

2022年8月

町田市生涯学習センター

目 次

はじめに	3	夢と音班	99
第1部 学級活動の概要	5	虹色のパプリカ班	103
第2部 公民館学級		アマビエ班	107
第1章 コース活動		けやき坂班	111
みんなの幸せづくりコース	17	第2章 自治運営	
まあるいゆめコース	21	1 班長会	115
さくらコース	25	第3章 考察	116
くらしハッピーハッピーコース	29	第5部 地域への広がり	
さくらんぼスポーツ体づくりコース	35	第1章 サークル活動	
ゆめのつづきコース	41	1 おなべの会	121
第2章 自治運営		2 とびたつ会	122
1 班長会	51	3 スケッチルーム	124
2 つどい委員会	53	4 上を向く会～気流～	125
第3章 考察	54	第2章 若葉とそよ風のハーモニー	
第3部 ひかり学級		若葉とそよ風のハーモニー	127
第1章 コース活動		グループ活動	131
ミニ・コスモスコース	61	わかそよによせて	157
さざんかアートグループコース	67	第6部 学級を支える体制	
スポーツで伝える 2022	73	第1章 担当者会・学習会・調整会	161
ふれあって飛びたとう編集部	79	第2章 送迎検討委員会	165
第2章 自治運営		第3章 父母会	168
1 班長会	85	第7部 青年学級によせて	
2 つどい委員会	88	第1章 新人担当者として関わって	171
第3章 考察	91	第2章 障がい者青年学級の始まるの頃	175
第4部 土曜学級		資料	179
第1章 班活動			

第 1 部

2 0 2 1 年度

学級活動の概要

1. 青年学級のねらい

青年学級開設当初は20名に満たなかった学級生も、現在は150人以上になり、3つの学級にわかれてそれぞれ独自の活動を展開しています。各学級ともに、青年学級開設当初からの目標である「生きる力・働く力の獲得」のもと、「自治」「生活づくり」「文化の創造」という3つの柱を軸に活動を行ってきました。

ここでいう3つの柱についてですが、まず「自治」とは学級生自身が活動を企画し、運営していくことを意味します。一人ひとりの学級生の意見をもとに、それを取りまとめる班長・副班長を中心とした集団活動が進められ、さらにその班長や副班長によって構成される班長会で学級全体を見渡していく、というような民主的なプロセスを重要視してきました。そして何よりも大切にしてきたことは、学級生がなにものにも束縛されることなく、一人ひとりの思いを自由に語るということです。自分自身の意見を述べる機会や経験を持ちにくかった学級生一人ひとりの主体性は、確実に培われてきました。

次に「生活づくり」です。これは活動のなかでお互いの要求、職場や家庭での喜びや哀しみなどのさまざまな思いを伝え合い、一人ひとりの生活の様子や課題を集団の場に出し、その思いや要求を集団で受け止め共有していくことです。そのことを通して、自らの生活を振り返り、自分自身の存在を肯定し、人を思いやる仲間づくり・集団づくりが行われてきました。この集団での経験が、現実の厳しい生活に向き合い、積極的に自分の生活上の困難に立ち向かっていく力になるのではないかと考えられます。

このような自治的な集団をもとに、学級生の生活要求や課題を反映させることでつくられていく活動は、既成のものではない独自の「文化の創造」を通して、具体的なかたちを与えられ、さらに深められていきます。それにより、学級生が活動のなかで実質的な主体者となり、ひいては生活場面でも主体的な存在となっていくことを目指しています。

実際の活動では、劇や音楽、絵などの様々

な創作活動を素材として取り組み、経験の幅を広げながら活動を創りだしてきました。そして、このような「文化の創造」から、学級生の要求や働くことの誇り、喜び、苦しみ、仲間への思いなど、生活実感に根ざしたものを取り入れ、オリジナルソングに代表されるような、青年学級独自の表現文化活動を作り上げ、他者へアピールする力を築きあげてきました。

このように、文化活動に積極的に関わり、「文化の創造」を担っていくことは、自らの生活を振り返り、作り上げ、学級生が主人公として人生を切り拓いていく力につながると考えられます。

「文化の創造」活動の延長として、1988年からスタートした『若葉とそよ風のハーモニーコンサート』（以下、わかそよ）も、2019年5月に19回目が開催され、またこれに類する催し物が開かれるなどしていますが、これまでの青年学級の実践から、地域に打って出たコンサートであり、そこでは長年培ってきた学級生の自治の力が大いに発揮されています。

「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つが歯車のように回りながら学級生たちの生活をより豊かなものにしていき、大きな力になっていくことが、これまでの実践のなかで確認されてきています。このことを踏まえ、今年度もそれぞれの学級で実践が展開されました。

2. 青年学級の概要

(1) 各学級の活動の概要

青年学級は、現在、3つの学級にわかれて月2回の活動を行っています。そのうち「公民館学級」と「ひかり学級」は日曜日、「土曜学級」は土曜日に活動しています。

2021年度は3学級あわせて学級生158名（年度当初時点での在籍者数）、担当者55名（年度末時点で担当者または当日担当者として活動に関わっていたボランティアの人数）で活動を行いました。一年間の活動は6月の開級式から、秋の日帰り旅行などを挟んで、3月の成果発表会までの間に公民館・ひ

かり学級は原則として毎月第1・第3日曜日に、土曜学級は毎月第2・第4土曜日に行い、それぞれの学級で年14～15回の活動を行いました。また、活動体制としては、土曜学級が班体制、公民館学級とひかり学級がコース制をとりました。

（２）活動日の大まかな流れ

タイムテーブルは3学級ともに概ね次のとおりですが2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一部変則的に行いました。

10時～	朝のつどい
10時30分～	コース・班活動 (途中、昼食を挟む)
15時30分～	帰りのつどい
16時	終了
16時～	班長会など

班長・副班長は、コースや班をまとめると共に、「班長会」に出席し、他のコースや班との連絡を取り合って、各学級全体の活動について話し合い、学級の自治活動を行いました。他にも、公民館学級では、朝夕のつどいについて話し合う「つどい委員会」が帰りのつどいの後に行われました。土曜学級では、班毎に交代制でつどいについて話し合われました。

（３）一年間の学級活動の流れ

6月	開級式
7～2月	月2回の学級活動 (8月は夏休み、9～11月に日帰り旅行あり)
2～3月	成果発表会

3. 青年学級のこれまでの歩み

1974年度に開設された青年学級は体制面に着目すると、その歴史の中に大きな4つの節目をとらえることができます。すなわち、コース制の始まり(1985年)、ひかり学級の発足(1991年)、土曜学級の発足(1997年)、とびたつ会の発足(2004年)です。そしてこの節目を境にして、5つの時期に分けることが可能となります。

（１）青年学級の発足と実践から生まれた3つの柱

【1974年度～1984年度】

第一の時期は、青年学級の実践の方向性を模索する中から実践の中核となる3つの柱を確立した時期と言えます。この3つの柱とは、素材として表現活動を伴う文化的な創造活動を重視すること、集団のかたちとして自治的な集団をめざすこと、主題としてそれぞれの生活を活動の中心にすえることです。

こうした3つの柱は、それぞれ、劇づくりを通じた仲間づくりをめざした時期(1974年～1977年)、自主的な活動を重視した時期(1978年～1980年)、生活を見つめ直した時期(1981年～1984年)という3つの時期に対応しており、実践の中から生み出されてきた柱そのものと言ってよいでしょう。また、発足当初20名だった学級生の数は、1984年度には63名になっていました。

（２）コース制のはじまりとその発展の時期

【1985年度～1990年度】

第二の時期は、コース制の実施によって始まる時期ですが、第一の時期の成果を受けて、内容別のコース活動に分かれ、それぞれのコースごとにその内容をじっくり深めていく中で、生活づくりをめざすこととなりました。

この時期の生活づくりというねらいが具体的な成果となってあらわれた例に、「わかそよ」が産声を上げたことが挙げられるでしょう。それぞれの生活の中で感じている想いを歌に託して地域に向けて発信することを通じ、一人ひとりの新たな生活の創造が始まったと言えます。

また、こうした活動の中から、全国障害者問題研究会の全国大会に参加したり、パリで開催された国際会議に参加したりする学級生が現れるようにもなってきました。

生活づくりという目標のもと、地域にアピールしていく活動は、いろいろなところで実を結び始めたと言ってよいと思います。

この間、参加希望者は増加を続け、1990年度には学級生が99名を数えるようになりました。

(3) ひかり学級への分級による2学級体制の時期

【1991年度～1996年度】

第三の時期は、学級生の増加という事態に対応するためにひかり学級の誕生から始まる時期です。

学級生が増加する中で、言語的コミュニケーションが難しく、多くの介助を必要とする障がいのある学級生の姿も見られるようになりました。そうした生活上の困難を抱えた学級生がいる一方で、問題が差し迫っていない学級生も少なからずいるという状況は、学級生の多様化も意味していました。

こうした状況下では、学級全体としての共通の目標を以前のように維持することは、しだいに困難になってきました。しかしながら、それは一方で今までの流れを継承しつつ、多様な要求に応える実践を繰り返してきた時期であると言えるでしょう。

社会への大切なアピールの場「わかそよ」も、青年学級の大規模化のため、隔年開催となりましたが、ミュージカルという新しい表現を盛り込みながら発展を遂げています。またこの時期、海外研修の機会を与えられる学級生が何名か生まれました。

(4) 土曜学級の誕生による3学級体制の時期

【1997年度～2003年度】

第四の時期は、土曜学級の誕生によって3学級の体制が始まった時期です。土曜学級は、最初、休日の小学校の校舎を借りるかたちで発足しました。活動の際、車いすの方が一部利用できない場所がありましたが、2002年に公民館が現在のビルに移ってからは、公民館で活動できるようになりました。「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つの柱を土台にしながらも、公民館学級、ひかり学級、土曜学級のそれぞれが独自の活動を展開するようになりました。

この時期、公民館学級の学級生である高坂茂さんが、日本で最初の本人活動の会「さくら会」結成の中心メンバーとなり、町田の青年学級にも本人活動の成果を持ち帰ろうという思いで活動を始めましたが、2000年3月に志し半ばで職場の事故で亡くなるという大変大きな出来事がありました。「町田にも本人活動を」という動きは、こうした中で芽生え始め、高坂さん亡き後は、その遺志を引き継ぐかたちでいろいろな試みがなされ、とびたつ会の発足へとつながる流れを作り出しました。

(5) とびたつ会の誕生 ～青年の活躍の拡がり

【2004年度～現在】

第五の時期は、青年学級からとびたつ会が生まれ、市主催事業としての青年学級と自主サークルとしてのとびたつ会が、並び立つ体制を開始した時期です。とびたつ会は、形式的には、青年学級とは別の組織ですが、青年学級の活動を通して本人活動の重要性を自覚したメンバーによる会です。しかし、とびたつ会にも青年学級に参加した経験のない青年が加わるなど、次第に独立した活動をするようになりましたが、学級の終わった後の交流や学級行事などへのとびたつ会メンバーの参加、「わかそよ」や、それに類する催し物の共同開催など、両者は深い関係を築いてきました。

また、とびたつ会の発足によるメンバーの移動が、結果的に学級生の受け入れ能力を超えてしまった青年学級に新たなメンバーを受け入れる余地をもたらしました。しかし、短期的には学級をひっぱっていくリーダー的存在が抜けることを意味しており、学級活動に影響をもたらすことになりました。しかし学級生の中からは新しくリーダーシップを発揮する存在が現れ始め、そのリーダーシップのもとで新しい活動の展開が見られるようになりました。

学級では表現活動を通じて主体性を獲得する場面が多くあります。例えば実際に歌うことはできなくても学級ソングの作詞をし

て発表の舞台に上がるという経験を通じて主体性を獲得する青年たちが出てきました。

こうした青年たちが表舞台に出ることで、学級の雰囲気にも変化の兆しが生まれています。

4. 3 学級に関わる今後の課題

青年学級の抱える課題として、新入学級生の継続的な受け入れの問題があります。青年学級は、当初 20 名弱の人数からスタートしました。担当者不足などの理由から 2001 年から新入学級生を受け入れられない状況が発生していましたが、2010 年からは募集を再開しています。2021 年度には若干名の募集に対し、4 名の応募がありましたが、全員を受け入れることができました。

現在の 3 学級体制（公民館学級、ひかり学級、土曜学級）で、どこまでの学級生を受け入れることができるか、規模の面からの検討も必要となっています。

そして、担当者体制が厳しい状況であることに変わりありません。現在の担当者募集方法（「広報まちだ」での募集記事、地域の自治会等を通じての担当者募集のビラの配布やポスターの掲示、近隣の大学・専門学校へのポスター掲示及び授業やガイダンス等での担当者募集の説明など）に加え、大学のボランティアサークル等との連携やボランティア講座の活用など、担当者を継続的に安定して確保する方策が模索されてきました。

また、学級に参加する青年の状況も大きく変化しつつあります。障がい者施策の影響もあり学級生を取り巻く生活環境や就労状況もここ数年大きな変化がでてきています。新しく参加している学級生でも一般企業で働く人がいる一方で、高度なケアが必要な人も増えています。

長年学級に参加してきた青年も、グループホームや通勤寮、生活寮を利用し、仕事に就いて得られた給料の使い方の訓練を受けたり、自らの将来について考えたりするなど、自立にむけて活動するようになってきました。特にここ数年、市内にもグループホーム

が増え、自宅からグループホームへ移る青年も増えています。現時点ではグループホームへ移ったことにより青年学級に通えなくなるということはありませんが、学級生の置かれている状況を把握することがこれまで以上に重要となってきています。

これらの青年学級の将来像や、青年を取り巻く状況の変化等の課題について、生涯学習センター職員や担当者、家族、支援者、学級生と一緒に考えていき、その中で本来の青年学級の意味を再確認し、これからの発展について将来的な展望を持っていくことが、今後の大きな課題となっています。

体制面の語句の説明

青年……発足当初より、学校を卒業して社会に出た知的障がい者の社会教育の場は「青年学級」という名称で活動が進められ、社会的にも認知され今日にいたっています。その経過の中で学級生に対して青年という呼び方が定着しています。実際には青年期を越えた学級生が多数をしめるわけですが、その活動の若々しさなどもあって、違和感をあまり覚えることなく使われてきたと言えます。

担当者……青年を支援し、共に活動する人。参加資格は18歳以上の人。学級日の運営だけではなく、担当者会や総括会議への参加、学級ニュースの作成、実践報告集の校正作業なども活動に含まれています。

当日担当者……仕事や授業などの都合により、担当者会への参加が難しいため、学級日のみ参加する担当者のこと。(役割は担当者と同様)

コース・班制……青年学級での自治活動を展開するための、10～20人の基礎集団。やりたいこと(音楽・料理・スポーツ・工作など)を参加者が選び、希望別に分かれた集団のことです。

つどい……コース・班活動に入る前に、学級参加者全員が集まって歌をうたったり、見学者の紹介をしたり、近況報告をする場。朝と帰りに行っています。

成果発表会……年度の終わりに、1年間の活動の成果を発表する場。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあったが3学級とも生涯学習センターで行ないました。

青年学級を語る会……学級生が年度の初めに学級活動について話し合う場。前年度の反省と新年度の活動について学級ごとに話し合いを行なっています。

とびたつ会……青年学級よりも、より青年が主体的に活動することをめざした本人活動の会で、発展学級としての性格も併せもっています。2004年に発足。

担当者会……青年学級に参加する担当者が集まって、週に1回開かれる会議で、学級ごとに行っています。月2回の活動

の準備や反省、活動やその他の場面での学級生との関わりの中で青年が表現する中から、青年の求めていることは何なのか、その実現に向けてどうしたらよいか、それをどのように今後につなげていくのかを話し合います。各学級の担当者会で2名程度の「学級主事」が選出され、会の進行をしています。

調整会……担当者から選ばれた学級主事と生涯学習センター職員で構成。青年学級を実施するにあたっての全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示します。また学級間の情報交換・共有を図る会です。

父母会……青年の家族が、青年たちが現在抱える問題や将来の生活に抱える不安などを改善・解消するために設けている話し合いの場、及びその集団です。

送迎検討委員会……各学級から選出された数名の担当者(送迎委員)で構成される委員会。青年の通級に欠かせない送迎の保障について話し合い、取り組んでいます。

将来構想検討委員会……生涯学習センター長、生涯学習センター職員、各学級から1～3名程度ずつ代表として選出された担当者(将来構想検討委員)、とびたつ会支援者で構成される委員会。青年学級の中長期的な将来像を検討するために組織されていましたが、2012年度以降は開催されていません。

若葉とそよ風のハーモニー……青年学級の活動から生まれた学級ソングや劇を社会に向けて発信していく場として、1988年から町田市民ホールで行っている実行委員会形式のコンサートです。活動の中では、“わかそよ”と略されます。

活動内容の語句の説明

学級ソング……学級独自で作られ歌われる歌のこと。青年のことばや姿、口ずさんだフレーズなどを元に歌としてまとめています。こうした学級ソングはつどいの他、コース活動の中、行事などの場で一緒に歌うことで共有され、学級の一体

感と盛り上がりの形成に一役買っています。既製の大量文化におけるポピュラーな曲ではなく、障がいを持つ青年たちの生活実感や思いを反映したものです。それは、民衆文化としての自分たちの「文化の創造」という青年学級で大事にされてきたテーマを象徴しています。

素材……実際の学習活動におけるテーマや取り組みのもとになるもの。具体的には青年から直接的・間接的に出される要求や生活状況などで、それを共有することで活動を展開しています。

思い起こし・近況報告……活動での話し合いの基本となるもの。青年学級での話し合いは多様な青年が参加しているため、青年の発言をまとめるだけではなく、意思表示を確認してコース・班全体で共有する作業が必要になってきます。青年一人ひとりの思いを共有するために活動の基本的なことを話したり、個人として話しやすい身の回りのことが話題にされたりしています。

作品づくり……学級では一人ひとりが絵を描いたり、ねん土を作ったり、またコース・班全体で作品づくりに取り組んでいます。いわゆる工作的なものだけではなく、作った学級ソングをレコーディングでCDにまとめたり、作文や絵画を蓄積して文集にまとめたりすること、調理活動なども含まれます。

表現活動……青年学級では二つの使い方をする活動で、一つは歌や劇といったコース・班で通常行われている「パフォーマンス活動そのもの」、もう一つは、主に成果発表会やクリスマス会など全体で行う催し物で作文を朗読したり、作った歌を披露したり、外出で調べてきたことを発表したり等、「活動内容そのものの紹介のための二次的な表現活動」との二つに分けられます。

いずれにしても成果発表会という一年の締めくくりが大きな目標になっており、成果発表会に向けて練習を重ねたり、発表のためにこれまでの活動を振り返り表現としてまとめあげたりすることで、単

に青年の内部表出だけではなく、コース・班全体の活動を外在化するという意義もあります。

本人活動……障がい当事者が決定権をもったグループ活動のこと。日本における本格的な本人活動の芽は、1991年の育成会全国大会本人分科会にあると言われていています。この時結成された「さくら会」には、町田からも高坂茂さんという青年学級の先輩も参加されました。

それまでは、多くの場面で能力がないとされ、意見表明や自己決定等の機会が剥奪される傾向にあった知的障がいのある人たちが、「自分たちのことは自分たちで考えよう」と自らが社会変革の担い手であることを自覚し、学習や行動をする活動に取り組み始めました。実際の活動は幅広く、福祉の制度や自分たちの権利についての学習活動や、レクリエーションなどを内容としています。

スイッチ・指文字・筆談……数年前より重度の肢体不自由や知的障がいのため、あるいはいわゆる自閉症などのために、言語的コミュニケーションが苦手とされる青年を中心に、スイッチパソコンで気持ちを話す方法が取り入れられてきました。現在では、パソコン自体は使用せず、通訳者が青年の体の一部に触れ、五十音を発音しながら一文字ずつ言葉を選び出していく「スイッチ」や通訳者が青年の一方の手（指）に手を添え、通訳者の掌に文字を書いていく「指文字」、青年が持つペンに手を添えて文字を書く「筆談」などがあり、コミュニケーション方法も多様化しています。また、言語でコミュニケーションをとる青年も思いや意見を語る際、補足的にこれらを使う青年も増えてきています。

また、パニックのような行動を見せた青年に対して気持ちを聞き、そのときの本人の考えや反応などを理解し、周囲の対応や受容につなげる実践がされています（詳細は2008年実践報告集の特集を参照）。

2021年度障がい者青年学級(学級実施日)			
回	月 日	活 動 内 容 (活 動 場 所)	
	4.4 日	公民館学級・ひかり学級 青年学級を語る会(生涯セ)	午前10時～午後0時
	4.10 土	土曜学級 青年学級を語る会(生涯セ)	午後1時半～3時半
1	6.6 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時～4時
1	6.6 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午後1時～4時
1	6.12 土	土曜学級 開級式(生涯セ)	午後1時半～3時半
2	6.20 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時半
2	6.20 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午後0時半～4時
2	6.26 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時半～午後3時半
3	7.4 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
3	7.4 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
3	7.10 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時～午後0時半
4	7.18 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
4	7.18 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午後0時半～4時
	7.24 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
5	9.5 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
5	9.5 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
	9.11 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
6	9.19 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
6	9.19 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午後0時半～4時
	9.25 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
7	10.3 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
4	10.9 土	土曜学級(生涯セ)	午後0時半～3時半
7	10.17 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
	11.6 土	公民館学級 合宿(大地沢青少年センター)	コロナの影響で中止
8	11.7 日	公民館学級(生涯セ)	午前10時～午後4時
8	10.17 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
5	11.13 土	土曜学級 日帰り(小田原方面)	午前9時半～午後4時
9	11.21 日	公民館学級(生涯セ)	午前10時～午後4時
9	11.21 日	ひかり学級 日帰り(こどもの国)	午前9時～午後5時
6	11.27 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時半～午後3時半
10	12.5 日	公民館学級(生涯セ)	午前10時～午後4時
10	12.5 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
7	12.11 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時半～午後3時半
11	12.19 日	公民館学級(生涯セ)	午前10時～午後4時
11	12.19 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
8	12.25 土	土曜学級(生涯セ)	午前10時半～午後3時半
	1.15 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
12	1.16 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
12	1.16 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
	1.29 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
13	1.30 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
13	1.30 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
	2.12 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
14	2.13 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
14	2.20 日	公民館学級(生涯セ)	午後1時半～4時
	2.26 土	土曜学級(生涯セ)	コロナの影響で中止
15	2.27 日	ひかり学級(ひかり療育園)	午前10時～午後4時
15	2.27 日	公民館学級 成果発表会(生涯セ)	午後1時半～4時
9	3.12 土	土曜学級 成果発表会(生涯セ)	午後0時半～4時
16	3.13 日	ひかり学級 成果発表会(生涯セ)	午前10時～午後4時

学級名		活動単位		自治活動	内容
日曜学級	公民館学級	コース制	◆みんなの幸せ づくりコース	班長会	各コースの班長・副班長とそれを支援する担当者で構成される学級活動後の会議。年間行事についての調整や班長会ニュースの作成を行っている。
			◆まあるいゆめコース ◆さくらコース ◆ハッピーハッピー くらしコース ◆さくらんぼスポーツ 体づくりコース ◆ゆめのつづきコース	つどい委員	有志で集まった学級生と担当者数人で構成し、朝夕のつどいについて企画・運営を行う。また合宿・クリスマス会・成果発表会は班長会と合同で運営していた。
	◆ミニーコスモスコース ◆さざんかアート グループコース ◆スポーツで伝える 2022 コース ◆ふれあって飛びたとう 編集部コース		班長会	ひかり学級全体について話し合いをする会議。 合宿・クリスマス会・成果発表会などの行事についてと、コースからの連絡を行った。	
土曜学級		班制	◆夢と音班 ◆虹色のパプリカ班 ◆アマビエ班 ◆けやき坂班	班長会	各班の班長・副班長とそれを支援する担当者で構成され、成果発表会等の行事や、土曜学級全体について話し合う会議。

第2部 公民館学級

第1章 コース活動

6月6日	かいきゅうしき じこしょうかい 開級式、自己紹介
6月20日	わかそよグループかつどう活動
7月4日	わかそよグループかつどう活動
7月18日	わかそよグループかつどう活動
8月1日	わかそよグループかつどう活動・撮影リハーサル
8月8日	わかばとそよ風のハーモニーコンサート2021 撮影本番
9月19日	ごPmからのコース活動ものづくりコースとオンライン合同、 がっきゅうそんぐをうたう 話し合い、
10月17日	ごPmからのコース活動ミュージカルコースと合同 話し合い
11月7日	ごぜんたいはなあ かつどう ごpmコース活動 はなあ Am全体話し合い活動 pmコース活動 話し合い
11月21日	ごぜん Amつどい Pm せいさく めっせーじづくり Amつどい Pm 製作 メッセージづくり
12月5日	ごぜんがつき Am楽器コースと合同の活動。クリスマス会準備、話し合い（近況報告）歌を歌う。 ごPmつどい（おおいし くりすますかいさんか Pmつどい（大石さんをしのぶ）クリスマス会参加
12月19日	ごぜんはなあ せいさくどしがじょうづく ごPm せいさくめっせーじづくり せいかはっぴようかい Am話し合い、製作年賀状作り Pm 製作メッセージづくり 成果発表会についての 話し合い。
1月16日	ごPmからの活動 しょうがいがくしゅうせん たーまつ はなあ うた うた めいさんか Pmからの活動 生涯学習センター祭りの話し合い、歌を歌う 4名参加
2月6日	ごPmからの活動 しょうがいがくしゅうせん たーまつ はなあ どうが めいさんか Pmからの活動 生涯学習センター祭りの話し合い、動画づくり 4名参加
2月20日	ごPmからの活動 はっぴようかい はなあ おおいし はなあ めいさんか Pmからの活動 発表会話し合い、大石さんについての話し合い 3名参加
3月6日	ごPmからの活動 はっぴようかい はなあ せいかはっぴようかい Pmからの活動 発表会話し合い 成果発表会

1. 集団の特徴とねらい

男性3名、女性9名の計12人のメンバーが所属しています。学級活動内で若葉とそよ風のハーモニーコンサート（わかそよ）に向けた取り組みを行いたいという思いから生まれたコースです。

新型コロナウイルスの影響もあり、コース変更を行わなかったため昨年度からメンバーが変わることはありませんでした。

活動の内容は、参加人数が少ない中、どのように学級活動を進めるかについての話し合いや、生涯学習センターまつりで発表する動画の考案・作成を行いました。また、活動の中で作文を作成し、思いを共有する時間も多かったです。新型コロナウイルスの影響で学級への参加が難しい青年に向けてメッセージを送るという活動もありました。

2. 活動の評価

(1) わかそよに向けて

今年度行われた「わかそよ 2020」に向けて新型コロナウイルスの感染拡大に伴う制約がある中、限られた時間で活動しました。開級式後の学級活動の時間を使い、わかそよで伝えたいことを決め、グループに分かれて発表練習を行いました。公民館学級だけでなく、土曜学級やとびたつ会のメンバーとの連携を取りながら、本番の撮影を迎えることができました。

(2) 活動内での話し合い

コースでの活動が再開してからはクリスマス会に向けての話し合いが活発に行われました。大石さんのことを話したいという提案があ

り、まずはコース内で大石さんを知っている青年が率先して話を進めました。「私たちのことを真剣に考えてくれた」「みんなと向き合う姿勢が熱かった」といった話を聞くことができました。

また、コロナの影響によりグループホームや職場での制約が多くなり、もやもやした気持ちを抱えている青年も多く、その気持ちを共有するという場面もありました。「コロナが広まってみんな活動するのが当たり前でなくなってしまう寂しい、早くみんなと一緒に活動したい」「みんなと集まる当たりの時間がなくなってしまう寂しい」「職場や学級の会えていない仲間を思っ

(3) 生涯学習センターまつりに向けて

動画をWEB上にアップするという方法で生涯学習センターまつりが開催されることになり、この学級活動を多くの人に見て、知ってもらえるような内容を考えることにしました。「学級の思い出を話したり、映したりしたい」「学級の紹介は入れたい」「学級ソングがあれば、どんな発表でもいいものになる」「動画でも（歌についている）振付けがつけられるとお客さんに伝わりやすくていいね」と活発に意見が出てきました。動画撮影の際には役割分担をし、みんなで思いを伝えることのできる動画が完成しました。

(4) 欠席している青年に向けて

活動への欠席が続いている青年も多く、少しでも学級の様子を伝えたいという思いや、学級で

待っていることを伝えたいという声が多く上がりました。

まずは色紙の作成を行いました。色紙の選定から始まり、写真を張りたいというアイデアから参加している青年の集合写真を撮影し貼り付け、メッセージを添えて完成させることができました。各々の思いを伝えるためにイラストを加えたり、折り紙やミサンガを作成する青年もいました。

続いて季節の挨拶もしたいという意見が挙がり、年末の活動では年賀状も作成しました。この活動はコンサートコースだけでなく他のコースも巻き込んで、コースを超えて学級に來れていない青年を思って作成することとなりました。学級に來れないという経験をしている青年は、今も來れていない青年の辛さをとても理解しており、メッセージを送るという手段で抱えている思いを共有することができました。

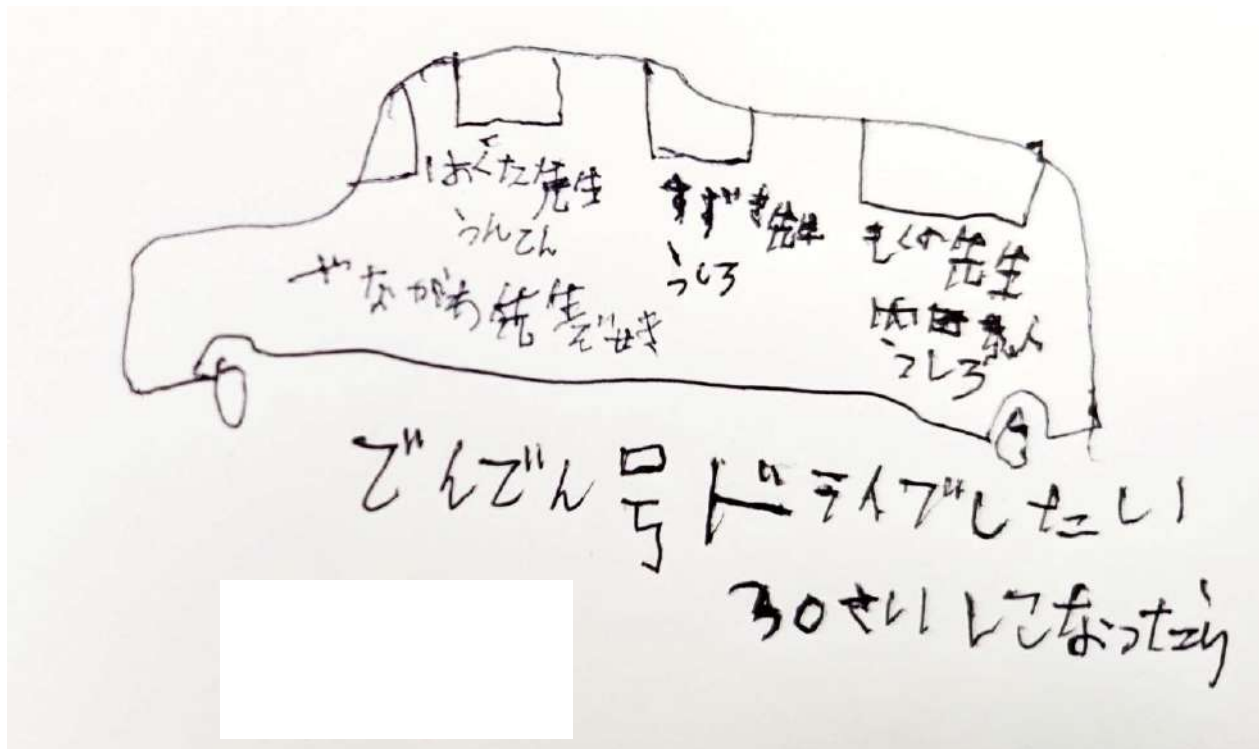
(5) 成果発表会に向けて

成果発表会でどのようなことを発表したいかということについて、「大石さんのことについてこれまでちゃんと話す機会がないまま活動しているのでもう少し話したい」という意見が出ました。そこで、作文を読み、大石さんが作成に関わっている学級ソングを歌うということになりました。作文の一部を紹介します。「大石さんはいつもみんなのことを気にしていて、私はそのことがとてもうれしかったのです」「私たちのことを一人の人間として大切に関わってくれるということだと思っています」「私がこうやって今でも学級にきて活動ができているのは大石さんのそういった学級をつくるにあたっての思いだとか、そういう

ものがあつたからだと思っています」また、歌は話し合いの結果とびたつ会のテーマに決まりました。

ほかにももう1曲歌いたいという意見が出たため、さらに話し合いを進め、みんなのいい居場所を歌うことに決まりました。そして以前作成していた作文の発表も行いたいという意見もあり、2つの作文を発表することも決まりました。

本番は、参加人数が少なく、作文発表をする人が練習とは違うといったこともありましたが、みんなの思いを発表に繋げようという前向きな言葉を掛け合つて、少ない練習時間の中で流れを確認しました。うたや演奏のサポートに楽器音楽コースの青年が入り、無事に発表を終えることができました。



6月20日	わかそよグループ練習
7月4日	わかそよグループ練習
7月18日	わかそよグループ練習
8月1日	わかそよグループ練習、撮影リハーサル
8月8日	わかばとそよ風のハーモニーコンサート 2021 撮影本番
9月19日	PM コース活動 ・今後の活動形態についての話し合い
10月17日	PM コース活動 ・くらしコースと合同の活動 ・青年学級という場についての共有 ・大石さんと青年学級のこれまでの歩みについて
11月7日	AM 健康福祉会館にて活動 ・センター祭りについて話し合い PM コース活動 ・クリスマス会についての話し合い ・成果発表会に向けての話し合い
11月21日	AM つどい、コース活動 ・クリスマス会について PM コース活動 クリスマス会の内容、クリスマスプレゼントについて ・成果発表会について
12月5日	AM コース活動 ・クリスマス会準備 PM クリスマス会
12月19日	AM コース活動 コンサートコースと合同 ・学級に來られていない人に向けて年賀状の作成 PM コース活動・成果発表会について
1月16日	PM 新年のつどい、コース活動 ・成果発表会について(どのようなメッセージを伝えるのかについて)
2月6日	PM コース活動・成果発表会に向けて(発表内容・方法の確定、歌の練習)
2月20日	PM コース活動・成果発表会について (発表する作文の練習、歌の練習、きづなの絵の作成)
3月6日	成果発表会

1. 集団の特徴

楽器コースは男性11名、女性3名の計14名で公民館学級全6コースの中で最も多い人数で構成されています。また、コロナウィルスの影響により、2019年度から同一メンバーで活動を行って来ました。

コンサートコースが誕生し、楽器に対して強い要求を持つメンバーがそちらに移り、歌うことを求めるメンバーが多くを占めるようになりました。コミュニケーションの側面では、独力で話すことが可能なメンバーと筆談を用いて話すメンバーがいます。

話し合いの際には、全員で言葉を通じた話し合いが行われ、独力で話すことが可能なメンバーもより深い意見や考えを述べるために筆談を用いて意見を伝えています。積極的かつ細やかな話し合いを基に、話し合いをリードするメンバーが中心となりながら、活動が進められています。

2. 活動のねらい

- ・自らの力で活動を進める。
- ・お互いの気持ちや、仕事、日々の生活について知り、共有する。
- ・話し合いをもとに作文や詩を書いたり、歌づくりをしたりする。
- ・歌うことや楽器を演奏することを通して自分を表現する。

3. 活動の様子及び評価

(1) コロナウィルスの影響のため活動に参加できない仲間について思いを寄せる

昨年度同様、コロナウィルスの影響で学級

活動に参加できない仲間がいる中で、そのような仲間たちとどのようにつながりをつくるのかというところが今年度の活動では大きなテーマとなりました。

会えない状況が長らく続く中で、学級に参加できる人と参加できない人のつながりをたえさせないということは非常にむずかしいことですが、メンバーたちの提案により、ニュースを通しメッセージを送ったり、年賀状を作成し送ったりすることを行いました。「青年学級は変わらず活動を続け、仲間たちを待っている」という思いを届けることができ、参加ができない仲間たちのほげみにもなったのではないかと思います。

(2) 家族への思い

今年度の活動では、今後の活動をどのようにしていくのかという点について話し合いをする場面が多くありましたが、家族について語る時間もゆっくりと取ることができました。その中で親孝行という言葉が出たことがあります。長らくご家族が病気で入院されているメンバーから、「家で看病をするととても喜んでくれる。そばにいただけで喜んでもらえるのはうれしく、こんなかたちでも親孝行ができるのはよかった」という発言がありました。日々の生活を送る中で家族の存在はかけがえのないものです。自分のことを誰よりもわかってくれている親に対して何ができるのかと考えることの大切さを改めて感じる時間になりました。親孝行と聞くと何か大きなことや特別なことをすることがよいのではないのかという考えになることが多いと思います。しかし、特別な何かをすることよりも、普段の生活の中でもとにかく大切な時間を過ごすことこそが何よりもすてきな

親孝行なのだということに気づくきっかけとなる言葉、話し合いとなりました。来年度の活動も、暮らしや家族のことを話す時間をつくり、それぞれの思いが共有できる場を設定していきたいです。

(3) 自分の人生の主人公として生きる

10月に青年学級の活動に御尽力された元職員の大石さんがお亡くなりになり、大石さんとの思い出を語る時間をつくりました。

「大石さんはとてもすてきな人だった。今この状況になってどうして青年学級ができたのか、『自分の人生の主人公として生きていく』のはどういうことなのか、ぼくたちが何を大切に活動していくのかということを考えて続けていきたいです。」

「青年学級という場所は色々な人たちの思いで、できあがっている場所。自分の人生を自分が主人公になって生きるということを大切にしている場所ということをはじめて伝えてくれた。」

「今ぼくは大事なことを再確認することができました。ぼくたちが自分らしく自分の人生を生きていくにはどんなことができるのか、さらに話し合っていきたいです。」

思い出を振り返っていく中で、青年学級という場の意味について、発言がありました。青年学級の活動では、「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つを柱にしていますが、これらを行う上で大切にしていかなければならないのが「自分の人生を自分らしく生きること」であることを共有することができました。

4. 評価および課題と展望

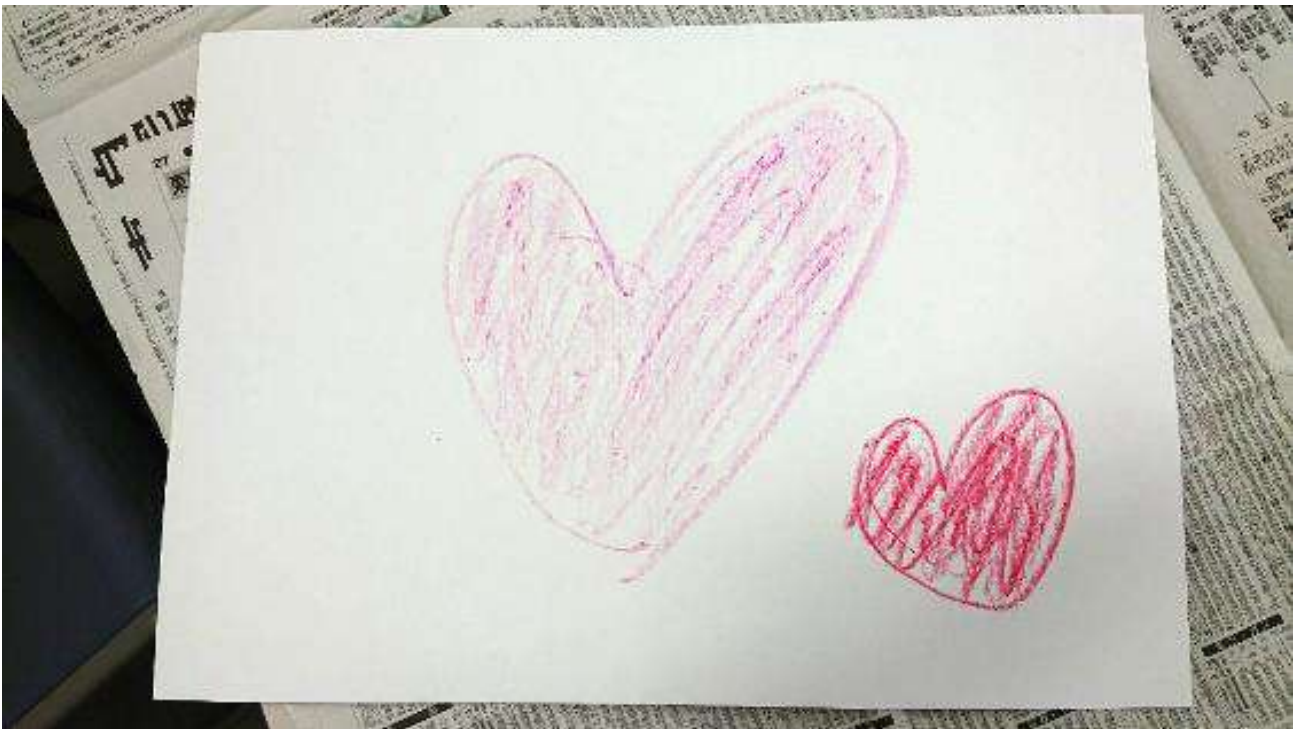
前年度、前々年度の活動において、歌や物語ができていたため、折に触れて、その歌や物語をふり返ることができました。参加者や活動、時間に大きな制限がありながらも、活動の縦糸を保つことができ、成果発表会に向けても流れを作ることができたのではないのでしょうか。

ただ、創作されたコロナ大王の物語は、現実のコロナの深刻さを考えると、物語としては、発表にふさわしいとは言えないということになったのが、残念でした。

活動については、長期的な見通しをもち、じっくり考え活動内容について提案をするメンバーがいたため、比較的スムーズに活動することができました。

昨年度と同様にコロナウィルの状況に左右され、思うような活動をするのができないことも多く、もどかしい思いをすることもありましたが、少人数ながらもじっくりと話し合いをする時間を持つことができたのはよかった点としてあげられます。行事の際にも、常にコロナウィルスの影響から活動に参加することができない人たちのことを考えながら活動を行いました。このような点から、みんながどのような活動をしていきたいのか、何を大切にすべきなのかということをはじめて共有しながら話し合いを進めることができました。

課題としては、楽器を演奏したいという青年もいましたがなかなか機会を作れなかったことです。楽器にふれたり演奏する機会をつくり、学級ソングを歌う際に担当者の伴奏だけでなく、メンバーの楽器演奏を取り入れられるようにするなどの工夫をする必要があります。



かつどう なが
活動の流れ

がつか 6月6日	かいきゅうしき 開級式
がつにち 9月19日	コンサートコースと合同 <small>はなあ</small> 話し合い
がつにち 10月17日	けんこうコースと合同 <small>ごうどう</small> ボッチャ
がつか 11月7日	AM: <small>ごぜん けんこうふくしかいかん</small> 健康福祉会館つどい PM: <small>ごこ せりがやこうえん ちゅうしよく</small> 芹ヶ谷公園にて昼食 <small>え</small> お絵かき
がつにち 11月21日	クリスマスツリー飾り作成 <small>かざ ざくせい</small>
がつか 12月5日	AM: <small>ごぜん</small> クリスマスツリー飾り付け <small>かざ づ</small> PM: <small>ごこ</small> クリスマス会 <small>かい</small>
がつにち 12月19日	はりえ 貼り絵
がつにち 1月16日	<small>はなあ</small> 話し合い <small>ねんまつねんし おもいで しんねん もくひょう</small> 年末年始の思い出 新年の目標
がつか 2月6日	<small>はなあ</small> 話し合い
がつか 2月20日	はりえ 貼り絵
がつか 3月6日	<small>せいかはつびようかい</small> 成果発表会

1. 集団の特徴

男性 7 名、女性 1 名 計 8 名

昨年度から変わらないメンバー構成。

ものづくりコース歴が長いベテランの青年が在籍し、トイレや食事の介助を必要とする青年は居ないが、歩くペースやものづくりのペースは、それぞれ異なるため、互いのペースを考慮して活動を行った。

2. 活動のねらい

(1) 仕事や日常生活での出来事や思いを共有し、創作活動へつなげる。

(2) 個性を大切にし、それぞれの表現方法を尊重する。

(3) 一年を通じて仲間との創作活動を共有し、ものづくりの楽しさを共有する。

3. 活動の様子と評価

10月17日

健康コースと合同で活動。ボッチャ体験実施。

初めての挑戦だったが、みな上手にボールを投げる事が出来ていた。

パラリンピックもあったことから、体験した青年からは「体験出来て良かった」と感想を聞けた。

11月7日

久しぶりに一日の活動を行った。

午前中、健康福祉会館でつどいを行い、健康

コースとくらしコースと共に芹ヶ谷公園で昼食。紅葉を見ることもでき、自然を感じた。

午後のコース活動は、クリスマス会の話し合いと今後の活動に関しての話し合い。残りの時間

で絵を描いた。話し合いの中で、青年から「貼り絵をやりたい。」「外出したい。子どもの国に行きたい。」という意見が出た。

11月21日

クリスマスツリーの飾りづくり実施。

クリスマスに関する絵を描いた。

12月5日

クリスマス会に向け、クリスマスツリーの飾り付け実施。11月21日の活動で描いた絵に穴を開け、リボンを通した。また、クリスマス会で行うクイズを準備。最近のエピソードを元にクイズを作成したため、青年の近況を聞くことができた。

12月19日

クリスマス会の振り返り、及び貼り絵実施。

細かい作業をうまく行っていた。

この日の話し合いでも、子どもの国や芹ヶ谷公園に行きたいという意見がだされた。

1月16日

年末年始の思い出を語り合い、今年の目標とやりたいことを紙に書いた。

青年たちは「子どもの国に行きたい。お土産を買いたい。」「31年目にして早くもとにもどしたいと思います。」「コロナにうつらないように気をつけます。」という目標を掲げた。

2月6日

コロナの影響を受け、3人だけの活動。

成果発表の話し合い実施。

今年度の活動の振り返り実施。

できなかったことや、やりたいことを、話し合った。

青年達からは、「調理やお泊まりができなかった。」「博物館に行きたい。大池沢でキャンプ

アイヤーをしたい。」という話がだされた。

2月20日

劇ミュージカルコースと合同で貼り絵を実施。

<評価>

少ないコース活動の中ではあったが、クリスマスや年末年始の思い出など、季節を意識した絵を描くことができた。また、青年が描く絵は、SNさんは実際に外出した際に乗った電車とその背景、ITさんは花の家の送迎バス、OMさんはご家族、THさんはミッキーなどのキャラクター、NMさんは自画像や芹ヶ谷公園の風景などなど、自身の好きや日常の思い出を描き残している方が多い。好き、嬉しい、楽しい、大切、などの気持ちを絵に投影し、証として残しているように感じてならない。

4. 課題と展望

コロナ禍での学級活動、社会情勢の影響などもあり、毎回参加人数の見通しが立てづらかったことから、その為、活動直前で活動内容を考える日が続いた。話し合いをした後、同じ画材で絵を描く活動になることが多かった。もちろん、青年から絵が描きたいという意見も出てはいる。せっかく学級に参加しているのであれば、家庭ではなかなかとりくまないようなものづくりも行いたい。

絵は絵であっても、画材や画法の工夫は可能である。加え、見通しが立たないなかではあるが、ある程度時間をかける作品作りができればまた違ったのではないかと。ただ、担当者としての準備も重要であり、そこが課題である。

最終決定は青年にあるが、アイデア出しの段階で提案することはできたはずである。

今後は、コンクールに参加や、個展をひらくなど、青年達の作品の発表の場を増やすことにより、活動の目標を持つ事ができると感じた。

また、外出や調理の要望も良く出されている。この状況だからこそその希望であるのではないかと伺える。コロナ前の外出や調理の経験を楽しそうに話す青年が印象的であった。この状況が改善されれば、そのような活動もしていきたい。

日々の活動同様、ある程度の見通しやアイデアのストックを増やしておく必要があると感じた。

バラエティに富んだ活動が行えなかったこともあるが、青年ひとりひとりの得意不得意をいまだ把握できていないのも課題である。はさみやカッター、ひもを通すなどの細かい作業、火の扱い、などなどである。それらに伴い、作品づくりのペースも異なるため、工夫が必要である。

意見の聞き出しに関しては、担当者側の力量不足もあり、なかなか聞き出すことができていないと痛感する。自分の声で伝えられる青年が多いとはいえ、全てを酌み取ることはできず、聞き方の工夫を模索していきたい。



こうみんかんがつきゅう
公民館学級 くらし ハッピーハッピー こーす
コース

かつどう なが
活動の流れ

がつ か 6月6日	かい きゅう し き 開級式
がつ にち 6月20日	
がつ か 7月4日	わか ば と かぜ の はー も にー こ ん さー と に 向 け た れん しゅう 若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けた練習
がつ にち 7月18日	わか ば と かぜ の はー も にー こ ん さー と に 向 け た れん しゅう 若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けた練習
がつ か 9月5日	
がつ にち 9月19日	げ き みゅー じ か る こ う そ と こ う ど う で か つ ど う こ ん ご が つ き ゅう か つ ど う に つ い て は な あ 劇ミュージカルコースと合同で活動、今後の学級活動について話し合い
がつ か 10月17日	が つ き こ う そ と こ う ど う で か つ ど う が つ き ゅう の たい せつ と こ ろ な が の こ ろ の よ こ ろ に つ い て 楽器コースと合同で活動、学級の大切さとコロナ禍での心の拠り所について は な あ 話す
がつ にち 11月7日	ご ぜん けん こう ふ く し かい かん ぜん たい せり や こう えん ちゅう しよく AM 健康福祉会館にて全体でつどい、芹が谷公園で昼食 ご ご け り す ま す 会 に つ い て は な あ PM クリスマス会について話し合い
がつ にち 11月21日	も の づ く り こ う そ と こ う ど う で か つ ど う か だ し メ ッ セ ー ジ カ ー ド に つ い て は な あ ものづくりコースと合同で活動、買い出し、メッセージカードについて話し合い
がつ か 12月5日	ク リ ス マ ス 会 、 メ ッ セ ー ジ カ ー ド の か た づ く 、 た こ う そ う へ メ ッ セ ー ジ 記 入 の き に ゆう いら い クリスマス会、メッセージカードの型作り、他コースへメッセージ記入の依頼
がつ にち 12月19日	ご ぜん メ ッ セ ー ジ カ ー ド の レイ ア ウ ト に つ い て けん とう AM メッセージカードのレイアウトについて検討する ご ご あ つ ま つ た カ ー ド の は り つ け 、 こ ん ご か つ ど う に つ い て は な あ PM 集まったカードの貼り付け、今後の活動について話し合い
がつ にち 1月16日	けん が く し き む じ こ し ょう かい ひ つ だ ん せい ねん が つ き ゅう に つ い て か た 見学者へ向けて自己紹介、筆談・青年学級について語る
がつ か 2月6日	か つ ど う の ふ が え せい か は つ び ょう かい は な あ 活動の振り返り、成果発表会について話し合い
がつ にち 2月20日	こ う そ う の は つ び ょう か た ない ゆう けん とう コース発表のやり方や内容の検討
がつ か 3月6日	こ う そ う の は つ び ょう げん こう かく にん れん しゅう せい か は つ び ょう かい かい さい コース発表原稿の確認・練習、成果発表会（ホールにて開催）

1. 集団の構成・特徴

くらしコースは男性6名、女性1名、合計7名で構成されていましたが、年度途中から新入学級生（女性）が1名加わり、8名となりました。昨年度から引き続き、グループホームで生活している1名がコロナの影響で外出が制限されており、活動の場には来られていません。また、身体の不調により施設で療養中のメンバーが長期で活動を休んでいます。コロナワクチンの普及や感染予防対策が浸透してきたこともあり、昨年度に比べて必要以上に感染を恐れるようなことは少なくなった印象があり、飲食を伴わない時間設定での活動ということも重なって、他メンバーはコンスタントに活動に参加することができています。

所属するメンバーは皆、言葉でのやりとり（意思表示）が可能ですが、昨年度同様、より深い意見や考えを述べるために半数ほどがコミュニケーション手段（筆談）を用いて意見を伝え、活動が進められています。コミュニケーション手段の扱いに関しては、活動内で学級生から発言があったことでコース全体で検討・共有できており、スムーズな話し合いが確立されています。話す言葉と書く言葉、メンバーによって意思表示や思いの発信に際しての手段はそれぞれですが、自身でその時に応じた手段を選択し、発言しています。こうして進められる活動をメンバーは「愛のある活動」「のんびりした時間」「濃い時間」と表現しています。

2. 活動のねらい

- ・仕事やくらし、仲間のことに関する話し合い

や作文を書くことで、自分たちの思いを伝えあい、互いの思いを共有し、そこからより良い生活について考える。

- ・職場やグループホームの見学、調理などの活動を通して、生活の中の楽しさや豊かさを見つめなおす。

- ・自分たちのメッセージを社会に対して発信することで、自信を持って生活していく力を身につける。

3. 活動の様子

(1) 他コースと合同の活動から

コロナ禍での活動ということで、感染状況を鑑みて活動に参加できていない学級生もまだ多くいます。学級に参加できていない学級生のことを思い、所属する場所がなくならないようにと、2019年度からの3年間、コース編成を変えずに活動してきています。その中で今年度は他コースと合同での活動する機会が何度かありました。

① 9月19日

この日の活動は劇ミュージカルコースと合同で行い、「公民館学級のこれからの活動」について話し合いました。

— 気持ち表現できてみんなに見てもらえる作品を作りたい。

— みんなで活動をつくっていくことが大切。

— 絵を描いたり感じたことを表現したりしていく活動をしていきたい。

— コロナの影響でここに来られていない人たちを置いてけぼりにしないようにしたい。

— 等の意見が出ました。のちの振り返りで、

— みんなと確認をしながら進められたことがとて

も良いことだと感じています。時間はかかるかもしれないませんが、良い活動にするためにはみんなに意見を聞いて確認して行ってほしいと思います。と話す青年がいました。コロナ禍での開催に際し、「制限のある中でどんな活動をしていくのがベストか」「大事にしたい想いは何か」等、全員が自分事として捉え、学級全体で話し合い・共有することができ、今年度の方向性の指針となりました。

②10月17日

この日の活動では楽器コースと合同で活動し、「学級の大切さとコロナ禍での心の拠り所」についての想いが語られました。

—青年学級は私たちの主体性を認めてくれる場所。

—青年学級という場所はたくさんの人たちの想いから成り立っている場所であり、自分の人生を自分が主人公になって生きるということ大切にしている場所。この場所は絶対になくしてはならない。

—コロナの状況は怖いと感じていたが、学級に来て仲間と会えることの大切さを強く感じるようになった。

—コロナ禍でも活動を続けてきたので、「乗り越え続けた」ということを丁寧に作品にして僕たちが大切にしていることを続けていきたい。

先が見えない状況下の中、みんなで話し合い模索しながらも活動を続けてきたことに意味がある、ということを確認できた回でした。

③11月7日

健康福祉会館で行われたつどいの後には、健康コースとともに芹が谷公園に移動し、昼食の弁当を食べました。木々に囲まれた開放的な空間で食べる弁当は格別で、短時間ではありましたが久しぶりの外出を楽しむことができました。

④11月21日

ものづくりコースと合同で活動しました。クリスマス会の時期が近づいてきていたこともあり、ものづくりコースのメンバーは会場を彩るためにクリスマスにちなんだ作品をつくったり絵を描いたりするのはどうか、という話がありました。

くらしコースでは「コロナの影響で学級を欠席している仲間にメッセージカードを贈ろう」という案が出ていたので、そのレイアウトと一緒に考える時間がありました。一人の青年から「ツリーの形に紙を切ってそこにメッセージを書きたい」という意見が出ると、そこから「ベルの形はどうか」「ケーキの形がいい」「トナカイや星の形」等、次々とアイデアが出ました。

その後、必要な材料をリストアップしてみんなで購入しに行き、気持ちのこもったメッセージカードを作るべく、動き出しました。

他コースと合同で行ったこうした活動は、「参加人数が少なくそもそも（コース）活動として成り立つのか」という理由もありましたが、全体で集まることのできない（学級全員で集まる機会が持てなくなった）、少人数での活動で余儀なくされていた、というコロナの影響による要因が招いた活動です。しかし、そうしたコースの垣根を越えた活動の機会によって、各々がも

つ考えや見方に刺激を与えたりコース内だけでなく学級全体に意識を向けた活動を展開したりすることへと繋がったのだと思います。

(2) 仲間を想う活動

昨年度取り組んだメッセージカード作り。コロナの状況が好転することはなく、会えない仲間へ何かできることはないかと考え、「今年度もメッセージを送ろう！」と意見があがりました。—来られていない人が心配。みんなが感じていること、気持ちを伝えたい。—学級に來られていない人に向けてメッセージカードを送りたい。—みんなの想いを届けるのは良いこと。コース以外の人にも書いてもらい、たくさんの言葉が集まればより感動的なカードが仕上がるのでは。等の意見が出され、満場一致で決まりました。

また、前年度と大きく違うところは、「カードのデザインやレイアウトも自分たちで考えたい」「カード作成に必要なものがあれば自分たちで調達したい」という意見が出たことです。こうして前述したものづくりコースとの合同活動においてのあの話し合いにつながったのです。仲間のことを思いながらより自分たちが介入できるよう提案された意見に、青年学級の仲間を大切に想う気持ちをつよく感じることができました。

また、「書いた人の名前があると誰からのメッセージか確認できて良いと思う」「似顔絵を描くのはどうか」「文字だけでなく、絵でも表現したい」「青年学級の仲間たちへ、とタイトルを書いた方がいいと思う」等、集まったカードを並べながらデザインや細かい配慮にも余念がありませんでした。

た。

コースのメンバーに向けては、下記のメッセージが届けられました。

—コロナが落ち着いたら学級に来てください。飲みに行きましょう。ご飯一緒に行きましょう。

—みんなに会いたいということを一番伝えたい。

まだ、いい時間が過ぎていない人たちがいるのを聞くと心が痛いですが、いい時間が少しでも早く過ぎせることを祈っています。この場所で僕たちがずっと待っていますので、その時が来るのを楽しみにしています。

—またみんなでうどんやパンを作りたいです。またみんなで作りの味を一緒に味わいましょう。

—みんなでお話し合っただけ活動をつくっていますので安心してください。いつでも帰ってきてください。

(3) 一年間を振り返って

一年間を振り返っての感想では、

—コースの仲間のことを考えてメッセージを書けたことが本当にうれしかった。届けられてよかった。

—みんなでのみんなのことを考えて、考えたことが形にできたことやそれを行動に移せたことがとてもうれしかった。コロナの影響でいつもならできていた活動ができなかったりもしたましたが、その中でも良い形で活動が進められたのではないかと思います。

—感動的だったのは仲間に向けてカードを作れたことです。みんなのことを考えると、みんなとつながっているような気持ちがしてうれしくなりました。学級を休んでいるみんなにも、みんな

なのことを^{おも}って^{かつどう}活動していることが^{しつかり}伝わった^{おも}と思います。

—活動^{かつどう}をみんな^{いちねん}でつくることのできた一年^だだった^{おも}と思います。さまざまな^{じじょう}事情^がで^が学級^がを休^{やす}んでい^る仲間の^なことを^{つね}に^{かんが}考^えながら^{かつどう}活動^{して}い^けたことは^とても^うれ^いしい^こと^でした。^{かんが}考^えが^か変^わったり^{じじょう}状^か況^がが^な変^わったり^いう^なか^でしたが、^{とき}その^{とき}で^{みんな}で^{どう}したら^よい^のか、^いう^こと^をし^つかり^と確^{かく}認^{にん}しながら^{でき}た^こと^が、^よい^{かつどう}・^{じかん}濃^い時間^へと^つな^がった^のだ^と思^{おも}います。

—メッセージカード^{づく}作り^は、^{みんな}が^な仲間^のこと^を想^{おも}っている、^いう^こと^が感^{かん}じ^られた^{かつどう}活動^でした。^{イメージ}を^{ことば}言葉^にして^か買^だい^しで^きた^ことも^よか^った^です。^いま^だに^こ来^られ^ない^な仲間^がまた^が学級^に参^{さん}加^し、^{いっしょ}一^{しょ}緒^にコ^うス^{かつどう}活^か動^がで^きる^こと^を願^{ねが}っています。

と、^{かた}語^られ^まし^た。メッセージカード^{づく}作り^の活^か動^はみんな^{いんしやう}印象^に残^{のこ}っており、^{せいねん}青年^が学級^{という}という^{ばしょ}場所^と仲間^の位^い置^ちづ^けを^{さいかく}再^{にん}確^{にん}認^することが^{でき}た^{かつどう}活^か動^{にな}った^{よう}です。^{かつどう}活^か動^のね^らい^{でも}ある^{じぶん}「自分^{たち}の^{おも}想^いを^{つた}え^あい、^{たが}互^いの^{おも}想^いを^{きやう}共^{ゆう}有^{する}」^いう^{てん}点^にお^いて^も、^{あつ}集^まった^{メン}バー^で意^い見^{こう}交^{かん}換^をし^なが^ら仲^な間^の心^のつ^なが^りを^{たいせつ}大^か切^にした^{かつどう}活^か動^を進^{すす}める^こと^がで^きま^した。

4. 課題^{かだい}と展^{てん}望^{ぼう}

や^って^みたい^{かつどう}活^か動^{とし}て^{さくねん}昨^い年^ど度^いも^い見^{とし}と^{して}あ^がって^{いた}「^{としよかん}図^が書^{かん}へ^の外^{がい}出^{しゅつ}」^{ちやうり}「^{ちやうり}調^り理^{かつどう}活^か動^は、^{ざんねん}残^{ざん}念^なが^ら今^{こん}年^{ねん}度^も実^{じつ}施^しす^こと^がで^きま^せん^でした。^{かんせん}し^ん感^{せん}染^し症^{しょう}対^{たい}策^{さく}を^{じゅうぶん}十^{じゅう}分^{ぶん}に^{こう}講^{こう}じた^{うえ}上^でで

^{じやうけん}条^{じょう}件^{けん}や^{たい}タ^いミ^んグ^がが^あえ^ば、^{こんご}今^{こん}後^ご実^{じつ}施^しで^きる^{かのう}可^か能^{のう}性^{せい}は^{じゅうぶん}十^{じゅう}分^{ぶん}に^ある^と考^{かん}え^てい^ます。

^{いちにち}一^{にち}日^{とお}通^がして^が学^{がく}級^{かつどう}活^{かい}動^{さい}が^{かい}開^じ催^まさ^るる^じ時^ま期^もあ^りましたが、^{かんせん}コ^ろナ^ウイ^ルス^{かん}感^せん^じ染^{じょう}状^{きやう}況^{により}に^より^ご午^ご後^ごから^の開^{かい}催^{さい}に^なる^こと^がほ^とん^どで^した。^{ぜんたい}全^{ぜん}体^{たい}で^の活^{かつ}動^がが^{せいげん}制^{せい}限^{げん}さ^れて^しま^うこ^と、^かコ^うス^で活^{かつ}動^する^{じかん}時^が間^が短^みく^なっ^てし^まう^こと^は致^{いた}し^か方^かあ^りま^せん^でしたが、^{じじょう}その^{じじょう}状^{なか}況^{の中}でも^{しやかい}社^{かい}会^{じょう}情^{せい}勢^や学^{がく}級^{じょう}状^{きやう}況^を確^{かく}認^{にん}しながら、^{とき}その^{とき}の^{ひつじ}必^{ひつ}須^じ事^じ項^を優^{ゆう}先^{せん}的^{てき}に^{ほな}話^あし^合い、^{かつどう}活^か動^を進^{すす}め^られた^ことも^よ良^よか^った^{てん}点^{です}。^が学^{がく}級^{ぜん}全^{たい}体^{にか}関^かわ^るこ^とを^こう^す内^でで^{てい}丁^{てい}寧^{ねい}に^{ほな}話^あし^合った^こと^で、^{それぞれ}そ^れぞ^れの^{とくしよく}特^{とく}色^{しよく}を^いか^した^な「^な仲^な間^を想^{おも}った^{かつどう}活^か動[」]を^{じっせん}実^{じつ}践^{せん}す^こと^がで^き、^{せい}成^{せい}果^かが^う生^まれた^ので^はな^いか^と考^{かん}え^ます。

これ^から^も意^い見^{けん}や^き気^も持^ちの^{きやう}共^{きやう}有^{ゆう}を^{たいせつ}大^{たい}切^にに^しな^がら、^{せい}く^らし^や生^{せい}活^{かつ}を^より^よく^する^ため^にに^つな^がる^活動^を展^{てん}開^{かい}して^いけ^たら^と思^{おも}い^ます。



こうみんかんがっきゅう
公民館学級 さくらんぼスポーツ体づくりコース

かつどうなが
活動の流れ

6月6日	かいきゅうしき じこしょうかい 開級式、自己紹介
6月20日	わかそよグループかつどう活動
7月4日	わかそよグループかつどう活動
7月18日	わかそよグループかつどう活動
8月1日	わかそよグループかつどう活動・きつえい 撮影リハーサル
8月8日	わかばとそよ風のハーモニーコンサート2021 きつえいほんばん 撮影本番
9月19日	ごごPmからのコースかつどう活動 がつき楽器コースとごうどう ほんしあ話合い がつきゅううたう 学級ソングを歌う
10月17日	ごごPmからのコースかつどう活動 ものづくりコースとごうどう ほんしあ話し合い、ポッチャたいこうせん 対抗戦
11月7日	ぜんたいほんしあ話し合いかつどう活動 高ヶ坂ウオーキング こうえん公園でスポーツ ほんしあ話し合い
11月21日	つどい 高ヶ坂近隣のウオーキング 芹ヶ谷グラウンドでスポーツ
12月5日	クリスマスかいじゅんび準備 じかいほんしあ話し合い つどい おおいし(大石さんをしのぶ) クリスマスかい 会
12月19日	やまとこうえんがいしゅつ外出 ほんしあ話し合い じかいからのかつどう活動
1月16日	ごごPmからの活動 しょうがつ正月の話 てんまんぐうきんりんさんぼ ぎょうせんみ 横浜線を見る
2月6日	ごごPmからの活動 やまとこうえんがいしゅつぜんかいけつせきしゃ (前回欠席者)
2月20日	ごごPmからの活動 やくしいけがいしゅつ発表会用、しかい司会などどうがきつえい 動画撮映
3月6日	ごごPmからの活動 はっぴょうかいほんしあ話し合い せいこはっぴょうかい 成果発表会

1. 集団の特徴

コロナにおける緊急事態宣言と蔓延防止

発令のため、夏休み後、9月から10月の前半は参加者が少なかったため、2コース合同での活動しました。

11月から1日のコースの独自の活動がはじまりました。11月から始動したコースは、19年度からのメンバーに1名の新入学級生が加わりました。

学級生 20代男性4名、30～40代女性2名・男性3名(今年度新入学級生1名を含む)計9名のメンバーで活動しました。

昨年は、1名がグループホームでの生活でほとんどの学級生は家庭で生活していました。

しかし今年度に入りショートステイ利用や、グループホーム体験入所など、生活が変化する学級生が増えてきました。

今年度も、コースでの活動が始まった11月からは、班長会からの提案の「新たなコース編成をせず、一昨年度からの継続したコースでよい」という参加者6名の意見を確認しました。同じメンバーでの活動のため、活動当初から仲間関係はスムーズでした。

2. 活動のねらい

一番のねらいは、コロナ感染防止対策を行なっていくということでした。

7階ホールがワクチン接種会場となり活動部屋が狭まり、食事時の感染予防を行えるかが担当者会で検討した結果、感染者数が減る予想がつかなかった1月から発表会までは、食事後の午後からの活動となりました。

それでも出席できない学級生に関しては、連絡

時に家庭での様子を聞き、出席できないことをうとめ、参加できなくても職場や家で元気に過ごしている様子を、コース活動参加者に伝えていく。ニュースにも参加できない学級生への名前を入れ、エールのことばをそえていきました。

「スポーツをしたい」「散歩をして健康になりたい」コロナ禍で「健康に過ごすにはどうしたらよいか」という事を考えていきたい」という前年度のねらいで引き続き活動することを参加者で確認しました。言葉で表現するのが苦手な学級生には、活動時に、それぞれの得意なところを引き出せるよう支援し、自身の達成感から自信につながるよう、またそれを仲間同士が認めあえるような学級づくりを継続して目指しました。

3. 活動の様子と評価

(1) 話し合い

① 2コース合同の話し合い

9月から10月の活動は感染拡大のため、参加者が少ないコースもあったため、2コース、合同の活動にておいて話し合いが行なわれました。楽器コースとのコラボ活動では「スポーツ活動をした」、ものづくりコースとのコラボ活動では、「1日の活動がしたい」「散歩がしたい」「朝からが良い」「去年からのコースでよい」「スポーツしたい」「ボッチャやりたい」とスポーツメンバーが主張し、ボッチャの活動の実施につながりました。

② クリスマス会についての話し合い

健康コースとしての活動の話し合いは11月7日の午後、ウォーキングや、スポーツを行った後、コース単独の初めての話し合いを行うことが

できました。11月21日は6名の参加があり、午前の「つどい」での話し合いで出た、クリスマス会についてを確認をしました。みなさんから「クリスマス会は行いたい」「(学習センターの)ホールで行いたい」ということで、クリスマス会は、12月5日(日)の、ホール使用可能日に実施という確認をしました。その他、「歌を歌いたい」「ダンスをしたい」「プレゼント交換をしたい」などの意見が出ていました。「学級ソングのCDのプレゼントが良い」ということも含めて、副班長のH.Kさんが班長会で、伝えることになりました。

評価

久しぶりのコース活動で6名の参加者からは、スポーツで体を動かした後だったからでしょうか積極的な意見が出ました。久しぶりに昨年と同じ、ホールでクリスマス会の活動ができるという喜びであふれていました。

(2) クリスマス会の活動

クリスマス会当日は、全員の参加と、新入学級生が体験ということで参加しました。応援担当者が加り、久しぶり賑やかな学級日となりました。午前中は、初めに班長が出席を確認後、クリスマス会の「めぐり」を皆で作成しました。赤と緑のクリスマスカラーのマジックで各自1字1色ずつ書き、周りに皆で絵を描きました。折紙の得意な学級生が金と銀で、星をつくったので張り、ヒイラギの葉に、

マジックで実を描く学級生もいて学級生の皆さん合同の作業で素敵なめぐりができました。



午後からは、換気システムの良いホールで、再会を喜び、学級ソングを歌いました。秋になくなった、障害を持っている人たちの学びの場の必要性を感じ、町田に青年学級を立ち上げた、大石洋子さんの追悼を行いました。青年学級を卒業した、とびたつ会の、H.Mさんと経験の長い担当者の話を聞いて大石さんが生前話していた、「自分が主人公で生きていく」という発言をうなずきながら聞いていました。また、津久井やまゆり園の被害にあわれた方々への追悼を行い命の大切さを確かめ合

いました。最後にプレゼントを配る役目のさくらんぼスポーツ体づくりの皆さんが、サンタのぼうしや上着を着たり、トナカイの角、天使の羽など、好みのコスプレを付けてホールに入場し、「わかそよ2021」のロゴがついたポーチとCDのプレゼントをうれしそうに配りました。

評価

公民館学級のクリスマス会は、世間でいうクリスマス会のような行事ではなく、元気にこの日を迎えることができた、互いの存在を確かめ合うという行事ということは何年も行っています。大石さんと一緒に活動を行ってきた学級生のうなずきながら話を聞いている姿や、大石さんを知らない青年の感想の言葉を聞いているコースの学級生の姿がありました。今年度の「わかそよ」で歌った曲の詰まったCDとポーチを、参加者に配る役目を、前回の活動で話し合いをしていたので、その役目をコース全員がしっかりと果たしていました。

(3) 外出活動について

①近隣のウォーキング

11月7日は、楽器コースと合同の活動予定でしたが、皆さんの要望で、さくらんぼスポーツ6名で散歩に出ることにしました。1時過ぎから歩きはじめ、3時ごろまで2時間、1万歩ほど歩きました。紅葉に包まれた芹ヶ谷公園のスロープを下り、版画館、高ヶ坂方面を歩き、恩田川沿いを歩きました。残念ながら、カワセミは見つけられませんが、帰路、原町田市民の森の中、落葉を踏んで歩きました。11月21日、3年目の担当者に付き添われて歩いていた学級生は、力強く歩く先輩学級生と



てをつなぎ、足取りもよく歩きました。他の、担当者や支援されて歩いていた学級生は、自力で歩く姿が多くみられました。体力のある学級生は、足が速いので様子を見て仲間を待っていたりしながら歩いていました。

この日の思い起こしでは、「つかれた」「汗かいた」と言っていました、「自分でがんばった」「Nさんと歩いた!」と主張していました。体力のある学級生は、「つかれた」といいながらも、余裕の表情をしていました。

②遠出の外出

全員参加のクリスマス会午前の活動にて次回活動について話し合いましたが、皆さん「外出がしたい」という意見でした。サクラんぼスポーツのコースで体験していた学級生も、ホワイトボードに「外出したい」と書いてサクラんぼスポーツのコースに加わることを表明していました。

しかし、外出という意見はありましたが、場所が決まりませんでした。まずは、担当者が早めの電話連絡で、電車バス利用の外出が可能なかどうかを家庭に確認したところ、感染拡大もおさまってきたころでしたので、皆さんがOKでし

た。そこで、「大きな富士山が見えるところに行きたい」とよく言っていた学級生がいたこと、人出の少ない場所、乗り物は近い所ということで大和の「ゆとりの森」で午前中ウォーキングをし、センターに戻って、昼食をとるということ、予定や持ち物をニュースに書いてお知らせしました。

12月19日、大和ゆとりの森、綾瀬スポーツ公園に行きました。二つの公園を合わせた広い公園内で、雪の富士山を見て皆さん感激。起伏もありながらも、歩きやすい道のウォーキングを楽しみました。



テニスやサッカーなどのスポーツに興味深く眺めたり、「桜が咲いたら来てみたいです」と話す学級生もいました。ウォーキングして12月でも、「暑い暑い」と汗を拭いたり外周をテンポよく歩き、仲間を待っている学級生など歩き方はそれぞれでした。ウォーキング後、腰が痛いとし少し休む学級生もいて無理せず、帰りも駅まで地域の巡回バスで行き、小田急線電車の乗り継ぎもスムーズでした。皆さんからは、午前中だけの活動でしたが、満足した感想が聞かれました。

評価

さくらんぼスポーツ体づくりの活動では、話し合い前後1から2時間の近隣のウォーキングを行



ったことで、話し合いの活動が集中して行われてきました。今年度も、クリスマス会の話し合いの時、ウォーキング後のクリスマス会の話し合いは活発に行われました。

3年目の学級生のN.Kさんは、新入の頃から比べると、食事が積極的にになり、ウォーキングの足取りが早くなり、仲間からほぼ離れず歩くようになってきました。11月の近隣のウォーキングにて、担当者が付けず、仲間の学級生と手をつないで歩きました。安定して歩き大分慣れてきたことを実感しました。又、ウォーキング後の話し合いの時、少し離れたところに座っていたN.Kさんが仲間のいる話の輪の中に自ら移動して座りま

した。「頑張^{がんば}って歩^{ある}いた？」と担当^{たんとしや}者が聞^きくと手^てを挙^あげて満^{まん}足^{ぞく}そう^えな笑^え顔^{がお}を見^みせま^せした。あまり目^{もく}的^{てき}を持^もって自^じ分^{ぶん}から移^い動^{どう}する^すこと^の無^ない^ように思^{おも}え^た。N.K さん^{ねんめ}ですが、3年^{ねん}目^めに^してN.K さん^{なかま}の仲^な間^ま意^い識^しを問^まの当^{あた}り^{たり}に^しま^した。

感^{かん}染^{せん}減^{げん}少^{しょう}状^{じょう}況^{きやう}の寸^{すん}暇^かに、電^{でん}車^{しや}に乗^{じやう}車^{しや}しての^の外^{がい}出^{しゅつ}をし、コ^こロ^ろナ^な禍^か、非^ひ日^{にち}常^{じやう}の活^{かつ}動^{どう}を行^{おこ}な^うこと^ができ^まし^た。

(4) 成^{せい}果^か発^{はつ}表^{ひょう}会^{かい}について

コ^こロ^ろナ^なウ^うイ^いル^るス^す蔓^{まん}延^{えん}防^{ぼう}止^し中^{ちゆう}、各^{かく}家^か庭^{てい}の事^じ情^{じやう}や、職^{しよく}場^ばの状^{じやう}況^{きやう}が厳^{げん}しくな^なった^こと^から、発^{はつ}表^{ひょう}の素^そ材^{ざい}の写^{しゃ}真^{しん}はあ^ある^ので^すが、発^{はつ}表^{ひょう}す^る学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}の参^{さん}加^かが危^{あや}ぶま^れ、昨^{あく}年^{ねん}集^{じつ}まり^{やす}か^つた、薬^{やく}師^し池^い公^{こう}園^{えん}の集^{じつ}合^{ごう}を計^{けい}画^{かく}しま^した^が、参^{さん}加^かでき^た学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}は2名^{めい}で^した。

活^{かつ}動^{どう}の紹^{しょう}介^{かい}の文^{もん}字^じを書^かき、動^{どう}画^{がく}撮^{さつ}影^{えい}をしま^した、成^{せい}果^か発^{はつ}表^{ひょう}会^{かい}さ^さくら^んぼ^すポ^ぽー^との紹^{しょう}介^{かい}の動^{どう}画^{がく}と写^{しゃ}真^{しん}を2名^{めい}の参^{さん}加^か者^{しや}が紹^{しょう}介^{かい}し発^{はつ}表^{ひょう}を行^{おこな}い^まし^た。冬^{とう}季^きオ^おリ^りン^{りん}ピ^ぴク^くもあ^あり^まし^たが、冬^{とう}季^きス^すポ^ぽー^との、実^{じつ}体^{たい}験^{けん}が少^{すく}ない^からで^しょう^か、興^{きやう}味^みが^なく話^わ題^{だい}は盛^もり^あがり^ませ^んで^した。

評^{ひやう}価^か

正^{しょう}月^{がつ}明^{めい}け^{から}2月^{がつ}にはオ^おミ^みク^くロ^ろン^ん感^{かん}染^{せん}が^{ぞう}加^かし、職^{しよく}場^ばで^は感^{かん}染^{せん}者^{しや}も出^でて作^{さく}業^{ぎやう}所^{じよ}を休^{やす}む^{じょう}状^{きやう}もあ^あった^よう^でし^た。

さ^さくら^んぼ^すポ^ぽー^と体^{からだ}づ^くり^こー^すの皆^{みな}さん^は、一^{ひとり}人^{にん}も感^{かん}染^{せん}す^るこ^とな^く過^すご^せた^こと^は、一^{いち}番^{ばん}の成^{せい}果^かで^した。冬^{とう}季^きオ^おリ^りン^{りん}ピ^ぴク^くもあ^あり^まし^たが冬^{とう}季^きス^すポ^ぽー^との、実^{じつ}体^{たい}験^{けん}が少^{すく}ない^からで^しょう^か話^わし^あい^では^は興^{きやう}味^みが^なく、話^わ題^{だい}は盛^もり^あがり^ませ^んで^した。

(5) 課^か題^{だい}と展^{てん}望^{ぼう}

基^き礎^そ疾^{しよく}患^{わん}のあ^ある家^か族^{ぞく}へ^の用^{よう}心^{しん}や、家^か族^{ぞく}の入^{にゅう}院^{いん}な^など^からシ^しョ^ょー^とス^すテ^てイ^い入^{にゅう}所^{じよ}やグ^ぐル^るー^ぷホ^ほー^むに^{にゅう}所^{じよ}せ^せぎ^ぎる^るを^を得^えない^など、お^おり^しも感^{かん}染^{せん}拡^{かく}大^{だい}が^{にゅう}職^{しよく}場^ばに入^いっ^てき^たた^め、自^じ宅^{たく}待^{たい}機^きな^など、コ^こー^すの^かた^がた^せい^{かつ}へ^んか^でん^われ^んら^くから^わか^りま^した。全^{ぜん}般^{ぱん}に、参^{さん}加^か者^{しや}は少^{すく}ない^ひもあ^あり^まし^たが、ク^くリ^りス^すマ^まス^す会^{かい}の^ひは、全^{ぜん}員^{いん}参^{さん}加^かの^{かつ}活^{かつ}動^{どう}が^{でき}ま^した。又^{また}次^{つぎ}の^{がい}外^{しゅつ}出^{しゅつ}の^{かつ}活^{かつ}動^{どう}へ^とつ^なげ^るこ^とが^{でき}ま^した。ス^すポ^ぽー^との^{かつ}活^{かつ}動^{どう}に^は、3年^{ねん}間^{かん}継^{けい}続^{ぞく}して^きま^した。ポ^ぽッ^ちャ^ゃに^{かん}して^は、^{かつ}活^{かつ}動^{どう}す^るこ^とが^{すく}な^く投^なげ^かた^かげ^んを^わす^わす^がつ^きゅう^うの^{らい}ね^んど^は積^{せつ}極^{きよく}的^{てき}に^とり^く組^ぐんで^いけ^るよ^う、^{がつ}学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}と^はな^なあ^あつ^てい^きた^いと^{おも}い^ます。今^{こん}年^{ねん}度^どの^{しん}入^{にゅう}学^{がく}級^{きゆう}生^{せい}は、2回^{かい}の^{さん}加^かで^した^がコ^こー^す全^{ぜん}員^{いん}参^{さん}加^かの^{とき}に^{さん}加^かでき^て活^{かつ}動^{どう}を^{たの}し^んで^いま^した。来^{らい}年^{ねん}度^ど、そ^それ^ぞれ^の成^{せい}長^{ちやう}か^ら、あ^あた^らら^ら選^{えら}んで、^すて^つッ^ぶあ^あッ^ぶして^ほしい^とおも^いま^す。



こうみんかんがつきゅう
公民館学級

げき
劇・ミュージカル

ゆめのつづきコース

かつどう
活動の流れ

ひ づけ 日 付	かつどうないよう 活動内容
がつ にち 9月19日	【午後活動・合同】今年度の青年学級・コース活動をどうするかの話し合い
がつ にち 10月17日	【午後活動・合同】合宿に代わる活動として健康福祉会館でどんな活動をするのか話し合い
がつ か 11月7日	【午前中：健康福祉会館でつどい】 【午後：生涯学習センターでコース活動】 ・ミュージカルのテーマについて話し合い ・青年学級を作った大石さんについて話し合い ・オリジナルソングをうたう
がつ にち 11月21日	・自己紹介（コロナ禍での生活について） ・クリスマス会ですることについて ・ミュージカルのテーマについて ・調理（お菓子作り）について
がつ か 12月5日	・ミュージカルのテーマについて ・調理（お菓子作り）について
がつ にち 12月17日	・ミュージカルのストーリーやセリフづくり ・参加できていない仲間に年賀状書き
がつ にち 1月16日	【午後活動】 ・ミュージカルのストーリーやセリフづくり
がつ か 2月6日	【午後活動】 ・ミュージカルのストーリーやセリフづくり ・オリジナルソングの歌詞づくり
がつ か 2月20日	【午後活動】 ・絵を描く活動に参加 ・「世界の果てまで伝えよう」「そのままに」を練習。
がつ か 3月6日	【午前：成果発表会の練習】（午後：成果発表会） ・シナリオの確認とセリフの決め ・うたの練習

1. 集団の特徴とねらい

男性7名、女性5名の計12名のメンバーで活動しました。劇やミュージカルで表現したいというメンバーが集まったコースです。言葉でコミュニケーションがとりにくい人が多いほか、トイレ介助や食事介助も一定の支援者数が必要なコースでした。

そのために、発言が困難なメンバーや自分の口頭での発言が十分でないと感じたメンバーからの求めに応じて、介助付きコミュニケーションの一环である「筆談」を支援者が使用して話し合いを行っていました。

またメンバーには、ベテランも多く、活動の中心となって進める人、声掛けや表情で明るい雰囲気を生み出す人、しっかりと意見を伝える人と、それぞれの役割で活動を進めていました。

一般就労をしていたり、生活の場がグループホームなどで、生活の課題に直面している人であれば、重い障がいにより家庭と施設中心の生活となり、日常生活に制約が多いメンバーがいます。

コースのメンバーは、コロナ禍が理由でほとんど出席しない3名（うち、1名はリモート参加）を除き、通年では多くのメンバーが参加しての活動が可能でした。

コースでやりたいことは、当初、午後からの活動が続き参加者の数も見通せなかったため、単発の活動を念頭に絵を描くことや調理などの活動の希望がありました。11月を過ぎて活動が一日になった頃から、新しいミュージカルを作ることを意識において話し合いが進められました。

ミュージカルコースでここ数年取り組んでいたのは、「津久井やまゆり園」の事件を受けて、事件や事件を聞いて傷ついた仲間に力強いメッセージを出すことを念頭に考えていました。

今年度の話し合いでは、コロナ禍で人とのつながりを断ち切られていた仲間のことを思い、コロナ禍に負けずにきずなを大切に暮らしていることをメッセージとして伝えるミュージカルを制作することにに向けて取り組んでいきました。一年間の途中で活動の形態が何回も変わったり、決して取り組みやすい環境ではありませんでしたが、自分たちの思いをミュージカルにすることにに向けて取り組みました。

2. 活動の様子と評価について

(1) 集まることから活動内容を模索する取り組みへ

夏休み前は、学級に参加できない人が取り残されないように「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」という、コースや学級に縛られない活動を進めていました。

9月の夏休み後からは、午後からのコース単位での活動が可能になり、徐々にこれまでの青年学級の活動形態へと移行していきました。

メンバーやスタッフが集まらなくて合同で活動したり、オンライン参加のメンバーもいたり、通常の活動には程遠い状態でしたが、青年学級のこれからの活動をどうするかということから、みんなで話し合いました。

最初はメンバーごとに集まったものの継続的な活動を行うことができるのかも不透明な状態でしたので、一回の活動で完結するような何かを

制作することも念頭に置いていました。

「おかしづくりでクッキーやケーキを作りたい」というグループホームで生活するメンバーの意見や、「絵を描いたり、みんなが描いた作品を見せあったりしたい」という発言もこのような背景からの意見でした。

また、この時期には青年学級に集まること自体が勇気の必要な環境であったことから、「みんなで活動を作ることが大切」というベテランのメンバーの発言や「コロナ禍で来られていない人がいるので、置いてきぼりにしないように、今までの活動を振り返って鑑賞したりしたい」といった車いすを使用するメンバーの発言、「筆談で話す時間もあるとよい」という音声での発言が苦手なメンバーの意見にあるように、まずは継続的に集まり話し合うことが大切にされてきました。

また、通常の活動であったら学級全体で行う合宿についても、今年には行わない方向で話が進みました。他のコースとの合同の活動で出された「みんなが感じていることを話す時間にあてる。集いのように。」という意見どおり、まずは、11月7日に全員で集える場所（健康福祉会館）を確保して、久しぶりに午前中にも活動をする事となりました。

公民館学級では通常の活動の朝と夕方に生涯学習センターのホールで全員が集まって歌ったり、話し合ったりする「つどい」を行っていますが、大きなホールがワクチンの集団接種会場となっているために全員で集まることも、なかなか難しいという事情もありました。

広い会場に全員で集まり、夏休み前までに取

り組んでいた「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」の動画を流したり、オリジナルソングをうたったり話し合いをしたりと、日常の青年学級の活動に戻っていくための良い再スタートとなりました。

(2) ミュージカルづくりに向けて

11月になりましたが、継続的に1日活動が行える見通しができたことから、ミュージカルをつくる活動を行いたいという希望が出てきました。

「やりたいことがあったら言っていきませんか。」と投げかけたメンバーは、自ら「私はコロナがテーマのミュージカルを作りたい。」と提案しました。「歌やダンスが得意なので、自分たちのうたや振り付けを入れたい。」という意見や、「勝手気ままなコロナ姫がヒロインのストーリーにしよう。」という提案があり、オリジナルのミュージカルづくりがスタートしていきました。

丁度、青年学級を立ち上げた元公民館職員の大石さんが亡くなったというニュースを聞いたばかりだったので、ベテランのメンバーからの「天国から「輝く姿を期待しています」と言われている気がします。」という発言もありました。

ミュージカルづくりは、身体的な障がいがある重度でコロナ禍で孤独にさいなまれたメンバーからの「コロナ禍でみんなに会えなかったりしたときの思いを劇にしたい」という意見に加えて、一般就労しているメンバーからの「やまゆり園の仲間にはげましの言葉を言いたい。犠牲になった人に「大変だったね」と言いたい。」という意見もあり、テーマに障がいがある当事者の視点が加わりました。

また、話し合いのなかからストーリーやセリフに結びつくような印象的な言葉が生まれてきました。

・「私たちの生きる意味を取り戻す戦いを描きたい。武器は「仲間とのきずな」勝ち取ったからものは「人生の輝き」

・「仲間は人生を生きるためのワクチン」

・「みんな、目を覚ませ。人生を自分の手にしっかりと握っていないとあっという間に暗闇に取り込まれてしまうぞ。」

・「一人一人離れてしまっは、僕たちの力がわいてこない。勇気を持ちましょう。つながって生きていきましょう。」

成果発表会の舞台のイメージについても、コロナ禍のシーンを舞台上に一人ひとりはなれて座っていて表現するという提案がありました。また、そばにいる仲間であっても声を上げないと気がつかない設定も加わりました。

仲間にいることに気が付いた人の歌声が次々と重なって行って、最後には大きな歌声にすること。大きな声で歌うときは、衣装も変えることなど、たくさんの提案で、イメージがふくらみました。

また、ミュージカルづくりではないですが、年末の活動には、参加できていない仲間に、代表のメンバーが言葉やイラストを年賀状に書き、早く仲間会いたいことを伝えていきました。

(3) 成果発表会で何ができるか

一方で、1月からはコロナ禍の第5波がピークを迎え、青年学級も午後からの活動に短縮されました。再び午後からの活動に戻ることで、もともと準備する時間が厳しかったミュージカルづ

くりも見直しを迫られ、方向を見直すために、話し合いを重ねました。

・「歌を中心に発表できるといい。」

・「セリフや発表の内容をみんなで話し合ってきた。コロナ禍で気持ちや僕たちの思い、人生で大切なことを伝えたい」

・「ぼくたちの言葉を大切にしたい。話し合いの言葉をセリフや歌にして発表しましょう。」

・「活動の中で話し合ってきたことを何か残して行ってほしい。セリフは必要だと思うので誰かはなす言葉のはっきりしている仲間をお願いします」

・「話し合ってきたことでも、前に作った歌でも発表できることはあるはず。」

たくさんの意見を重ねていく中で、成果発表会に向けて可能な限りミュージカルづくりを進めていくことになりました。

・明るく歌をうたいたい。心が安らぐような歌を作りましょう。

・美しく悲しいよりも、元気にガヤガヤしてみんなで陽気に歌をうたいたい。「みんなの心をつないで、未来をつかもう」というフレーズを入れましょう。

・みんなとのつながりが大切。「暗闇からしっかりと手をつないで」というフレーズを入れてほしい。

感染が拡大するとリモートで参加するメンバーも増えて、班長をしているメンバーは画面越しに笑顔でうなずいていました。同じくリモートで参加している歌もダンスも得意なメンバーは「私はみんなに会いたい」という歌詞を入れてほしいという意見を伝えていました。

また、「歌をうたいたいし、コロナが終わって

早く青年学級に行きたい。」と画面越しで話していました。

参加もできずオンラインでの参加の条件整備が難しいメンバーは、スタッフに電話してきて話し合いに参加したりと、工夫しながらも活動を継続しました。

話し合いの中では、「コロナが終わったら寮（グループホーム）を見学に行きたい。」というコロナ禍の後を見据えた活動の提案もできました。

最後まで歌詞やシナリオづくりに向けて活動を進めましたが、ミュージカルを舞台上で発表するところまでには届きませんでした。

(4) 成果発表会のステージから

いよいよ3月6日の成果発表会です。発表内容はこれまでコロナ禍の中の気持ちをミュージカルにするために取り組んでいたこと、コロナ禍で感じた気持ち、あらすじ程度のミュージカルのシナリオと新曲のために準備した歌詞を発表しました。

新しいミュージカルやオリジナルソングはできませんでしたが、昨年度までの活動で生まれたオリジナルソングを2曲うたいました。最初は「そのままに」、最後は「世界の果てまで伝えよう」です。

4. 活動の様子と評価について

今年度は残念ながら、コロナ禍やスタッフの参加状況により、通年で継続した活動を行ったとは言い難い状況でした。

活動自体が8月までは「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」の取り組み、9月からは複数コースで午後からの活動、11月からやっと通常の

コース活動、1月からは感染状況の悪化により午後から活動と、コロナ禍に振り回され、どこをゴールに、どこに焦点を当てて活動すればいいのかもわからない状況でした。

しかし、同じメンバーで3年目の活動ということも理由かもしれませんが、メンバーは劇やミュージカルでの発表をあきらめることはありませんでした。

3年前から、「津久井やまゆり園」の事件を受けて、亡くなったり傷ついたりした仲間や同じ施設で暮らしていた仲間、そして障がいがある当時者としての自分たちの思いを語りあいながら、劇やミュージカルでの表現を目指してきました。

今年度の活動では、コロナ禍での仲間の思いが大切にされました。青年学級は障がいがあるメンバーにとって、かけがえのない場所になっています。ここでは、一人の思いを持った人間であることを肯定され、仲間と共に生きる喜びを感じることができるからです。

しかし、どんなに活動に参加したくても、様々な条件から参加できないメンバーがいます。また、コロナ禍が拡大した時には、家庭から一歩も出られずに、絶望して気持ちが荒れた仲間もいます。

受け止めきれないような問題が出てきたときに、このコースのメンバーは劇やミュージカルをとおして問題に向き合おうとしました。

結果として作品の完成はみませんでしたが、かなり近いところまで話し合いは進んでいた気がします。スタッフの体制やコロナ禍の影響はありますが、このあきらめない取り組みは、コース活動の大きな成果として、今後の活動に引き継いでいければと思います。

ゆめのつづきコース 成果発表会台本

あいさつ（ ）

これから、劇ミュージカルコースの発表を始めます。

♪「そのままに」（2019年度制作オリジナルソング）

活動の紹介1（ ）

今年度は夏休み前までは、動画でみんなに見てもらえるように「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」づくりに取り組んできました。

活動の紹介2（ ）

秋からは、午後からだけでしたが、ようやくコース活動が再開されました。11月からは待ちに待った1日の活動になりました。

活動の紹介3（ ）

お菓子作りなどの意見も出ましたが、コースの仲間はコロナで感じたことをみんなに伝えたいという強い気持ちを持っていました。

コロナへの想い1（ ）

コロナでたくさんの方が苦しい思いをして、大切な人を亡くしたかたもいます。

コロナへの想い2（ ）

コロナでどこにも出かけられなくなった時、だれも僕に関心を持ってくれない、世界からはじき出されたように感じました。

～ここから劇の世界へ～

そんなコロナをミュージカルにできないかな。(ピアノの効果音)

♪身勝手気ままなあの子 地位に権力やりたい放題
いつもいつもけんかばかりそうして一人になっちゃった
あらしの吹く夜はじめて 生きる意味を考えた♪

村人1 ()

勝手にふきあれて、勝手にいなくなる、わがままでやりたい放題のお姫様だ。

村人2 ()

コロナ姫は、昨日は機嫌が悪かったので、たくさんの人を吹き飛ばしておしまいになったそうだ。

コロナ姫 ()

「ふきとんでおしまい！」

村人3 ()

おそろしい。おそろしい。

村人4 ()

コロナ姫は、おとといは機嫌がよくて、おひさまをたくさん出してくださった。

村人全員 ()

おやさしい。おやさしい。

コロナ姫（ ）

あなた、生意気ね。わたしをだれだと思っているの。昨日までは親友だとももっていたけど、もういない。吹き飛んでおしまい。

村人5（ ）

おそろしい。おそろしい。

とうとう、コロナ姫の近くには誰もいなくなってしまうわ。

コロナ姫（ ）

みんないなくなっちゃった。あ～せいせいした。

でも退屈ね。

あのガヤガヤうるさい話し声も聞こえてこない。

あのカンにさわる笑い声も聞こえてこない。

何だかくらい洞窟に入ったみたい。

おーい、おーい

私が吹き飛ばした人たちも、こんな気持ちだったのかしら。

心の声1（ ）

暗闇なんてだいきらい。

また、みんなに会いたいな。会えるかな。

心の声2（ ）

きっと、会えますよ。

青空の下で、手をつなぎましょう。

♪暗闇なんかだいきらい わたしはみんなに会いたいな
しっかり手をつないで みんなのころをつないで
未来をつかもう♪

♪あらしなんかだいきらい青空の中で青年学級に行きたい
自分の手で人生をつかむため 寮の見学に行きたい
仲間はころをつなぐワクチン 輝く姿の未来をつかもう♪

♪「世界の果てまでつたえよう」(2019年度制作オリジナルソング)

おわりのことば()
これで成果発表会を終わります。

そのままに

清野 優里(ゆめのつづきコース)
加藤 沙耶香(2019公民館劇ミュージー)

Body

The musical score is written in 4/4 time and consists of seven staves. Each staff contains a treble clef, a key signature of one flat (F major), and a series of notes with lyrics underneath. Chord symbols are placed above the staves. The lyrics are: か ん じ た い こ と を ー そ の 笑 笑 に や り た い こ と を ー そ の 笑 笑 に か い の い ち た の こ と ば を そ の 笑 笑 に み ん な の こ と ば を そ の 笑 笑 に た の し び い な じ か ん を そ の 笑 笑 に つ た え よ う よ す れ き な い こ と も い や な い こ と も そ の 笑 笑 に み ん な の こ と ば い の ち の こ と ば あ ら た な き も ち そ の 笑 笑 に み ん な の こ と ば い の ち の こ と ば あ ら た な き も ち そ の 笑 笑 に ゆ め の つ づ ー き を こ れ か ら も ず っ と かな で よ う そ の ま ま に

Body

C Em C G7

C G Am G Am

F Em Am G7

C Em F G7 C

F Em Dm G

F G Am G

G F C G C

第2章 自治運営 班長会

1 班長会について

メンバーは2019年度から同じです。学級全体にかかわる運営や、行事についての様々なことを調整します。主に、合宿、公民館まつり、クリスマス会、成果発表会についての話し合いが行われ、どういうものにしていくか具体的な運営進行の方向性を話し合いの中でつくっていきます。通常、学級日の活動終了後、16時から17時までの時間を使って、各コースの班長と副班長とが集まって話し合われています。

2 班長会の様子と評価

今年度はコロナの影響で学級に来られないメンバーもいることなどから、つどい委員会と合同で集まり、話し合いの時間の変更などもありました。そうしたコロナの影響でなかなか活動ができませんでした。

9月5日からつどい委員会と合同で活動が始まり、16時から30分時間を作りました。今年度初めての話し合いではコース活動について、来られるメンバーが少ないことからコースをくっつけて行う活動について話し合いました。班長会メンバーから「もっと自分たちが司会進行をして話し合う時間が必要」、「各グループで話し合ったことを共有する時間を作りたい」と意見が出ました。出た意見を踏まえて9月19日の活動では、班長会・つどい委員会のメンバーが司会進行をして、各部屋をzoomでつないで全体で話し合ったことの共有を行いました。

11月21日、クリスマス会に向けて話し合っ

くためと、活動を戻していくために、30分だった時間をもとの1時間に戻しました。時間が30分だった時、活動終わりに班長会メンバーからクリスマス会について「司会をやりたい」と声をかけられました。その時に役割決め等、話し合う時間を十分に取れていないことに気づきました。

1時間あることで準備期間が短くても、つどいや各コースで話し合ったことを検討し出た意見がしっかりと反映されたクリスマス会になりました。

12月5日、つどい委員会と合同で行っていることについて班長会メンバーから「これからどうしていくか話しませんか？」と提案があり、今はまだ来られないメンバーもいること等からしばらく合同で行っていくことになりました。

つどい委員会と合同で行うことで見えてきたことは、班長会のメンバーの意見が多くなってしまったことでした。そうした中で比較的つどい委員会メンバーの参加が多かった12月19日の話し合いで、1月16日の活動ではホールが使えるので「つどいについて話し合いましょう」と提案をしました。つどい委員会のメンバーから「つどいのことは私たちがきめます」と積極的な発言があり前半、後半の司会、またリクエストボックスは次回から使うことに決まりました。今まではホールでつどいを行っていましたが、ワクチン接種会場になり、なかなか使用することができなくなりました。ホールが使用できないと6階の学習室1、2と3、4をzoomでつないで行います。こうした今までの活動ができない状況で、自然と歌のリクエストをとることや全体へのお知らせ等すべて班長会メンバーが司会を行う流れになってしまいました。

班長会・つどい委員会の話し合いでも、主に班長会メンバーに意見を聞く流れができてしまい、つどい委員会メンバーが意見を出しやすいような話し合いにはなっていませんでした。つどい委員会のメンバーは活動をしっかり行いたいという考えを持っており、1月16日にホールが使えることに合わせて、つどい委員会が司会を行って行くことになりました。班長会・つどい委員会それぞれの活動ができてくると、合同で話し合うことの難しさも見えてきました。お互いの活動や全体についての話し合いが十分に行えないことです。そのため、それぞれが別の部屋で話し合った後、1ヶ所に集まって話し合ったことの共有を行う等の工夫をしました。

2月6日、成果発表会の日程や内容について話し合いました。「予定通り3月6日に行いたい」、「来られない人がいるから延期にしたい」、「活動報告会として行うのはどうか」、「成果発表会を行うことで一つの区切りになる」、などの意見が出ましたが、意見はまとまりませんでした。じっくりと考える時間もありましたが、その沈黙はみんなで見えたとしっかりと向き合ったということでもあるのではないかと思います。そうしたことと向き合うために話し合えたことは重要でした。

その後の活動でも話し合いを重ねて、最終的に3年間コースを継続して行ってきたことを成果発表会として、発表することになりました。

班長会ニュースについては、班長会・つどい委員会の活動が始まってすぐではなく途中から再開しました。合同で行っている間は合同でニュースを出すことなど、提案や話し合いができなかったため、今後、合同で活動する時にはそのこ

とを考えていくことも重要なことではないかとおもいます。

3 課題と展望

どうしてもその日の活動の振り返りだけで終わってしまうこともあります。班長会がつどいや各コースで話し合われたこと、また学級全体を考えると意識しながら、青年が自分たちの活動をつくっていくために何ができるかを担当者は考えながら活動することが重要ですが、コロナの影響で活動に制限がかかる中、活動部屋の人数制限や合宿の中止等、生涯学習センターや担当者会だけで決めざるを得ないことも多くなりました。しかし、その中でも成果発表会についての話し合いでは、現状と向き合いながら活動内容を定めることができました。また思うように活動ができなくなり、短い時間からの再開、つどい委員会と合同活動、活動時間の変更、班長会ニュースの再開等、新しいことや一から始めていくこともたくさんありましたが、班長会で話し合うことにより、こうした事態にも自治を大切に活動することができました。

つどい委員会

1. 集団の特徴

女性2名、男性4名で学級歴20年以上のベテランの青年で構成されています。

2. 活動のねらい

- ・学級全体の仲間意識を高める
- ・全体で話し合うべきことを適宜話しあう
- ・現状報告などを通して、仲間の問題を全体に共有する

3. 活動の様子と評価

(1) 活動の様子

青年学級では、会の始めと終わりにつどい

4. 課題と展望

(1) 課題

① 担当者の体制について

担当者の体制が課題として挙げられます。今年度はつどい委員会を担当する担当者が1人だったため、お休みした際に他の担当者をお願いすることが何度かあり、来年度から担当者の体制を整える必要があると感じました。

② つどい委員のメンバーの募集

コロナの影響によって青年学級をお休みする青年もおり、毎回つどい委員会に参加する青年が少なく、新しいメンバーを募集してもいいのではないかと担当者からの意見が出たので、来年度に向けてつどい委員の青年と話し合いながら検討していきたいと思っています。

(2) 展望

① つどい委員会の再開

昨年度からコロナの影響でつどい委員会が開けず、またコロナのワクチン会場にホールがなかったことから、全体でのつどいができなかったのですが、ホールが使用できる学級日の前の班長会に参加する青年から「つどい委員会と班長会を分けて行うのはどうでしょうか」という提案がありました。つどい委員会に参加する青年からも「やりたいです」という意見があり、班長会の前につどい委員会を行うことができました。つどい委員会を開催することができたので、つどい委員を中心とした活動の運営ができたのがとてもよかったのではないのでしょうか。

② リクエストボックスの実施

つどい委員の青年から学級ソングのリクエストを集めるリクエストボックスを昨年度実施しました。つどい委員会で集まったリクエストを見て学級ソングを始めたつどい、帰りのつどいで学級ソングを決めました。

リクエストボックスを来年度も継続し、担当者間での引継ぎをできるような体制を整えていきたいと考えています。

第3章 考察

1. 2021年度の活動の取り組みについて

今年度の公民館学級は、「コンサートコース」、「まあるいゆめコース」、「ハッピーハッピーくらしコース」、「ものづくりコース」「さくらんぼスポーツ体作りコース」、「ゆめのつづきコース」の6コースに分かれて活動を行いました。新型コロナウイルスの影響が続き、学級活動に参加できない青年が今年度も多くいたため、2020年度と同様に、各コース2019年度のメンバーを継続する形で進められました。

また、今年度は昨年度実施予定であった若葉とそよ風のハーモニーコンサートが8月に延期されたこと、昨年度同様、社会情勢を見極めながら学級活動を実施したこともあり、わかそよ練習、1日の活動、午後のみ活動、参加人数が少ない場合には2コースを組み合わせたの活動を行うなど様々で、活動形態が不規則的でした。コース活動では、長期的な活動を実施することが難しく、単発的な活動が多くなってしまった点が反省点として挙げられました。しかし、先が見通せない中、どのような状況下においても、工夫をしながら学級活動を継続することができた点においては、成果であったと言えます。

2. 青年学級とは

今年度の半ば、長らく青年学級の活動にご尽力された大石さんがお亡くなりになり、コース活動で大石さんとの思い出を語る時間を設けたり、クリスマス会で追悼をするなど折に触れて、偲ぶ時間を設けました。思い出とともに青年学級の歴史を振り返ったり、改めて青年学級という

場について想いを共有していきました。青年学級では、自治活動やメンバー一人一人の意見を尊重することを大切にし、これまで活動を行ってきました。その中心には、「自分の人生を自分が主人公として生きる」という強い想いがあります。学級活動がスタートした当初と現在では、学級生も担当者も職員の方も異なり、学級歴なども様々な人が集まり、学級活動が行われてきました。このように移り変わるものがある中でも、変わることない想いを共有できたことで、改めて青年学級という場で何をしていきたいのかという点が明確化されたように思います。これは先がなかなか見通せず、計画的に活動を進めることが難しかった今年度の活動に大きな影響を与え、自分の想いを社会に発信する、形に残すというという青年たちの熱い想いととも、数少ない活動が充実していたことに繋がっていきました。これからも青年学級は、積み重ねてきた大切な想いと歴史を胸に、一つでも多くの言葉が社会に届くよう、発信を止めない場であり続けます。

3. 各コースの活動の成果

(1) コンサートコース

コンサートコースでは、生涯学習センター主催のセンター祭りへの参加に伴い、センター祭りの発表内容について中心となって考えたり、学級活動に参加できていない仲間に向けて、色紙や年賀状を作成して送付したりという活動を行いました。昨年度と同様に、新型コロナウイルスの影響から外部に発信する機会が少なかったですが、センター祭りの動画での発表は、公民館学級の活動や魅力について伝えたり、コロナ禍で

生活する中で何を感じているのかなどを伝える機会になりました。

また、他コースと合同で活動する際には、積極的に意見交換をし、今後の学級運営についてや学級活動に参加することができていない仲間に対して何ができるのかということを経験することができました。

(2) 楽器コース

楽器コースでは、学級活動に参加することができない仲間のことを思いながら、活動することに意識を向けました。特に繋がりを途絶えさせないためにどのような工夫ができるのかを丁寧に考え、新年には年賀状を作成し送付したり、学級ニュースを通してメッセージを伝えたりするというを行いました。「青年学級は変わらず活動を続け、仲間たちを待っている」という想いを届けることができました。

また、今年度の活動においては日々の生活や家族のこと、学級のことなど、例年よりも話し合いをする時間を多くとることができ、一人一人の想いを共有でき、尊重できる有意義な時間になりました。

(3) ものづくりコース

ものづくりコースでは、芹が谷公園で紅葉を見たり、クリスマスツリーの飾り作りや貼り絵の制作などを行いました。少ないコース活動の中ではありましたが、季節を意識した作品の制作を意識して活動することができました。また自分の好きなこと、日常の思い出などをメンバーが描き残しているところも見られ、好き、嬉しい、楽しい、大切などの気持ちを絵に投影し、証として残していることが伝わってくる活動になりました。

来年度の活動については、青年たちの話し合いの中で「ものづくりのみにとどまらず、外出などもしていきたい」との意見が多く出ました。外出先でのことを作品作りに投影する、外出先で集めた材料を活用するなどの工夫を凝らし、幅広い活動が行えるようにしていくことが見えてきました。

(4) 暮らしコース

暮らしコースでは、青年学級のこれからの活動について、青年学級という場の大切さとコロナ禍での心のよりどころについてなど話し合いを中心に行いながら、学級活動に参加できない仲間に向けてメッセージカードの作成も行いました。メッセージカードの作成については、ベルや靴下、サンタ帽の形に紙を切り、他コースにもメッセージカードの記入を依頼するなど、コース内だけではなく学級全体で作成することができました。

常に仲間のことを考えながら活動することができたことで、改めて青年学級という場所と仲間の位置づけを確認することに繋がりました。心の中で思うことでとどまらず、他コースへのカード記入の依頼、成果発表会で作文にして発表するなどコース活動の一環として実行することができました。

(5) 健康コース

健康コースでは、ボッチャ投げ、芹が谷公園でのスポーツを行ったり、近隣のウォーキングなどの活動を行いました。紅葉の季節に行った高ヶ坂ウォーキングでは、1万歩程度歩き、紅葉している景色を楽しみながら、落ち葉を踏んで歩くなど季節を感じる活動になりました。

また、コロナの感染状況からなかなか活動に参加することができなかったメンバーが、12月のコロナ感染者数が緩やかになった時期には、クリスマス会と大和ゆとりの森、綾瀬スポーツ公園の2つの公園を合わせた広い公園への外出活動には参加をすることができました。外出活動を通して、前方を歩くメンバーが後方を歩くメンバーを気かけ、様子を見ながら行動する姿が見られ、昨年度から引き続き仲間意識を感じながらの活動となりました。

(6) 劇ミュージカルコース

劇ミュージカルコースでは、話し合いを中心にミュージカルの歌詞やストーリーを作りました。コロナウィルスの感染状況に左右され、活動形態も不安定さがあり、長期的に1つの作品づくりを目指していく本コースでは、活動のゴールをどこに置くのかなど、様々な点で非常に難しさがありました。しかしコロナ禍での想いを何らかの形に残したいという青年たちの強い想いがあり、新曲こそ今年度は生まれることがありませんでしたが、歌詞やストーリーとして残すことができました。

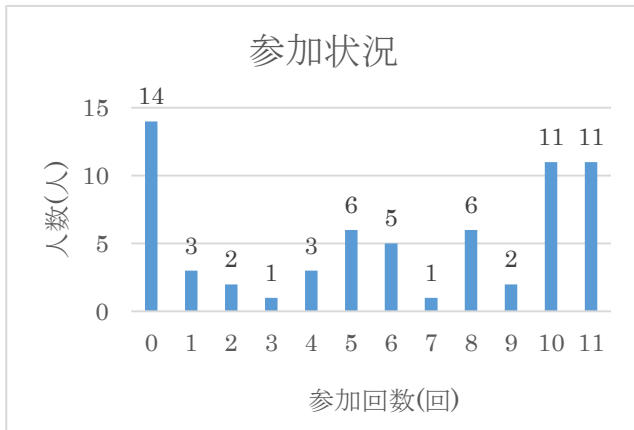
現在の社会問題について触れ、作品として想いを形にできた点は良かった点ですが、今年度は話し合いの活動が多く活動内容の幅が狭まってしまうということも見えてきました。日常的に学級ソングを歌う活動を行ったり、既成のストーリーを活用したり、またメンバーから提案されていたお菓子作りなどの調理活動なども取り入れながら、単発的な活動になった際に、より充実した活動になるよう考えていく必要があると分かりました。

4. 今年度実施した行事について

今年度の学級活動では、開級式とクリスマス会、センター祭りへの参加、成果発表会の4つを実施することができました。開級式については、オンラインで繋げひかり学級と合同で開級式を行うという初の試みをしました。クリスマス会については感染状況なども考慮し、例年行われていたプレゼント交換は実施することができませんでしたが、公民館7階のホールにて全員が集まる形で実施することができました。生涯学習センターが行うセンター祭りについては、今年度も動画での参加となりました。コンサートコースのメンバーが発表構成・セリフを担当し、「わたしのきもちをつたえたい」を学級の紹介とともに発表しました。また成果発表会については、成果発表会を行うかどうかという点から話し合いを重ねていくことになりました。まだまだコロナウィルスの状況も落ち着かず、参加できない人のことを考えるとどのようにすべきなのかという判断を迫られる中で、やはり一つの区切りをつける必要があるという意見が出て、成果発表会を行いました。参加ができなかった人にとっても、青年学級が続けられているという現状があることが希望につながったのではないかと思います。

5. コロナ禍における学級活動への参加状況について

2021年度もコロナウィルスの影響から、学級活動に参加することが難しい青年が多くいました。わかそよの練習期間を除き、9月から3月の成果発表会までの11回分の学級活動において、参加状況をまとめました。結果は以下の通りです。



学級の併用、コロナウィルスの感染対策を講じながらの活動を実施し、新たな要素を取り入れての学級活動は行われていますが、今年度は活動の連続性や継続性において課題が残ったため、この点を踏まえて、コロナ前後の活動内容を融合させ、更なる発展的な活動を行っていきけるように、活動内容の見直しが必要です。

学級生65名中、一度も活動に参加することができなかった人が14名いました。次いで多かったのは10回参加できた人、11回の活動すべて参加することができた人で、それぞれ11人ずつでした。これらの結果を踏まえると、参加できた人、できなかった人の差が大きいことが分かります。

来年度も感染状況を見ながら、活動を実施していくこととなりますが、活動に参加することができない人たちに何ができるのか、考え続けることが引き続き求められます。

6. 今後の展望について

2021年度の活動は2名の新入学生級生を迎えてスタートしました。2021年度末で1名の学級生が公民館学級からひかり学級へ移るほか、2022年度も新入学生級生2名が増えることになりました。学級生が増え、学級活動に新たな風が吹いたり、より一層盛り上がりが見られたりしていく中で、担当者スタッフは例年減少傾向が続いています。2022年度は公民館学級の担当者体制も非常に厳しいことが予想され、このような背景からも学級という集団を形成していく上で、新たな取り組みが求められています。

活動内容においても昨年からはじめたオンライン

第3部 ひかり学級

第1章 コース活動

ひかり^{がっきゅう}学級 ミニー・コスモス ^{こーす}コース

かつどう^{なが}活動の流れ

6月6日	ひかり ^{がっきゅう} 学級・公民館 ^{こうみんかんがっきゅう} 学級 ^{かいきゅうしき} 合同開級式
6月20日	わかそよ ^{れんしゅう} 練習
7月4日	わかそよ ^{れんしゅう} 練習
7月18日	わかそよ ^{れんしゅう} 練習
9月5日	午後 ^{ごご} のみ 自己 ^じ 紹介 ^{しょうかい} ・何 ^{なに} をやりたいか ^{はな} 話し ^あ 合い
9月19日	午後 ^{ごご} のみ 学級 ^{がっきゅう} ソング ^{れんしゅう} の練習
10月3日	ハンドベル ^{れんしゅう} の練習
10月17日	コース ^{かつどう} 活動は午後 ^{ごご} 日 ^ひ 帰り ^{りよう} 旅行 ^{はな} の話し ^あ 合い
11月21日	こどもの ^{くに} 国 ^{ひがえ} 日 ^{りよう} 帰り ^{りよう} 旅行 ^{くに} (こどもの ^{くに} 国)
12月5日	クリスマス ^{かい} 会 ^{さい} ポンチョ ^{さくせい} の作成
12月19日	クリスマス ^{かい} 会
1月16日	食 ^{しょく} パン ^{どだい} を土台 ^{づく} にフルーツ ^{じっしょく} ケーキ ^{れんしゅう} 作り・実 ^{じつ} 食 ^{しょく} 、ハンドベル ^{れんしゅう} の練習
1月30日	新年 ^{しんねんかい} 会 学級 ^{がっきゅう} ソング「水色 ^{みずいろ} スマイル」 ^{れんしゅう} の練習
2月13日	「水色 ^{みずいろ} スマイル」 ^{うた} の歌とハンドベル ^{れんしゅう} の練習
2月27日	「水色 ^{みずいろ} スマイル」 ^{うた} の歌とハンドベル ^{れんしゅう} の練習
3月13日	成果 ^{せい} 発表 ^{はつひようかい} 会

1. 集団の特徴

男性5人、女性5人で構成されています。10人のうち、5人が車イスのため、外出の際交通手段を利用する場合は綿密な計画が必要です。

2. 活動のねらい

自分の気持ちを言葉で表現する人、体で表現する人など、表現方法は様々ですが、共通しているのは“音楽大好き！”ということでした。

そこで、音楽を使って自分の思いを表現できる活動を考えました。

3. 活動の様子と評価

(1) こどもの国日帰り旅行

久しぶりの学級活動は、バスに乗っての外出でした。待ちわびていた気持ちが笑顔に表れていました。外での昼食、小動物との触れ合い、S L列車乗車と、移動でかなりの距離を歩いたにもかかわらず、みんな元気に歩いていました。

(2) コース名作り

「水色スマイル」（さわやかだから）

「フラミンゴ」（色が好き）

「コスモス」（花が好き）

「ミニー」（かわいいから大好き）

4人の青年が意見を出し、じゃんけんで「ミニー・コスモス」に決まりました。

(3) マラカス作り

ガチャポンのプラケースの中に、鈴・ビーズ・金属・米など7種類のものの中から好きなものを選び、好きなだけ入れて、色とりどりのマスキングテー

プでとめ、2本のプラスチックスプーンで固定します。色とりどり、音とりどりの世界で自分だけのマラカスを大事に持ち帰りました。

(4) ハンドベル

全員で出来る楽器ということで、ハンドベルの練習をしました。「咲いた咲いた」「キラキラ星」「カエルの唄」「ドレミの唄」など、まずは簡単な曲の演奏から始め、次第に弾ける曲が増えてきました。音取りが難しい青年へは、担当者が後ろに立ち、肩で合図を出すなど工夫しました。

年明けからは成果発表会に向け、新曲の練習に踏み込みました。

(5) グラスを楽器に

グラスをたくさん並べて、ハンドベルを振りながら同じ音が出るグラスを探し、グラスで「咲いた咲いた」を演奏できるようになりました。

(6) グラス以外も楽器に

色んな大きさの空き缶を並べて、それぞれの音の違いを調べたり、大鍋のふたをシンバルにして鳴らしたりしました。大きな音が苦手な青年もいて、工夫する余地があります。

(7) クリスマスポンチョの作成

クリスマス会用のポンチョを作りました。色とりどりの布をポンチョの形に切り、様々なクリスマス用の飾りを貼り付けました。布の色、飾りの種類を選ぶとき、青年たちのそれぞれの個性や個性が思いっきり作品に現れました。

(8) クリスマス会

サンタクロース、トナカイ、天使のコスチュームを着る人、残りの人は自分たちで作ったポンチョを着て、ハンドベルで「キラキラ星」を演奏しました。当日のコース発表はトリを飾り、他のコースからも大盛況でした。演奏も、聞き役の青年も、心から楽しむ様子が伝わってきました。

(9) 食パンでケーキ作り

コロナ禍で本格的な調理は難しい状況でした。そのような中で、包丁を使わずに接触を避けた方法として、ケーキ作りに挑戦しました。

年明けはコロナの影響でお休みする青年が増え、2人での活動となりましたが、薄切り食パンを土台にしてフルーツケーキを作りました。他のコースにも飾りつけをした一口サイズのケーキをおすすめし、好評でした。用意した材料をほぼ使い切り、完食しました。

(10) 新年会

1月には午前の時間、学級全体で新年会を行いました。内容は福笑い、書初め、ボッチャとコースを越えたものでした。慎重に見極めて挑む青年、勢いよく書き上げる青年一人ひとりの個性が現れました。今回の福笑いはおかめ顔でしたが、来年は顔を変えて挑戦したいとの声もありました。書初めは、「虎」、「がんばります。」、「今年の賀川のバザーがやれますように」などの抱負や今年の夢を書きました。

(11) 新曲作り

コース名を決める時にじゃんけんをして負けて退いた、「水色スマイル」を題にして、学級ソ

ングをつくることにしました。

みんなで好きなものや好きなこと、やりたいこと、楽しかったことをたくさん出し合い詩を作りました。みんなが笑顔になる歌、思わず口ずさんでしまう歌。そんな歌にしたいと話し合いながらできた曲です。3拍子のワルツに乗せた歌詞は、とても耳に残るものです。

(12) 成果発表会

コロナや仕事の都合で当日の参加数が危ぶまれましたが、男性2人、女性1人の3人で発表を迎えました。2人の男性の青年は、手作りのクリスマスポンチョを着て、唯一の女性には白いシーツを持参してもらったものを、ウエディングドレス調に仕上げ、召した姿はとても素敵でありました。青年もとても嬉しそうでした。

本番では、「水色スマイル」のハンドベル演奏と、歌を初披露しました。

4. 課題と展望

青年が学級に来るのは「自分の思いを表現したい。そして、誰かに分かってもらいたい。ここに来れば自分の思いを出すことができる。自分を理解しようとしてくれる人たちがいる。」そういった思いがどこかにあるのではないのでしょうか。

音楽が心をリラックスさせ、かつ自分の思いを表現できるものであるならば、青年の要求にそえるコース活動ができるような幅広い選択肢を探していく必要があります。

[水色スマイル]

[作曲者]

Piano



淡
笑。 ちやえ 笑。 ちやえ 笑。 せえ 笑。 ちやえ

Pf.




笑。 ちやえ 笑。 ちやえ 笑。 ちやえ 笑。 ちやえ こゝろの なみは

Pf.



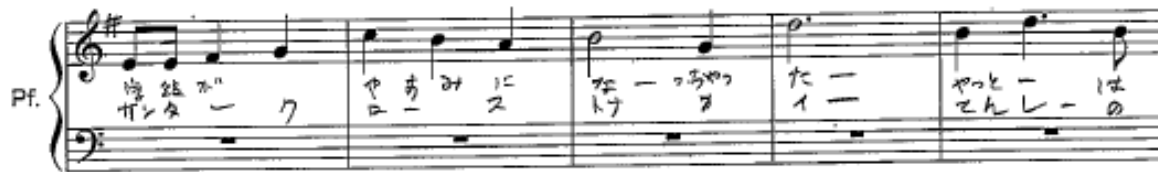
いっ つ もー ちやえ いっ つ ズ ズ イ ル

Pf.



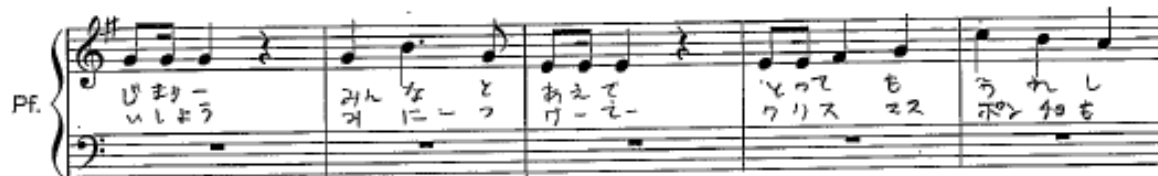
なみ ちやえ いっ つ まった ちやえ の せいで マス全

Pf.




ちやえ の ちやえ に ちやえ の たー やちー は

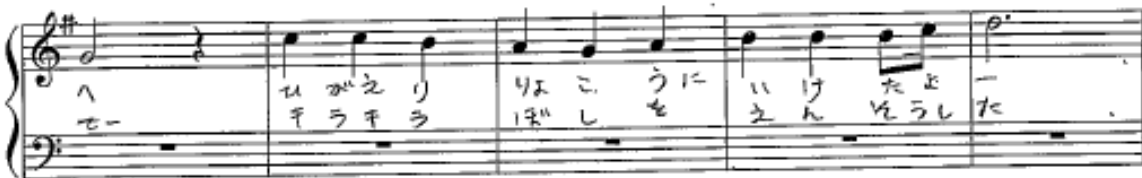
Pf.

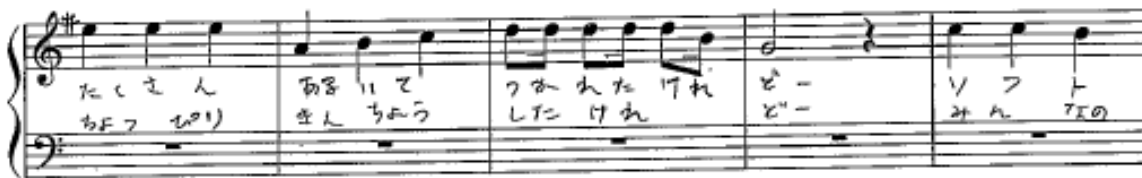


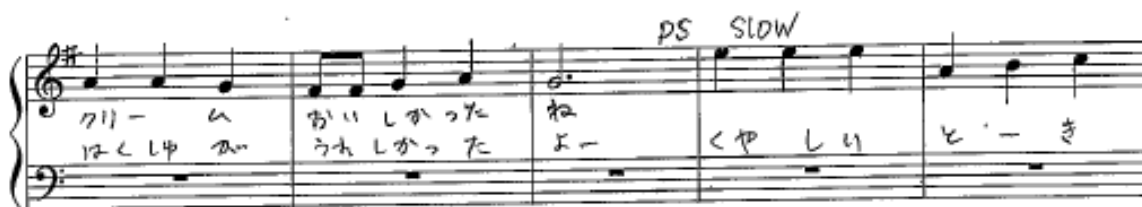
じやー いしやう みんなと あえて ちやえ も ちやえ し

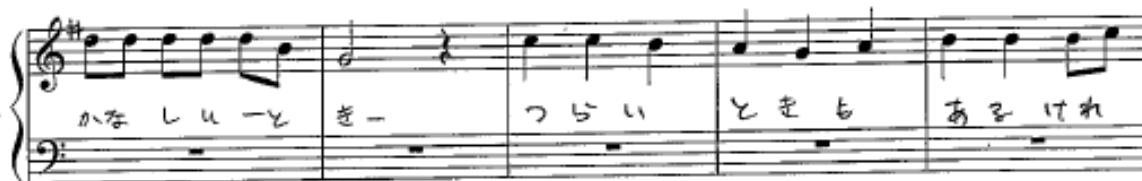
[タイトル]

Pf. 
 か-った よー パスに のって こどものかた
 ぶ-った よー ハンド ゲルを かんじう-し

Pf. 
 へ ちがえり けこうに いけたよー
 せー ふうふう ほしを えんせうした

Pf. 
 たくさん あそびて うかめたけれ どー ヴフト
 ちがひ (201) きんちゆう したけれ どー みんなの

Pf. 
 クリ-ム おいしかった ね ps SLOW
 はくしゆか うめしかった よー くやしう とーき

Pf. 
 かなしう-と きー つばい ときも あそけれ

Pf. 
 せー じんな ときこそ みんなのかお を-

[タイトル]

Pf.
あ も り だ し て お り だ う よー いーい

Pf.
笑っ ちえ 笑っ ちえ 笑っ ちえ 笑っ ちえ

Pf.
笑っ ちえ 笑っ ちえ 笑っ ちえ 笑っ ちえ

Pf.
こころの なかは いーつ も 2/3

Pf.
スライ ル こころの なかは いーつ

Pf.
も 2/3 スライ ル

ひかり学級
活動の流れ

さざんかアートコース

6月6日	ひかり学級・公民館学級合同開級式
6月20日	わかそよについて話し合い
7月4日	七夕づくり、わかそよに向けた話し合い
7月18日	わかそよに向けた活動（うたの練習、小物づくり）
9月5日	午後のみ 自己紹介、話し合い、忠生図書館
9月19日	午後のみ 借りてきた本からものづくりのヒントを探す、忠生公園で素材集め
10月3日	秋のモビールづくり、写真立てづくり
10月17日	午後おおよそ一時間のみの活動 話し合い（日帰り旅行について、クリスマス会について）
11月21日	日帰り旅行：こどもの国
12月5日	クリスマスツリーの飾りづくり
12月19日	クリスマス会：
1月16日	初詣、カルタづくり
1月30日	新年会： 一年間の活動の振り返り
2月13日	来られていない学級生に向けたメッセージづくり・退級される青年に向けた てがみ 手紙
2月27日	作文作成
3月13日	成果発表会

1. 集団の特徴

青年13名。男性8名、女性5名の計13名で構成されています。車いすの青年が多いひかり学級ですがものづくりコースは車いすの方が2人のみで、また4つのコース編成の中で人数が最も多いことも特徴の一つです。ものづくりが好きな方が集まっており器用な青年が多いです。

まん延防止等重点措置のため、お休みの青年が増えてしまう中、来られていない仲間を大切に思う瞬間が見られました。非常に穏やかで思いやりに溢れた集団です。

2. 活動のねらい

・個性を大切に、それぞれの表現の方法を尊重する

・さまざまな創作活動を通してものづくりの楽しさを共有する

・自分の思いを視覚化し、相手に伝えることで自分の思いを大切にしていく

3. 活動の様子

(1) 近況報告と話し合い

2021年度は話し合いに多くの時間を使いました。わかそよに向けての話し合いや自分たちが何を作りたいのかなど何度も意見交流しました。最初は絵を描きたいと漠然と語っていた青年も次第に初詣に行きたい、来られていない青年たちを応援したいと話すようになりました。何度も話し合いをすることによって青年たちが仲間のことを思いやる瞬間が見られました。

(2) コースの名前決め

2回目のコース活動では、最初にコースの名前を決めました。「さざんかやコスモスといった花の名前をいれる」というアイデアや「アートグルー

プという言葉を使いたい」という意見をもとに班長と副班長が中心となってみんなで話し合いをしました。「ものづくりよりアートのほうがいい」や「さざんかのほうが好き」など様々な意見が出ました。話し合いの結果、コースの名前は「さざんかアートグループ」になりました。



(3) 忠生図書館

初めてのコース活動は忠生図書館に行きました。コース活動のアイデアを集めるために料理本や工作の本を借りました。借りてきた本を見て「これすごいね」「作ってみたい」と想像を膨らますことができました。





(4) 忠生公園で素材集め

借りてきた本からアイデアを得て秋のモバイルづくりをすることになりました。そのためにひかり療育園から歩いていける距離にある忠生公園で落ち葉や枝をみんなで拾いました。もくもくと拾う青年もいれば、日向ぼっこをする青年もいました。コロナ禍で外出制限が厳しくされている中でもあったので外で過ごすみんなとの時間は貴重でした。



(5) 秋のモバイルづくり・写真立てづくり

集めた落ち葉や枝を使って、モバイルと写真立てを作ることにしました。落ち葉やどんぐりに穴をあけて細い糸を通します。手先が器用な青年が活躍しどんどん作業を進めていきました。写真立てづくりも見事なものでした。作業の手際の良さ

にもものづくりコースの青年は器用な方が多いのだと改めて感じました。出来上がった作品を大切に持ち帰っていきました。



(6) 日帰り旅行（こどもの国）

こどもの国では昼食を食べたあと園内を散歩しました。散歩ルートはその場で話し合いながら、みんなで決めました。売店を見つけるたびにアイスやお菓子をかっていきました。嬉しそうにアイスを食べました。振り返りでも「こどもの国ではアイスがおいしかった。」と何度も話していました。お休みした青年にはお土産としてクッキーを買いました。





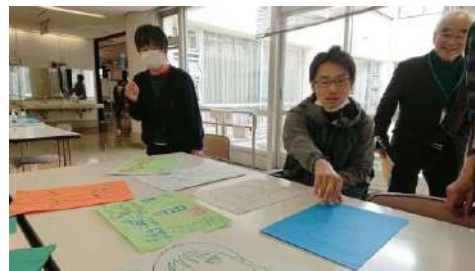
(7) クリスマス会の飾りづくり

クリスマス会で飾る大きなツリーの飾りづくりをしました。各々、折り紙や画用紙を使って星や飾りを作りました。個性豊かでカラフルなクリスマスツリーの飾りが大量に出来ました。ツリーに飾りきれなかったものを模造紙に貼り付けました。ある青年が真ん中に「Merry Xmas」と筆記体で書いてくれ、青年たちは拍手をしました。



(8) 初詣・カルタづくり

以前から「初詣に行きたい」と話していた青年がいたので、新年らしく初詣にいきました。外出が好きなスポーツコースと合同で淡島神社に行きました。願い事を聞くと「みんなが一年幸せに過ごせるように」「早くコロナが収まってほしい」「明日から仕事がんばります」といった素直な想いを教えてくれました。午後は新年らしいことがしたいということでカルタづくりをしました。“ひかりがっきゅう”の頭文字をとり8枚のカルタを作りました。手作りのカルタは商品よりも真心が込められています。作り終わった後は実際に作ったカルタで遊びました。他コースの人にも遊んでもらいとても盛り上がりました。



(9) 成果発表会に向けて

① 作文づくり

成果発表会に向けて何を作るか話し合ったときに「来られていない青年たちを応援したい」との意見がでました。そこで一年間自分が活動してきた感じたことをなんでも話せるように作文にすることにしました。一人一人にじっくり向き合っていると心の声が聞こえてきました。今年入った青年からは「せいねんがっきゅうはわたしのたか

らもの。わたしのいばしょ。ずっとだいすき。」と
作文さくぶんにしていました。また一年間の活動いちねんかん かつどうを細かく
日記のように作文さくぶんにしている青年せいねんもいました。
文字もじに書くことで普段は言いにくいことを告げる
ことができるのだと感じました。これからも何か
大切なことを伝えようとしている青年せいねんがいるなら
ば作文さくぶんなどを使って細かい想いを聞き取っていき
たいです。10分ほどの発表はつぷんを終えた後は達成感
に溢れた表情あふをしている青年たちがとても
印象的いんしょうてきでした。

②参加を控える青年たち

今年ことしはコロナ禍かで学級がつきゅうをお休みする青年せいねんたち
が増えました。また参加さんかしたい想いはある一方で
一日の活動いちにち かつどうはリスクがあると考かんがえ、半日はんにちで帰かえっ
てしまう青年せいねんもいました。このような状じょう況きょうを見た
ときに、「わたしはここでがんばるから。きぼうを
もってほしい。ひかりでまっています。」「せいね
んお休みやすでとってもさみしかった。せいねん生き
てます。」など来られていない青年せいねんのことを大切たいせつに
想おもい全員ぜんいんが元げん気に集あつまれる日ひを心待こころまちにしている
ことが分かりました。

③退級される青年に向けての手紙

コロナ禍かで思おもうように活動かつどうができないことから
ひかり学級がつきゅうを退級たいきゅうされる青年せいねんがいました。もの
づくりコースでその方かたに向むけて何なにができるかを話はな
し合ったときにある青年せいねんが「手紙てがみを書きたい。」と
話はなしてくれました。そこでレターセットを持もって
きた担当たんとうしや者なんまいから何枚びんせんか便箋てがみをもらい手紙かを書きま
した。



4. 課題と展望

(1) 課題

大きな課題かだいとしては3つ考かんがえられます。1つは
青年せいねんたちの想おもいを形かたちにする活動かつどうができなかった
ことです。作品さくひん作りというのは出来上できあがりに向むけ
てきれいに作りつくり上げるだけではなく、その作品さくひんに
どのような想おもいが込められているのかが大事だいじです。
特に青年学級せいねんがつきゅうではものづくりを表現ひょうげんの方法ほうほうの一
つとして相手あいてに伝つたえることを尊重そんちゆうしています。こ
れまでの活動かつどうを振り返かえりかえってみると完成かんせいさせること
が目標もくひようとなつてしまい、青年一人一人の伝つたえたい
想おもいをどう形かたちにしていくのかまで考かんがえることが
できなかつたです。今後は青年せいねんの意思いしを汲くみ取り、
どのようなことをすれば表現ひょうげんできるのか、また伝
えられるのかを深く考かんがえていきたいです。2つ目
は人数にんずうが多く全員ぜんいんの意見いけんを反映はんえいさせられなかつた
ことです。一人一人の意見いけんを反映はんえいさせてコース
活動かつどうを進すすめていくことが出来できず、担当たんとうしや者が最終さいしゅう的てき
にまとめてしまいがちです。また些細ささいな事ことでも
多数決たすうけつといった安易あんいな方法ほうほうやなんとなくで決きめて
しまうのではなくてどうしてその選せん択たくをしたのか、

なぜそのような発言ができたのかを青年の表情や声色から汲み取ることが出来ませんでした。新しい担当者が多く信頼関係が十分に築けていないこともあります。まずは青年たちのことを知ることはもちろんのことですが担当者同士も互いに認め合うことでさらに良い活動になるのではないかと感じました。最後は担当者同士で情報共有がうまくできていなかったことです。これが最も大きな反省点です。当日担当者の方に担当者会議で話されたことをわかりやすく伝えることや、各々抱えている活動に対する認識を一致することができなかったので進行や流れがうまくいかないことが何度もありました。今後は認識のずれがないように情報共有をしっかりと行っていきたいです。

(2) 展望

ものづくりが苦手や得意関係なく、全員が自分の想いを形にしていくことの喜びを青年学級で感じてほしいと思っています。4つあるコース活動の中で「ものづくり」を選んだ背景にはなんとなくではなく必ず理由があるはず。それと同様に何色を塗るのか、また沢山ある素材から自分はどれを選ぶのかといったことも無意識のうちに青年の意思が反映されているはず。新しくかわるようになった担当者が多いがゆえに相手のことを知るうえではそういった些細な青年たちの行動や繊細な心を感じとることに意識を集中させられます。課題を強みと捉えて行動することでもものづくりコースがより深みのあるコースになるとおもいます。

ものづくりや音楽等の芸術においてはその作品にどのような想いがあるのかを考えることも大切です。青年のやりたいことに着目した活動

ができた一方でその作品をどのような想いで作ったのかということ深く聞くことはできなかった。ときに何度かありました。これからは活動することにも焦点を当てていきますが、それよりもまずは青年の声を形にしていくことを大切にしていきたいです。

ひかり学級 スポーツで伝える2022コース
 活動の流れ

6月6日	ひかり学級・公民館学級合同開級式
6月20日	わかそよについて話し合い
7月4日	七夕づくり、わかそよに向けた話し合い
7月18日	わかそよに向けた活動（うたの練習、小物づくり）
9月5日	午後のみ ・ペットボトルボウリング ・ボッチャ
9月19日	午後のみ ・ペットボトルボウリング ・次回以降の活動についての話し合い
10月3日	・目標、コース名決め ・輪投げ ・忠生公園へ散歩（ボール投げ、フリスビー）
10月17日	・ボッチャ ・日帰り旅行とクリスマス会についての話し合い
11月21日	・日帰り旅行（ディスクゴルフ、園内を散歩）
12月5日	・日帰り旅行の振り返り ・ペットボトルボウリング
12月19日	・クリスマス会（今までの活動を紹介、ペットボトルボウリングの実演） ・ボッチャ
1月16日	・初詣（淡島神社へ） ・忠生公園へ散歩（がにやら自然館を見学） ・お正月の思い出の共有
1月30日	・新年会、ボッチャ大会 ・忠生公園へ散歩 ・フリスビー ・成果発表会に向けた話し合い
2月13日	・退級する青年への手紙 ・ディスクゴルフのゴール作成と練習
2月27日	・ディスクゴルフの練習 ・成果発表会のスライドと台本作り
3月13日	・成果発表会

1. 集団の特徴

男性11名、女性0名の合計11名で、男性のみで構成されているコースです。

スポーツに関心のある青年が多く集まっていて、積極的に活動している姿が見られます。以前からスポーツコースに所属している青年が多いため、青年同士のコミュニケーションが活発なところが特徴です。特に、話し合いの場でその特徴が活かされ、お互いの意見を引き出し尊重する、支え合うといった場面が多く見られます。

2. 活動のねらい

スポーツコースでは主に三つのことをねらいとして活動してきました

- ・コース名や目標にも表れているように、スポーツを通して他のコースの青年にもスポーツの楽しさ、得た学びを伝えていく
- ・健康になるためにはどのようなスポーツが効果的なのか、実際に取り組みながら考える。
- ・スポーツをするにあたり、コースの青年全員が楽しむことができる工夫をしていく

3. 活動の様子と評価

(1) スポーツ

①ボッチャ

コースでの話し合いの中で、青年からのリクエストが一番多く、ほとんどの学級日でボッチャを行いました。全員が参加できるようにチーム分けをし、班長と副班長が中心となって行われます。慣れ親しんだスポーツだからこそ、青年同士の「もっと前から投げてもいいよ」「惜しい」といった声かけ、工夫が多く見られます。この工夫は、

担当者が提案するのではなく、青年たち自身で考え、取り組んでいたことが印象的です。担当者も一緒に入って試合をすることもあり、スポーツを通じた信頼関係の構築において、重要な役割を持っているスポーツでもあります。クリスマス会や新年会では、ボッチャ大会が開催されました。普段はコース内での試合のみのため、他コースとの交流ができ、「〇〇さんのボールがよかった」「もっと練習が必要」「あの一球が決まっていれば勝てたかも」といった感想がありました。

しかし、以前からあるスポーツコース独自のルールで行ってきたため、他のコースにとっては違和感となる部分があったと思います。今年度は実現できませんでしたが、公民館学級との試合も企画されていたため、今一度、青年と担当者でルールの見直し、確認が必要です。



②ペットボトルボウリング

ペットボトルボウリングもボッチャと同様に、話し合いの中でリクエストの多いスポーツです。チーム戦ではなく個人戦で、一人2球投げて合計の本数を競いました。他のスポーツと比べるとシンプルですが、結果がわかりやすく、取り組みやすいため、全員が楽しめるスポーツです。ボッチャでもあったように「筒を使ってもいいよ」や「ピンを近づけてやってみな」といった工夫が多く見られました。



③ ディスクゴルフ

こどもの国で、何か新しいスポーツはないか検討し、ディスクゴルフに挑戦することを決めました。自然の中に設置されたゴールにフライングディスクをいかに少ない投数で入れられるかを競うスポーツです。こどもの国では、全員で行うには厳しい場所にゴールが設置されていること、ディスクゴルフを投げることに慣れていないため、試合形式ではなく、みんなで練習して、何枚入れられるかを競うことにしました。時間ぎりぎりまで取り組む青年の姿、もう少し難易度の高いゴールに挑戦しようとする姿が見られました。日帰り旅行という特別な行事であったこと、初めて挑戦するスポーツだったこともあり、積極的な参加につながったと思います。

日帰り旅行後の振り返りや次回以降の活動内容の話し合いの場面で「またディスクゴルフがやりたい」という意見が多くありました。その意見を取り入れ、成果発表会でオリジナルのディスクゴルフのゴールを作成し、実演することになりました。ゴールの土台となる段ボールに、それぞれ絵を描いて貼り付けました。スポーツコースでは、今年度初のものづくり活動でもありました。とても丁寧におせちの絵を描いていたり、フルーツの絵、卓球のラケットの絵を描いたりなど、個性あふれるゴールが完成しました。また、スポーツ以外

の活動だからこそその発見があったこと、全員で一つのものを作成するという活動ができたことは良かった点です。しかし、材料のほとんどを担当者側が用意してしまったことが反省点です。

日帰り旅行で取り組んだことをそれで終わりにするのではなく、自作し、成果発表会で披露できたことで、青年からの「学級内でできるスポーツを増やしたい」という意見、ねらいとしてきた「スポーツを通して他のコースの青年にもスポーツの楽しさ、得た学びを伝えていく」を達成することができました。



(2) 外出活動

① 忠生公園

話し合いの中で散歩に行きたいという意見が多く出たため、コースの体制が落ち着き始めた10月から活動に取り入れました。コロナ禍で外出の機会が減っていたのか、外出活動には積極的な意見が出ました。道中、歩くのが速い青年とゆっくりなペースの青年とで差ができてしまうことがあるため、担当者が声をかけて安全に気を付けて取り組みました。忠生公園ではボールを投げたり、ボールを蹴ったり、フリスビーなどを行いました。青年同士で「つぎ〇〇君だよ」という声掛けがあり、全員にボールが回るような工夫がされていたことが印象的です。一度だけ公園内にある、忠生がにやら自然館を見学しました。虫の標本や図鑑

を見たりして穏やかな時間を過ごしました。その帰り道では「ツマアカスズメバチって知ってる？」といった自然館を見学したことによる話題の広がりがありました。散歩は普段の活動に比べて気分転換にもなり、自然と会話が発生するため、お互いを知る良いきっかけとなります。



②淡島神社

年明けに初詣に行きたいという意見が出たため、ものづくりコースと合同で淡島神社へ行きました。道中、年末年始にどのようなことをしたのか、今年の抱負は何かといったお正月ならではの話題で盛り上がりました。外出活動は忠生公園のみだったため、気分転換にもなったように感じます。



③こどもの国

今年度はコース活動が9月から始まったため、この日帰り旅行は、コースの青年との信頼関係を深めることのできる機会でした。昼食場所から

ディスクゴルフの会場までかなりの距離があり、休憩をはさみながらも向かいました。初めて挑戦するディスクゴルフに苦戦しながらも、ゴールに入れたときの笑顔、歓声、拍手が印象的でした。

午後からの活動では、動物園を見学する共生グループと園内を周りながら戦争遺跡から平和を学ぶグループに分かれての活動でした。途中で雨が降り始めたため、早めに集合場所に戻るとなりました。雨が降る中、ゆっくりなペースで歩く青年に合わせて、振り返って待っていてくれる姿や職場の人たちのためにお土産を買って帰りたいという言葉に、青年たちの優しさや人柄を実感しました。



(3) 成果発表会

成果発表会では、今までの活動の振り返りとディスクゴルフの実演を行いました。活動の振り返りのスライドと台本は、参加している青年で話し合っ決めていきました。休んでいる青年が多かったため、その青年との思い出、これから一緒にやりたいことを台本に取り入れたり、スライド作成では「休んでいる人が写っている写真を使おう」という言葉もあり、発表の中で全員に役割がある、全員の姿が見えるように作成して行きました。

人数の都合上、当日に役割決めを行いました。

班長、副班長のリーダーシップもあり、問題なく進みました。発表本番では、ディスクゴルフの実演を、ひかり学級の青年だけでなく、見に来ていた他学級の青年にも体験してもらうことができ、今までの取り組みをスポーツコースらしく伝えることができたと思います。

担当者の反省点、改善点としては、経験が少なかったため、リハーサルでの立ち位置の確認や、話す順番などの確認に手間取ってしまい、円滑な支援ができませんでした。昼休憩の時間を使い練習をしたことで、本番では比較的スムーズに進めることができましたが、当日の打ち合わせで情報共有が的確に行えていれば改善できたことです。今回の経験を日常の活動でも反映していくことが重要です。



4. 課題と展望

(1) 課題

スポーツコースとしての課題は主に二つ挙げられます。

一つ目は、青年一人ひとりに合ったコミュニケーションの仕方を取ることができていないことです。特定の青年を一人の担当者に任せっきりにしてしまう場面が多々あり、担当者で欠員が出た際

に臨機応変な対応ができていないと言えません。それに加えて、担当者同士の情報共有がうまくいかなかったり、考え方の違いがあったりしたため、話し合いの場面で円滑な進行ができませんでした。これらのことは、一年を通して改善していくことができましたが、依然として課題です。

担当者同士の情報共有に関しては、メッセージアプリを活用して疑問の共有を行い、当日に戸惑うことがないようにしたり、担当者会で綿密な話し合いを行ったりすることが重要だと考えます。また、担当者会に出られない担当者とは、学級日の終わりにコースで集まり、青年の様子や活動中に疑問に思ったこと、これからの予定についてなどを話し合う時間を設けることで改善していきます。

二つ目は、青年が心の底からやりたいと思っていることに触れられなかったこと、実現できなかったことです。他の青年に譲り、コースに共有できなかった思い、何気ない会話で出た意見（ダンスや料理など）を拾いきることができませんでした。一年の活動を通じ、青年たちと良い関係を築き、いろいろな話、意見を聞くことができたのにもかかわらず、それをうまく反映することができませんでした。コロナ禍で感染リスクの高い活動ができなかったこと、道具の準備ができないことなども原因として挙げられますが、一番は担当者側がスポーツをすること、成果発表会をどうするのかということにとらわれすぎてしまい、柔軟な対応が出来なかったことだと思います。

(2) 展望

次年度での活動では、主に三つのことを意識し

て活動に取り組みたいと考えています。

①スポーツのバリエーションを増やす

ポッチャやペットボトルボウリングなどのリクエストが多く、みんなで楽しめるスポーツがあることは良いことだと思います。しかし、それに固定されすぎてしまい、あまり活動に変化がないことも事実です。日帰り旅行でディスクゴルフに挑戦し、オリジナルのゴールを作成して学級に取り入れることで、より活動に幅ができ、積極的に取り組む姿勢が多くみられたと思います。また、新しいスポーツにこだわるのではなく、コースの青年が得意なスポーツに注目し、青年同士で教え合うような活動(例:〇〇さんの卓球教室)ができると、より深い学びのある活動になると考えます。

②青年の本心に近づく

ただ意見を聞いて実現するのではなく、なぜその活動をしたのか、その活動をどう広げていきたいのかといった、具体的な内容についても聞けるようになれば、より深い学びのある活動になると思います。青年の「～がしたい」という言葉の裏には、ただやりたいというだけでなく、他の青年、担当者に知ってもらいたい、見てもらいたいという思いが隠れていると思います。そうしたことを引き出し、尊重することができれば、本人の活動のモチベーションが上がり、それを見た青年も、自分もこんなことをしたい、教えたいという意欲の向上につながると考えます。その状況を作ることができれば、個性であふれる、得意なことを教え合うコース活動ができると思います。

③コミュニケーションの取り方の工夫

スポーツコースでは、筆談や指談を用いることで意見を伝えやすい青年が多くいます。しかし、筆談で対応できる担当者が多くいません。筆談ができる担当者が応援で来たとき、青年から出る意見には心が動かされるものも多くあります。

「ディスクゴルフは最初難しいけど、コツをつかむと楽しいし、チェーンに当てて入れるなど奥が深い。僕でも楽しめるスポーツ」と活動に対する感想を聞くことができたり、成果発表会で平和について考えたとき「東日本大震災も」というハッとさせられる意見が出たりしました。青年からの感想、意見は活動を考えていくうえで重要なことであり、新たな気づきを与えてくれます。青年側もその気持ちを伝えられないことにもどかしさがあるはずで、青年の心の中にある言葉をコミュニケーションの取り方が難しいという理由で見過ごしてしまうのは惜しいことです。そうしたことを少なくしていくためにも、様々なコミュニケーションの取り方を担当者が積極的に身に付けていく必要があると強く感じます。

ひかり学級
活動の流れ

ふれあって飛びたとう

編集部（課外活動を考える）コース

6月6日	開級式
6月20日	わかそよ練習
7月4日	わかそよ練習
7月18日	わかそよ練習
9月5日	グループ活動（音楽・ものづくり・スポーツ）
9月19日	自己紹介、コースを選んだ理由、コース名、やりたいことの話し合い
10月3日	吹奏楽部演奏鑑賞とインタビュー、とびたとうの読み合わせ、話し合い
10月17日	選挙の学習会、センターまつり動画撮影、学習会の感想
10月23日	市役所で期日前投票
11月21日	こどもの国日帰り旅行
12月5日	日帰り旅行の振り返り、えほん障害者権利条約の読み合わせ、新曲作り
12月19日	昼食（サンドウィッチとラスク）作り、クリスマス会
1月16日	紙すき（牛乳パックでハガキ作り）、仲間へ手紙作成、新曲作り
1月30日	新年会、成果発表会の台本作り、新曲の練習
2月13日	コンファレンスの台本作り、練習
2月27日	共に学び、生きる共生社会のコンファレンス
3月13日	成果発表会
3月27日	とびたつ会見学

1. 集団の特徴

当初2人でしたが、青年の声掛けにより3名、ニュースを読んで入りたいと1名増え、計6名となりました。青年の声掛けとニュースでの発信によりメンバーが増えたことは、コースの思いが周囲に届いた嬉しいエピソードです。

2. 活動のねらい

- ・学級外での活動を考え、地域との交流を図る。地域と繋がり、自分達を知ってもらう機会を得る。
- ・日頃の悩みや疑問を共有し、学びたい素材を探し学習会を開く。学んだことをくらしでの活かし方、課外活動に結び付けることを考える。
- ・学級で取り組んでいない自由で新しい活動を考える。

3. 活動の様子と評価

(1) 活動の柱について

①「課外活動を考える」とは

今年から誕生したこのコースは、初めは担当者からの提案でした。2004年に青年学級を卒業した本人活動の会、とびたつ会が誕生して20年近く経つ今、新たな本人活動の会が必要だと話し合われてきました。前段として、学級内で「卒業を考えるコース」の設置が検討されましたが、始めから卒業を前提とはせず、「学級以外の活動＝課外活動」を考えるコースとしました。ゆくゆく課外活動が拡大し、独立することを目指しています。

②コースの2本柱

コース活動の2本柱として、「地域との交流」と「学習会」が浮かびました。

「地域との交流」では、自分たちをはじめとした青年学級を知ってもらうこと、地域の人とつながりをつくること。また、「学習会」を開いて興味のあることを学び、社会の課題を考えること。この2つを目標に活動することとなりました。どちらも新しい試みに期待が膨らみました。

③コース名について

2011年の思い出を語る中で、ひかり学級30周年記念として、10年振りに文集とびたとうをつくらうと提案がありました。このコースでは原稿を編集しようとの思いから「とびたとう編集部」との言葉が出ました。他に地域との交流、仲間とのつながりで大切な「ふれあい」も掛け合わせ、コース名は、「ふれあって飛びたとう編集部コース」に決まりました。

(2) 地域と交流しよう！

①市民芸術祭の鑑賞

10月3日に市民ホールで東京町田ロータリークラブ主催の町田市民芸術祭があり、木曾中学校の吹奏楽部の演奏を鑑賞しました。演奏後、部員2名とインタビューをとおして、交流ができました。ほぼ毎日練習していることや、コロナ禍の練習の厳しさ、それを乗り越えて本番に向かう強さ等を聞き、仲間への信頼と情熱が伝わってきました。また、演奏で一番大切にしていることは「聴いている人を大切にすること」と話す姿は学級にも通ずるものがありました。

実は木曾中学校吹奏楽部とは、2020年に東京町田サルビアロータリークラブ主催のふれあいコンサートで共演したほか、2022年のふれあいコンサートでも共演することになり、音楽活動

でつながった縁を感じます。

② 共生社会コンファレンスに参加

2月26日(土)には一般社団法人みんなの大学校が実施した「共に学び、生きる共生社会のコンファレンス」にオンラインで参加しました。町田の青年学級として、コースの1年間の活動を全国の方に報告しました。意見交換の時間も、学級活動や学級ソングの魅力も伝えたほか、他の地域の青年学級に関わる方の話を聞く機会もありました。中でも、群馬県邑楽町の青年学級の取組み紹介されましたが、おうら青年学級を開設した職員は40年以上前に町田の青年学級に担当者として関わっていた方で、そこでも縁がありました。様々な場所に出向き、縁を深めたいものです。

(3) 学習会を開こう！

① 選挙の学習会・期日前投票

10月31日の衆議院議員選挙を控え、学級全体に呼び掛け、選挙管理委員会の方を招いて選挙の学習会が実現しました。

学習会では投票までの流れや、代理投票・点字投票制度があり誰でも投票する権利があることを確認しました。その後、模擬投票として、公約を聞き、投票から開票までを体験しました。

振り返りでは「書いた人の名前を教えてはいけないと知り、いい勉強になりました。」「投票して嬉しかった。」等感じたことを共有しました。

10月23日には学級日以外としては初めての課外活動として、市役所へ期日前投票に行きました。家で書く練習をしてきたり、メモを持参したり、代理投票制度を用いたり、一人ひとりに合うやり方で投票に臨み、学びを実践につなげた活動

となりました。

② こどもの国と平和学習

11月の日帰り旅行で行ったこどもの国では、コース活動としてボートに乗りました。ボートが初めての青年もいて、真っ赤な紅葉を見上げ、気持ちの良い時間を過ごしました。

後半は他のコースと合流し、こどもの国の歴史と平和について学びました。戦中弾薬が作られていたことや、女子中学生も動員され学ぶ機会を失われたことなどを知り、弾薬庫跡や換気塔を実際に目で見て、身体で感じたことを共有しました。

「平和について考える機会になったし、平和の歌を作りたい。」「仲間と一緒に平和の碑を見て印象的だった。」など、記憶に残る活動となりました。

夏わかそよでは平和の輪を広げようグループとして臨み、様々な側面から平和について考えた一年となりました。

③ えほん障害者権利条約

12月の障がい者週間には、「えほん障害者権利条約」を読み、自分らしく生きることについて話し合いました。

『私抜きに私のことを決めないで』と感じた経験について、「自分の思いがあるのにきちんと伝わらない。勝手に向こうが決める。通じる人と通じない人がいる。」「自分でできるのに、先にやられることがある。自分でやりたいのに。」との声があがりました。思いを発信できる場所、仲間の必要性が伝わってきます。

『くらしやすいまち』については、「いつでもグループホームに泊まれること」、「生の音楽やスポーツを見に行けること」、「コロナが収まって、自分

で買い物に行って好きなものを買うこと。」と意見
が出ました。コロナ禍で当たり前が失われがちな
今こそ、誰もが思いやりを持ち自由に暮らせる
社会になるよう、問い続けていきたいものです。

(4) 目的に沿った活動

① 買い物に行こう！

グループホームで暮らす青年の「(コロナ禍)前
のように自分で買い物に行きたい」との願いを叶
えるべく、買い物へ行きました。「ずっと筆箱が欲
しかったけれど、コロナ禍で外出もできずにボロ
ボロのものを使っている」と青年が話すと、コー
スの青年から「みんなで買い物に行けばいいと思
う」と声があがりました。クリスマス会の日に行
き、ついでに食材も買い調理活動を行いました。
調理活動では、仲間が勤めるスワンの食パンで、
サンドウィッチとラスクを作りました。

青年の声を青年が汲み取り形にする姿は、何
も言わずとも通じ合うような、気持ちの寄り添
いがありました。楽しさも苦しみも、分かち合っ
てきたからこそでしょうか。日々の思いを形にする
場所が、学級の大きな役割の一つになっていま
した。

② 紙すき

「30周年式典をやるための、招待状を書きた
い。」との思いから、ハガキ作りを行いました。
牛乳パックを細かくすいて、型に流し、水を切
り乾かせば完成です。仕事で紙すきをしている
青年の手つきはてきぱきとスムーズに作りました。
年明けは2、3人での活動が続きましたが、休みの
メンバーの分まですき、メンバーへ「早くコー
スのメンバーが揃うといいね。」「落ち着いたら

学級に来てください。淋しいです。待っています。」
と手紙をしたため、学級ニュースに添えました。

手書きの文字が載った手作りのハガキが届いた
時の仲間の表情を思い浮かべながら、コース
全員揃うよう、願いが込められていました。

(5) 歌作り

コース活動2回目の活動日に早速一人の青年か
ら、歌詞の提案がありました。歌詞の土台は「課外
活動を伝える」、「地域と人生を考える」ことにあ
りました。サビのメロディを即興で考えて、歌詞
は活動の中で膨らませることにしました。

年明けに活動を振り返り、学習会を通し感じた
思いや課外活動の経験、交流や話し合いから出た
言葉をヒントに歌詞を作りました。思い出に残る
よう、最後に「ふれあって飛びたとう」とコース
名も入れました。メロディを出し合ったり、振付
を考えたり、楽譜を手書きで持ち寄る青年もいた
り、コース一丸で曲作りに臨みました。

ギターやピアノでの連弾、ハンドベルでの演奏
などで発表したいとの声もあり、歌の伝え方も一
工夫できそうです。平和や選挙についての歌も作
りたいと意見が出ており、一つのテーマに沿った
歌作りもしていきたいところです。

4. 課題と展望

(1) 課題

何をもち課外活動とするのか、一人ひとりのイ
メージが異なる、というのが前半の課題でした。
初めてのコースのため、始めから共通意識を持つ
のは難しく、活動を通し目指す道が見えてきた
感触はありますが、まだまだ手探り状態です。

コースの紹介では、「青年学級で取り組んでいない新しい活動をやる」コースと置いています、新しい活動が地域との交流や、学習会なのでしょうか。地域との交流、学習会を通し学んだことを実践していくのが課外活動でしょうか。青年一人ひとりの考える課外活動について、もっと聞き出せれば、新たな柱が立てられるかもしれません。また、学習会、外出、創作と活動内容に富んではいましたが、文集とびたこの編集には手をつけることができませんでした。来年度はスケジュールを立て、ある程度活動の目的を絞る必要があります。来年度以降もコースを継続することを想定すると、新たなメンバーへ説明する方法も考えなくてはなりません。

学級日以外でも活動を作ることは、場所から内容まで自分たちで決められ、学級よりも青年の主体性に委ねられ、自由度もあります。一方、ただの余暇活動ではなく、青年の意見を取り込んだ学びや経験を、仲間と共に得る場所である必要があります。学級と課外活動を両立させたいうで、課外活動が独立し、その先に本人活動の会があるのではないかと期待しています。

(3) 展望

初めてのコースのため試行錯誤しながら、コースの基盤を作る一年になりました。初年度から、このコースに入った青年が他のコース、他学級の青年へどう課外活動を伝えていくのでしょうか。また、担当者はどう寄り添い、伝えることができるのでしょうか。2年目には新たなメンバーが加わり、課外活動が広がっていくことを期待します。

来年度取り組みたいこととして、大きく「文集

とびたこの作成・編集」、「30周年式典の開催」、「喫茶のぞみの復活」があがっています。学級全体を巻き込む活動となるため、課外活動を全体に伝える機会となりそうです。

課外活動の独立が、本人活動の会立ち上げにつながると想定していますが、青年からも立ち上げへの意欲的な発言がありました。本人の学級への思いと立ち上げへの思いを共に尊重しながら、丁寧に進めていきたいところです。

またコース活動だけでなく、課外活動としての活動も重ねることで目標や目的が安定しそうです。

実際に、成果発表会から開級式までの学級活動がない期間にも、数回課外活動をしました。内容は新たな会の立ち上げのヒントを探すため学級から独立して誕生したとびたつ会の見学をしました。また、実践報告集を読み合わせここ10年間の活動を振り返り、30周年式典の計画も立てています。

学級日以外に課外活動を行うことで、新たな仲間の参加が3名ありました。2名はそれぞれ土曜学級、公民館学級に所属していましたが、独立を見据え課外活動コースで活動していくとの発言があり、ひかり学級に異動して来ました。

今後も活動の幅を広げ、新たな体験と交流を図ることで課外活動の魅力を引き出していきます。そして、独立した会となれるよう取り組んでいきます。

課外活動の歌

ふれあって飛びたとう編集部コース
(ひかり学級2021課外活動を考えるコース)

Ribbon C F G

Clarinet か が い かつどうの う たを つ た え よ う

C F G C

か が い かつどうの う たを つ た え よ う

F C Dm C

ギ ー タ ー は ー い ー の ち おんがく いきてい る
ポ ー ト か ら み た も ー み じ ま っ か で き れ い だ な

F C D7 G

ピ ー ア ノ ー は い ー の ち ぼくらは いきてい る
だ ん や く こ あ ど ー か ら へい わ を う ー た お う

F C Dm C

ひ かり で も き ど う ひ ょ う せんきょを ー ま な ん だ
じ ぶ ん の こ と は じ ー ぶ ん わ た し は ー わ た ー し

F C D7 G

き じ つ ま え で だ い じ な い っ び ょ う い れ て き た
み ん な で す い た は が き に あ し た の ゆ め の せ て

C F G C

じ ん せ い っ て な あ に ふ れ あ い っ て な あ に

F G Em Am G C

ふ れ あ っ て と び た っ ち ち い き と み ら い を か ん が え よ う

第2章 自治運営

班長会

1. 班長会の概要

学級全体に関わる行事や、運営に関わるさまざまなことを調整する組織です。コース間の情報交換や交流をする場であり、日帰り旅行やクリスマス会、成果発表会など学級全体に関わる内容を話し合います。今年度は昼食後の12時45分から13時15分の時間を使い、各コースの班長や副班長が集まり行っています。

午前のコース活動の様子や全体での検討事項を共有しコースに持ち帰りコース内で共有します。行事に関しては話し合いだけでなく、実際の準備や運営も行うこともあります。

2. 活動のねらい

班長・副班長の青年は各コースの代表として、話し合いに参加しています。コースの活動の振り返りや、学級として全体の決め事など、意見の取りまとめを行い、学級生による主体的な活動の実現をねらいとしています。

4コースが集まるため、話し合いの内容は多岐に渡り、検討事項も沢山あります。全体の活動を円滑に進めるにはコースを越えた連携が必要です。

3. 活動の内容

(1) オンラインでの班長会

ひかり学級の新しい班長会の取り組みはリモートで行ったことです。外出先からリモートで課外活動コースが参加しました。初めての試みに不安もありましたが、これまでにない班長会に新鮮さを感じられました。今後も遠隔での班長会も取り組んでいきたいです。

(2) クリスマス会に向けて

12月19日のクリスマス会に向けて各コースの

班長と副班長を中心に話し合いました。これまでのクリスマス会と異なるところとしては、追悼をしたいという意見や学級の歴史を振り返る時間をもったことです。青年たちが学級で過ごす時間を大切にしていることが伝わりました。班長会でどんな追討をしたいのかなど話し合いを進めていきました。一方でポッチャートーナメント大会をやりたいなどクリスマス会を一年の特別な行事の一つとして楽しもうとする姿が見られました。みんなで集まる時間を大切な時間にするために班長会で何度も話し合ったからこそ全員に心に残るクリスマス会になりました。



(3) 新年会に向けて

1月30日の新年会に向けて話し合いを何度も重ねました。ゲストを呼びたいという意見や新年会らしく歌やダンスで盛り上がりたいなど様々にできました。新年会の内容を班長会で意見交流することで「あれもやってみたい、こんなこともやってみたい」とアイデアがたくさん生まれました。またコースを超えて全員が集まる時間は青年学級にはなくてはならない大切な時間であると感じました。



(4) 課題と展望

①成果

6・7月のわかそよ練習時から出ていた「9月からはコース活動がやりたい」という声にいち早く対応できました。9月1週目の活動で音楽、スポーツ、ものづくりの大まかな素材に分かれたことでコース活動のイメージが付きやすくなりました。生涯学習センター祭り、日帰り旅行、クリスマス会など全体での検討事項が多かったものの、各コースごとの意見を聞く・話す流れが自然とありました。

また青年主体となる活動にするために司会を持ち回り制にしました。そうすることで積極的に青年が話をすすめていきました。各コースで話し合われたことを青年たちが共有し青年たち同士で話し合いを進めていく姿がとても印象的でした。「それは時間的に難しいと思う」「今はコロナのこともあるから違うやり方にしたほうが良いと思う」など必要なところを的確に述べていました。自分の思ったことをはっきり伝えられる人たちが集まっていることから言い合いになったこともありました。これまで活動内で本音を言わずにいた表れだったのかもしれませんが、最後にお互いが自分の考えを丁寧に伝え分かりあった姿は印象的でした。

②課題

担当者でひかりの班長会の経験者がほとんどいないため、青年に場所や進め方を確認しながら、一緒に進めていきました。生涯学習センター祭りの話で切り上げようとしたところ、青年からクリスマス会について話した方がいいとの意見があがりました。基本は青年主体で進めますが、担当者もある程度スケジュールや時間配分、気持ちを汲み取ったり意見を引き出したりすることは必要だと思います。担当者の質問の仕方などは聞き方を工夫する必要があります。過去の班長会ノートを参考に話し合われてきたことを確認したり、青年に直接これまでどんなことをやってきたのかななどを随時確認していき、これまでのひかり学級の良さを残しつつ新たなことにも挑戦できるようにしていきたいです。今年度の班長会の記録もしっかり形に残すことができると感じます。

③展望

昨年度コース活動がほとんど無く、本格的な班長会も1年ぶりです。コース活動、つどい、全体に関わるイベントなど班長会に関わることは沢山あります。一つ一つ丁寧に話を積み重ねて実践していき、ひかり学級らしさや勢いを取り戻せて行けたらと感じます。今後は、書記も持ち回り制にして青年に任せてもいいのかもしれない。どのコースも自ら立候補して班長をやっている方なので、話し合いは円滑に進んでいきます。「自分がやらないと。」と班長という仕事に対して責任をもって取り組んでいる青年もいれば、車いすから降りて自ら話し合いの輪の中に入ろうとする青年もいました。班長会は話し合いの場ではありますが、一人一人の積極性が見られ

る場でもあります。短い時間の中で決め事をするのでどうしても焦ってしまいますが、班長がみているコースのメンバーの様子などを共有する時間があっても面白いのかもしれませんが。班長会ニュースも本来ならば青年と一緒に書くことが望ましいので班長会を13時15分で切り上げ、コース活動が始まるまでに司会のコースの青年と書く時間を設けるなど工夫をしていきたいです。また帰りのついでに班長会の内容を共有する際に「何言えばいいの」と戸惑ってしまう瞬間が多々見られました。話し合いでは様々な考えが飛び交うので最後に決まったことやまとめを担当者が視覚化するなどしてわかりやすくまとめることで青年たちも少し頭の中で整理されるかもしれません。今後も青年の主体性を引き出すために試行錯誤していこうと思います。



つどい委員会

1. つどいの概要

一日の始まりと終わりに全員が顔を合わせます。学級ソングを歌うことや、班長会からの連絡事項の共有のほか、青年・担当者みんなの近況を報告し合う場です。学級ソングに秘められたエピソードを共有したり、日頃の思いや悩みを共有したりすることで、学級が一体となる場としての役割を果たしています。

2. 活動のねらい

自治運営を目的として、青年が自ら考えを出し合い振り返ることを繰り返し、活動しています。つどいで一体となり歌い、歌詞に秘めた言葉の意味を確かめ合うほか、一人ひとりの自分の思いを歌詞に乗せます。それをわかそよや外への発表につなげています。また学級全体で近況報告として、悩みや課題を話すことで一人ひとりのくらしに仲間と向き合っています。

3. 活動の内容

(1) 共通意識を高め合う

2021年度のひかり学級は担当者不足により公民館・土曜学級から移った担当者や、学生で新しく関わる担当者から主に構成され、担当者体制が大きく変わりました。また2020年度はコロナ禍で歌がほとんど歌われていませんでした。そんな状態のため、年度前半は歌う曲が限られ、歌声が乏しく、青年の思いも聞き出せずにいました。後半にかけて担当者会議で、つどいの意味や役割を確かめ合い、つどいをより良いものにしていこうと意識を高め合いました。

(2) 学級ソングの役割

多くの学級ソングは、青年自身の言葉が歌詞になり、青年それぞれの思いを声に出して歌い共有

することに意味があります。担当者一人ひとりにとって、学級ソングを歌うことは活動の支援という側面だけでなく、自分自身が共生社会に向けた一歩を歩んでいるという思いを抱かせます。また、学級ソングを歌う意味や、歌詞の重み、みんなで集う意味、色々考えさせられる場所でもあります。学級ソングは知れば知る程、歌えば歌う程言葉の重みやつくった人達の思いが伝わってきます。また、わかそよなどで共有されているため他学級やとびたつ会の歌もリクエストがあがります。歌われることの少ない名曲や他学級で生まれた歌も歌うことで、青年のふとしたエピソードが聞ける瞬間もあります。歌うこととエピソードを結びつけることで、歌う時の思いや青年との関係性も深まっていくのではないのでしょうか。

(3) 担当者の役割

つどいの進行をスムーズに行うために、いくつかの役割があります。

- ・司会進行の支援者として主事
- ・楽器演奏する人
- ・パワーポイントで歌詞を出す人
- ・学級ソングを歌っている時の青年の声を拾うために、マイクを扱う人
- ・青年にメロディを知ってもらうため、盛り上げるため、思いを共有するためしっかりと歌う人

(4) よく歌う歌と隠れた名曲

朝と帰りで4~5曲ずつ歌いますが、その場のリクエストだと曲が固まってきました。2021年度よく歌った曲として、「菜の花を咲かせよう」、「ラベンダーの彼方へ」、「笑顔」、「友達のうた」、「君への旅たち」、「生きてゆこう」等があげられます。ひかりの曲が多い中、わかそよで歌った歌や古くから学級全体で歌われてきた曲もあります。「な

ぜその歌を選んだのか、歌に関するエピソード」を聞き、全体で共有できるとより歌詞の意味が響いてきそうです。

後半は歌われていない歌も歌おうと、班長会で何曲か出し合いました。「ブルースカイ」、「空と海のハーモニー」「青春」、「野に咲く花のように」、「働く友」などがあがりました。当日だけでは聞き取れない青年の学級ソングへの思いを汲み取る機会となりました。今後はリクエストボックスを活用し、全体の意見を反映させていきます。

(5) 全体での共有と外への発信

2021年度始めの大きな取り組みはわかそよでした。わかそよでは仲間と練習を積むことや歌を通して発信することの意味を確かめ合い、学級が一体となる時間になりました。12月には愛知県から視察に来られた方へつどいで思いを届けたり、ふれあいコンサート、とっておきの音楽祭などステージをつくる機会が増えました。学級ソングを外へ発信する前には、仲間と思いを確かめ合う時間があります。それが普段のつどいや、日帰り旅行・クリスマス会・新年会など全体で集まる時間だと考えます。

(6) 評価と課題

①成果

開級式は、ひかりにとって初めてオンラインを取り入れた活動でした。公民館学級の学級生の顔を見て声を掛け合う姿は印象的でした。活動でのオンライン活用、他学級との交流という点で良いきっかけになりました。6・7月はわかそよの練習を通し歌う機会が増えたことで、つどいでもリクエストが増えたり、全体の声のボリュームが増したり、回を重ねるごとに少しずつ活気は増しているように思います。また7月は担当者同士

でわかそよの練習をしたため関わり始めたばかりの担当者が学級ソングに触れる機会にもなりました。担当者会議で歌の練習をしたり、コールをつけたり、青年にとっても歌しやすい空間を作れたのではと思います。

②課題

最も大きな課題は一定程度の情報共有はできているものの、思いを共有する場になっているかと問われればそこまでに至っていないように思います。つどいは歌うこと以外にも、情報共有や、思いを共有する時間でもあります。青年学級は日々の暮らしのことを話す場であるはずなのに、そういった暮らしに関わる部分を共有できていないのが現状です。例えば、コロナ禍から久しぶりに参加する青年の声を直接話してもらうこと。グループホームの都合で転居した青年の声をあげていないこと。コロナ禍で生活が一変した日々の暮らしの辛さを話せていないこと。自分の身のまわりに起きた変化や心境を話せていないことなど挙げたらキリがないですが、今までそういった聞くべき声を十分に拾うことが出来ていませんでした。

また、担当者体制が大きく変わったことで、これまでのひかりのつどいの雰囲気を知る人、全体に目を向ける人が少ないのが課題かとも思います。そのため、まずは私たち担当者自身の意識を変えることが大事だと思います。担当者同士でまずは歌の練習をしてみる、空いている時間を使って演奏の練習をするなど工夫していきたいです。

活動の中で発した何気ない言葉や仕草から青年の本心を感じ取っていきたいです。つどいの共有できる時間で担当者から声をかけ引き出す際には青年の言葉を待つことが大切だと思います。たと

一言^{ひとこと}であってもそこから^{まわ}周りの^{せいねん}青年が^{はなし}話を^{ひろ}広げてくれます。青年^{せいねん}の^{ことば}言葉を^{まち}待ち、^{しん}信じ、青年^{せいねん}に^{ゆだ}委ねることが^{いちばんたいせつ}一番大切な^{かん}ことだと感じます。

(6) 展望^{てんぼう}

よりよいつどいに^{ぜんたい}していくために^{かんが}全体で^{かんが}考えて^と取り組んで^いいきたいです。つどいに^{かぎ}限らず、^{かつどう}活動^{なか}の中で^{じぶん}自分に^なできることは^な何か、^{かつどう}活動を^{よく}よくするには^{なに}何を^ししたら^{いい}か、^{しよしん}という^{わす}初心を^{わす}忘れず、^{がっきゅう}学級を^{みらい}未来へ^{つな}つなげて^いくことが^{たいせつ}大切だと^{かん}感じます。2020年^{ねん}に^{ひかり}ひかり^{がっきゅう}学級30年^{ねん}を迎え、2024年^{ねん}で^{せいねんがっきゅう}青年学級は^{ねん}50年^{むか}を迎えます。50年^{ねん}前と^{ねん}50年^{さき}先で^{ゆいつ}唯一無二^になものは^{がっきゅう}学級^{うた}ソングです。歌は^な何がある^{のこ}うが^{つづ}残り^{つづ}続け、^{がっきゅう}いわば^{がっきゅう}学級の^{シンボル}シンボルです。50年^{ねん}先も^{せいねんがっきゅう}青年学級が^{かがや}輝き^{つづ}続けているように、^{うた}歌を^{うた}つくり、^{うた}歌い、^{はっしん}発信^ししていくことが^{もと}これからも^{もと}求められます。そして^{はっしん}発信^{する}する^{ことば}言葉に^{たましい}魂^{やど}が^{やど}宿る^{よう}ように、^ひ日々^{おも}の^{きょうゆう}思いの^{共有}共有を^{たいせつ}より大切^しにして^いきたいと^{かん}感じます。

1. 今年度の活動について

(1) 担当者体制の見直し

まず、今年度のひかり学級を実施するにあたり、慢性的な担当者不足の状況に追い打ちをかけたコロナ禍による担当者不足により、昨年度は3名程度の担当者だけが担当者会議に参加する異様な状況でした。さらに追い打ちをかけるように、30年以上担当者を務めていた担当者が体調不良により参加できなくなったことを受けて、担当者体制は事実上の壊滅状態となっていました。

このため、ひかり学級だけではなく、青年学級全体の課題として担当者会議の中で話し合うことで、公民館学級から3名・土曜学級から2名の担当者がひかり学級へ担当者が異動することになりました。また、土曜学級からはさらに2名の担当者が応援として参加することになりました。

これによって担当者体制は、ある程度整った状況にはなりましたが、こういった中で始まる学級活動には、多くの課題と不安がありました。

青年の個性やひかり療育園という特性を知らない担当者が大勢を占める中での学級活動には、年度当初から後半までにかけて多くの課題が発生しました。

具体的には、一人ひとりの青年の名前と顔を一致させていくという新人担当者と同じ状況からのスタートでした。学級活動は、信頼関係の培われた中で青年同士であったり、青年と担当者とのつながりで活動の幅が広がります。そのため、年度前半は、初対面の人同士が初めましてと、お

互いに声を掛け合い、個性をひとつひとつ知り合っていくところから始まりました。当たり前のことではありますが、この状況下では、今までに行われていたような十分な活動を行うことはできず、青年、担当者ともに分からないことを抱えながらの活動でした。

(2) 担当者を思いやる青年

このような状況の中で、経験のある青年から、今まではこうやっていた、あれはこうしていたというように、青年が担当者に教えるケースがたびたびありました。

本来、活動を支援する担当者が青年から教えられること自体、立場が逆転している部分もありますが、経験が浅い担当者にひかり学級での経験を伝える青年の成長が見える一面でもありました。

例えば、一年の活動を締めくくる成果発表会の準備や練習をしようとした学級日に、青年から「めくりを作らないの?」といった発言には、状況をみる余裕をなくしていた担当者へのアドバイスとして、慌ててめくりづくりを行うことがありました。

このことは、ひかりでの活動経験がある元担当者に教えを請おうと参加を呼び掛けた際にも、やむを得ず参加することが叶わない元担当者から「仮に担当者がひかりでの経験がなくとも、ひかりの青年たちから教えてもらうことが大事なのでは」との声が示している通り、十分な活動ができていないときに、青年からの声に気づかされることが特に多い1年でした。

(3) 新人担当者の多い担当者体制

2021年度の担当者体制は、前述のとおり、他学級からの移籍や応援での7名のほかに、年度当初からかわり始めた新人担当者が4名、年度半ばに教育実習での体験を経てから参加するようになった3名、年度末近くに1名と、1年間で8名の新人担当者を迎える年になりました。

出会いと別れの多い青年学級の中で、8名もの人々がひかりでの活動を継続していきたくと思える中身を備えていたことが示唆されますが、それについては後述するとして、課題として見つめなおしたときに、初めて経験する活動がほとんどである新人担当者がコース活動や学級運営などに関わる中で、先を見通した支援をすることは難しく、目の前のひとつひとつの活動に追われる形となっていました。

(4) 学びの場を継続する意味

2021年度はコロナ禍とはいえ、夏頃には作業所などでの職域接種でのワクチン接種が始まり、感染対策も判明してきたことから2020年度とは違い、ある程度の活動が行える状況にはありました。しかし、家庭やグループホームなどの個々の置かれた状況により、参加を控える青年、担当者が多くいました。ただし、そういった状況にあっても、学級参加に向けて前向きに検討する青年たちがいること。そして、オミクロン株に代表される第4波、第5波といった感染再拡大の時期にあっても悩みながらも、学びの場としての学級活動を止めてはならないという、ある種の気概を持って場を開き続けた担当者たちがいたことは、翻って学級への思いの強さが、改めて感じられる機会となりました。

他の学級では青年を守るため中止にしたり、もしくは感染リスクを少しでも少なくするため午後からのみの活動にしたりする判断がありました。個々の判断を尊重しつつも、ひかり学級が1年を通して、場としての学びの場を開き続けたことは一つの大きな成果だと捉えます。

2. 人が人を思う活動

ひかり学級の中で、この一年を通して、共通する取り組みは何なのかを考えたときに、個人、コース、学級、それぞれの単位で、意識的に、もしくは無意識に、人が人を思う活動ができていたのではないのでしょうか。

以下、コース活動やコース活動以外での活動から、その過程を確認します。

(1) コース活動

① ミニーコスモス（楽器音楽）コース

自己表現としての音楽活動を参加人数の上下はあれど、徹底して取り組んできたこのコースの最初話合った話題はコース名についてでした。話し合った結果、それぞれの好きな言葉を組み合わせることによってコース名は、「ミニーコスモス水色スマイルコース」になりました。やや長いコース名は、覚えづらいのではとの意見があったことから、改めて話し合い「ミニーコスモスコース」として活動を送ることになりました。

そういった中で、年度後半の時期に、自分たちの新曲づくりをしようという話が出る中で、自然と新曲の名前は、「水色スマイル」にしようとなつて話し合われました。歌う人、聞いた人が笑顔になれるような曲作りをしようという思いは、家庭の事情などから参加を控えざるを得ない青年が人

いちばん多かったこのコースだからこそ、生まれた思いなのではないでしょうか。

② サザンカアート（ものづくり）コース

このコースでは、ものづくりをする時間以上に話し合いの時間を多く設けようとしてきました。これは、自分たちの思いを明確にするために、実際にものづくりをする時間よりも大切な時間として捉えられていたように思います。

その中でも、特徴的な取り組みとして話し合われていたのが、参加を控えざるを得ない青年たちを応援したいという話し合いが行われたことです。

これは突然降ってわいたように話し合われたことではなく、ものづくりをする前の話し合いを何度も重ねていくことで、今ここに参加できていない仲間のことを思い浮かべ、そのことについて話し合う時間が必要なのではないかという問いかけから生まれました。

このことは、青年学級に参加したいという強い思いを持ちながらも、ニュースや周囲から伝えられる状況から1日での活動を自らの判断で控え、半日だけの参加もしくは欠席するといった青年がいました。この青年は、学級歴の長い人が多いひかり学級の中では、若手でありながらも学級活動への意見ややりたいことを学級日に留まらず、生涯学習センターに電話連絡をすることも多くあり、生来からの気質と思われる明るく、笑顔の絶えない青年であるだけに、本人の判断として半日、欠席することは多くの葛藤があったのではないかと推察されます。

③ スポーツで伝える2022（健康）コース

このコースは、コース名からもわかる通り、伝えることをコース活動が始まった当初から意識していました。例えば、定期的に行ったボッチャなどのスポーツをする中で、青年が青年を思いやる「もっと前にいっていいよ」などの青年からのアドバイスがありました。

また、日帰り旅行で初めて体験したディスクゴルフを、コース活動として、もしくは学級活動の幅を広げるために自作でのディスクゴルフ用のボールをつくり、自分たちが日帰り旅行で得た新たな体験を伝えようとしたことは、まさしくコース名通りの活動ができました。

コロナ禍で衣食住の環境が激変したため、嘔吐が止まらない症状になりながらも活動に参加する青年がいました。その青年は、活動中もひとりへやすみにいつづけることが多かったのですが、コース活動の中で、順番が回ってくると当初は担当者からの声掛けが必要でしたが、次第に自ら率先して動き、ディスクゴルフやボールを投げていく様子からも、スポーツを通して人に伝わった一例です。

また、発語が苦手もしくは難しい青年も筆談や指談を通して、青年の思いを掬おうとする取り組みが行われました。特に、指談では、正確な聞き取りが難しい部分もありましたが、本人の思いをうまく聞き取ることができた時の青年の表情からは今まで以上の思いが込められたように思います。

④ ふれあって飛びたとう編集部（課外活動を考える）コース

コロナ禍で、グループホーム側の取り決めで

外出が禁止され、文房具すら買うことができなくなったと嘆いている青年の思いがクリスマス会に向けた話し合いの中で共有されました。この声を受けて、学級活動として買い物に行くから一緒に文房具を買いにいったらいいのではとの提案がありました。早速、買い物をする中、文房具を選ぶ青年の目がきらきらと輝く姿は忘れられません。

また、30周年式典に向けた活動として紙漉きでハガキを作る活動がありました。ただ折り悪く感染状況が高まったことを受けて、参加を控えざるを得ない青年たちも多くなりました。このため、少ない人数での紙漉きとなりましたが、作ったハガキを休んでいる青年たちに向けてメッセージを送ろうという発言のもと、ハガキが作られました。

(2) その他の学級活動

① つどい

学級の始まりと終わりに全員が集まるつどいの中で、お互いを思いあう場が、活動を始めた当初はなかなかできていなかったように思います。

例えば、わかそよに向けた活動をしていた時期は、わかそよ以外の活動がしたい人と意識が合わず、すれ違っていることがありました。そういった中で、うたの練習以外にも、衣装や小物づくりが必要なことに気が付いた担当者がものづくりをしてみないかと提案することで、同じ方向を向いて活動に参加することができました。

また、選挙の学習会を行った日は、青年学級を開設した大石洋子さんの訃報が入った直後の回でした。大石さんとの思い出が自然と語られる中で、1か月前に母を亡くしたばかりの青年からも親を悼む言葉が上がりました。その後、同性の

担当者がトイレの中で「もっとちゃんとうまく話したかった」と発言を後悔している姿を見かけました。聞いている側としては、十分に親への思いがあることを共有していたつもりでしたが、やはり当事者でなければ分からない、本人だからこそその思いを間接的ではあるものの知ることができた場面です。

このように、つどいの中では、人が人を思う活動が、誰に言われることもなく、一人ひとりが自然と行っていたように思います。

② 班長会

班長会での話し合いの中で、ある青年からの発言に対して、それはおかしいという発言が重なり、青年同士で言い合いになることがありました。お互いの意見を大きな声で言い合っていく様子は、一触即発といった状況になりました。担当者が一度間に入って、状況を整理することで落ち着きを取り戻すと、お互いの過ちを認めてその場で和解することができました。

ただの喧嘩という一面もありますが、班長会という学級全体の活動を進め話し合う場の中で、お互いが本気になって話し合っているからこそ、起こることだと思います。班長だからこそ、学級を大切に思うからこそその発言だったのではないのでしょうか。

3. 青年学級としての活動

生きる上での障害があっても人が人らしく生きることが、青年学級の目的である「生きる力・働く力の獲得」ではないかと考えさせられる一年でした。

これは、コロナ禍にグループホームで暮らす

青年が活動に参加できないこと。自身の判断だけでは行動に移せないことが多いこと。ややもすれば、青年自身が判断を待ってしまう状況に置かれること。半面、担当者や障害がないといわれる人たちは、自身の判断で友人と外出をして会食などをしています。

ここに障害という大きな差があります。この違いを埋めるための活動が青年学級ではないかと考えたときに、それに向けた活動ができたのか。その答えはイエスであり、ノーでもあるように思います。青年学級という枠の中では、青年主体の活動をすることはできたように思いますが、青年が担当者の判断を待つことはあったようにも思います。青年が担当者の判断を待たずに、もしくは意識せずに自らの意見をぶつけ合っていくことができたときに、現状より一歩進んだ活動が生まれるのではないかと思います。担当者のやること、やらなくていいこと、関わり方を考え改めていく必要があります。決して指導的な立場ではなく、友人や知人としての関わり方が必要なのではないかと思います。いかにして目線を近づけるか、当事者目線を持てるかは、どれだけ青年一人ひとりを理解していくこと、人が人を思うことから始まるのではないかと考えます。

ぼくらの応援歌

2011年度
レッドピッキーズ

C Em Am Em F Em Dm G7

ぼくらのあかるいうたが うなばらのはなにとどき
げんきにさいてください おうえんかをうたいます

C Em Am Em F Em Dm G7

おうえんか

アドリブ みんなの応援メッセージ

Am G F Em F G G7 C

おうえんか

C Em Am Em F Em Dm G7

かれないくらのみずと ふりそそぐたいようと
ぼくらのあかるいゆめと こころでゆうきづけたい

D F#m Bm F#m G A Em A7

みんなでちかちかをあわせ たすけあっていきてゆこう
どんなきもちあきらめず ぼくらはうたう

G D

おうえんか

第4部 土曜学級

第1章 班活動

土曜学級 夢と音 班

活動の流れ

6月12日	開級式
6月26日	自己紹介 今年度の活動でやりたいことの話し合い 係決め 班の名前について
7月10日	班の名前を選挙で決める いきものがかりのCDを聴く
7月24日	【中止】
9月11日	【中止】
9月25日	【中止】
10月9日	日帰り旅行について話し合い 学級ソングを歌う いきものがかりのCDを聴きながら楽器演奏 今後の活動について話し合う
11月13日	日帰り旅行（小田原バルで昼食、小田原城散策）
11月27日	小田原日帰り旅行の振り返り。今後の活動について話し合い マラカス作り。学級ソングを歌う
12月11日	クリスマスツリー作り クリスマス会についての話し合い 新年会についての話し合い
12月25日	近くの飲食店で外食（昼食） 歌作り ケーキを食べてプレゼント交換
1月15日	【中止】
1月29日	【中止】
2月12日	【中止】
2月26日	【中止】
3月12日	1年間の振り返り 成果発表会

1. 集団の特徴

夢と音班は男性12名、女性5名、そのうち昨年度から参加しているメンバー11名、他のコースから移動してきたメンバー6名で活動しました。

年齢も20代から50代まで幅広く、学級歴1年目から25年目以上経験されている青年もおり非常に活気あるメンバー構成でした。

歌を作ったり、歌ったりする青年が多い班となりました。

2. 活動のねらい

- ・毎回、繋がりのある活動を提供し活動の中でマンネリ化しない多数の素材を取り入れていく。
- ・音楽を通じて青年がなにものにも束縛されることなく自由に自分自身を表現できる活動を行っている。
- ・また音楽という素材を通して青年一人ひとりの意見や経験を活かし他者へアピールする力を構築する。

3. 活動の様子と評価

(1) 係決め話し合い

必要な係をみんなで意見を出し合い、自分のやりたい係を選んだ結果、班長、副班長、出席を取る係、テーブル係、お茶係、弁当係、そしてニュース係は全員それぞれに役割が割り当てられるよう係を決めました。このように係分担を活動の中に取り入れていくことも班の目標でした。

(2) 班名決め

班の名前を決める話し合いではいろいろな意見が出ました。①未来と虹②あじさい③青空と虹④キッチン太陽⑤夢をかなえた⑥夢と音⑦みんなで旅行する⑧みんなでキャンプに行きたい⑨ドレミなどが挙がり、名前は多数決で夢と音班に決定しました。

(3) 音楽活動

楽器が好きな青年からマラカスを作りたいという意見が出て、青年学級オリジナルのマラカスを作りました。ガチャガチャのカプセルの中に鈴やおはじきなどをいれてテープで留めて作成しました。完成後はみんなで楽しくくいきものがかりの「ありがとう」、「SAKURA」、「気まぐれロマンティック」など他のカスタネット、タンバリン、鈴なども使用して演奏しました。

また「新曲を作りたい」と青年たちから提案

があり、作文を書きました。そこから単語を抜粋して歌詞を作り、「みんなと友達」が完成しましたが、コロナ自粛のため学級活動の時間が少なく披露することができませんでした。

(4) 日帰り旅行

いろいろな行先の案を青年たちと電話で話し合い、最終的にコロナ自粛をふまえて小田原城散策に決定しました。

ロマンスカーは往復で乗りましたが、車窓を楽しんで写真を撮る青年がたくさんいました。

昼食は全員アジフライで、事前にお店に注文していたため、時間的に予定通り進行することができました。

また小田原城ではアイスクリームやコーヒーを飲みながら、菊花展を楽しんでいました。



(5) クリスマス会

クリスマスツリーを制作するにあたり、まず段ボールをクリスマスツリーの樹木の形に切り抜いた。そこに緑色の模造紙を貼り、そこから飾り付けで綿、鈴クリスマス用のシールなどを接着剤で貼りました。みんなでクリスマスツリーの制作を楽しみながら3台作成しました。

町田の中華料理店「南国亭」に行き、あらかじめ担当者が青年に好きなメニューを聞き注文しましたが、担当者が援助する場面が多くあり

ました。

たとえば運ばれてきたものが自分の注文と一致していたかどうか、青年の生活上の都合で食事の調整が必要であったり、公民館から「南国亭」までの人数の確認が必要でした。

「南国亭」の昼食から帰った後、クリスマスプレゼントを交換しましたが、ビンゴ、箱に番号を入れて引くくじ引きと、紐を引っ張るくじ引きの3つの方法で青年と話し合いをした結果、紐を引くくじ引きに決定しました。

(6) 成果発表会

コロナ自粛のため午後からの活動であり時間がとれませんでした。一年間の活動の中で印象に残ったこと、これからしたいことを青年たちとそれぞれ話し合っ、発表会の段取りを全員で決めました。

最後に学級ソング「ぼくらの輝き」をみんなでオリジナルマラカスを使って演奏しました。

4. 課題と展望

マラカスなどの楽器作りについては青年一人ひとりのできるところは見守り、できないところだけをフォローすることにより達成感是非常に大きな活動になりました。

日帰り旅行では青年の一人が長時間の歩行が困難で、車いすを必要とする事態となり、その結果、予定していた行程を一部修正することになりました。

このことから、担当者間の情報共有が課題として認識されました。

クリスマスツリー作りに関してコロナ感染状況の中、密を避けるためにクリスマスツリーを3台作成した中で担当者である青年が1対1で作成していた場面も見受けられたため、他の青年にもあまり目を配ることができませんでした。たとえば活動の写真を撮りながら全員に目を配るなどの工夫が求められます。

また、接着剤で飾りつけを行いました。接着強度が足りずうまく貼ることができませんでした。

マラカス作りに関して材料の準備不足のため、途中で材料を購入する場面もありました。歌作りに関しては青年たち一人ひとりの作文を通して、自分の感情、気持ち、思いを表現しました。

新曲「みんなと友達」を作詞・作曲することができましたが、コロナの影響により披露する場面がとれませんでした。

班活動で「みんなと友達」を演奏する機会はわずかな回数したが、その機会を増やすことが十分に出来ませんでした。



みんなと友達

音と夢
土曜学級2021年度

Clarinet

The musical score is written for a Clarinet in 3/4 time. It consists of ten staves of music. Each staff contains a line of music with a corresponding line of Japanese lyrics below it. Above the music, chord symbols (C, Dm, F, G) are placed to indicate the harmonic structure. The lyrics describe the joy of playing with friends and the importance of being together.

C Dm C G
わたしには すきなものが たくさんあります

C Dm C G
うたうこと おどること え を かくこと

F C Dm G
ピアノギター マラカース がっきひくこと

F C Dm C
あにめみて えほんみて でんしゃのりこと

F C F C
いちばんすきなこと がっきゅうですごすじかん

F G F G
がっきゅうにきて みんなとあうこと

F C F G
わたしのさいこうの たからもの

さあ てをとり あって わになるう

ここであえた ことが さいこうのしあわせ

みんな ともだち ずっとずっと ともだち

土曜学級 虹色のパプリカ 班

活動の流れ

6月12日	開級式、自己紹介
6月26日	班の名前決定、役割決定、スポーツなど
7月10日	七夕、パプリカダンスなど
7月24日	中止
9月11日	中止
9月25日	中止
10月9日	スポーツ、パプリカダンスなど
11月13日	小田原日帰り旅行
11月27日	モルック作り、小田原の思い出、モルック、パプリカ
12月11日	芹ヶ谷公園で昼食、モルック、クリスマス会の話し合い
12月25日	調理（あんかけ焼きそば）、クリスマス会
1月15日	中止
1月29日	中止
2月12日	中止
2月26日	中止
3月12日	1年間の振り返り 成果発表会

1. 集団の特徴

虹色のパプリカ班は男性5名、女性6名の計11名で活動しました。

スポーツや体を動かすことが好きであり、活動の内容を全員で創り上げる気持ち強い集団でした。

2. 活動のねらい

- ・スポーツを通して、楽しみの中から得られる学びを見つける。
- ・また、スポーツに関連することやスポーツ以外の活動にも果敢に挑戦する。

3. 活動の評価

(1) 話し合い・活動の方針、方向決定

班の運営として、話し合いは今後の活動を決定するうえでも欠いてはなりません。話し合いでは一部の青年の意見をもとに全員で賛同を得たり、否認を受けたりして活動を決定しています。

今期出た意見としては「あんかけ焼きそば作り」「クリスマス会」「喫茶けやきに行く」「新しいスポーツを作る」「ボウリング場に行く」などが挙がりました。

(2) 七夕作り

季節に合わせた活動ということで、七夕の笹を模造紙で作り、短冊や飾りを作り、模造紙に貼りました。

季節行事のため分かりやすい活動であり、願い事を書くという点でも成果が目に見える活動です。

(3) パプリカダンス

おそらく青年学級として共通に人気のある「パプリカ」という楽曲。担当者のタブレットを使用し動画サイトでパプリカの映像を流し踊りました。

音楽を流しながら踊るという活動ではありますが、活動にまとまりが出て、青年の中には踊りを覚える、とにかくりズミカルに踊るなど楽しい活動となっています。

踊りを覚えるのはなかなかハードだったと思いますが、同じ映像を見て踊るということに一体感が生まれていました。

(4) ペったんダーツ

ペったんダーツは15年度スポーツ班で誕生してから長く親しまれているスポーツです。

ルールはマジックテープがくっつく布に得点を

書き、マジックテープの貼られたボールを投げて得点を競うスポーツです。

(5) 音楽活動

スポーツが「動」の活動ならこちらは「静」の活動です。

青年の好きな音楽を活動の合間に流して歌ったり踊ったり聴いたりしました。

活動としては「静」と「動」を合わせることでメリハリが出て、気分も落ち着く活動になりました。スポーツを盛り上げるためにも、合間に音楽を流したりしていますが、リラックス効果もありとても受け入れられていました。

(6) 小田原日帰り旅行

緊急事態宣言が明け、新規感染者数も落ち着きを見せたところでの活動でした。

話し合いの活動がなかったため、担当者が事前に下見しスケジュールを練ったうえで行動計画を立てました。

行きはロマンスカーで小田原に向かい、到着したらすぐミナカ小田原のフードコートへ向かいました。

フードコートでお昼を食べた後はおみやげを買って、忍者ショーを観るため徒歩で移動、観覧後は小田原駅の地下のタピオカドリンクショップでタピオカを注文し、ロマンスカーで町田に戻りました。

その次の活動では思い出しを作文に書いて発表しました。思い出しながら楽しみの記憶を掘り起こしながら書くので学びにもつながります。

(7) モルック

今年度の新しい取り組みです。素材提供は担当者がしました。

モルックとはフィンランド生まれのスポーツであり、新しいスポーツとして取り入れることになりました。

本来のルールは木の棒を1～12の数字の書かれた木製のピンに投げて得点を競うスポーツで、倒した本数によって得点が決まり、複数本倒れたら倒れた本数が得点、1本だけ倒れた場合はピンに書かれた数字が得点になり、倒れたピンは倒れた地点で立て直すというルールです。

ゲームを進めていくとピンは離れていき、点数

を狙うのが難しくなります。

本来のルールでは2チーム戦で、得点が規定の点数(50点)ちょうどになったチームが勝利です。

虹色のパプリカ班ではアレンジを加え、木製のピンは手軽な500mlのペットボトルに置き換え。投げる棒も500mlのペットボトルを使用しました。

紙に1～12までの数字を書き、ペットボトルに巻き、貼り付けて作成しました。

また、投げる回数を全員が平等に投げられるようにするため、規定の点数ではなく合計点を競う方式にしました。

全員で力を合わせて合計点を目指すもよし、チーム戦で合計点を競うもよし、様々なバリエーションで遊べて、かつとても盛り上がるスポーツになります。

戦略はたくさんのピンを倒すか、高得点のピンを狙うことです。たくさんのピンを倒すことでも「すごい！」と盛り上がり、高得点のピンを狙うことでも「何点？」とかで盛り上がりました。

班の中では人数に合わせて、紅白戦や2チームや3チームでの対抗戦などのルールで盛り上がりました。

また室内でも室外でも遊べるスポーツであり、班活動の中では好評です。

(8) 喫茶けやき

青年の職場の様子を窺える機会です。

喫茶けやきは人数制限のため、班の全員が食事をするのが困難であったため、東急ストアでお弁当を買って芹ヶ谷公園で食事するグループと喫茶けやきで食事するグループに分かれて行動しました。

喫茶けやきは芹ヶ谷公園の国際版画美術館の中にある喫茶店で、そこで勤務している青年がおり、「自分の職場のアピール」という側面もあると思われま

(9) 調理

ある青年の要望で過去の年度でやったことをもう一度やりたいという青年の要望もあり、「あんかけ焼きそば」を作りました。

味はあんかけ焼きそばらしい鶏がらスープの素を主体にした中華味、ソース味の二種類のあんか

けを作ることになりました。

調理は野菜がとても多く、無駄なく使う方法をみんなで話し合っ

て、急遽スープを追加しました。これは、担当者の適切な関わりが求められた場面でした。

(10) クリスマス会

ケーキを出し、シャンメリーを注いだところで担当者がサンタクロースの仮装をし、全員にプレゼントを配布しました。

クリスマス会の話し合いはクリスマス会前の活動でしており、「チキンマックナゲット、ケーキ、シャンメリー」をいただきました。

プレゼント交換も検討されましたが「一度手に触れたものを配布するのはやめたほうが良い」というコロナ禍を鑑みた意見もあり、今年度のプレゼントは担当者が配布する形式となりました。

(11) 成果発表

成果発表会の舞台では、青年が1年間の活動の思い出を絵や作文にして、それぞれ発表しました。

そこに、担当者が作成した1年間分の動画も加えて発表し、パプリカで終わるとい

うものでした。成果発表後は1年分の活動を収めたDVDを配布しました。

4. 課題と展望

コロナ禍の影響で活動日数が少なく、そこからの課題と展望を出すのは難しいのですが、展望として見えたのは新型コロナの感染対策を落ち着いてできるようになったことが挙げられます。

感染対策として一例をあげると、昼食後は弁当をあえて青年たちが用意せず片付けず、ビニール手袋を着用した担当者が弁当を下げるというものです。

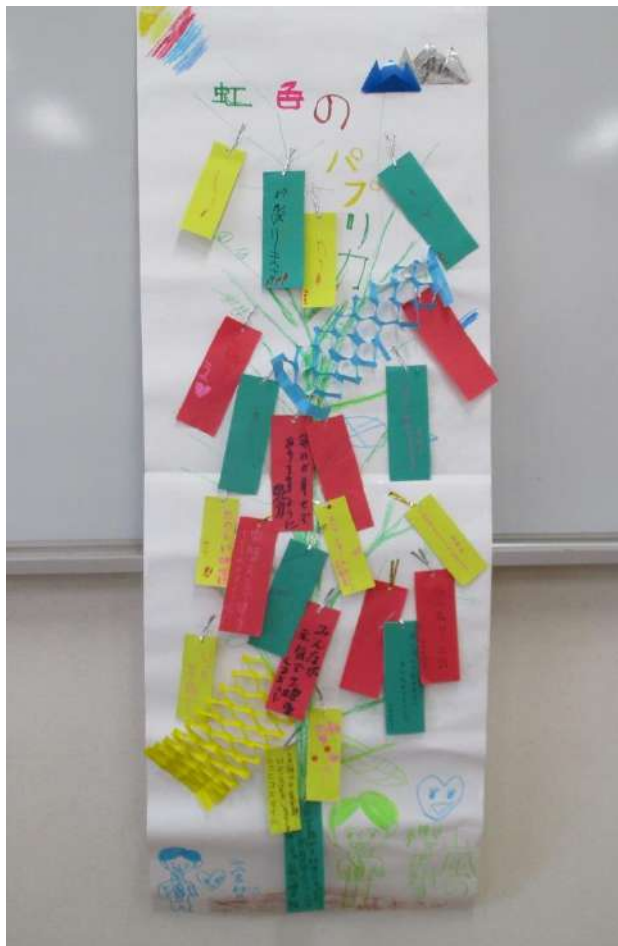
素手で弁当を触ると感染リスクを高めてしまうと判断していますが、青年が弁当を自分で片付けることに慣れているので理解を求め、コロナが落ち着いたタイミングで元の配膳方法に戻すか協議が必要です。

また活動ではモルックを例に挙げると、得点のつけ方やペットボトルの投げ方などの「学ぶこと」、

スコアに一喜一憂する「楽しむこと」、これはどの活動にも言えることですが学びと楽しみの両立を永遠のテーマにしています。新型コロナ対策から浮き彫りになる「学び」や活動を創り上げる「楽しみ」。今年度は両立できました。

「学び」と「楽しみ」の両立に対する課題は「継続をしていけるか」に尽きると思います。これは活動を一緒にやっていく青年や担当者と手を取り合って経験を積まないといけないことです。

新型コロナウイルス感染症から早3年目。東京都ではマスク着用緩和の発表がされましたが、執筆現在では世間の情勢を見てもマスクを外すタイミングはまだ訪れていません。やがてはマスクをしなくても誰も気にならない活動が望まれます。



土曜学級 アマビエ 班

活動の流れ

6月12日	開級式
6月26日	班の名前について話し合い。HS1さんが疫病退散の願いを込めてアマビエの提案、班名に決定。一年間の計画話し合い。
7月10日	七夕を楽しむ。アフターコロナについて話し合い。
7月24日	【中止】
9月11日	【中止】
9月25日	【中止】
10月9日	11/13の箱根外出について話し合い。
11月13日	箱根へ外出
11月27日	班長決め
12月11日	調理活動 スパイスからカレーづくり
12月25日	クリスマスを楽しむ。
1月15日	【中止】
1月29日	【中止】
2月12日	【中止】
2月26日	【中止】
3月12日	活振り返り 成果発表会

1. 集団の特徴

アマビエ班を構成するメンバーは年度内に変動がありました。メンバーの女性は1人で変わらず、男性は8人から7人へ減少。担当者の女性は1人から0人へ減少、男性は2人から3人へ増員となっていました。

昨年度同様コロナ禍における感染防止のため、対面での活動を見送る青年も多く、学級を構成する班、班を構成するメンバーの話し合いが十分できず、開級式事前アンケートに基づく班編成となっています。

そのため、初めて同じ班になったという青年同士もいました。

2. 班活動のねらい

自身や仲間の生活について考えながら、他者の経験や意見を吸収する。

そうすることで、未知の問題や課題への対応力を身につけるきっかけをつくる。

～活動で大切にすること～

- ・それぞれが認識している問題や課題を共有する。
- ・他者から共有された問題や課題について、自身の経験や意見を他者と共有する。

3. 活動の評価

(1) 集団づくり

前期の活動5回は、OJさん、OMさん、KYさん、HS1さん4名が交互に参加している状況でした。

KYさんとHS1さんは同じ職場で、職場の送迎車も一緒になることが多く、車内では色々な話をしているそうです。職場では、二人の担当が異なるため会う機会は少ないそうです。どちらかが学級を欠席しているときは、学級へ参加している方が相手の欠席理由を班へ報告していました。

OJさんが活動に参加すると、班の雰囲気も変わります。OJさんは自分の発言の中で、皆に話を振ることが多く、振られる話題も、皆にとっては意外性に富んだ内容であることから会話が膨らみ、それが場の雰囲気を変える要因なのだと思います。

その展開の延長でOJさん以外のメンバーがOMさんへの語り掛けることもあります。しかし、OMさんはゆっくり話す人なので、話しかけた青年はOMさんの反応を待たず、別の青年へ話題が移ることもありました。そのOMさんが活動へ参加しやすくなるため、担当者は語り掛ける青年の言葉を噛み砕き、シンプルな質問

へ変換して青年に代わって再度OMさんへ語り掛けるようにしました。シンプルな質問に変換することで、OMさんも応答しやすくなるのか、これまでよりも早いテンポで会話が進行していきました。

12月25日の活動には、青年学級参加歴としてはベテランとなるNYさんが、今年度に入って初めてアマビエ班のメンバーと対面しました。NYさんが優しい口調で話す自己紹介を聞いていたHS1さん、KYさん、OJさんも楽しそうに、色々な質問をしていました。

NYさんが青年学級に参加したのは約50年前です。当時の青年学級活動拠点の旧公民館周辺の様子や、青年学級のはじまりにも話が膨らみました。50年前の話聞き終えたHS1さんは「じゃあ、この人(NYさん)がいなかったら、俺もココにいなかったんだ!」とNYさんに対して「ありがとうございます!」と返していました。

(2) 生活づくり

OJさんは学級外で体験したことを、班のみんなへ報告したり、考えたことを問いかけたりすることがたくさんあります。

そのひとつ、東京日本橋の人型ロボットカフェに行ってきた話をしていましたが、ロボットカフェが何者なのか、聞いている青年にはイメージが湧いていない様子だったので、パソコンとプロジェクターを繋げてロボットカフェの情報や店内の写真をスクリーンへ投影しながら、OJさんの話を聞きました。

年度はじめの頃、KYさんがこの班でやってみたいこととして「パソコンを使えるようになりたい」という要求がありました。KYさんは手指の可動域に制限があるので、キーボードやマウスの操作は難しいのですが、最近のパソコンでは、AI音声認識も身近に使えるツールとなっています。

KYさんと一緒にパソコンの音声認識AIでWEB検索に挑戦してみました。しかし、音声が入ったとおりに認識されず、期待通りのWEB検索は出来ませんでした。今回は咄嗟に思いついた支援だったので上手く行きませんが、音声入力のコツをKYさんへ説明すれば、音声によるパソコンやスマートフォンの操作を体験できるようになると思います。

① コロナと向き合う

秋の外出活動については、感染状況を考慮しながらの話し合いとなりました。

青年学級では自治を大切にしています。例年、秋の外出活動については、各班で話し合っ

た結果を班長会へ報告。班長会で土曜学級としての方針を決定。班長会での決定事項は、班長が各々の班へ伝えます。そして、班は班長会の方針に沿った活動計画を立てるという流れでした。

今年は、活動休止が続いたので従来のプロセスを経ることは困難だと判断し、青年たちへは予め、秋の外出活動については、担当職員と担当者で準備を進めるという提案をしました。

アマビエ班では、秋の外出活動の是非についても話題となりました。

OJ さんからは、外出できるチャンスを生かしたい、再び感染が拡大して学級活動が制限される前に外出をしようという意見でした。

この話題の延長で、車いす利用の KY さんからは、朝夕の集いにおける仲間との物理的な距離について問題が提起されました。その内容は、僕はコロナに罹りたくないの、他の人には近くに來ないで欲しいというものでした。KY さんは自分の行きたいところへ自由に移動できません。彼の近くへ仲間が近づいてきても、彼自身は避けられないというものでした。同じように困っている青年も他にいると思われました。

②仲間と久しぶりの再会

11/13 箱根へ向かう日は、HH さんにとって今年度初の活動参加でした。久しぶりに参加した HH さんは、静岡での生活を楽しそうに仲間へ話していました。

HS1 さんや KY さんは色々な質問を投げかけていて、それに答える HH さんもとても楽しそうでした。

③生活における青年学級の位置づけ

後述する諸事情により前期の活動をお休みしていた TJ さんは、11/27 から活動参加を再開しました。

生活の拠点をグループホームへ移したことで、グループホームから土曜学級に参加するには、家族の送迎が必要になること。TJ さんが家族による送迎が必要となった背景も実践報告の説明として付け加えます。

普段の外出支援はガイドヘルパーへ依頼しているそうです。しかし、TJ さんは予定の時刻になっても家を出られないことが多く、そんなときはガイドヘルパーさんに待っていただくことがあるそうです。大概是時間を掛ければ外出する気になって、ガイドヘルパーと外出するそうですが、時には数時間待った挙句に外出を取りやめ、ヘルパーさんにはお帰りいただくことがあるそうです。

そのため、家族としてはガイドヘルパーの利用が少なくなっていました。また、家族は、さんご本人にとって、青年学級に参加することの優先順位はそれほど上位ではないという認識だったそうです。そのため青年学級に行くための外出支援も減っていたというお話でした。

そんな TJ さんも、11/26 は家族が送迎できるので、学級参加の予定を立てたそうです。前日 25 日、TJ さんをご実家に宿泊し、家族と夕食をとっていたそうです。その夕食時に、TJ さんから「明日は青年学級！」という主旨の話題が出てきたことで、ご家族は TJ さんが青年学級を楽しみにしていることを知ったそうです。そして活動当日の朝、いつもは支度に時間がかかり、約束の時間に家を出ることが難しかった TJ さんが、すぐに支度を済ませ、約束の時間に家を出発できたそうです。

そして生涯学習センターで仲間と再会したとき、今朝の様子を踏まえ「こんなに楽しみにしていたことを、私たち親の都合で軽んじてきたことを申し訳ないと思ったし、悲しくなりました」と、涙を流しながらこれまでの経緯を説明してくださいました。この日以来、TJ さんご家族はコロナ感染状況を見ながらも学級活動参加ありきで、家族内で対応を調整されているそうです。

④スパイスからカレー作り

スパイスを購入する必要があるの、何をかうか話し合いから始めました。この場面では HS1 さんや OJ さんからカレーに関する知識が披露されていました。例えば、HS1 さんが上げた一つ目のスパイスは、グランマサラ、二つ目にクミン。OJ さんも黄色の出るやつ（ターメリック）、コリアンダー、ローリエを挙げていました。青年からのスパイスはこの 4 つでしたが、担当者側で事前に調べておいたカルダモン、オールスパイス、チリペッパーを加えてみてはと提案し、この日に購入するスパイスが決まりました。

スパイスから作り上げるカレーは、作るプロセスも楽しく、出来上がりも上々で皆さん完食でした。

⑤お金の話（宝くじで 10 億円が当たったらどうする？）

年末の活動で、お金に関する話題として「10 億円当たったらどうするか」思い思いの夢を発表しあいました。

OJ さんは「たくさん本を書いて、自費出版したい」HS1 さんは「ビッグボスに会いに行きたい」「ゲームソフト沢山買いたい」NY さん

「ビル建てて、テナント沢山いれて、呑み屋をやりたい」

10億というお金がどれほどの量なのかその捉え方にもばらつきが出ましたが、お互いの夢を語り合うことができ、そして楽しい会話でした。

コロナ禍に入って2年目、去年は心配されたコロナ感染対策も青年に定着していることが伺えました。買い物や散歩など、人混みを避けたいので行かない」という意見や「今はやめておく」という意見。

青年学級に来ること自体も「本当は怖いと思っている」という意見もありました。

青年や彼らの職場と家庭が守ってきた安全対策の積み重ねを学級活動で壊さないよう、今後も注意が必要だと思いました。

4. 課題と今後の展望

コロナ感染予防のため、学級活動が計画的に行えていない中、ガイドヘルパーを利用して通級する青年からは、学級開催の予定がヘルパー確保に影響するので、早めに活動有無を決めて欲しいし、直前の予定変更もやめて欲しいという問題も提起されました。

年度当初に聞いてきたメンバーのやりたいこと、それを一つでも多く活動に取り入れたいと思っていましたが、減少する活動時間は不十分だったかもしれません。

感染が収束し安全に学級活動ができる状態になれば、仲間の顔を見ながら活動できる日が訪れると思いますが、その日が待ち遠しいと思います。

土曜学級 けやき坂 班

活動の流れ

6月12日	開級式
6月26日	ダリア園見学。休憩所で昼食、園内散策。往復バス利用。話し合い。班長決め、結論が出ず。9月の日帰り合宿。
7月10日	午前中のみ活動。押し花づくり。押し花で絵葉書を製作。
7月24日	中止
9月11日	中止
9月25日	中止
10月9日	感染対策のため午後から活動。話し合い（日帰り旅行、班長選出等）。立候補する青年もいたが、ご家族とも相談の結果、班長選出に至らず。芹ヶ谷公園散歩。
11月13日	日帰り外出。小田原、海老名、ロマンスカーミュージアム。
11月27日	枯れ葉や木の実を使ってカレンダー作り。芹ヶ谷公園散歩。
12月11日	クリスマスリース作り、外出してカフェで食事。
12月25日	クリスマス会、からあげ弁当。芹ヶ谷公園
1月15日	中止
1月29日	中止
2月12日	中止
2月26日	中止
3月12日	1年間の振り返り。写真と台詞で構成した資料で1年間の活動を発表。

1. 集団の構成、特徴

2021年度は変則的な運営となりました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により6月まで開級を見送っていましたが、青年たちの要望を受けて生涯学習センター及び担当者会議で協議を行い、7月から半日単位での活動を開始しました。

その後、夏休みを挟んで12月まで実施しましたが、蔓延防止重点措置により再び活動を中止とし、成果発表会が予定されていた3月12日には午後から半日のみ班活動を行い、主に1年間の思い出の写真を使った活動報告をホールで行いました。

班の構成は男性7名、女性1名が参加、計8名と、土曜学級の中では平均的なサイズの集団です。

全体的に言葉のコミュニケーションが難しい青年が多く、話し合いを行うときには担当者の適切な関わりが欠かせません。

また、落ち着いて座っていることが苦手な外へ出て行ってしまふ青年や、トイレにいったん入るとそこから離れにくい青年もいて、担当者がその都度の対応を求められることがしばしばあります。

これらの事情から、ひとつの作業に全員で参加することは難しい面もあり、当日の活動を円滑に進めるためには事前の準備のみならず、担当者相互のコミュニケーションの大切さがあらためて認識されました。

2. 活動のねらい

- (1) ものづくりの活動を通して、お互いに認め合い、落ち着ける集団作りを目指す。
- (2) ひとつのものを完成させる取り組みを通じて分担や協同を学ぶ。
- (3) 話し合ったことを目に見える形にしていける。作ることの喜びを体感する。
- (4) 作ったものを家庭に持ち帰り、ご家族とも達成感や楽しい思い出を共有する。

3. 活動の様子

(1) 班名決め、班長決め

班名について話し合いで投げかけたところ、ひとりの青年からの「けやき坂班」という提案があり、他の青年からも賛同の声があり決定しました。

班長決めについては、ひとりの青年から「やります」との表明がありましたが、話し合いに参加することは実際には難しいことからご家族に相談した上で見送りました。他に誰からも立候補がなく、候補になりそうな青年に担当者から声をかけましたが、やりたくないとの明確な返事。結局、1年間を通して班長は選出されませんでした。

(2) ダリア園見学

ダリア園の今年のオープンに合わせ、バスを利用して外出しました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出制限が一区切したタイミングで、青空のもとで出かける貴重な一場面となりました。



(3) 押し花作り

一般的には誰もが経験のある手作業ですが、思いのほか知識や手技、経験値が必要で、青年たちに声掛けをしつつ担当者が相当程度手を出して完成させました。

例えば、紙で押さえて適度な圧力をかけて吸水する、電子レンジで加熱し乾燥させる等々。これらの知識と手技は、普段何気なく私たちが使っているものですが、青年たちにとっては抽象理解や生活経験の狭さから、分かりにくい面もあったと思われます。

うつろいやすい花色を乾燥することによって、しばし手元に留め鑑賞ができるなどの文化的背景を共有してこそ、押し花という遊びに妙味を見出すことができるといえますが、そこまでを共有できたかどうかは疑問が残ります。

このような奥行きのある活動は、青年たちが“やりたいこと”と必ずしも一致するとは限らないと

もいえませんが、良質な文化を提供してこそ学習活動であると考えられます。

(4) 芹ヶ谷公園散歩

緊急事態宣言は解除された後も、リバウンド防止措置期間とされたことから、半日(12:30~15:30)の活動としました。前回(7月)に午前中の活動の活動では昼食を提供しなかったことで空腹が気になった反省から、早めの昼食をとってから集合して午後の活動としました。

秋空のもと、木の実や木の葉を拾いながらゆっくりと散歩をしました。緊急事態宣言による外出の制約が長く続いたことから、このように連れ立って公園を散歩するのは久しぶりの青年が多かったと思われまます。解放感に包まれる半日を過ごしました。



(5) 日帰り旅行

日ごろから青年たちの要望があるロマンスカーをメインテーマにした旅行を企画しました。往路は小田原までロマンスカー、帰路は小田原から海老名までロマンスカー、海老名で下車してロマンスカーミュージアム見学と、青年たちの興味関心を中心に行程を組み立てました。

車窓の景色から目を離さない青年や、ロマンスカーに乗車したことに感激して涙を流す青年もいました。好天にも恵まれ旅行気分を存分に味わえたようです。普段はこうした体験を楽しむことが難しい青年たちにとって貴重な日帰り外出となりました。



このような外出をする際、本来であれば乗車券の購入は駅の券売機を利用するなどして、担当者が支援しつつ青年たち自らが体験できるように計画を組むべきところですが、集団行動の中で安全第一を考え、担当者が全員分の愛の手帳を預かり乗車券をまとめて購入し、それを青年とペアを組む担当者が持ち、改札口を通ることとしました。

知的障害のある青年たちにとって公共交通機関を利用して外出することはハードルが高いのが現状です。また、ご家族の高齢化に伴い遠出は困難になる現実も一方にはあります。

またロマンスカーミュージアムをインターネットで予約しQRコードを提示して入場するなど、ICTの進歩が多くの人に利便性をもたらす一方で、それが利用できない人にとっては社会参加の障壁となっている面もあることにも気付かされました。

こうした時代の変化の中で知的障害のあるひとの社会教育を今後いかに充実させていくかが課題であるとあらためて認識されました。

(6) カレンダー作り

芹ヶ谷公園の散歩で拾い集めた木の葉や実を使って、季節感を演出したカレンダー作りに取り組みました。学級開催の予定日にはシールを貼って、本人や家族が見て分かるように工夫しました。

知的障がいの特徴の一つとして時間や日にちの前後関係、間隔など、時間軸の把握に困難があることが指摘されます。カレンダー作りはこうした課題を踏まえて活動に取り入れたものですが、日常的にも学級活動ではホワイトボードに時計の絵を描く、カレンダー上で予定を示すなどして、可能な限り時間軸を視覚化するような工夫をしています。

(7) クリスマスリース作り

クリスマスリース作りの合間に、散歩がてらシバヒロ近くのカフェに外食に出かけました。ここは学級に参加している青年も利用しているショートステイとグループホームの事業所が一般向けに営業しているところです。そのテラス席でゆっくりと昼食としました。食事は出来上がったものから供されましたが、全員分が揃うまで待ち、「いただきます」をして食事を開始しました。

家庭での少人数での食事やガイドヘルパーさんとの外食とは異なり、グループで食事をするときの作法を共有することの大切さがあらためて感じられました。



第2章 自治運営

1. 班長会

(1) 班長会とは

班の代表者である班長、副班長が各班の意見を持ち寄って、学級全体に関わることについて話し合います。また各班の活動を報告し情報共有する場でもあります。

昨年度は新型コロナウイルス感染症に伴い開級式が中止になりましたが、今年度は開級式を実施し班編成ができたため班長決めをしたものの、4班のうち最終的に班長が決定しなかった班が1班できました。青年の家庭事情もあることが推測されますが、班長をすることができる青年が班によってかたよってしまいました。

班長を経験していない青年にとっても参加をしやすい班長会にしていくことが大切です。

また新たに班長を経験した青年が2名いましたが、班長として積極的に参加する機会は多くなく、発言しやすい環境と、新しい班長を積極的に受け入れる姿勢が充分かどうか課題として残りました。

(2) 討議内容

今年度の班長会は、学級活動終了後15分ほど使い、2回開催されました。

12月11日(土)

各班の活動内容の共有

また、朝と帰りのつどい担当を次回の班長会までに募ることにし、班長会の実施時間についても話し合いました。

ここでは、「時間を決めてやりたい」と「早く終わってほしい」という意見が出ました

12月25日(土)

各班の活動内容の共有

朝と帰りのつどい担当の立候補と推薦

成果発表会については、準備のことや開催時間のことを確認しました。

(3) 取り組みと評価、今後の展望

今年度は班長会での取り決めもありましたが、1月からの新型コロナウイルス感染拡大に伴い、取り決めを実行できないまま今年度を終えました。

班長は班の代表になるため、意見や情報交換も担当者も含めしっかりかかわる必要があります。

議論の場としても情報共有の場としてもどちらも機能することが班長会を実施する意味ではないかと考えます。

今年度は各班の活動の情報共有はできたものの、活動の内容に関して班長同士でポジティブに反省する場があってもよかったのではないかと思います。

また班長会の実施時間に関しても取り決めをすべきという意見が出ました。

新型コロナウイルスによるパンデミック宣言が出て早3年目。今後の先行きは不透明ですが、昨年度と比較して光明も見えており、来年度は班長会と各班への相互への取り組みをまとめる場や、企画の運営としての役割を果たすことに大きな期待がかかります。

また来年は土曜学級25周年で、それに向けての話し合いも期待されます。

第3章 考察

考察

1. 土曜学級の概要

1997年度より、第2・第4土曜日に町田第二小学校の開放教室を利用して、公民館学級、ひかり学級に次ぐ第三の学級として土曜学級がスタートしました。

土曜学級開級当初は30名という規模の集団でしたが、30名で1つの集団として活動するには、自治活動の視点から見て規模が大き過ぎ、活動が行いにくいという点から3グループに分かれることにしました。

その3グループの形成方法についても、第三の新しい学級ということで、公民館学級やひかり学級のコース制ではなく、土曜学級では、各回の活動の中で出される青年の様々な要求を取り上げ、様々な素材に取り組む班活動の形態を取り入れてスタートしました。

公民館学級やひかり学級では、活動の素材を大よそ設定し、それをコースとして集団を形成していますが、そのコース制の良いところは、同じ要求を持った青年での集団が作りやすい点だと考えています。

一方、土曜学級では異なる要求を持った青年で集団を形成するので、多様化するニーズへの対応も可能となります。コース活動の良い点、班活動の良い点、それぞれ異なりますが、現在も班活動の形態を維持して活動を続けております。

(1) 体制づくり

毎年2月頃成果発表会を行いその年度の活動を終え、5月頃には前年度の班長や副班長、担当者、生涯学習センター担当職員で集まり、次年度どのような土曜学級としたいか「学級を語る会」を開催してきました。2021年度も依然として新型コロナウイルス感染症の脅威は収まらず、3月から5月頃に行う次年度体制準備も十分な時間が確保できませんでした。

(2) 2021年度体制

2021年度は青年45名で活動を開始、2021年

夏に、土曜学級に参加していた青年お一人が逝去され、現在では44名で活動しています。

班構成は昨年度同様に4班体制です。

- ・夢と音班
(主な素材：音楽、歌、楽器)
- ・虹色のパプリカ班
(主な素材：軽スポーツ)
- ・アマビエ班
(主な素材：生活、経済)
- ・けやき坂班
(主な素材：美術、工芸)

2. 2021年度総括より

総括とは『一年間の活動を振り返り、活動内容、支援の状況、青年の様子、今後の課題と展望』について、毎年2月～3月の数日に亘り担当者間で話し合われる会議です。

(1) 夢と音

他学級の担当者の支援を受け「みんなと友達」という歌を作りましたが、班に作曲できる担当者がいないため、今後も青年の想いを吹き込めた歌を継続的につくることできるかが課題だと捉えています。

夢と音班は、土曜学級の中では一番多くの青年が参加する班でした。その一方で、担当者の支援体制は他の班同様に十分とは言えない状況でした。

このような状況では、青年一人ひとりの活動する様子や状況を各担当者が把握できないこともあったようです。

経験の短い担当者は、青年の名前を覚えることや青年の個性、あるいは必要な支援を把握することに苦労したようです。

担当者不足の中では、担当者のノウハウを改めて体系化して伝えることは困難です。

先輩担当者が当たり前のようにしていることは、経験の浅い担当者にとっては当たり前でないことが多いので、都度先輩担当者から新任担当者へ「青年と接する際の視点」を積極的に示すことの重要性も、今年度の総括でも確認いたしました。

(2) 虹色のパプリカ

小田原外出の際、小田原城址公園で臀部を露出した青年がいました。この状況で担当者は、どのように振る舞うべきだったのか、後日の担当者会で議論いたしました。

その場に居合わせた担当者は、臀部露出直後「それはダメ。やめましょう！」と口頭で注意して終わらせたそうです。

担当者会で確認されたことは、彼ら青年が社会生活上の観点で相応しくない行動をしたときは、その現場で間髪いれずに正せるとよいのではないか、時間が経過するほど、彼らはなぜ注意されているのか、意味を理解することが難しくなるであろうということでした。

時に、彼らに遠慮あるいは知的障がいを持っているのだから仕方ない、ダメなことだがダメと言わないと考える担当者の気持ちも議論されました。

社会生活上、相応しい/相応しくないという学習も青年学級の活動では必要であるということが確認されました。

(3) アマビエ

数年振りに生活について考える活動を目指した班です。

活動のねらい

- ・自身や仲間の生活について考える。
- ・それぞれが認識している問題や課題を共有する。そして共有した問題や課題について、自身の経験や意見を他者と共有する。
- ・他者の経験や意見を自身が吸収することで、未知の問題や課題への対応力を身につける。

複数の青年から「担当者Mと同じ班は疲れる、話が難しい」と発言がありました。

この青年からの意見について、担当者会でも支援の在り方について話し合われました。

青年が“難しい”と感じるということは、当人が持てる力以上のことに挑戦している証ではないか。多少の無理をすることで、より成長することが出来ると考えられるので、大きく間違えた支援ではないことが確認されました。

(4) けやき坂

活動のねらい

- ・ものづくりの活動を通して、お互いに認め合い、落ち着ける集団づくりを目指す。
- ・ひとつのものを完成させる取り組みを通じて、分担や協同を学ぶ。
- ・話し合ったことを目に見える形にしていける。作ることの喜びを体感する。
- ・作ったものを家庭に持ち帰り、ご家族とも達成感や楽しい思い出を共有する。

けやき坂班の総括（抜粋）

最近の活動を振り返ると、私たち土曜学級において担当者が添乗員の如く振る舞う場面が増えたように思います。

(5) 担当者の役割

担当者から青年に向けた支援について

マラカス作りの活動を例に総括をしました。

その活動は、マラカスを装飾するパーツを担当者が程度事前に作り、それを青年に渡していました。青年は受け取ったパーツをペットボトルに貼る作業をしていたのですが、どんな飾りにするか、色は、形は、青年が表現する機会を担当者が減らしていたことが指摘されたのです。

青年主体の活動を支援する中で、担当者が完成の時限や期限を意識し過ぎると過剰な支援となりえます。

“ここまでは失敗しても大丈夫、安全”というガードレールを担当は意識し、安全な範囲で、当人がやりたいと思うことを支援する。たとえ、その結果が失敗でも、当人が決めた行動を実行する権利を大切にしなければならないことを確認しました。

一方で担当者の支援が時代とともに変わってきていることも話されました。

数年前は電車に乗ってどこかへ行こうとするとき、券売機の前で路線図を見ながら、自分の居場所と目的地を見つけ、必要な料金を確認し券売機で適切なボタンを押下し切符を買う一連の経験も大切にしてきました。

しかし、ICカードが一般化した現在、かつての切符の買い方を体験する意義や重要性は著

しく減っています。

(6) 班長会

今年度の班長会開催は、コロナ感染防止のため、2回の開催に留まりました。

コロナ禍以前の班長会では、学級行事など話し合いも多く、話し合い時間の不足が指摘されていましたが、学級休止にともない学級行事も減ったため、班長会で取り上げる議題の減少から時間不足ということは感じませんでした。

その一方で、班長会の運営が断片的となったため、班長との次回以降の班長会見通しや議題整理もできず、班長会の運営や司会進行を担当者で対応せざるを得ませんでした。

(7) 担当者会

学級参加間もない担当者から投げかけられた質問がありました。「担当者会以外の時間（プライベートな時間）でも班の話し合いをするべきか、それは担当者の責任となるのか？」

これに対しては「特に決まりはないが従来は担当者会の中で班活動に関する担当者間の話し合い済むことが多かったのですが、こんにちでは、担当者が集まれる機会が少なくなってきたので、各班が臨機応変に対応した結果である」と解説をしました。

今年度の総括を通じて、学級開催当日のみ参加する担当者にも様々な考え方があったことがわかりました。①当日しか参加できないので、能動的に関わろうという方。②当日しか参加しないので、受動的に関わる方。

しかし、安全に活動をするためには、考え方が異なっても情報共有と支援に対する理解は必須です。

担当者は、(担当者会・家庭との連絡・活動計画と準備・当日担当者のフォロー・ニュース作成・総括執筆・実践報告集執筆対応など)負担の増える傾向にあります。担当者と当日担当者の双方向コミュニケーションの必要性を改めて確認いたしました。

3. 半世紀の節目に向けて

学級開設から半世紀の節目が近づいていま

す。コロナ禍における活動休止、そして活動休止による担当者会での議論の幅が広がりました。

土曜学級では、この状況を次の半世紀を展望する好機と捉えています。

半世紀前の社会環境を背景に、知的障がい者が学校卒業後の居場所として、青年学級が開設されました。

半世紀前の青年たちを取り巻く社会的環境と、今日の青年たちを取り巻く社会的環境は異なります。

ですから、今後の半世紀を見据えた新たな青年学級の取り組みを考える好機だと考えています。

そのひとつに新人学級生を受け入れられない、あるいは少数しか受け入れられない状態は、関係者全員が問題点として捉え、長きに亘り議論されてきました。

青年学級と同じように生涯学習センターの事業には、市民大学やことぶき大学もあります。これらには参加可能な期限がありますが、青年学級には参加可能な期限がありません。

青年学級も、市民大学やことぶき大学同様に学習機会を提供する場所ですが、今の青年学級事業は、市民に対して公平に提供されているのだろうか疑問が残りました。

“卒業”や“とびたつ”は、今から次の段階へ進むというイメージです。

今日の青年たちを取り巻く社会的環境を踏まえれば、青年たちの居場所は半世紀前に比べ明らかに増えています。

例えば、青年学級からの卒業を目指さない。その代わりに、定期的に参加者を入れ替える。その方法は、年度末に解散、次年度参加者募集、公正な抽選。

その結果として前年度と同じ青年が参加しているかもしれませんが、学習機会を提供する方法としては公平だと思います。

このような大きな問題を土曜学級だけで、議論することは出来ないもので、繰り返しとなりますが、今こそ、青年学級全体で次の半世紀を展望する好機だと捉えています。

第5部 地域への広がり

第1章 サークル活動

1 おなべの会

(1) 会の歩み

1980年度の青年学級成人班の活動で調理を中心にやってきたメンバーからの「青年学級以外でも調理をしたい」「調理を続けたい」という思いから1981年にはじまった料理サークルです。

活動は月一回のペースで青年学級のない土、日、祝日に主に調理実習室で行っています。

(2) 活動の流れ

まずロビーに集まり、受付で利用料を支払い、鍵を受取り調理実習室に向かいます。部屋に入るとまず、参加メンバーが会費300円を払い、払った人からノートに記名していきます。

その後、ホワイトボードにその日のメニュー、必要な食材や調味料をみんなで確認しながら書き出していきます。メンバーのなかにはボードを見ながら手帳にメモを取っている人もいます。

次に買い物に行く人と、残って食器や調理器具の準備、お茶の用意をしたり、ご飯を炊く人に分かれます。

買い物は、公民館隣のデパート地下のスーパーで行っています。レジで会計を済ませると、手分けして食材を運びます。

調理実習室に戻るとまず食材を、洗う、切る、を手分けして行っていきます。ごはんが炊き上がるまでの間や作業が一段落した際には、再びホワイトボードに向かって、今後の活動で作りたいものを出し合います。メニューを提案した人は、なぜこのメニューを作りたいかを説明し、最終的なメニューの決定は挙手による多数決で行っています。

(3) 2021年度の活動

4月17日 土曜 10:00~14:00

ミートソーススパゲティと温野菜

5月8日 土曜 10:00~14:00

公民館休館のため中止

6月5日 土曜 10:00~14:00

お好み焼きとフルーツポンチ

7月17日 土曜 10:00~14:00

冷やし中華とパイナップルデザート

8月15日 日曜日 10:00~14:00

夏野菜のチキンカレー

9月18日 土曜日 10:00~14:00

生地から作るトマト缶ピザ

10月30日 土曜日 10:00~14:00

野菜たっぷり豚汁とごはん

11月20日 土曜日 13:00~16:00

生クリームといちご、キウイのパンケーキ

12月26日 日曜日 10:00~14:00

ハンバーグとポテトサラダのランチ

1月8日 土曜日 13:00~16:00

餅入りぜんざい

2月27日 日曜日 10:00~14:00

鶏肉とほうれん草のクリームグラタン

3月27日 日曜日 10:00~14:00

焼きそば



(4) メンバーの入れ替わりと援助体制

メンバーの構成については、「青年学級」か「とびたつ会」などに参加している人が中心ですが、最近、青年学級に入った人や学級と関係なくロコミや公民館からの情報などに加わってきた人もいます。

一方、グループホームでの生活を始めるメンバーも増え、そこでの行事や人とのつながりができることから、おなべの会を卒業していく場合もあります。

また新型コロナウイルスの流行以降、メンバー、スタッフともに欠席率が増えています。そのため全体にゆったりした活動が行えるようになっていますが、今年に入ってスタッフが2名という状

況が続いていて、援助者の確保も課題の一つになっています。



(5) 活動の経費の確保

2018 年度から町田市社会福祉協議会より歳末たすけあい地域福祉ボランティア活動助成金を受けることになりました。そのため、郵送代、印刷代、会場費など材料費以外の経費は、最終的に助成金でまかなうことができ、それによりスタッフの持出しなど経済的負担も少なくすることができています。

会場費については、10 年前からは公民館施設有料化となり、さらにその後の値上げもあり、約 2000 円（1 日の場合は約 4000 円）の施設利用料がかかっています。今年度はゆったりした活動が行えるように、できるだけ午前、午後のコマで活動を行ってきましたが、毎回二コマ取ると、会場費だけで年間約 5 万円になってしまい、社協の助成金で賄いきれなくなることから、見直しを迫られています。

郵送代は、はがき代が主になりますが、以前にはがきカンパを呼びかけたことがあり、現在もメンバーから余ったはがきなどのカンパが寄せられています。

参加費については、メンバーが参加しやすいように 40 年前のサークル発足当初から参加費を 1 回 300 円として、食材の購入費用に充てています。しかしながら実際には、この金額では不足することが多いので、スタッフのカンパによる調味料やお米、野菜などを活用したり、時に不足金額の持出しとなることもあります。

メンバーからは会費を値上げしたらどうかという意見もありますが、経済的に厳しい考えるメンバーも多くいて、慎重にならざる負えないとこ

ろがあります。



(6) 会場の確保について

会場の確保は、公民館でないと参加できないメンバーがいることや調理活動ということから公民館調理実習室に限られる状況にあります。

その申し込みを施設予約システムの抽選への参加という形で行っていますが、利用の可否は競争率とくじ運に左右されることから、調理実習室が取れない、スタッフが手薄の日にしか会場を確保できないなど、相変わらず会場確保の悩みは尽きない状況です。

2. とびたつ会

とびたつ会は、2004 年にはじまった本人活動の会です。当時青年学級は 180 人を超える人数と担当者の不足で青年学級を希望する若い人が入れない状況でした。また、各地では本人活動が活発になってきていました。そこで、本人活動の会を町田でもつくって、青年学級を卒業することで新しい若い人たちに青年学級を経験してもらおうと考えました。最初は 8 人でスタートしました。

(1) 参加者

2021 年度の活動メンバーは最終的に 28 人でした。女性 9 人、男性 19 人。青年学級を経験した人 15 人、とびたつ会の直接入った人 13 人。車イスを利用する人が 8 人。ヘルパーさんと一緒に参加する人が 5 人でした。

(2) 活動日と活動場所。

毎月第 2、第 4 日曜日 午前 10 時～16 時。会場は公民館など公共施設を利用しました。コロナ

禍の影響か、比較的確実に予約することができませんでした。

(3) 運営の体制

活動にあたっては、毎週木曜日 18 時から 21 時に公民館の一室で運営会議を開いて準備をしています。

本人活動ですが、支援者も 9 人ほど参加して活動を支援しています。

(4) 2021 年度の主な活動

2020 年度後半から 2021 年度前半に、第 20 回若葉とそよ風のハーモニーコンサート開催に向けて準備に取り組みましたが、コロナ禍のため、5 月 22 日の市民ホールでの公演は中止せざるをえず、代わりに 8 月 8 日に DVD を作成するための映像収録を行いました。8 月まではほぼその準備となりました。

その後の活動は、コロナ禍のため人数も 10 人前後でしたが、感染が下火になった 10 月から 12 月にかけては 16~19 人と多くに人が参加しました。1 月からは第 5 波により、人数が激減しました。以下特徴的な取り組みを記します。

① わかそよ 2021 参加 (8/8)

前述したとおり、コンサートが中止になり映像の撮影を行いました。6 グループに分かれての取り組みのうち、とびたつ会は「いまをいきる」をテーマに内容を検討しました。その中で稲村宏美さんが詩を書いた「ひだまりの音」。コロナ禍でなかなか会えない友だちへの思いを込めた歌です。また、参加者のコロナ禍での体験や困ったことを歌にした「ダメダメダメソング」、同じくコロナ禍と自由を考えた歌「自由 (コロナ版)」、青年学級の最初の担当者だった永野むつみさん (劇団ひばりあむ主宰) がコロナ禍がはじまったころに書いた詩を歌にした「あたりまえのうた」、コロナ前の日常生活の様子を歌にした「ひまわり」をうたいました。

② 作業所ガッツビート研修用映像作成

横浜にある作業所から、職員研修にあたって多磨全生園・ハンセン病資料館に見学に行った様子を紹介してもらいたいとの依頼がありましたので、歌「あっぱれな人生」(モチーフは映画「あん」)

をつかった背景を作文と歌で表現し、映像にまとめて、提供しました。

③ センターまつり用 動画収録 (10/24)

センターまつり用に動画を収録し、参加しました。



④ 市民大学と愛知県からの視察対応 (11/28)

市民大学福祉講座と文科省の事業を受託した春日井市・瀬戸市の皆さんの視察に応えました。

⑤ 望年会 (12/26)

わかそよの伴奏に関わった奥居美穂さん、サンシ・モンさんをゲストにホールで望年会を開催しました。

⑥ 国分寺市くぬぎカレッジ参加 (1/23)

文科省の受託事業「くぬぎカレッジ」に招かれ、国分寺市立本多公民館に出かけて、日常生活の様子を伝えるとともに、とびたつ会の活動について発表しました。

⑦ 座間市公民館講座 (3/5)

座間市東地区公民館で開催された地域福祉・教育を考える講座「『なかま』になりたくなるコミュニティをつくろう！」の招かれ、歌と作文でとびたつ会の活動を紹介しました。土曜日だったために参加したメンバーは 3 人でした。

⑧ 調理実習

コロナ禍でしたが、希望の多かった調理実習に数回取り組みました。アイスクリームづくり (9/12)、パンとシチューづくり (11/14)、ちらし寿司づくり (3/12) に挑戦しました。



(5) 活動を振り返って

2021 年度もコロナ禍に翻弄された活動となりましたが、2020 年度の経験と、ワクチン接種をはじめ新型コロナへの社会的対応ができたことで、後半は、外部との交流もできるようになり、少しずつ活動が取り戻せたように思います。コロナ禍にあって「あつまりたい」「活動したい」という要望をどのように実現していくのかを今年もまた問いながら活動した 1 年となりました。活動を中止することは容易なことです。感染しないためにはどのような対策や工夫が必要なのか。参加するしないの選択の自由。もし感染した時はどうするか。リスクを抱えながらの運営について今後も考えていく必要があります。

わかそよ 2021 の取り組みをとおして、青年学級との交流もできました。次回はぜひ市民ホールで開催したいものだと思います。

2021 年度最大の出来事は、青年学級を公民館事業として創り上げ、とびたつ会にも当初から関わられた大石（壽原）洋子さんが、10 月 15 日に急逝されたことでした。謹んでご冥福をお祈りいたします。



(文責 松田泰幸)

3. スケッチ・ルーム

(1) 会の歩み

2012 年から始めたスケッチ・ルームは丸 10 年経過しました。当初からのメンバーは斎藤さん

の他 4 人ですが、そのうちの一人、大石洋子さんが 10 月 15 日に突然亡くなってしまいました。11 月 24 日から 12 月 5 日まで図書館での展示を予定してあったので、大石さんの遺作展にもなってしまいました。たくさんの知りあいが見に来てくださったようです。

(2) 図書館展示

今年度もコロナ禍の影響で、平石引明さん、長谷川順子さんは参加できませんでした。しかし図書館での展示が決まっていたので、それを目標に自宅で作品を描きました。平石さんは静岡県のいろんな場所で写生をしています。作品 40 枚を展示しました。長谷川淳子さんも 2 作品を展示。斎藤さんは新聞紙大の大作の他、花瓶、犬、アニメの女性など展示しました。

(3) 活動の様子

透明水彩画の講師をお願いしていた方が、御夫婦で老人ホームに入居されたので、コロナ禍により外出できず。今までのお手本を描く他、それぞれ描いてみたい絵や写真に挑戦したり静物を写生したりしました。

斎藤さんは展示用大作を描いたあとは甥にプレゼントする絵、電車内を精巧に描いていました。斎藤さんは 22 回うち 15 回の参加。

よくお菓子をさし入れ「足りるかな」「たまにはおせんべいもいいかと思って」などと気を使っています。いやなことがあったりすると、昔イジメに会ったことを思い出して、絶対許さないと断言していても、絵に集中した後はアニメやゲームの話の他、ダジャレをいろいろ披露し、気分が前向きになったとわかります。3 時過ぎにお茶を飲んで帰る人は帰り、もっと描きたい人は残って続きをやりま。斎藤さんは父親が 4 時に迎えに来るよう残っています

(4) 会の運営

今年度も町田市社会福祉協議会のボランティア活動補助金を 4 万円頂きました。おかげで大きい部屋を借りることができ、間を充分に開けて活動できました。その他、展示用に紙類、テープ類、額装代、運送費として使わせてもらいました。毎回部屋代として一人 100 円を徴収しています。

(5) 課題と展望

会員が増やせない状況がコロナ禍でもあり続いています。それどころか青年以外の会員は高齢者なので大石さんのように来られなくなることもあります。しかし少しでも仲間を増やし一緒にスケッチ・ルームを利用してもらいたいと思います。

4. 上を向く会 ～気流～

前身の歌の会である「風になる会」が休会になったため、2020年より「上を向く会 ～気流～」として活動を始めました。

(1) 参加メンバー

風になる会から継続して歌いたい、というメンバー6名と講師1名で練習をしています。

(2) 活動日、活動場所

毎月第1土曜日の午後に生涯学習センターの施設を利用し、活動しました。

(3) 活動の様子

機材の設置など会場の準備をして、みんなで近況報告をします。先生の演奏に合わせて発声練習をした後、1人ずつ好きな曲を2曲ほど歌います。マスクをしながら歌うことにも慣れました。全員が歌い終わった後は、みんなでコンサート用の曲を練習して一体感を持つなど、いつ出演のお声がかかっても対応できるように練習をしています。又、昨年から新たに加わったことは、それぞれ役割分担をしながら活動をしたことです。

主な役割とは

- ・施設を借りる際の受付担当
- ・機材の運搬担当
- ・会計担当
- ・検温担当
- ・消毒担当 など

新型コロナウイルスの対応も入れて実施することができました。

又、生涯学習センターの施設の一部が新型コロナウイルスワクチン接種会場となり使用可能な部屋に制限があったため、機材の運搬や移動がスムーズにいかないこともありましたが、協力しあい活動することができました。

(4) 2021年度の主な活動

毎月1回の活動以外に、8月には若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ出演しました。楽曲

決めに始まり、振り付けや立ち位置、コンサートごとを作る「わかそよTシャツ」の色決め等々、意見を出しあって決めました。上を向く会からコンサートの実行委員に立候補をして、会の代表として話し合いに参加しました。

当日は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため録画撮影となりましたが、本番を終えた後はメンバーの希望で反省会をしました。メンバーからは「緊張した」「参加できて良かった」「次は大きなステージで歌いたい」という声上がり、達成感と笑顔の報告会になりました。コンサートのDVD完成が待ち遠しかったです。

(5) 課題と今後の展望

自分たちの日頃の練習の成果を発表する機会を持ちたいです。今後も若葉とそよ風のコンサート、とっておきの音楽祭など歌のイベントには積極的に参加していきたいと考えています。又、チラシを作成して配布をしたり、新規メンバーを増やす活動もしていきたいです。

とびたつ会活動経過(2021年4月～2022年3月)

	月日	内容	参加人数	場所
1	4月11日	午後から「わかそよ2021」練習 「この今を生きる」パート	10人	公民館 ホール
2	4月18日	午後から「わかそよ2021」練習 「この今を生きる」パート	10人	公民館 ホール
3	4月25日	緊急事態宣言発出。公民館が閉鎖により練習中止		
4	5月9日	わかそよ2021練習中止		
5	5月16日	わかそよ2021練習中止		
6	5月22日	わかそよ2021本番中止		
7	6月13日	やっぱりあつまりたい人の会 紹介ビデオ撮影 わかそよ準備	8人	公民館 調理実習室
8	6月27日	近況報告 わかそよ台本準備と練習 今後の予定	10人	市民フォーラム 学習室
9	7月11日	なんちゃって夏野菜カレーづくり わかそよ練習	11人	公民館 調理実習室
10	7月25日	わかそよ練習	9人	公民館 調理実習室
11	8月1日	午前中＝わかそよリハーサル 午後＝練習	10人	健康福祉会館
12	8月8日	午前＝わかそよ2021 収録	10人	健康福祉会館
13	8月22日	わかそよ収録の振り返り、とびたつ会としての活動の継続を決める	9人	市民フォーラム 学習室
14	9月12日	アイスクリームづくり、わかそよ2021の映像を確認	10人	公民館 調理実習室
15	9月26日	ガッツビート研修資料「あっぱれな人生」をうたうビデオを撮影	14人	公民館 調理実習室
16	10月10日	近況報告、生涯学習センターまつり用動画準備と練習	19人	公民館 調理実習室
17	10月24日	生涯学習センターまつり用動画撮影 大石洋子さん追悼	17人	公民館 調理実習室
18	11月14日	パンづくり・シチューづくり、次回市民大学のための準備	17人	市民フォーラム 調理室
19	11月28日	市民大学福祉講座(7人)、春日井市・瀬戸市(7人)視察	16人	公民館 調理実習室
20	12月12日	前回の視察の振り返り、望年会検討、くぬぎカレッジについて	17人	公民館 調理実習室
21	12月26日	午前＝わかそよ2021完成 午後＝ホールで望年会	16人	公民館 美術工芸室 ホール
22	1月9日	年末年始の様子報告、初詣、DVD「わかそよ2021」を観る	14人	公民館 視聴覚室
23	1月23日	国分寺市本多公民館 くぬぎカレッジに参加	8人	国分寺市立本多公民館
24	2月13日	近況報告 選挙の話 座間市東地区公民館での発表準備	8人	公民館 調理実習室
25	2月27日	近況報告 お金の話 座間市東地区公民館での発表練習	8人	公民館 視聴覚室
26	3月5日	座間市東地区公民館講座発表	4人	座間市東地区公民館
27	3月13日	ちらし寿司づくり ひかり学級成果発表会見学	10人	公民館 調理実習室
28	3月27日	2021年度の活動の振り返り ふれあいコンサートについて	11人	公民館 視聴覚室
		合計	276人	

第2章 若葉とそよ風のハーモニー2021

若葉とそよ風のハーモニー2021

2021年8月8日（日）に健康福祉会館にて、若葉とそよ風のハーモニー2021 コンサートを動画撮影しました。今回のコンサートは総勢137名が参加しました。

本来であれば、5月22日に市民ホールで行っている予定でしたが、コロナ禍で緊急事態宣言が発出されたことを受けて公共施設が利用することができなくなったことにより、一時期は活動が中止となることもありました。そういった状況に置かれても、参加できるメンバーだけで、わかそよをやらなければならないというある種の使命感から、6月からの青年学級の通常の活動日の中でも練習を行い、8月に録画形式という形で実施されました。1987年から行われているわかそよの長い歴史の中でも異例の回となりました。

特徴的な取り組みとしては、第19回から参加した「上を向く会」のほかに、「みんなのいのち」、「私たちの権利」、「平和の輪を広げよう」、「わかそよの歴史」、「この今を生きる」の6つのグループに参加者それぞれが思い思いに分かれて歌や思いを紡ぎました。そしてエンディングには、6グループそれぞれが同じ歌を届ける構成にしました。

経過

2020年9月20日 第1回実行委員会準備会

2020年9月27日 第2回実行委員会準備会

2020年10月25日 第1回実行委員会

2020年11月15日 第2回実行委員会

2020年12月6日 第3回実行委員会

[緊急事態宣言2回目] 1/8～3/21

2021年1月17日 第4回実行委員会

2021年2月21日 第5回実行委員会

2021年3月14日 第6回実行委員会

2021年3月28日 結団式

2021年4月6日 一部練習開始

2021年4月11日 全体練習

2021年4月18日 全体練習

[緊急事態宣言3回目] 4/25～6/20

2021年4月25日 全体練習（中止）

2021年5月9日 全体練習（中止）

2021年5月16日 全体練習（中止）

2021年5月22日 市民ホール本番（中止）

2021年6月～7月 各学級日にグループ練習

[緊急事態宣言4回目] 7/12～9/30

2021年8月1日 全体練習 健康福祉会館

2021年8月8日 本番 健康福祉会館

実行委員会

事前に2回の準備会を行った後、2020年10月に第1回実行委員会が行われました。

まず、5月22日に市民ホールで行うことを確認した後には、公民館学級、ひかり学級、とびたつ会それぞれの新曲を紹介しました。その後の話し合いでは、大枠として一部に劇などを行い、二部のコンサートでは公民館・ひかり・土曜学級・とびたつ会に加えて、上を向く会がそれぞれに歌うことが確認されました。

そして、多くの人が集まりやすい町田駅近隣であること、定期的実施する必要があること、そして何よりも公民館学級のわかそよに向けた強い思いを実現するための場にしていきたいとの理由から、2回目以降の実行委員会は、公民館学級の

活動日の午後の時間帯に、まちだ中央公民館7階ホールで行っていくことが話し合われました。

しかしながら、コロナ禍でのコンサートの実施に向けた話し合いをする中で、今まで通りの形式での実施は難しいのではないかとの意見がありました。例として挙げると、フィナーレのように参加者一同が舞台に上がり合唱する姿は、わかそよの魅力や力強さを伝える印象的なシーンではあります。ただし、コロナ禍の視点から見ると密閉、密集、密接の3密がすべて重なる場でもあります。そのため、フィナーレについては5分割にしたほうがいいのか、観客を入れられるのか、マスクをしたまま歌うのか、動画配信にしてはどうだろうか、感染対策をしたうえでのコンサートの実施方法を考える例年にない悩みを抱えた年となりました。

また、コロナ禍により参加者数の少なさについても話し合われました。これは、一定程度、感染状況が落ち着いた時期であっても本人や家族グループホームなどの判断で参加を控えざるを得ない人がいる中で、第20回という節目のわかそよを実施していいのかという話し合いも同様に重ねられました。このことは、同時にこういった状況だからこそ、わかそよを実施することが自分たちだけでなく、参加することができない人たちを元気づけることにつながるのではとの意見もありました。

こういった実施方法や参加者が例年より少ない中での話し合いではありましたが、毎月実行委員会が行われたことで、2021年2月の第5回実行委員会で、テーマが決まりました。

「歌いつづけよう 伝えつづけよう

～かわること かわらないこと かえていくこと～」

これは、学級ソングを歌い続ける、伝え続けることの大事さであり、コロナに代表される大きな社会情勢の変化があつたとしても、変わることのない大切なこと、変わらないことの大切さ、変えていくことの大切さを訴えていきたいとの、それぞれの思いを形にしたものです。

そして、2021年3月の第6回実行委員会では、第20回はみんなが参加できるときにとっておくため、今回は第何回という形ではなく「若葉とそよ風のハーモニー2021」にすることが話し合われました。

しかし、4月下旬に3回目の緊急事態宣言が発出に伴い、公共施設などの会場が利用できず練習ができなくなったこと、2021年11月から市民ホールが改修工事のため長期休館することから翌年への延期もできないことなどから、市民ホールでの実施をあきらめざるを得ませんでした。ただし、中止にするのではなく、みんなが苦しい今この時期だからこそ何か形にして届けることができないかと話し合われた末の代案として、コンサート録画という方法が提案されました。

撮影日も、当初は市民ホールで行う5月22日が検討されましたが、宣言の延長に伴い練習をすることもできなかつたため、8月に日程変更をしました。

こういった経緯から当初の市民ホールで行う予定だったときの日程と、その後に変更され録画になった日程を掲載します。

当初の市民ホール案

10月～毎月実行委員会

- 3月下旬 結団式
- 4月11日 全体練習
- 4月18日 全体練習
- 4月25日 全体練習（中止）
- 5月9日 全体練習（中止）
- 5月16日 全体練習（中止）
- 5月22日 本番（中止）

変更後の録画撮影日程

- 6月～7月 学級や会でグループ練習
 - 8月1日 全体練習
 - 8月8日 撮影本番
- 6月～7月までのグループ練習では、学級日やとびたつ会、上を向く会のそれぞれの活動日の中で練習を行っていくことになりました。

グループ練習

グループ練習をすることが決まったことで、活動場所、活動日の兼ね合いから多少のグループ間の異動があり、結果として以下のような構成で練習が行われました。

- 「上を向く会」→上を向く会
- 「みんなのいのち」→公民館・土曜学級
- 「私たちの権利」→公民館・土曜学級
- 「平和の輪を広げよう」→ひかり学級
- 「わかそよの歴史」→公民館・土曜学級
- 「この今を生きる」→とびたつ会

また、グループ練習をすることになり、活動場所が増え、人通りが多い町田駅前には参加を控えていた青年たちがひかり学級に参加するという青年もいた一方で、グループへの帰属意識の強さから、自身が本来所属する会への参加を辞退する青年もいました。

なお、このグループでの練習から全体練習、本番までの詳細については、各グループからの報告に委ねます。

全体練習

8月1日のたった1回だけでしたが、健康福祉会館で全体練習を行いました。今まで経験したことのない録画形式でのわかそよの事実上のリハーサルは、以下の形で行いました。

- ① 感染対策のため、午前3グループ、午後3グループの二組に分かれる
- ② 4階講習室が一番広い部屋で2グループが練習
- ③ 2階会議室がカメラや、わかそよバンドが入った中での通し練習

慣れない場所での活動ということもあり、駐車場での乗り降りに手間取ったりすることもありました。

なお、勤務先での集団接種2回目が本番前日という人が特に多かった「平和の輪を広げよう」グループは、この日にリハーサルと本番を実施しました。また、このほかにも様々な事情から本番の日に参加ができないことが見込まれている人もいたことから、完成した動画の中には、この日の映像が一部差し込まれています。

本番

8月8日は以下のように行いました。

- ① 午前2グループ+オープニング、午後3グループの二組に分かれる
 - ② ③については、同上
- 2回続けてやることで少しずつ勝手が分かって

きたことで、4 階講習室での練習から 2 階会議室での撮影という流れがスムーズになりました。

なお、各グループ 15 分～20 分の発表時間のほか、エンディングのために「わかそよテーマの歌」をグループでの発表を終えた後に、追加で撮影をしました。

撮影後

今回の撮影は、グリーンバックで行いました。そのため、撮影後に背景用の写真を用意する時間も必要となりました。また、「わかそよの歴史」グループは、過去のわかそよの動画を差し込むという工程を経て、エンディングロールの挿絵や音源作成などの編集工程を経て、映像作品となりました。完成した各学級や会の活動日に共有しました。家庭や職場などで観覧したという話も聞きました。

2014 年頃からのわかそよの動画はインターネット上に公開していますが、感染対策のあり方について様々な考えがある中で、撮影時の感染対策をめぐって万が一の批判を避けるために、関係者のみが視聴できるよう公開しています。

グループ活動

いのちグループ

1. 集団の特徴

「みんなのいのち」のグループは出生前診断、やまゆり園の事件をテーマに発表を行いました。声を出して歌うことが苦手なメンバーが多く、歌声やセリフのかたちでは表現がむずかしいメンバーが多かったので発表方法に工夫が必要でした。しかし、みんな、いのちの歌を伝えたい、いのちの大切さについて発信をしたいという強い思いを持ってこのグループを選択していました。

2. 活動の様子、評価

(1) 学級ソングに込められた思い

本番に向け発表の構成を検討していく中で、青年学級の学級ソングの中にある、「いのち」や「やまゆり園事件」に関連する歌の制作背景を振り返る活動を行いました。当時歌作りに関わったメンバーを中心に話し合いが進み、楽曲に込められた思いを共有しました。

いのちの歌に関しては、「出生前診断については怒りを感じてばかりいたが、みんなで話し合いを重ねていく中で周囲に対する愛も必要なのだとの考えが生まれた」

「自分自身は生まれないほうがよかった人間だったと聞いた時に絶望していたが、青年学級という場所でなら跳ね返せると感じる事ができた」

「名も無い人間として死んでいくのかとさびしかったけど、認め合えることを実感し、勇気をもらえた」

「人間として認めてほしいという強いメッセージが込められており、ずっと訴え続けたい大切な曲」

などの意見が聞かれました。また、やまゆり園事件に関する歌については、「何度聞いても美しい歌が完成した」「あの事件の後に言葉に表せないほどのどうしようもない想いを抱えていたが、やまゆりの花をそばに返せばいいというメンバーの発言を聞き、救われた気持ちになった」などの意見が出ました。制作当時を振り返りながら、本番に向けいのちに対するそれぞれの想いを知る大切な時間になりました。

(2) やまゆり園事件について

メンバーの意見を発表していく際により想いが伝わるようプラカード用いることがメンバーから提案されました。本番に向け準備が進んでいく中で、プラカードの作成をしていた際に、やまゆり園の事件について一人の青年から以下の意見が出されました。

「犯人へ わたしたちはことばだけを にくんでいる あなたもおなじ人間だ」

グループのメンバーも驚く発言で、「このような考え方をしたことがなかった」という言葉が多く聞かれましたが、この意見を基に改めて、事件について深い話し合いをすることができました。犯人という人間よりも、犯人が行った「行為」そのものを憎んでいるのだという訴えから、犯人の思考や行為に疑問や怒りを持ち、そのものに対しては同じ人間であるにとらえられることは容易ではないことですが、起きてしまった事件を受け入れ、次につなげようとしていることが伺える発言であったと思います。

(3) 評価

声で気持ちを伝えられるメンバーよりも、筆談を通して意思表示を行うメンバーが多く、筆談による話し合いによって、早いうちに歌う楽曲や歌合間のメッセージ内容など発表の流れを決定することができました。また、「なぜ、このグループを選んだのか」などについても繰り返し話し合いを重ねることで、より伝えたいメッセージを明確化することができました。

メンバーの意見を発表する場面では、プラカードにそれぞれのメッセージを書いたものを、声の出せるメンバーが読み上げる方法で取り組むことにしました。今回の若葉とそよ風のハーモニーコンサートはコロナウィルスの影響もあり録画で行いましたが、録画当日に読み上げるメンバーが欠席ということも重なり、担当者の方で読み上げるようになってしまったのが残念でした。しかし、それぞれのメッセージをしっかりと伝えることができたことは良かったと思います。

また、録画当日は参加できないメンバーが、1週前の活動の中で作文の朗読を行いました。後から編集で発表の中に組み込みましたが、ダウン症当事者として力強い言葉が伝わるものとなりました。

当日に関しても、声で伝えられる数少ないメンバーが、懸命に声を出して頑張ったことで、他のメンバーも、気持ちを堂々とした表情や姿で表現することができました。

3. かだい てんぼう 課題と展望

【撮影本番について】

通し練習をあまり行うことができず、本番に参加できる人数も不透明であったこと、また撮影も午後一だったため、なるべくスムーズに撮影できる

よう撮影当日の午前中に担当で流れや方法を整理する時間を設けました。プラカードはできる限り青年が持ち、自らの声で発言できない青年の文章は担当者が代読する形になりました。事前に細かく打ち合わせを行えたことで本番はスムーズに撮影を行うことができた点は良かったと思います。反省点としては、今回は時間の都合上不可能ありましたが、「自分の声で伝えられることが嬉しい」という青年の想いを尊重し、代読の場合も担当者ではなく、青年が行えるように、事前に声の出せるメンバーが代読をし、収録するなどの工夫をすべきであったことです。

【動画編集に関して】

動画の編集に関しては、青年に意見を聞いたところ「グリーンバックは無くしたい」という意見以外は「担当者にお任せする。」という意見が多く出たため、担当者が画像作成及び写真選択を行いました。工夫した点としては、背景は隠れてしまう箇所が多いため、なるべく画面上に素材を配置するようにしたという点と、感謝状を表示する際に人物で隠れて読めないことを回避するようにした点です。

また、青年の写真を使用する際も、背景に写真を用いると写真が見えにくいことや、全画面に表示すると参加している青年が見えなくなるため、左右交互に表示してもらうように工夫をしました。

話し合いの段階では、青年から「絵を取り入れたい」という意見もありましたが、今回は活動時間が限られていたことなどもあり、実現することができず、この点は課題となりました。先の事を見通し、青年の意見が反映できるように、活動を組み立てるようにしたいと思います。

☆みんなのいのち台本☆

(作文朗読)

ぼくはしゅっせいまえのしんだんについていいたいことがあります。
ぼくはしゅっせいまえのしんだんをもしやったらうまれてくることのできなかつたダウンしょうのになげんです。
もし、ぼくがうまれてこなかつたら、やさしいかあさんにもあえなかつたし、すてきななかまにもあうことができませんでした。
こういうおもいをできないままなくなつていったなかまのことをおもつと、まいにちきもちがゆううつになります。
どうにかしてぼくは、ダウンしょうというしょうがいがあつてもしあわせなじんせいをあゆめるようにしてほしいです。

♪①いのちのことば

ぼくらは いかりをかんじてる うばわれるべき いのちなどどこにもない
生きることこそ すばらしい 生まれなければ かんじないこと
生きているぼくらは 知っている ぼくらのこころの声を きいてほしい
生きていてよかつたと 生まれてきてよかつたと
この声でこの歌で 伝えたい とおといいのち
ぼくらは 愛をかんじてる だきしめる 母のぬくもり
手をひく父の 大きな手 あなたが生んでくれた このいのち
たいせつにぼくらは くらしてゐる すべてのいのちの かがやきを かんじてほしい
生きていてよかつたと 生まれてきてよかつたと
この声でこの歌で 伝えたい とおといいのち

プラカード① 「お父さん、母さん、ありがとうぼくたちにいのちをくれて」

♪②ありがとうのうた

あなたにおくるかんしゃじょう だいすきなかぞくへ
あいをこめててがみを かきました えいようたつぷりの おいしいごはん
ぼくら3きょうだいを がっこうへ あしばのわるいところを よけてくれる
おとうさんかあさん あなたのこどもにうまれてよかつた いい子でいたいけど

なかなかできなくて もどかしい なまえをよばれるたびに
あいされていることを かんじます ありがとうあいしてる
きもちをたくさんこめてうたうよ
あなたにおくるかんしゃじょう たいせつなあなたへ
かんしゃをこめててがみを かきました たいこのたのしさ おしえてくれた
みんなとまいにち はたらける がっきゅうのなかまと きょうも ささえあえる
せんせいともだち なかまにたくさん めぐりあい
しあわせとゆうきを たくさんわたしは もらってる
なまえをよばれるたびに あいされていることを かんじます
ありがとうあいしてる きもちをたくさんこめてうたうよ

プラカード② 「うまれてくるちいさないのち」

プラカード③「いのちの灯をまもろう」

プラカード④「いのちのかちはみんなおなじ」

”

♪③みんなのいのち

小さいなみだがずっと ほほをしずかにながれた
みんなを なきものにするという つめたい言葉をきいて
われわれが 生きてゆける場所は もうどこにもなくなりそうだ
もうじき 夜明けがくると おもっていたけれど
どこにも その気配さえ みられなくなった
人間としてのみんなの尊厳（そんげん）を ごんごと わきいづる 清水のように
うったえていかななくてはならない 未来に向かって
どんないのちも平等（びょうどう）だ そんな言葉がなつかしい
震災（しんさい）のときの やさしさを もうみんな忘れてしまったの
小さいときからぼくは 差別（さべつ）にくちを ふさいできたけれど
もうだまってはられない ぼくたちの声をとどけたい
おなじ空気をすって おなじ水をのみ
おなじ血がながれている おなじ人間だ
人間ということばが これ以上 こわされないように

人間としてのみんなの尊厳（そんげん）を どんどんとわきいづる 清水のように
うったえていかななくては ならない未来に向かって未来に向かって

ブラカード⑤ 「いきるいみはぼくにもある」

♪④やまゆりにささげるうた

ことばがあったことを だれにも知られることもなく むざんにちったやまゆりに
今ささげようこのうたを まっすぐのびたやまゆりは
けだかく空を みあげているが やまゆりのひとみは なみだにぬれて うるんでる
どうして花を あしげにしたの 花は二度とはもどらない
いのちをやどすものはみな たくさん意味をせおってる
かえがたいいのちを もう一度 よみがえらせる きせきはどこと
どんなにさけべど空は こたえてくれない

♪⑤えいえんのやまゆり

あの青空にうつくしい やまゆりの花をささげよう
やまゆりの花のさく場所は この大地からあの空へ
やまゆりのたましいは 永遠だから あの青い空へ やまゆりのたましいを
こころをこめて ときはなとう

ブラカード⑥ 「犯人へわたしたちは言葉だけを憎んでいる。あなたも同じ人間だ」

ブラカード⑦ 「ずっとぼくたちは頑張って生きてきた」

ブラカード⑧ 「みんなのいのちには意味がある」

ブラカード⑨ 「わたしも人間だ」

♪⑥つながるいのち

いのちいのちいのち かがやけいのち
ねがいと りそうの みらいへ つながれいのち
生まれたいのちはみんな たいせつだから

みんなで手と手をつないで 支えあっていこう
つながる輪から パワーがあふれ
みらいへと いのちを つないでいくでしょう
いのちいのちいのち かがやけいのち
ねがいと りそうの みらいへ つながれいのち
泣いている人がいたら となりにすわり
たのしいことがあったら いっしょにわらおう
笑顔は心のえいようだから
いっしょにわらって 元気になりましょう
いのちいのちいのち かがやけいのち
ねがいと りそうの みらいへ つながれいのち

わかそよ けんりグループ

【3/28 練習・話し合い】

最初のけんりグループの話し合いでは、まず、なぜ「けんり」のパートを選んだのか、どんなときに権利を訴えたいと思ったかを聞きました。

- ・「自分で住む場所を選びたい」
 - ・「自由に仕事を選んだり将来のことを決めたい」
 - ・「自分たちで決める権利があることを伝えたい」
- また学級や練習に参加できていない仲間への想いも語られました。
- ・「いつもと違うわかそよに戸惑っているけれど、亡くなった仲間や会えていない仲間の分も頑張らないといけない」
 - ・「ここは、僕たちの生活の悩みを話し合っ共有できる場所、みんなの分も伝えたい」

主に「くらし」「仕事」「仲間」についての話が多く出たので、けんりグループとして伝えたいことを、まずこの3つにまとめて台本をつくっていくことにしました。

歌う歌については、この時点では、

- ・「ともだちのうた」
- ・「わたしぬきにきめないで」
- ・「わたしのしごとのうた」
- ・「あっぱれなじんせい」
- ・「ガッツ&ビート」が候補として出ていました。

【4/4 練習・話し合い】

前回出たテーマの「くらし」「仕事」「仲間」を元に、そこから権利として伝えたいことは何かをさらに深めていくために、話し合いました。

- ・「僕たちが生活の中で不自由さを感じていることを伝えるとリアルなメッセージになると思う」

・「ゆっくりご飯が食べられたり、お風呂に入ったり、友達と好きな時に連絡をとったりできる生活の場を自分で選びたい」

「周りの人たちは僕のことを思って生活のことを決めているけれど、僕の気持ちを聞いてほしい」

・「職場で感染が心配で休んでいる人がいる。学級にも来られていない人がいるから元気な歌を届けたい」

話し合いを重ねることで、「台本にみんなの言葉やエピソードを反映させていくことでリアルなメッセージが伝えられる」という意見が出て、そこから、メンバーが生活の中で感じていることや置かれている状況を表現した台本作りのイメージができていきました。

【4/11 練習・話し合い】

この日は主に仕事ついて話し合いました。

- ・「仕事で怒られたりすると自分に合っていないのかなと思う。一般就労で働いていたことがあったけれど店長がころころ変わって大変だった」
- ・「ここでは言葉で話せるけれど職場では話せなくなってしまうので、理解してもらえないので困ってます」
- ・「今はフロア清掃をしているけれど、青年学級の時間もあるから、仕事も楽しめる、がんばれる」
- ・「私たちが最高の人生を歩んでいくためにどういうことができるかを話したい」

「仕事」について表現したい部分が形になっていきました。

【4/18 練習・話し合い】

ここまで、どんな権利を訴えていくかについて

話し合いましたが、実現させたいことについての意見が出てきました。

・「筆談で言葉を伝える時間をつくりたい。これがぼくの言葉なので、しっかりと伝えていきたいです。この方法をもっと認めてもらいたいです」

・「みんなで NHK パークに行ってキャラクターと遊びたい。」

またけんりグループで歌う歌について、いろいろな人の人生が歌詞になっている「おいたちのうた」を提案したところ『タイトルを「ゆめのうた」にして、みんなの想いを歌詞にできたらいいと思う』という意見が出て、メロディーは「おいたちのうた」で、新しい歌詞をつくることになりました。最終的に歌のタイトルは「てんぼうのうた（おいたちのうた）」になりました。

そして、「くらし」「仲間」「仕事」というテーマに「ゆめ」というテーマも加わって台本をつくっていくことになりました。

【6/20 練習・話し合い】

ここまでつくってきた台本を最初から通してみたところ、

・「伝わりやすくしてシンプルなメッセージにしたい」という意見が出ました。

グループホームの事情で参加できないメンバーが、けんりのパートに参加したかったという話を聞いたので、練習の中で電話をかけて話をしました。学級では同じコースのメンバーと「元気？会いたいよ」と話しました。

その電話でつないだメンバーが書いた作文があります。その作文について「大事なメッセージを伝えてくれるから読みたい」という意見が出ました。

みんなに合えない状況でも希望を忘れずに前に進んでいく、という内容です。

学級やわかそよに来られていない仲間へのメッセージを伝える部分で、読むことになりました。

【7/4 練習・話し合い】

台本について、今まで作ってきたものを改めて確認しました。

・「恋のことをセリフで言いたいです」

・「歌のダンスを考えたい」

歌については、ただ歌うのではなくて動きをつけることになりました。「わたしのしごとのうた」に「きっとはなさくだろう」という歌詞があります。その時にみんなで花の絵をかかげることになり、絵の作成を行いました。

歌のタイトルにもなっている「わたしぬきにきめないで」という言葉もけんりグループとして重要なメッセージになるということで、この言葉も書いてかかげることになったので、プラカード作成も行いました。

それから、東京都議選があったことから、今回投票に行ったメンバーから、権利について伝えたいことがあると話がありました。このメンバーは筆談で投票をしました。

・「投票で候補者の名前を書く時に、人に手を添えてもら必要があるけれど、それだと本人の意思かどうかわからないと言われた。僕に意思がないかのような対応だったので、僕たちにも投票する権利があることを伝えたい」

今回出た意見を踏まえて、みんなが自由に恋愛する権利、投票する権利についても伝えることになりました。

【7/18 話し合い・練習】

練習としては最後となったこの日は、どのセリフを誰が読むか決めました。

また歌について、「わたしのきもちをつたえたい」を歌うことになっていたのですが、他のグループとかぶることになったので、急遽、けんりグループは、土曜学級のメンバーが多いことから土曜学級でつくられた「じぶんらしく」を歌うことになりました。そして、自分らしく生きていくことについてのセリフを加えて、土曜学級のメンバーが担当することになりました。歌に動きをつけるために、「じぶんらしく」の「ゆっくりいこう」というサビの部分で、歩くように身体を動かすことにしました。

【台本の構成】

最終的に以下のことを表現することになりました。

- ・「不自由さを感じていること」
- ・「恋愛する自由」
- ・「投票する権利」
- ・「言葉があること・意思があること」
- ・「仕事の選択肢がもっと欲しい」
- ・「住む場所を自分たちで選ぶ」
- ・「会えない仲間の言葉を代わりに伝える」
- ・「学びの場である青年学級の大切さ」

また障がい者権利条約に触れることで青年学級の位置づけができるので、条約によって青年学級で学ぶ自由が保証されていること、それを維持していくためには、障がい者権利条約を自分たちで守っていく必要があるということもメッセージとし

て伝えることになりました。

【最終的に決まった曲目】

1. 「わたしぬきにきめないで」
2. 「わたしのしごとのうた」
3. 「自分らしく」
4. 「あっぱれなじんせい」
5. 「てんぼうのうた（おいたちのうた）」

【8/8 本番を終えて振り返り】

- ・「いつもより緊張した。みんなに見てもらえるように楽しくやった。いろんな人に見てもらいたい。」
- ・「緊張しましたが、うまくセリフ言えました！つぎはカホン(楽器)も。」
- ・「(筆談)みんなのいいところがこののんびりとした時間も合わせていい発表になったと思います。このグループで一緒に書いたりして意見が言えてよかったです。来れなかった人たちの分も伝えられたと思います。」
- ・「緊張して、うまくセリフが言えなかった。やってみてよかった。」
- ・「よかった。ありがとうございます。すごく楽しかった。歌いたかったから楽しかったです。またやりたい。今度は市民ホールでやりたい。」
- ・「(筆談)いい意見を言うことができてよかったです。この声で言うことがいちばん大事だと思っているので、声でセリフを言えたのはとても嬉しかったです。歌も声はたくさんだしました。このままコロナがいなくなっほしいと思いました。いいことはたくさんあったけど、コロナが関係ないことにならないといい活動ができないので早くコロナがいなくなっほしいと思います。みんなで

感染に気をつけて、また書いたりしていきたいです。これからもよろしくをお願いします。」

・「(自分で紙に書く)ぼくは歌が楽しかった。みんなで歌をうたいました。踊りを踊りました。また歌いたいです。」

・「(筆談)歌がとてもよかったと思います。みんなの想いがとてもよく伝わる内容の歌詞になっていて、とても感激しました。おいたちのうたの新たな始まりのように感じています。いい歌詞なのでこれからたくさん歌っていきたいと思います。このやり方のこともいろんな人に知ってもらえるいいと思います。」

・「歌がよかった。セリフじょうずに言えました。みんなでやれてよかった。」

・「この場に来れている僕たちが仲間の言葉を伝えていくことは大事なことです。これからも来れていない仲間の言葉を伝えていきたい。」

【てんぼうのうた(おいたちのうた)】

この歌の歌詞は、けんりグループのみんなの意見から作りました。

みんなが伝えたいことがこめられています。

「てんぼうのうた(おいたちのうた)」

1.いろいろなおもいをもって わたしたちはここに
いる
はなすことができなくても みんないしをもって
いる
さべつにいきりやかなしみを こころのなかでい
だいてた
じぶんのことはじぶんできめたい わたしのこと

ばをきいてほしい

2.じぶんにあったしごとを わたしたちはさがし
ている

いまできることだけでなく ちょうせんだってし
ていきたい

つらいこともあるけれど じんせいをゆたかにし
てくれる

じぶんのためにだれかのために かのうせいをひ
ろげたい

3.いろいろなひとにであって わたしたちはここに
いる

いまはあえないなかまたちを ずっとところにお
もってる

ともにすごしかたりあったひび あなたのえがお
おもいだす

なかまがたいせつにしてきたおもいを みんなで
かたりつづけよう

4.いろいろなことをかんがえて わたしたちは生き
ている

なかまたちとささえあい ぼくらのけんりをうた
っていく

たとえしゃかいとかべがあっても そのかべをぼ
くたちはくずしてく

ああもつとぼくらがかがやける そんなせかいを
つくっていこう

ああもつとみんながかがやける そんなせかいを
つくっていこう

わかそよの歴史グループ

6月20日

参加者…公民館学級生7名、土曜学級生1名
はじめに、わかそよの、前回公演までの内容や、
今まで観たビデオの感想を出し合い共有しました。
経験の長い担当者から、わかそよの歴史の話しを
しました。その後、参加者の今の生活についても
話し合いました。

「自宅で一人暮らしをしていた時は、ヘルパーさん
が来て、夕飯を作ってくれた。洗濯は自分で行
っていた。

「ショートステイでのお風呂は、昼間でなく、僕
は夜に入りたいんです」などの話が出ていました。
*わかそよで伝えたい事を話しあいました。

わかそよの歴史の話しを聞いて「歴史がわかっ
た」

「僕たちが何かして感じることや、考えているこ
とを伝えていけたらいいと思っています」「僕が話
したいのは、当時の仕事、生活、学級について、
色々な思いがありました。今もあります。それが
うまく伝えられないのがもどかしいです」

参加者の、気持ちや、わかそよへの思いを改め
て、確かめ合う時間となりました。

7月4日

参加者…6名 他のグループから1名移動
1名の学級生は、感染拡大の広がり、参加を取
りやめました。

*イメージ台本を確認

わかそよのスタート

学級ソングが完成したこと

1学級生の思いから、学級生の皆と一緒に
コンサートをして、お客さんがいっぱい来
てくれたこと。

町田の青年学級で、リーダーとして活動していた
青年が都内の本人活動の会に加わり、日本の制度
の「精神薄弱者」という名称を「知的障害」と変
える事が出来たこと。

最近のわかそよで取り組んだこと。

*わかそよで歌う歌の候補を出しました。

「ぼくらの輝き」「ともだちのうた」

「ひとつのいのち」「私の気持ちをつたえたい」

「夢にのせて」「わかそよテーマのうた」

参加者から「ギターを弾きたい」という要望が
ありました。

*当日のピアノ演奏者のピアノで、リズム、メ
ロディーの確認をしました。

7月18日

参加者…8名

*台本を読み合わせ、言いやすいように修正し、
だれがどこを言うか確認しました。

*読み合わせ練習

*ピアノ演奏者とギター演奏者と学級生で、歌
う歌を確認しました。

ともだちのうた【1番のみ】/学級の様子の映像
をながし、歌を歌う

ぼくらのかがやき【1番のみ】/ガヤガヤした音、
町の騒然とした映像をながす。

ぼくらの思いを or 君だけに輝く【サビ】/学級
生の当時の映像を映す

夢にのせて/高坂さんの写真を写す。

署名活動の歌【1番】

わたしのきもちをつたえたい

8月1日

リハーサル 健康福祉センター

参加者…7名

*セリフなど最終確認

*立ち位置確認

*歌、セリフ練習

前方のスライドの台本にルビがなく、紙台本のよ
うにスムーズにセリフを言えないところを反省し、
本番に備えていくことにしました。

8月8日

ビデオ収録本番 健康福祉センター

参加者…7名 担当者5名

実行委員で、最初から意欲を持って取り組んで
いた学級生は、本番では、完璧に台本を暗記して
ほとんど自力で、セリフを言っていました。

ギターを弾きたいとって意気込んでいた。

学級生は、ギターの調整ができてなくて、本
番前に急遽、担当者が調整をおこない差し棒での
支援で完璧に弾くことができました。

ギターを演奏した学級生の収録終了後の満
足そうな様子は、印象的でした。

リコーダーを吹いた学級生には、もっとソ
ロのフレーズを演出できたらよかったかと

の反省がありました。

わかそよ経験の長い2名の学級生は、セリフや歌声も通りが良く、発表をリードしていました。わかそよの歴史を刻んできた2人の学級生の姿に、ここまでの学びのすばらしさを感じました。

本番、予防接種の副反応で体調悪く、収録に参加できず残念でしたが、リハーサルの時のセリフを言っていた映像を差し込むことで参加することができました。

「わかそよの歴史を学びたい」と取り組んできたわかそよ2回目経験の学級生は、話し合いの時から一生懸命な姿が伝わってきました。「歴史のグループに参加していろいろなことがわかりました」と感想を述べていました。これからの新しい学級生への橋渡しとなっていく存在が現れ、成果を感じました。

わかそよの歴史の台本

- K.Y=このコンサートは青年学級からはじまりました。青年学級では音楽(おんがく)や劇(げき)、ものづくり、自然(しぜん)に親(した)しんだり、スポーツにもとりくみました。フォークソングをいっぱいうたいました。
- A.K=もっと自分(じぶん)のきもちをうたでつたえたいなあ
- F.Y=自分(じぶん)たちで歌がつくれないかあ〜
- O.N=ぼくがギターを弾(ひ)くから歌ってみて
- K.Y=「♪ともだちを♪もっと♪たくさん♪つくりたい」(O.Nさんのギターに合わせて)
- うた「ともだちのうた」【1番のみ】/学級の様子
の映像をながし、歌を歌う
- K.Y=「じゃあ、みんなに聴いてもらえるように市民(しみん)ホールでコンサートをしよう」
- Y.K=「えー！ そんなの無理(むり)だよ」
- A.K=「大丈夫(だいじょうぶ)、きっとできるよ」
- K.Y=「よーし、ぼくがチケットを売(う)ってこよう！」(K.Yさんステージ中央に移動)
- (K.Yさんの車いすには「チケット買ってください」の看板を掛ける)
- K.Y=「すみませーん、今度(こんど)の日曜日に、ぼくたちのコンサートがあるんです」

担当者1=「じゃまだよ」

担当者2=「きょうみないね」

担当者3=「へー、君たちがやるんだ、チケットはいくら？」

K.Y=「1枚(まい)1000円です

担当者3=「じゃあ一枚もらおうかな」

K.Y=「ありがとうございます！」

みんな=「やったー！」(みんな前にでてくる)うた「ぼくらのかがやき」【1番のみ】/ガヤガヤした音、町の騒然とした映像をながす。

F.Y=「やった、すごいよ、お客さんまんいんだったよ」

O.N=「お客さんがいっぱい拍手(はくしゅ)してくれたね」

K.Y=「チケット買ってくれた人(ひと)もきてくれたよ」

Y.K=「また来年もコンサートをやろう！」

みんな=「おー！」

K.H=ハーモニーコンサートで仕事(しごと)や

自立生活(じりつせいいかつ)、性(せい)や結婚(けっこん)のことなど、たくさん
のことにとりくみました。

Y.K=「ぼくはミュージカルの主役(しゅやく)を演(えん)じました」

うた「ぼくらの思いを」or「君だけに輝く」【サビ】
/学級生の当時の映像を映す。

うた「ぼくのおもいを」:Y.Kさん当時の映像を流す。

K.H=わたしたちは社会(しゃかい)にもよびかけました。

K.Y=「ぼくたちは精神(せいしん)薄弱者(はくじゃくしゃ)なんて呼(よ)ばれたくない」

Y.K=「聞いてよ！ぼくたちの意見(いけん)で、とうとう法律(ほうりつ)の言葉(ことば)が変わったよ」

うた「夢に乗せて」高坂さんの写真を写す。

K.Y=「この町(まち)でくらせるようにグループホームをつくるための署名(しよめい)をおねがいしまーす」

みんな=「おねがいしまーす！」

K.Y=「署名(しよめい)をおねがいしまーす」

うた「署名活動(しよめい)のうた」【1番】

K.H=今では、わたしたちのまちには、たくさん

のグループホームができました。

F.Y=わたしたちのねがいは この町(まち)でく
らしていくこと

みんな=「生きること！」

K.H=わたしたちは命の大切さについて 話し合い、
たくさんのうたをつくりました。

A.K=いろいろな方法で、ことばや思いも 伝えら
れるようになりました。

うた「わたしのきもちをつたえたい」

K.Y=若葉とそよ風のハーモニーコンサートは
社会とつながっていくために、これからも
かつどうをつづけていきます。

♪署名活動の歌♪

1 みんなでまちへくりだそう

今日はしょめい活動日

ちょっとドキドキするけれど

おおきなこえをだしてみよう

みんなでまちへくりだそう

今日はしょめい活動日

2 みんなでまちへくりだそう

今日はしょめい活動日

みんなのくらしをまもるため

ゆうきをだしてよびかけよう

みんなでまちへくりだそう

今日はしょめい活動日

♪ともだちのうた♪

1 ともだちともっと いろんな話がしたい

ともだちをもっと たくさんつくりたい

仕事が終わって うちに帰ったとき

だれかに電話を かけてみたくなる

病気で休んでる みほさんは

今ごろどうして いるだろうか

ともだちともっと いろんな話がしたい

ともだちをもっと たくさんつくりたい

2 ともだちともっと

いろんなところへいきたい

ともだちをもっと たくさんつくりたい

私の車イス 押してくれる

友だちといっしょに まちへでたい
ひとりじゃつまらない

映画やコンサート

ともだちといっしょに でかけたい

ともだちともっと

いろんなところへ行きたい

ともだちをもっと

たくさんつくりたい

♪夢にのせて♪

1 だれにもじゃまされないで

自由に生きてみたい

どこまでもつづけ どこまでも走れ

ぼくのサイクリングロード

わたしのブルーバス

だけど すきな人と

ふたりでくらすのも

ぼくのゆめ

どうしたら すきと言えるかな

結婚できるかな ふたりではたらくのも

2. みんなのしあわせ それは

わたしのしあわせなの

かなわない夢でも たいせつなことは

ゆめをもつこと わすれないこと

♪わたしの気もちを伝えたい♪

いろんなひとたちの れきしのうえで

いまなにが つたえられるだろう

たくさんのことばが ここにあつまって

つながってほしい わたしのおもい

1 いまはいない わたしのなかまは

このぶたいで なにをはなしただろう

おおくのこんなんをのりこえてきたから

ことばにやさしさ あふれている

さべつにこえを あげてきたから

いのちのかちを いまつたえる

いろんなひとたちの れきしのうえで

いまなにが つたえられるだろう

たくさんのことばが ここにあつまって

つながってほしい わたしのおもい

2わたしのきもちが わたしのなかに
そのおもいで ステージをかざりたい
わたしたちのきもちはないように
あつかわれてきたからこそ
つたえたい
いのちがあるから かがやける
いのちのかちを いまつたえる

いろんなひとたちが ここにあつまって
わたしのかがやき いまみつかる
わたしたちのいのちは
みんなといっしょに
いまここに かがやいてる

【転調】

ぼくらのれきしは これからもつづいて
つぎのひとたちに つたわっていく
ことばはそれだけで いみがあるけど
かんしゃとともに ひろがってほしい

平和の輪を広げようグループ

1. 集団の構成

4月の全体練習までは希望のテーマに応じたメンバーで構成されていました。緊急事態宣言明けの6月からは、各学級での活動となり、元々ひかり学級のメンバーが多かった「平和の輪を広げよう」グループにひかり学級として所属することになりました。

2. 集団の特徴

グループ名は、とびたつ会の歌「輪をひろげよう」をイメージして「平和の輪をひろげよう」と付けました。

6・7月の学級日では、普段わかそよに参加しないメンバーも小物づくりや話し合いに加わり、学級全体で臨めたのも例年とは違う特徴です。

3. 活動のねらい

- ・東日本大震災から10年、やまゆり園事件から5年、コロナ禍、私たちの暮らしについての4つを柱に、それぞれで伝えたいことを考える。
- ・普段わかそよに参加していないメンバーも参加できるきっかけをつくる。

4. 活動の様子と評価

3月28日 結団式

平和グループで伝えたいテーマと発表方法について話し合いました。東日本大震災から10年、やまゆり園事件から5年、コロナ禍など具体的なテーマが浮かびました。

4月4日 全体練習

具体的なテーマから関連する歌を歌いながら選

曲していきました。発表方法については、ミュージカルと紙芝居を融合させた、ミュージカル紙芝居という案や、背景に写真や絵を入れようとの案も出ました。

4月18日 全体練習

発表内容として、「コロナの影響で生活が変わったこと、やまゆり園事件で多くの仲間が亡くなったこと、震災から10年経ったこと、コロナで変化した自分たちの暮らしについて」と絞られ、歌も5曲に選曲されました。

6月6日 開級式

ひかり学級として平和グループに参加することを確認しました。4月まで練習に参加していなかったメンバーもいたため、改めて「平和を感じる時」、「コロナが収まったらやりたいこと」について話し合い、発表の歌も見直すことにしました。

6月20日 学級日

半日の活動のため時間に制限がありましたが、話し合いをしながら候補曲を歌っていきました。

7月4日 学級日

話し合いで、「ピッカピカのころ」「菜の花を咲かせよう」「大切なこと」「ぼくらの応援歌」「いきてゆこう」を発表することに決まりました。曲のイメージを出し合い、台本を考えました。

7月19日 学級日

本番参加するメンバーは練習、本番に参加できないメンバーは、発表で使う小物を製作しました。曲紹介のセリフを決めたり、振付の練習、練習風景を撮影したりして本番に臨みました。

8月1日 本番

他のグループは8日が本番でしたが、この日に参加が多かったため、急遽撮影本番となりました。

ピアノとギターとの音合わせは当日が初めてでしたが、通し練習を重ねていたため大きなミスなく終えることが出来ました。

今回のわかそよは、ひかり学級として取り組めたことが、例年とは大きく違う点です。コース活動ではない新鮮な取り組みとなりました。2020年度は仲間と集い、歌を歌う機会が少なかった分、わかそよはひかり学級の勢いと団結を取り戻すきっかけになりました。担当者も学級ソングを覚え、担当者同士の結束も強くなりました。今後の学級活動を進めていく上で、自信につながる経験でした。

また、一人ひとりにとって「平和とは何だろう」と考えるきっかけになりました。自分のやりたい事を自由にやれる日、普段通りに絵を描くこと、みんなで話し合いをしてみんなで伝えあうこと、自由に青年学級の活動をすること、みんなと思いを共有する時間、みんなが1日中笑えること、家族に会える時、クリスマス会や誕生日会、仕事をしている時、何もしていない時、青年学級、青空を見ている時、誰かと一緒にいる時、仕事でお礼を言われた時…。時間が限られたため、全てを形にはできませんでしたが、語り合ったことを歌にしていたら、より深みのある内容になったことでしょう。

5. 課題と展望

(1) 課題

意見をたくさん出し合いましたが、新曲の歌詞に載せる、テロップに出す、作文で伝えるなど表現方法をより探す必要がありました。「何を伝えるか」と同時に「どう伝えるか」も話し合えると良

いかかもしれません。

また、参加人数について、ひかり学級の半数程度で、公民館学級の参加率に比べてかなり低いものでした。感染者数の爆発的増加、健康福社会館の距離的な条件、ワクチン接種のタイミングの悪さ等、向かい風の要素が多かったとは言え、わかそよへの思いを感じる青年が少なかったように感じます。

学級という土台の上にわかそよが成り立っていることを考えると、日頃の学級活動から、学習成果を地域に発表する機会を大切にする必要があるのかもしれない。学級の中でもわかそよの歴史に触れたり、学級活動の中で社会に伝えたいことを話し合ったりする機会が増えれば、わかそよの舞台に立ちたいと臨む青年が増えるのではと期待します。

(2) 展望

困った時には傍で「大丈夫」と言ってくれる人がいて、自分は一人ではないと思える環境がある。今回のわかそよは、学級にはそんな平和な時間が流れていることに気付かせてくれました。

今の青年学級には、地域との交流を図ることが、自分たち自身に新たな気づきを生むのではないのでしょうか。わかそよ含め、一つ一つの取り組みが、青年学級が主体的な実践者として共生社会に向けた取り組みになるのではと考えます。

2022年夏にはひかり学級30周年式典を予定しており、10年分の歌、歌にまつわるエピソードを集め、台本を構成しています。それを弾みにして、2023年のわかそよ、2024年の青年学級50周年に向かっていきます。

6. 台本

M1 ピッカピカのころ

「菜の花を咲かせよう」という曲は、優しい花が元気に咲いていって、菜の花が風に揺られて気持ちよく新しい花を咲かせてよ、という曲です。ひかり学級のみennaと話した意見は、「命の大切さを伝えたい」「菜の花を大切にしたい」という気持ちを込めた歌です。僕が作った歌詞に、みんなの気持ちを合わせて完成しました。歌詞に曲をつけてもらってうれしかったです。皆さんと一緒に菜の花を咲かせましょう。聞いてください。

M2 菜の花を咲かせよう

お母さん、私を産んでくれてありがとう。
長生きして。私はグループホームで洗濯、掃除、ゆずのメンバーと、がんばっているから。
8月にはかがやきでワクチンを打ちます。お母さん元気でいてください。わがママを言ってごめんなさい。いつまでも長生きしてね。
私、会いに行くからね。
大切なことは、振りに注目してください。
わたしは、ともだちや仲間が大切なことです。
一番たいせつです。聞いてください。

M3 大切なこと

東日本大震災から10年がたちまちした。
被災した東北の人のために、この曲を作りました。
とどいていますか！
わたしたちの声 みんなつながっています。

いっしょにあるいていきましょう！

M4 ぼくらの応援歌

うましめんかな 朗読

M5 いきてゆこう

菜の花を咲かせよう

加藤 功治

Ribbon
Clarinet

A D E7

なのはなを さか せよう なのはなを さ

E A A D Bm

か せよう なのはなが さいたなら きつと わたしたの
あんなの

E7 A D E7

こころにも ちがったからしめようが ささくこころでしよ
あたらしいはな

A ⊕ A F#m Bm

う

E7 A Bm E7

つちにこぼれたら ちいさなね たのしいおんがく
ゆめをみながら なのはなはー たかせにゆられて

A F#m D E7

まきながらく いのちは よるこびに ふるえていた
きもちよく あたらし いはな を さーかせた

A ⊕

るよ

コロナ禍の今を生きるグループ

1 2021年3月28日実行委員会での話し合い

参加者は16人（とびたつ会11人、公民館学級3人、ひかり学級1人、土曜学級1人）でした。コロナ禍になって困っていること、わかそよで伝えたいことなど話し合いました。

- ・「ひだまりの音」をうたいたい。
- ・コロナがおさまってもらいたい。そのために手洗いとうがい。
- ・コロナが終わってみんなで出かけたい。歌をうたいにいきたい。家ではたいくつ。
- ・暗い話はやめてくれ！4月花見もない。

困っていること

- ・彼女に会いに行けないこと。
- ・電車のイベントがなかったのでもつまらなかった。
- ・社員旅行に行けなかった。
- ・ワクチン接種まだかなあ
- ・グループホームの食事は順番にたべなければならぬ。それも15分ぐらいで。前のようにみんなでゆったり食べたい。
- ・かなり長い間、自宅で過ごすことになって、動きや関心が制限されてしまい、牢獄につながれているような気になりました。みんなに絶望しないで希望を持とうと伝えてください。

2 歌づくりと選曲

① 「ひだまりの音」

とびたつ会メンバーの稲村宏美さんが、コロナになって、会いたくても会えなくなってしまった友人を思い、書いた詩を歌にしたものです。

② 「ダメダメダメソング」

実行委員会の中で、コロナ禍になって困っていること、できなくなったことなどを話し合ったことを歌詞にした歌です。

③ 「自由」(コロナ禍バージョン)

とびたつ会の歌「自由」の3番をコロナ禍の状況に合わせて歌詞を作り直したものです。コロナ禍などの「緊急事態」の中で奪われてしまう「自由」「選択」をどのように考えるべきか。一方的な制約ではなく、丁寧な対話を重ね、共感をはぐくむことこそが、「わたしぬきにきめないで」のスローガンに表れる一人ひとりの人権を大切にすることではないかと、話し合いました。それを歌詞にしました。

④ 「あたりまえのうた」

青年学級の初期の担当者で、人形劇団ひぼぼたあむを主宰する永野むつみさんの詩を歌にしたものです。コロナ禍の前の「あたりまえ」とは何だったのか、この機会にそれぞれの「あたりまえ」を思い、分かり合う楽しさと驚きが表現された詩で

す。

⑤ 「ひまわり」

グループの中で、あらためて日常の生活を豊かに生きるとはどういうことなのかを、話し合いました。日々の生活、友人との時間、青年学級やとびたつ会の活動、仕事などあらゆる場面で自分らしく生きる、「私は私の人生生きる」ことの大切さを確認して、この歌をうたうことにしました。

3 活動経過

3/28 わかそよ実行委員会

4/11 わかそよ練習

(以後、緊急事態宣言により、活動休止)

6/13 とびたつ会 8人 曲目検討

6/27 とびたつ会 10人 曲目検討

7/11 とびたつ会 11人 セリフ検討

7/25 とびたつ会 9人 歌の練習

8/1 とびたつ会 8人 リハーサル

8/8 わかそよ2021 10人 収録本番

4 台本(セリフ)

・コロナウイルスがひろがって、緊急事態宣言がでて、とびたつ会、青年学級の活動ができなくなりました。会うこともできなくなったことで、仲間とともに過ごせる時間の大切さを改めて感じました。ひだまりの音は会いたくても会えない、切なさ、くるしさを歌にしました。再び仲間と会い、集える日をこころまちにする。そんな思いを込めた曲です。きいてください。

歌1「ひだまりの音」

ひだまりの丘で 輪になる日
きみはなにを かたるのだろう
あいたくても あえないいま
きみはなにを おもっているの
窓から見える あの丘を
きみとかさね はなしかける
さみしさのりこえ 丘であつまろう
伝えたいことばを つむいでうたおう
みらいの希望を 笑顔でかたろう
丘からの色はどんな色
その日を夢見て ひとりおもいをはせる

ひだまりの丘で 輪になる日
きみはなにを かたるのだろう
あいたくても 会えないいま
きみはなにを 思っているの
夏がきそうな あの丘に
大きな雲が うかんでる
落ち込むときこそ 日の光あびよう
青いそらのもと つながっていよう
まっしろな雲で どこまでいこう

丘からの景色 はてしない
ひだまりの丘で またあう日を 夢見て

- ・コロナウイルス感染が広がって、生活が大きく変わりました。
- ・緊急事態宣言がでて、仕事に行けない日がありました。職場で、感染した人がいて、その人はしばらく仕事にこれませんでした。
- ・ぼくは家で在宅勤務をしました。職場の仲間とあえなくなってしまったので、さびしかったです。
- ・仕事が休みになってしまって、仕事がたまってしまいました。公民館が使えなくなって、とびたつ会ができなくなってしまいました。
- ・若葉とそよ風のハーモニーコンサートが、市民ホールでできませんでした。残念です。

歌2 「ダメダメダメソング」
マスクしないと ダメダメダメ
窓をあけなきゃ ダメダメダメ
手洗いしないと ダメダメダメ
消毒しないと ダメダメダメ
コロナにならないためだから
みんなで、まもろう まもらせよう
「スカイツリーに いきたーい！」
カラオケ行ったら ダメダメダメ
居酒屋いっても ダメダメダメ
大声でしたら ダメダメダメ
旅行にいったら ダメダメダメ
コロナにならないためだから
みんなで まもろう まもらせよう
「とびたつ会にあつまりたーい！」
でーもー
感染なかなかとまらない
マンボー出しても 効果なし
いつまでつづくこの事態
自由と安心 夢にみる

みつになつては ダメダメダメ
あつまることも ダメダメダメ
うたをうたっちゃ ダメダメダメ
たのしいおしゃべり ダメダメダメ
コロナにならないためだから
みんなで まもろう まもらせよう
でーもー
ワクチンなかなかとどかない
オリンピックだれのため
いつまでつづくこの事態

自由と安心 夢にみる



歌3 「自由」
行きたい場所にいける
食べたいものが食べられる
好きな歌がうたえる
好きなものは好きだといえる
お金は自由につかえるし
みんながオレについてくる
宇宙はグルグルまわってる
オレのまわりをまってる
自由 自由 自由 自由

ほんとは それでは 生きていけない この社会
ルールをつくって おもいやって
なんとか自由をたもってる
たがいにささえ ささえられ
たすけあって生きている
夢をかたれば だれかと
夢にむかってうごきだす (それが)
自由 自由 自由 自由

コロナウイルス感染爆発する中で
いつのまにやら、社会に
差別と格差があふれだす
「自粛しろっ！」ってなんなのさ、
だれが自由をうばうのか みんなの対話と共感の
むこうに 自由がおどりだす (そこに)
自由 自由 自由 自由
・また、合宿に行きたい。
・自由に外出したい。旅行に行きたい。
・大きな声で歌いたい。
・新型コロナウイルス感染のことを忘れない。多くの命がうばわれたこと。差別された人。職を失った人、人生の大切な節目のイベントができなかった人。格差がひろがったこと。これまでのできごとをわすれない。

歌4 「あたりまえのうた」
あたりまえが うれしい
あたりまえが いとしい
あたりまえが なつかしい

あたりまえを あきらめない
あたりまえを あたりまえにする
あたりまえは あたりまえだ

ボクのあたりまえは ボクのあたりまえ
キミのあたりまえは キミのあたりまえ
みんなちがって みんないい
だから
キミのあたりまえを きかせてくれよ
自分の言葉でね ラーララララー
ボクのあたりまえも きいておくれよ
平たい心でさ ルールルルルー
かさなるところが みつかるかもしれない
(間奏)

キミのあたりまえを ボクのことばでボクはきき
ボクのあたりまえを キミの 言葉できみはきく
おもしろいな ゆかいだな びっくりだ
あたりまえは あたりまえだけ
あたりまえじゃ ないんだな



・前に住んでいたグループホームで「いびきがうるさい」と言われて、毎日イライラしていました。そんなとき、職場で、グループホームのパンフレットをもらいました。鍵を開けて玄関を入ると自分だけのお風呂とトイレが付いていて、いつでも入れます。夜ごはん、朝ごはんと、世話人さんが出してくれます。僕は一人暮らしが、したかったので住んでみたくなりました。家族のみんなに、遠いから無理だよと言われましたが、母にたのんで、見学に行きました。落ち着いて、生活が出来そうなので 12 月の初めから体験で生活し始めました。バスと電車を乗り継いで通勤はすぐになりました。グループホームで友達もできて、くれに引っ越しをしました。白熊ちゃんのぬいぐるみもいて全然寂しくありません。職場も近い所に移る事にしました。就労継続支援 B 型の事業所で 4 日間、受中の仕事や、撮影と梱包をしています。グループホームの友達も一緒なので、楽しく仕事をしています。それまで 19 年間勤めていた事業所の紙漉きの仕事は、僕がいないとやる人がいなくなってしまうので、週に二日、続ける事にしました。紙きした一筆箋をずっと作って行きます。

歌 5 「ひまわり」
ちぎって ミキサー グルグル
型にながして 水切り
アイロンあてて ハガキができる
かみすき ぼくの仕事
やすみの日には にかけて
仲間と いっしょに過ごす
うたって おどって かたりあって
たのしい ぼくの時間
親元はなれ グループホーム
一人暮らしをはじめる
つらいときも ゆうきもてる
仲間がいるから
私は私の人生いきる 私は私の人生いきる

人とのつながりがあるから 私は毎日ほたらく
きびしさのなかにある あたたかさ
かんじながら
応援してくれる 人のきもちに こたえて
まかせて もらえる仕事を ふやしてゆきたい
雨がふっても かなしいときも
歌をうたえば はれるさ
どんなときも えがおになれる 仲間がいるから
私は私の人生いきる 私は私の人生いきる
ひまわりのように 私は生きる 太陽むかって元
気にうたう
私は私の人生いきる 私は私の人生いきる



ダメダメダメソング

とびたつ会
2021年04月11日

Em 1.2.3. Bm Em Em Bm Em

マスクしないと まどを あけなきや
カラオケ いったら ダメダメダメ いざかや いっても ダメダメダメ
みつになっちは あつま ることも

Am Em Am Em Bm Em

てあらい しないと しょうく しないと
おごえ だしたら ダメダメダメ りょうに いったら ダメダメダメ
うたを う たっちや たのしい おしゃべり

Am Am Bm Em Bm Em

コロナにならない ため だ から みんなで まもろう まらせ よう

G D C G D

で も ー かんせん なかなか とまらない マンボ ー だしても
で も ー ワクチンな かなか とどかない オリ ン ピ ッ ク は

G C G D

こうかな し いつまで つづ く このじたい じゆうと あんしん
だれのた め いつまで つづ く このじたい じゆうと あんしん

Bm Em Em

ゆめにみ る
ゆめにみ る なんてだろ ー

Am Bm Em

なんてだろ ー なんてだなんてだ ろー

エンディング

ご覧いただきまして、ありがとうございました。
いよいよフィナーレです。

最後の歌は「わかそよテーマのうた」です。
この歌は、第1回から第19回までのコンサートのテーマをつなげて、作った歌です。

次回は、町田市民ホールでお会いしましょう。

♪わかそよテーマのうた

いまぼくらはこのまちで かがやいて生きてゆきたい

さあ歩き出そう あしたへ未来へ

今旅たつ きみのところへ

もっと自由にかがやこう ゆうきをもって

ラブソングをあなたに

すてきなえがおを おしえてください

たいせつなこと 夢をもつこと わすれないこと

誰もがあたたかく うけいれられる せかいをつくること

やさしいかぜを ふかせよう チャオ！またきみにあおう

自由にはばたけるせかいに ときはなとうころのことば

わかそよ わかそよ ひびけ わたしの思い

わかそよ わかそよ とどけ ぼくらの願い

伝えたい ありのままのわたし みらいへ はばたこう

つながるいのち いきてゆくこと うまれること

ぶつかって つながって ひろがっていきる

このわたしでいきてゆく いのちのかずだけおもいはある

みんなちがっても いっしょに生きる このまち

だで生きてゆく

わかそよ わかそよ ひびけ わたしの思い

わかそよ わかそよ とどけ ぼくらの願い

わかそよ わかそよ ひびけ わたしの思い

わかそよ わかそよ とどけ ぼくらの願い

わかそよテーマのうた

～私たちの声をとどけよう～

2020年12月
わかそよ実行委員会

The musical score is written in treble clef with a key signature of one flat (B-flat major) and a 4/4 time signature. It consists of nine staves of music. The first two staves are instrumental introductions. The third staff begins the vocal melody with the lyrics 'わかそよ わかそよ ひびーけ わたしのおもいー わかそよ'. The following staves continue the melody and include lyrics such as 'よ わかそよ とどーけ ぼくらのねがい いま ぼくらは このまちで かがやいて いきて ゆきたい さあ あるきだそう あしたへ みらいへ いまたびだつ きみのこころへ もっと じゆうに かがやこう ゆうきをもって ラブソングを あなたに すて きな えがおを おしえて ください たい せつな こと ゆめをもつこと わすれ ない こと だれ'. Chords are indicated above the notes, including C, Am, Dm, G, F, G7, and C7.

C Am Dm G

C Am Dm F G C

F C Dm G7 C C7

わかそよ わかそよ ひびーけ わたしのおもいー わかそよ

F C Dm G7 C

よ わかそよ とどーけ ぼくらのねがい いま

C G7 C C7 F C G7

ぼくらは このまちで かがやいて いきて ゆきたい さあ

F G7 C C7 F G7 C

あるきだそう あしたへ みらいへ いまたびだつ きみのこころへ もっと

F G7 C C7 F G7 C

じゆうに かがやこう ゆうきをもって ラブソングを あなたに すて

C G7 C F G7 C

きな えがおを おしえて ください たい

F G7 C C7 F G7 C

せつな こと ゆめをもつこと わすれ ない こと だれ

F G7 C C7 F G7 C
 もが あたたかく うけ い れ ら れ る せ かい を つ く る こ と や さ
 F C Dm C F G7 C
 し い か ぜ を ふ か せ よ う チ ャ オ ま た き み に あ お う じ ゅ
 F C Dm C F G7 C
 う に は ば た け る せ か い に と き は な と う こ ろ の こ と ー ば わ か そ
 F C Dm G7 C C7
 よ わ か そ よ ひ び ー け わ た し の お も い わ か そ
 F C Dm G7 C
 よ わ か そ よ と ど ー け ほ く ら の ね が い つ た
 C G7 C C7 F C
 え た い あ り の ま せ の わ た し み ら い へ は ば た こ う つ な
 F G7 C C7 F G7 C
 が る い の ち い き て ゆ く こ と う ま れ る こ と ぶ つ
 F G7 C C7 F G7 C
 か っ て つ な が っ て ひ ろ が っ て い き る こ の
 F C Dm C F G7 C
 わ た し で い き て ゆ く い の ち の か げ だ け お も い は あ る み ん
 F C Dm C F G7 C
 な ち が っ て も い っ し ゃ に い き る こ の ま ら だ で い き て ゆ く わ か そ

わかそよテーマのうた

The image shows a musical score for a song titled "わかそよテーマのうた". It consists of three staves of music in a treble clef, with a 4/4 time signature. The lyrics are written in Japanese below the notes. The first staff has lyrics: "よ わかそよ ひびー け わたしのおも いー わかそ". The second staff has lyrics: "よ わかそよ とどー け ぼくらのねが い わかそ". The third staff has lyrics: "け ぼくらのねが あ い". Chord symbols are placed above the notes: F, C, Dm, G7, C, C7 on the first staff; F, C, Dm 1., G7, C on the second staff; Dm 2., G7, C on the third staff. The music features a mix of quarter and eighth notes, with some chords being sustained.

よ わかそよ ひびー け わたしのおも いー わかそ

よ わかそよ とどー け ぼくらのねが い わかそ

け ぼくらのねが あ い

わかそよによせて

日下部洋介

最初は、「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」が、どのようなコンサートなのかわかりませんでした。自分は、「けんりグループ」に参加したのですが、初めての参加ということもあってどう形にしていけばよいかと思いました。ですが、「〇〇さんが話したいみたいだから意見聞いて」など、たくさんのことを教えてくれて、当たり前のことだったのですが、周りのみんなの方が先輩だったと気づき、助けてもらうことや教えてもらうことがたくさんでした。

台本等も、自分たちで一から作成していく中で、同じグループ内で話し合ったことをどういうふうに全体に提案していくかや、相手の意見を尊重していくことの大切さにも気づかせてもらいました。また練習の中でやりきれなかった小物づくりなどは、同じグループの人と日程を合わせて公民館に集まって作成したりもしました。

そうした人と協力して一つのものを作り上げていくということが、とても大きな学びとなった経験でした。

本来であれば今回が第 20 回となる記念のコンサートであるはずだったのですが、話し合い、まだ参加できない人も多いのでみんなが参加できるようになった時まで、20 回はとっておくことになりました。そんなふうに、みんなの仲間への想いを感じるということがとても多かったです。

今までのわかそよの歴史を覚えてもらったり、過去の映像も見ながら、実際に実行委員会から一から関わってみて、だんだん「みんなが自分たちの想いを社会に伝えていくためのコンサート」なんだと知りました。

だからこそ、何度も何度もみんなでも話し合いを重ねながら、今伝えたいこと、テーマ、構成、歌などを丁寧に決めていくのだと。

ひとつひとつ丁寧につくっていくには、やっぱり、信頼関係もとても大事で、そうしたことも一緒にコンサートを創り上げていく中でうまれてくるのだということも感じました。終わったあとは、もっとこうできればよかった等思いましたが、行っ

たから形になりまた次に繋がるのだと思いました。一つのことをやりきった達成感もありました。

初めての参加でしたが、長い歴史があって、たんさんの人の想いで続いてきたので、大事に繋いでいきたいです。次のわかそよでは、どんなメッセージを発信するのか、どんなコンサートになるのか、とても楽しみです。

斉藤由衣

はじめてわかそよを経験し、改めて感じることでできたのは青年たちの強さでした。

例年とは違う形だったり、練習時間も多く取れなかったり、社会状況を見極めながら活動を進めなければならない難しさがあった一方で、わかそよの期間を通して青年たちからは常に「前に進むんだ」という気持ちが伝わってきました。また、絶えず社会に向けて発信すること、自分たちで社会を動かしたいという想いの強さも感じました。私は自分の意見を前に出すことが得意ではありませんでした。自分の考えを相手に合わせて曲げてしまうこと、諦めて妥協してしまうことが多く、それがいつしか当たり前になっていたように思います。自分の想いや願いを言葉にすることで希望が生まれることは多くありますが、それには不安が伴ったり、行動に移すことが躊躇われたり、難しかったりということもあります。しかし、青年達は社会に訴えることを止めることなく、社会を変える力を持っているのだということを実感しました。このことをきっかけに、少しずつ自分の想いを言葉にし、やりたいことを実践していくことができるようになりました。これからも大切なことに対して真っすぐに向き合える自分でありたいと思います。

わかそよの期間を経て、今まで以上に青年の想いや強さに触れることができ、改めて青年学級という場に参加できていることのありがたさを感じております。今後とも、この経験を活かし、たくさんの学びを得ていきたいと思います。

吉岡英樹

私は、わかそよ自体初めて参加しました。しかも、2 週続けて参加させて頂くことができ良かつ

たと思います。8月1日日曜日の初日は、当初わかそよのリハーサルでしたが、ひかり学級は、担当者スタッフが添っておりいきなりの本番となりました。ぶっつけ本番となり少し緊張してしまいましたが、青年達の力に迫りに圧倒され何とか無事に終わる事ができ良かったです。正直終わった時はホッとしました。

2日目8月8日日曜日本番は、先輩方から誘われて行きました。2日目は、何をしてもよいのか分からず正直戸惑いましたが、公民館学級の担当者スタッフのお手伝いをする事になり、初日8月1日日曜日よりも少し気持ち的に落ち着く事ができました。何だかよく分かっておりませんでしたので半分担当者というよりお客さんになってしまったのが反省でしたが、2日間通して初わかそよコンサートに出演させて頂き、良い勉強をさせて頂けたことに感謝致します。

皆様、お疲れ様でした。

藤野 蒼大

初めてのわかそよは、青年学級に関わってすぐだったこともあり「何が何だかわからなかった」というのが正直な感想です。しかし、経験が無かったからこそ、このわかそよで吸収できることが多かったと思います。青年学級が大切にしていること、自分が参加するにあたってどの目線にいるべきのかなど、今につながっていることを、学級ソングや青年のみなさんとの会話から感じました。間違いなくこの時期に参加して良かったと思います。参加してみて、楽しかったという思い出だけではありません。少しでも学級ソングを覚えて一緒に歌えればよかったな、積極的に話しかけに行ければよかったなと反省と後悔が今になって沸き上がってきます。

しかし、この後悔は決して暗いものではないと思います。その後悔や反省の分、次のわかそよが楽しみです。この一年、青年学級に関わって、また違った景色が見られると思うと今からワクワクです。

大高綾音

わかそよに初めて参加してみて感じたことは生き

ること、命のすばらしさです。今回のわかそよはコロナ禍で出来ることを探し何度も練習してきました。その過程で自分たちの意思を伝えることが自分の命を生きることにもつながるのだと感じました。学級ソングは青年の意思が歌詞になったものです。私自身、青年たちと一緒に歌いステージを作り上げる中で「生きること」について考えさせられました。学級ソングに込められた青年の想いを聞いて、私は自分の命にまずは感謝して、今後どんなに大変なことがあっても自分の命を強く生きていこうと思いました。生きることは大変です。やめたくなくなるときもあります。でも命があり人生があるから人間は強くなれます。わかそよを通して大切な事を青年たちは教えてくれました。青年たちと一緒に次なる未来を力強く生きていきます。

鈴木 蒼

ひかり学級に参加してみて、初めて青年達と関わっていく際、初めての経験で学ぶことも多かったが、特に印象に残っていたのが歌のリクエストである。それぞれ意見を積極的に出し、楽しそうに歌っていたことから、早く覚えて一緒に歌ってみたいなど感じるようになった。何度も聞いているうちにメロディーや歌詞も魅力的に感じてきた。わかそよに携わって、歌に載せて障がいがあることによる苦悩、普通の人と同じ暮らしをしたいといった想いを伝えていくというのがとても素晴らしいと感じた。このわかそよに参加して、より一層青年達のことや青年学級に関心が湧いた。そして障がいというのもよく考えるきっかけとなった。

第6部 学級を支える体制

第1章 担当者会・学習会・調整会

第1節 担当者会議の概要

町田市障がい者青年学級では、学級活動に参加し支援する人を「担当者」と呼んでいます。2021年度は公民館学級22名、ひかり学級15名、土曜学級17名、合わせて54名（当日担当者含む）、そこに生涯学習センター職員4名が加わり、合計58名が「担当者」として学級活動に参加しました。担当者は（8月と年末年始を除く）毎週木曜日の夜に生涯学習センターに集まり、学級ごとに「担当者会」と呼ばれる会議を行っています。

担当者会では青年の活動を支援し、学級活動を充実したものにするために話し合いが行われています。学級日前の担当者会では、活動内容やそれに向けて準備すべき点などを確認し、学級日後の担当者会では、活動全体や青年一人ひとりの様子を振り返ります。

学級日に外出する際には、担当者が事前に下見を行い、車いす用トイレやエレベーターの有無、昼食場所の確認なども行い、会議の中で共有しています。

また、青年がどのようなことを求めているか、その要求の実現に向けてどのような取り組みをしていけば良いか、学級での経験を本人の生活に即したものにしていくにはどうしたら良いかということも話し合っています。活動におけるコースや班での話し合いをいかに支援していくかということも担当者会で度々話されている議題のひとつで、自分の言葉で表現することが難しい青年の思いを活動に活かしていくため、出欠確認の電話連絡時や送迎の際に家族とコミュニケーションを取り合うことも担当者の重要な役割となっています。そういった学級活動以外の場面での取り組みについても、その内容を担当者会で共有し、「全体で取り組む体制」をつくっています。

（1）公民館学級

今年度の担当者は22名という支援体制でした。今年度はひかり学級との合同開級式をきっかけに、担当者会も合同で行いました。

学習会では、ドキュメンタリー映画『風は生きよという』を観て障がいのある人が置かれている社会状況について考え、意見交換をしました。

合同で行うことについては、協議事項を共有し、その後各学級に分かれて話し合いを行う等、形は少しずつ変わっていきました。

学級活動は、6月の開級式をひかり学級とオンラインでつなぎ、6、7月の学級活動で『若葉とそよ風のハーモニーコンサート』の練習を行いました。その後のコース活動は、コロナの影響で参加

できる青年が少なくなったことから2コースずつくっつけて活動しました。

9月の活動では、青年の参加が少なかったことから、全体活動を行うことにしました。単独でのコース活動は11月からでした。

合宿は、中止しましたがその代替として健康福祉会館で集いを行いました。また社会の状況を見ながら、昼食を取らない午後からの活動にしたり、午前からの活動に戻したりしました。今年度も、コロナの状況を考えながら都度担当者会で話し合いました。

話し合いを行い学びを深められたことについてのエピソードがあります。青年が誰かのものを鞆に入れて持って帰ったことについて、保護者から帰る時に娘の鞆を確認してほしい、という話があったことについて話し合いました。話し合っている中で、このことは、保護者は娘への愛情があるからこそ確認してほしいと言ったことで、こちらはそうしたことも含めてどういう想いで鞆を確認するかが重要である、ということを確認しました。レジュメに載るのは文章だけなので出来事を文章通りに受け取ってしまいがちですが、話し合う時に文章にあるエピソードから、さらに確認することが重要です。また別の青年が活動部屋に入れませんでした。そのことについて、担当者のどんな声かけによって青年が変わったか、ということが話題になりました。しかし、話し合う中で「担当者のおかげで青年が変わった」という担当者が上の立場に立つような理解は間違っていて、「青年が自分自身の力で変わった」ということを見落とさないことが重要であることが確かめられました。

これらは、担当者会で共有し話し合ったことで理解を深められました。担当者会は、それぞれが学級生とのやり取りから得た学びを共有して、より深めていくための場でもあり、そうすることで、個人の学びから、いろんな人の考えを吸収して、集団としての学びになるのではないのでしょうか。

（2）ひかり学級

今年度のひかり学級の体制は、職員2名、担当者約19名と他学級の応援担当者約4名の合計約25名でした。活動当初はこれよりも少ない人数でしたが、桜美林大学の学生、社会教育実習から参加した様々な大学の学生が継続的に参加し、今の人数となりました。今年度のコース体制は、コロナ禍により家庭やグループホームなどの事情から参加を見送る青年が一定数いたこと、調理活動など感染対策上、控える活動があったこと、ひかり学級30周年に向けた活動（式典や文集とびたこの作成、新曲作り）に向けた活動をしたい青年がいたことから、音楽、ものづくり、スポーツに加え、新たに学級外の活動として周年式典も行う課

外活動コースの4コース体制となりました。担当者会では、主に各コースの活動の振り返りと、次回の活動に向けたことを全体で共有、確認することを中心に話し合います。各コースの振り返りでは、一日の流れと、印象的だった青年の姿、発言、疑問に感じた様子や気づいたことについて共有します。振り返りの中で出た疑問や課題について全員で話し合い、解決策を検討することで、担当者同士で共通の意識を持つこと、各コースでの学びに繋がります。次回の活動については、当日の担当者体制の確認、一日の流れ、用意するもの、ニュース作業についての確認をします。これらを共有することにより当日の円滑な進行につながります。クリスマス会や成果発表会などの行事の前には、担当者会で学級ソングの練習をし、当日一緒に歌えるようにします。

今年度の特徴として、担当者会に出席するメンバーのほとんどが、今年度からひかり学級の担当者となった人で構成されていることが挙げられます。運営していくにあたり「公民館ではこうだった」「土曜学級ではこんなことをした」など、自分たちの経験とひかり学級の個性とは何か、今まではどのように行われてきたのかを照らし合わせ、組み立てていくという模索の一年でした。このような背景がありましたが、青年とのコミュニケーション面、介助などは、担当者会には出席できない担当者の中に、長年ひかり学級に関わってきた方が多くいるため、大きな問題はありませんでした。しかし、日帰り旅行やコンサートなどの際、当日のスケジュール、場所割などの詳細の十分な共有ができていない部分も見られました。原因としては、担当者会に出席しているメンバー間では共有することができていても、そうでない人たちの疑問、曖昧な部分に答えられていないことが考えられます。学級後に30分ほど全員で振り返りを行います。一日の様子の振り返りとなるため、これから予定や運営にくわしく触れることがあまりできていません。改善に向けては、より綿密な情報共有が必要です。全体での振り返りの前に次回の活動方針や担当者会で検討してもらいたいことなどをコース内で話し合う時間を作ることで、担当者会での話し合いの幅が生まれ、疑問に沿った回答を早いうちに提案することができると思います。また、次回参加できるかどうかの予定についてもコース内で共有できていると、中心となっている担当者が休んだ場合も臨機応変な運営体制を取ることができると思います。担当者会で話し合ったことの良かった点としてコロナ禍での活動についての検討が挙げられます。コロナウイルスの感染状況が悪化し、一日の活動にするのか、半日の活動にするのかを検討する際、多数決のような一方的な決め方にするのではなく、それぞれの考え方を聴き、尊重する話し合いで決

めるようにしました。これには、青年が安全に活動できるかを考慮することはもちろん、担当者一人ひとりの意見を尊重するという意識を持った担当者がいてくれたからという背景があります。一日の活動にすると決まった際も、どのような感染対策を講じるかをよく話し合い、双方が納得できる状態で学級活動に臨みました。

ひかり学級に関わり始めた担当者ばかりであったこと、コロナ禍により考慮しなければならないことが多々ある中で、一年間の活動、成果発表会まで行うことができたことは、この担当者会での話し合いがあったからこそだと思います。来年度の活動は今年度で得た学び、青年との関係を学級日のみならず、担当者会でも青年の思いを形にしていくために最大限活かすことが重要です。

(3) 土曜学級

1. 担当者構成

	正 担当者	当日 担当者
夢と音	2	1
虹色のパプリカ	3	1
アマビエ	3	0
けやき坂	2	2
計	11	4

2021年度は、幅広い年齢層と様々な学級経験年数や職業経験を持つ担当者で構成されました。

2. 担当者会活動概要

担当者会は毎週木曜日午後7時より開催されています。

主な参加者は前項に記された正担当者11名のほか、任意参加で当日担当者数名となります。

2021年度の担当者会開催回数は39回でした。

学級活動前では各班の活動予定を詳細に共有します。

共有した事柄から、会議に参加している担当者が互いに『予定している活動内容を支える担当者体制に懸念は無いのか』『特に支援や注意が必要な青年への支援体制はどうか』『生涯学習センターに準備していただく備品に過不足は無いのか』『外出活動を予定している場合は緊急連絡体制の確認』などを行い、活動上のリスクを事前に低減する取り組みを行っています。

学級活動後では、活動を振り返り、計画と実践を照らし合わせ、反省点、明らかになった課

題、今後の注意点などを共有しています。

3. 活動の評価

(1) 担当者会議

今年度の土曜学級担当者会議に参加する担当者の人数と出席状況が安定しており、各回の議論に連続性のある円滑な議事進行がなされていました。

協議事項では、参加者全員が意見し議論することで参加者全員が納得できる結論を導き出すことができたと思います。

(2) 会議後の情報共有

各回の担当者会議事録は会議と同時に作成してきました。その結果、担当者会終了後数分以内には、当日担当者や欠席した担当者、生涯学習センター、それぞれへメールを用いて連携することができました。

一方で、メールを利用していない担当者との情報共有は、各班において電話連絡等を用いて確認事項や決定事項が周知されていました。

コロナ感染予防対策としての外出行動の自粛により、青年学級の開催を見送ることが増えました。学級活動が見送られることで担当者会における活動準備と活動振り返りなどの協議や討論する時間が減少し、担当者会議の時間配分に余裕が生まれました。

この時間を担当者の自主的な勉強会として活用し、普段は考える機会の少ない青年学級を取り巻く制度や歴史、考え方などを様々な文献を用いて考えたことを出し合い討論し、時間を共有することができました。

勉強会で取り上げたテーマ「実践報告集で用いられている用語の確認」「療育手帳制度について」「担当者の役割について KA さん対応事例より」「北田耕也: 著 (大衆文化を超えて民衆文化の創造と社会教育)」「ジョセフ・ヘンリック: 著/今西康子: 訳 (文化がヒトを進化させた)」「猪瀬浩平: 著 (ボランティアってなんだっけ?)」「スタッフボランティアの手引き」「(小林繁氏と大石さんの討論) より」その他各担当者お薦め書籍紹介

これらの活動は、経験年数の長短に関係なく、全ての担当者に良い刺激となったのではないのでしょうか。

4. 課題と今後の展望

コロナ禍の終息が未だ見通せない状況において、引き続き安全な青年学級と担当者会の運営が求められます。

Webex や Zoom で生涯学習センターの会議室と各担当者自宅をつなげた担当者会は、今後も併用することになると思われますが、オンラインでは発言者以外の表情や様子が見えないた

め、納得感を得た討論となっているのか把握しにくいという課題もあります。

会議進行役はファシリテーターとして振る舞い、全員参加の会議となるよう配慮が必要だと考えています。

第2節 学習会

1. ひかり学級 公民館学級

ひかり学級では6、7月に1回ずつ、1月に公民館学級と合同で1回の合計3回学習会を行いました。6、7月は、学級が半日の活動であったため午前の時間を活用しました。

6月は学級に関わり始めたばかりの担当者や、他学級から移った担当者が多数いたことなど新たな体制で迎えたため、改めて「担当者としての役割」について話し合いました。「青年に呼びかけることで関係性が生まれる。」「学級の度に、この人こんなことを思うんだと積み重ねがある。」、と話し合いを通し個性を理解し、関係性が生まれていくことを再確認しました。

7月には2021年7月号月刊社会教育の特集「障がいがあってもなくても集える学びと交流の拠点づくり-奏海の杜の10年」の読書会を行いました。「学びのための交流館を開いた行動力に驚いた。」「知らないことが一番の障害。一つでも多くの世界を知ることが大事だと思った。」など感想を共有しました。

1月には公民館学級と合同で行っている担当者会議の中で、ドキュメント映画「風は生きよという」を鑑賞しました。呼吸器を付け、地域で暮らすことを自身で決めて生活している海老原さんの日常が描かれていました。呼吸器を通して聞こえる風は、多くの人の支えや出会い、生きることの尊さに気付かせてくれる、そんな映画となりました。

また、出演者のうちの一人は、重度の障害がありながら地域の通常の中学校に通いながら、ほかの生徒と同じ授業を受けることを望み、それを実現していました。また、高校受験の際は、まばたきで意思確認する人に向けた意思決定の方法をめぐる学校側の障がいがありました。

鑑賞後、担当者間でこのことに対して、yes か no で答えられる問題であれば、その壁はなくなるのではないかと等について話すことができたことは、学級活動の基本である話し合いを重視するためにも担当者に求められる大切な視点を学べたのではないのでしょうか。

2. 土曜学級

(1) 2019年度は3学級合同で計3回の学習会が開催され、2020年度は7月2日に“なないろ”施

設長の講義による感染症対策の学習会が1回ありましたが、2021年度は開催がありませんでした。新型コロナウイルスの感染拡大から集合研修が困難になった面もありますが、そのような時期だからこそ、基本的な感染症対策の知識や技術を身につける機会を作ることを考えてもよかったと思われます。

また、学級が半日開催や休止となったことを利用して、そこで生まれた時間を担当者の教育に活用することもできたはずでしたが、実施には至りませんでした。

(2) 様々なハンディをもつ青年たちの活動の安全を確保し、教育を受ける権利を保障するためには担当者の側に一定の専門性や支援技術が不可欠です。

この点について、以前からも「学習会の意義の再確認と、安定的な学習会を開催する仕組み作りが必要」(実践報告集2019年度版、p.133)と指摘されています。

担当者の自主的な学習意欲にのみ委ねるのではなく、組織的な取り組みに着手する時期に来ていると考えられます。

また、そもそも障害のある人への支援の経験のない市民と学生が多数を占める担当者に求められる知識や技術とは何なのか、またそうした担当者を教育するのは誰の役割なのかなどを整理する必要があります。

(3) 土曜学級単独では数回のミニ学習会を開催し、次のような文献を読み、意見交換を行いました。

これら資料を保管し、新しく参加した担当者に配布するなどの活用も今後は考えられます。

①大石洋子「障害者の社会教育」1981年、中央法規出版『ジュリスト総合特集』、p103-

②茂木俊彦『受容と指導の保育論』2003年、ひとなる書房、p27-

③特別区社会教育主事会障害者教育研究部会編「障害者学級スタッフ・ボランティアの手引 Q&A」

④猪瀬浩平『ボランティアってなんだっけ?』2020年、岩波ブックレット、p2-

第3節 調整会

各学級やとびたつ会の活動の共有、総括や実践報告集、学習会など全体で行う会議に向けての打ち合わせとして、年に数回実施しています。担当者会議の前1時間を使い、各学級職員、各主事を中心に構成されています。

わかそよの撮影を終え、コース活動が本格化してきた9月に1回目の調整会を行いました。各学級の様子、見学者や実習生の様子などを共有し、学習会の計画などを話し合いました。

2回目は、全体総括の打ち合わせとして、全体

討論の案出し、総括の進捗状況を確認しました。

調整会は、例年年間5回程行っていますが、2021年度は2回にとどまりました。原因として、8月までわかそよの練習で通年の学級運営とは異なっていたことと、各学級でのコロナ禍での活動の捉え方の相違が挙げられます。

2021年度のわかそよを学級の中で練習を行ったのは、青年から出た意見を尊重したものです。またコロナ禍の参加の有無は、ご家族と青年自身が決めています。青年の学びの場を継続することは重要で、今日は担当者会の判断が尊重され、事態の変化にできるだけ柔軟に対応することができました。しかし各学級の判断を持ち寄るには、調整会だけでなく、全体総括などの場で担当者同士の意識を高め合うことが必要ではないでしょうか。2024年の青年学級50周年に向けても、全体の意識を高め合い臨みたいところです。

第2章 送迎検討委員会

1. これまでの経過

青年学級では学級開設以来、一人で学級に通ってくるのが難しい青年の通級をどう保障するかについて、大きな問題となってきました。送迎の必要な青年の通級は、ほとんど家族の送迎に頼っているのが現状ですが、近年、福祉サービスの一環としての事業者による移動支援を利用するケースも増えてきました。

担当者会では1981年度に、公的な送迎保障を求めて町田市長への要望書や市議会請願書（本会議で否決）を提出し、この問題をアピールしたことがありました。そして1992年度からは「青年の生活における送迎の意味や、今、青年学級でできることは何かを考え送迎保障をめざす」ことをねらいとして、『送迎検討委員会』を組織し、担当者会メンバーに父母会の役員も加わって検討を始めました。何回かの話し合いと青年及び家族への計2回の調査を経て、1995年度より一時送迎を実施することになりました。

この一時送迎をはじめると、ねらいを「送迎する家族の事情で学級を休むことにならないよう」、しかもそれは「送迎を必要とする青年や家族と担当者個人との関係で送迎を行なうのではなく、『青年学級全体の取り組み』として送迎を行なう」とし、確認しました。

2 送迎検討委員で取り決めた一時送迎の内容

- ① 一時送迎が必要な人は原則として、学級日前の担当者会のある木曜日までに公民館へ連絡し、担当者会で送迎を行なう担当者を調整する。（当日の送迎の要請にもできるだけ対応していく。）
- ② 送迎方法については、自家用車では事故があった場合の保障が十分でないため、できるだけ公共交通機関を利用する。
- ③ 送迎に要した費用のうち電車代・バス代については、青年本人の交通費は全額本人負担、送迎を行う担当者の要した電車代・バス代は送迎運営費から支出する。タクシーを利用した場合は、かかった費用の2割（端数は四捨五入し、100円単位

で支払う）を青年が負担し、残りを送迎運営費から支出する。自家用車を利用した場合は、送迎運営費より送迎を行なった担当者に片道200円を支払う。

- ④ 担当者と父母で一人年間300円を負担し、これを送迎運営費とする。
- ⑤ 送迎中に事故があった場合の保障として、町田市の「全市民加入型 ボランティア活動災害補償保険」を活用する。

3 現在行なわれている送迎の状況

送迎の問題については、十分に議論をつめきれないまま、時間が経過しましたが、2021年度の実態については、以下の通りです。青年学級で行われている送迎には一時送迎も含め以下のようなものがあります。

（1）自主通級を目指して行なう送迎

自主通級する力はあるのですが、道順をなかなか覚えることができなかつたり、ちょっとしたことで混乱してしまつたり、安全に通級することが難しいといった青年に対して、将来的に自主通級できるようになることを目指し、援助をするという送迎について、過去に、取り組んだ実績がありますが、現在は、行われていません。

（2）家族の都合で送迎ができなくなった場合の「一時送迎」

家族の体調不良などの利用により、いつも送迎をしている家族が送迎できない場合に一時的に担当者が送迎しています。その他に慶弔や、送迎を行なう車の故障、施設の一時利用のため等の理由があります。

一時送迎の制度が広まってきたことにより、送迎者の都合などで、学級に参加できないということが減っています。

しかし、親の高齢化や本人の施設やグループホームへの入居により、継続的な送迎保障がないと学級に参加できないという青年が年々増え、実態として「一時送迎」というよりも、継続的な送迎という形をとっている青年も増えています。

(3) 普段とは違う場所で活動が行われる場合の送迎

ひかり学級の成果発表会は、いつもの活動場所であるひかり療育園ではなく、まちだ中央公民館で行っています。このように活動場所が変わる場合、「行ったことがない」「普段行き慣れないところで不安」などの理由で、直接その会場へ行けない青年が多くいます。そこで一旦通い慣れた場所（まちだ中央公民館・ひかり療育園）に集まってから会場に向かうといった送迎体制をとっています。普段は送迎を必要としない青年にとっても、送迎は共通する問題であると言えます。

(4) 2021年度の送迎の実績

実際に送迎を行なった公民館とひかり学級での実績は、以下の通りになります。

学級日	公民館		ひかり	
	行き	帰り	行き	帰り
4/4	1人	3人	0人	0人
6/6	0人	1人	0人	0人
6/20	1人	2人	0人	0人
7/4	1人	1人	0人	1人
7/18	1人	2人	0人	1人
9/5	2人	2人	0人	1人
9/19	2人	2人	0人	1人
—・10/3	—	—	0人	1人
10/17	2人	2人	0人	1人
11/7・—	2人	3人	—	—
11/21	2人	5人	1人	2人
12/5	2人	4人	0人	1人
12/19	2人	2人	0人	1人
1/16	2人	4人	0人	1人
2/6・1/30	1人	2人	0人	0人
2/20・ 2/13	2人	3人	0人	1人
3/6・2/27	2人	3人	0人	1人
—・3/13	—	—	5人	6人

※—は未実施

なお、利用した青年の数は、公民館9名、ひかり7名でしたが、ふだんは家族やヘルパーの送迎があるが、家族やヘルパーの都合で純粋に一時的な送迎を行ったのは公民館・ひかり各1名、普段

とは違う場所による送迎はひかり5名、残りの公民館8名、ひかり1名は、毎回、送迎の有無について確認が必要なメンバーでした。その意味で、「一時送迎」というカテゴリーにはなるものの、恒常的な送迎が必要なメンバーということになります。また、9名のうち、行きは自力で来て、帰りにバス停（今年度はコロナの関係でタクシーが1名いた）に送っているのは4名、自宅やグループホームまでの送迎4名、グループホームの最寄り駅の送迎が1名となっています。また、9名のうち、自宅は1名で、残りの8名はグループホームで暮らしている方でした。

なお、グループホームで行き帰りの送迎を必要としている1名は、一人で行き来できる方なのですが、過去に電車内で他のお客さんの髪をさわって警察に訴えられるということがあり、そのために送迎が必要となった方です。2021年度に入って、グループホームの方で、独力での通級を提案してくださったのですが、本人から電車内での付き添いがほしいとの申し出があって、最寄りの駅からの送迎が復活しました。

また、ひかり学級では、グループホームの引越に伴い施設側から、物理的距離を理由に公民館学級へ異動を進められた青年がいました。青年の意見が反映されている判断とは言えず、担当者が送迎を行い、はっきりとひかり学級で続けていく意思を聞き取りました。こうした姿勢がグループホームの職員に伝わり、翌月からガイドヘルパーを用いた送迎が可能となりました。グループホーム・施設で暮らす青年にとって、職員への学級の理解を図ることが求められており、担当者も丁寧に関係性を構築する必要があると言えます。

4 今年度の検討内容

今年度の送迎検討委員会は、2014年度に開催して以来、時間的な都合で担当者が集まることができず、開催することができていません。その後、2019年度に、送迎について調整会の場で話し合いが持つ機会があり、ひかり学級では送迎をしているのは1名だけであること。土曜学級には送迎の必要な青年がいないこと。公民館学級では数名の送迎が行っていることその他、2年間精算できて

いなかった状況を精算できたことが共有されましたが、残念ながら、今年度は、3 学級でこの問題を共有する場を持つことはできませんでした。

5 今後の課題

(1) 担当者への送迎費用の支払い

送迎に対応した担当者は費用を立て替え、後日送迎検討委員会で精算をするのですが、担当者と送迎委員の連絡の関係で、立て替えの累積が発生しすることも少なくありません。担当者の負担を軽減する意味でも、費用精算の検討は、課題となっています。

なお、送迎費用は、担当者会と父母会から集めるというルールが、1991 年度に定められていますが、現在、実際にかかる送迎費用が、これまでの繰越金でまかなえているため、費用の集金は行われないまま、数年が経過しています。

このことも、現状に即した検討が必要になってくると考えられます。

(2) 送迎についての情報共有

公民館学級での送迎については、毎回、担当者会で確認することが定着し、送迎は円滑に進んでいます。送迎は、本来の担当者のやるべき仕事内容には入っておらず、あくまで、自主的な取り組みであるということの意味など、話し合う時間がなかなか取れずにいます。また、送迎に取り組んでいるのが公民館・ひかり学級の 2 学級のみという現状があるため、3 学級間での情報の共有の機会がまったくとれていないのが実情です。改めて、送迎の問題を全体で考える機会を設ける必要があります。

(3) 一時送迎の周知

今後、青年の高齢化・家庭環境の変化により、グループホームや施設等に生活の場を移す青年が増え、送迎の必要性も高まってくることが考えられます。

その一方で、一時送迎のことを知らない家族や、送迎を遠慮している家族もいるようなので、「送迎のしおり」を作成したり、父母交流会やニュース等を通じて送迎委員会の活動を伝えることが求め

られています。

(4) 制度の活用

最近ではガイドヘルパー制度を利用して学級に参加する青年も増えてきました。ガイドヘルパー制度も「障害者自立支援法（現「障害者総合支援法」）の施行以降、大きく変わってきており、ガイドヘルパー制度の利用と一時送迎との関係も整理していく必要があると考えられます。

父母会

2021 年度は長い間会を支えてくださったベテランの方々が役を退き、役員歴 1.2 年の経験の浅いメンバーで構成されたということが今までと全く異なる点ではないでしょうか。

会長の私を含め 8 人の役員全員が青年学級の在籍期間も短く学級の活動のことも父母会のこともよくわかってない有様で...

前会長と前々会長にアドバイザーとして助言をもらいながら、また生涯学習センターの担当職員の皆さまには、多大な協力をいただきながらなんとかやってきた一年でした。

さらに前年同様コロナは収束することはなく緊急事態宣言やまん延防止措置が発令される中、会としての活動も縮小せざるを得ない状況で行事もほとんどが中止することになってしまいました。

50 年近くにわたり学級生の活動を応援してきた父母会としてこれから何をすればいいのか？どのように支えていけばいいのか？

今まで続けてきた慣習を重んじつつ今の私たち親にできることを考えていきたいと思っています。

(塩田)

第7部 青年学級に寄せて

第1章 新人担当者として関わって

公民館学級

岡ノ谷 琉夏

私は、青年学級の方が大学にボランティア募集に来てくださったことを機に、公民館学級の担当者として関わらせていただくことになりました。最初は、右も左もわからない状態で学級に参加したため、私がこの学級に馴染めるか、学級生の方と上手く関わっていけるかなど不安だらけでした。そんな中でも、学級日を重ねていくごとに学級生の方々に名前を覚えていただいたり、日常の出来事をお話しして下さったりしたことは、とても嬉しく今でも鮮明に覚えており、学級生の方々を始め担当者の方々にも、私が青年学級の一員として受け入れてくださったことに、とても感謝の気持ちでいっぱいです。

私は昨年度からの学級活動を通して、自分自身の意見を持つことと、それを発信することの大切さを学ばせていただいたと思います。特にそのことを感じたのが学級ソングでした。誰かに意見や思いを発信すること、伝えること、それは言葉だけではないということに気づかされました。自らの思いを声で、歌詞で、体や表情で表現しようとする姿を見てとても刺激を受けました。そして、その学級ソングを聞くたびに学級生から生きる力をいただいております。また、一つの活動を0から考え作り上げていくその過程や完成したあとの達成感を実感することができ、共に活動を作り上げていくことができた嬉しさを共有できたその瞬間は忘れられません。そして、コロナ禍という人と人との繋がりが希薄化しつつある厳しいご時世の中でも、学級生の方々はいつも仲間を想う気持ちを忘れずに活動をしている姿を拝見し、集団でありながらこんなにも温かい居場所があるのだと強く実感しました。

まだまだ未熟でわからないことも多いですが、この青年学級という素晴らしい場所に出会えたことに感謝し、学級の一員として恥じないよう、共に楽しみつつ、学び続けていきたいと思っています。

土曜学級

千葉誠司

私が青年学級を知ったのは、私の進みたい道の勉強の一環としてボランティアセンターの窓口に足を運んだことがキッカケでした。発達障がいのある方の就労支援がしてみたい。そのためにはまず様々な特性のある方と出会い、触れ合い経験していくことが大切なのかと感じ、障がいがある方と交流出来るボランティア活動があるか確認した際、青年学級を教えていただきました。私は、青年学級の存在を教えていただいたその日に生涯学習センターに向かい、そのまま見学の運びとなりました。実際、あまり関わりを持つことが多くない方々との交流。不安がないかといえば嘘になります。しかし、見学をしてみた先には青年たちの生き生きとした活力と元気な笑顔がありました。初めは話しかけても視線が合わなかった方が、交流を重ねる内に徐々に視線が合い、名前を呼んでくれる。初めから興味をもっていただき話かけてくれた方が、回を重ねるごとにどんどん話す内容が増えていく。そんな小さくも大きな変化にとっても大切な気づきをいただきました。

昨年はコロナウイルスの為、活動日は決して多くはなかったかと思えます。今年度は出来るだけ活動日に参加していき、青年ひとりひとりの個性に向き合い、理解と経験を深めていければと思います。

川上昂大

私は、昨年11月から土曜学級と公民館学級のふたつの学級に参加させていただきました。参加当時は高校生でボランティア自体初めてだったため、右も左もわからない状態でしたが、沢山の方々に支えられて少しずつ知識が身に付きました。大変感謝しております。私が青年学級に参加しようと思ったきっかけは、大学で特別支援教育について勉強するため、早い内に色々なことを経験したいと考えたからです。実際、数回のみ参加でしたが、その中で学べたことや印象に残ることは多くありました。

初めて見学者として参加した際、とても緊張していてなかなか青年のみなさんに話しかけることができずにいましたが、そんな私の様子を見て青年の方から話しかけてくれたのを今でもよく覚えています。そんな優しい心を持った青年の方々と一緒に活動ができることを嬉しく思っています。コロナの影響もあり、なかなか全員が集まれませんでしたが、学級に参加した方々と沢山コミュニケーションをとることができ、とても貴重な時間を過ごすことができ良かったと感じています。これからも、皆さんと共に有意義な時間を過ごせることを楽しみにしています。まだまだ至らない点が多いですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

ひかり学級

相原 孝如

私は、ひかり学級の担当者からの紹介で3月より活動をさせていただくことになりました。私自身、「青年学級」という言葉の意味も分かりませんでした。そして、障がいのある青年たちへのサポートということを知り、このようなサポートの必要性を感じました。私は大学時代は音楽に勤しみ、しかし他のことに目を向けなかった節があり、知り得なかった分野でありました。

そして、学生などを含めた担当者たちが話し合いをしている時は、私もついていけるのかなと、恥ずかしさと不安でいっぱいでした。

日も浅いうち、最初は成果発表会という大きな行事に参加しました。新型コロナウイルスのため、何年かぶりと聞き、青年学級にとっての大切なイベントを経験しました。学生時代（十年も前ですが笑）合唱を経験しましたが、少人数でも歌を歌ったりして喜び、楽しさも分かち合うというコミュニケーションの大切さも、学ばせていただきました。

次の青年学級では、足手まといにならないか不安でした。大雨の日で、自転車に向かいました。無事に終わり、ほっとしました。

そして直近ではふれあいコンサートというまた大きなイベントがありました。とても緊張しまし

たが、貴重な経験をしました。反省すべき点はたくさんあり、日は浅いとはいえ、頑張っただけです。

どうぞこれからもよろしくお願い致します。

岩見 郁菜子

私がひかり学級に関わることとなったのは、社会教育士の称号を取得するための実習としてでした。実習先とした理由として、私は子どものころから子ども向けのボランティア活動には参加していましたが、それ以外の対象には関わる事が少なかったため、この機会に挑戦してみようと考えたこと、その年の春から障がいのある叔父と同居が始まっていたことがありました。私は叔父に会うのは夏休みに祖父母の家を訪れる時くらいであったので、突然の同居に戸惑いが隠せませんでした。そんな日々はひかり学級に中心に関わり、青年の方と過ごす中で変わっていったのです。

ひかり学級で過ごしていて最も印象的であることは青年の方々にとって学級という場所が非常に大切な居場所となっていることです。ひかり学級について話している青年の方は非常に生き生きとしており、これまでの担当者や青年の方々、職員で学びあいながら一丸となって作り上げ、それが現在まで続いているのだということが毎回の活動から感じられました。また、青年の言動について一つ一つに真剣に向き合い、そこにある思いをくみ上げようと全力を尽くす姿は一人一人を「障がいのある人」や「〇〇という病気の人」といったステレオタイプで見るのではなく、その人個人に対して同じ「人」として向き合うという、当たり前だけれども難しいことが行われていることの表れであると感じています。「居場所」というものは人と人のつながりによってできているという意見を聞いたことがあります。ひかり学級で過ごしているとそれを身に染みて実感します。

また、青年の方々と関わる中で、障がいがあり多少困難なことがあっても学級に関わる青年の方々はれっきとした成人であり、自身よりも年上の方々なのだと何度も思いました。障がいがあるから何もかもできないというようなことなどなく、一人一人が自身の意思や思いをもって全力で学級

活動に打ち込み、それを発信している様子からは、自身の無意識に持っていたステレオタイプへの気づきとステレオタイプを取り払う意識をもって関わってみることで普段の見えてくる景色が変わることへの気づきをもらいました。

そんな気づきやひかり学級の雰囲気に触れ、叔父とは今ではその日あったことを話したりし、笑い合うことができるようになりました。これからもひかり学級という場に関わり、青年の方々、担当者の皆さんとの関わりを大切に、自身も誰かの「居場所」を作れるような人になりたいと思います。未熟者ですが、ひかり学級の一員としてこれからも皆さんと同じく全力で向きあっていきたいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

田中 優笑

私はこの障がい者青年学級のことを知ったのは大学の社会教育主事課程の社会教育実習で3か月間ひかり学級の担当者としてお世話になりました。ここで社会教育実習をしようとした理由は障がい者の方々と一緒に多くのことを学びたいと思い、ここに決めました。最初にひかり学級に行った時は、学級生と仲良く出来るかコミュニケーションを上手く取れるかが不安でいっぱいでした。ですが、最初から皆さんが私のことを良くしてくれて不安が無くなりました。段々この学級で過ごしていくうちに知らない曲やどのような考えを持っているのかもわかるようになりました。皆さんがとても仲良く毎回行くのがとても楽しく出来ました。実習が終わった後もこの学級のために何かできることがないかと自分の考えを担当者で言い合えるようになって、もっとこの学級でたくさんのことを学び、体験したことをこれからも学級生と担当者とのコミュニケーションを大事にしていきたいと思いました。多くのことを教えてもらいながらこれからも学級に関わっていきたいです。

藤野 蒼大

私がひかり学級を知るきっかけとなったのは、大学のボランティア部で募集を見たことでした。私は人見知りで自分から話しかけることが苦手です。そんな自分を少しでも変えたいと思い参加を

決めました。初めて参加した去年の7月。話せるかな、受け入れてもらえるのかなと不安と緊張でいっぱいでした。今となっては、ひかり学級は、私にとってなくてはならない存在です。

この一年間だけで多くのことを学び、成長できたと思います。友人や後輩にひかり学級はこんな場所だよと自分から話すことができ、好きなことについて話すのはこんなに楽しく、自然と笑顔になれるのだと驚いたと同時に、うれしくなりました。また、コース活動やつどいから、伝え方は人それぞれであること、日帰り旅行やコンサートからは、仲間と一緒に活動することの楽しさなど、当たり前のように抜けてしまう大切なことに気づかせてくれました。

その中でも私が一番感じていることは「行動に込められた思い」です。青年学級の中で込められた思いがよく伝わるものとして、学級ソングがあります。活動に対する思い、仲間への思い、社会へのメッセージ。これらが凝縮されたものが学級ソングだと思います。学級ソングを一日聞く機会として、わかそよがありました。青年の方々の名前をまだ覚えておらず、何をすればいいのかもわからないような時期でしたが、学級ソングを歌う青年の姿は、はっきりと目に焼き付いています。最初は「いい歌詞だなあ」と思って聞いていましたが、その歌ができた理由、背景、メッセージを知るにつれて、考えさせられ、心に響くものとなっていきました。今では一緒に歌い、思いを共有できることがとても嬉しいです。「思い」というのは、声を出しての会話や歌で聴くことにより伝わりやすいかと思います。しかし、決して音として伝わるものだけでなく、紙や手の平に書かれた文字、身振り手振り、アイコンタクトに表情、すべてのものに宿るのだと、活動を通して実感しました。手の平に、書いてくれる文字を間違いながらも読み取って、言葉を返した時に口角が少し上がった瞬間、言葉にできない思いが溢れました。このようなことは、間違いなく心が通じ合う瞬間であり、大切にしていきたいことです。

何度も参加するうちに、これでいいのかと悩むこと、後悔することもあります。しかし、それを青年と一緒に乗り越えていけることがひかり学級

の魅力だと思います。悩んで、実践して、喜びを共有する、この繰り返しが今の私を作っています。まだまだ未熟な私ですが、少しでも頼りになる、安心すると思ってもらえるよう、みなさんと歩んでいきたいと思います。これからもよろしく願いします。

宮崎 仁美

この活動には実習がきっかけで関わらせていただいています。青年学級は担当者も含め、お互いがお互いを尊重し合う素敵な場だと感じています。関わることができ、大変嬉しく思っています。

話は変わりますが、私は普段、デザインの勉強をしています。人によって説明は変わりますが、デザインとは「社会を見て、その構成要素であるモノ・コトを作ること」です。ですが私は、この活動に関わるまで、障害当事者の方と直接話したことはほぼありませんでした。本当に恥ずかしいし恐ろしいことだと思います。作り手が社会を見なくてどうするのでしょうか。こんな作り手がたくさんいると、社会は障害のある方にとって酷く冷たいものになってしまうような気がしています。そもそも既になっているように思います。

この活動を通して、社会を見る目が少し変わったように思っています。同時に、まだ見えていないこともたくさんあるように感じています。もっと多くのもが見えるよう、ここでできることをやっていきたいです。

第2章 障がい者青年学級の始まりの頃

2021年10月15日、障がい者青年学級の設立に深く関わってきた元町田市役所職員、大石洋子さんが逝去されました。大石さんは、生前、たくさん文章を残しておられますので、そのいくつかをたどりながら、青年学級の設立と発展のために大石さんがなされたことを振り返ってみたいと思います。

社会教育課



1943年に生まれた大石さんは、東京大学教育学部で社会教育を専門的に学び、1971年に町田市教育委員会の指導委員として着任の後、11月に町田市職員として採用されました。その経緯の詳細はわかりませんが、その社会教育についての専門性が求められての採用だったことは間違いありません。

青年学級が始まるのは、1974年のことですが、それまでの3年の間に、大石さんは、婦人学級、勤労青年の青年学級、家庭教育学級といった社会教育の実践に精力的に取り組んでいます。住民が社会教育という場で学ぶということが、当たり前を追及されていた時代のことです。

そして、1974年の障がい者青年学級の開設を迎えるわけですが、その開設の経過を大石さんがまとめた文章があります（雑誌『教育』1975年）の

で、少し長い引用となりますが、貴重な時代の証言として掲載させていただきます。

1973年3月、町田市にある障害者をもつ親の連絡組織である育成会の代表、福祉事務所長・ケースワーカー・精薄相談員、社会教育課長と社会教育主事のメンバーで、過去数年来親たちから要請の出されていた「障害者のための青年学級について」というテーマではじめて話し合いがもたれた。そこでは、親の側から「学校を出ても行くところがない子どもたち」「就職しても差別され、バカにされ、だまされる……」「何とかあの子たちが非行化しないため」等、多様な理由から「一回でもいいから福祉ではなく社会教育の窓口で青年のためのつどいを開いて欲しい」という切実な要求が出された。そこで話されたことは、青年対策の対象として、あるいは「厄介者」としての青年をどうするかということであり、発達を保障する教育を要求してのものではなかった。

当時、社会教育課では職員の人員減のなかでこの要求に応えるべきかどうか、労働条件の問題を中心に討議されたが、多くは消極的であり、将来開設すべく時間をかけて準備をしていくということが確認されただけであった。それから約一年間、担当者として企画立案をまかせられた私は、『障害者問題研究』一号・二号を読み「ゆたか共同作業所」と「宮津青年学級」を訪れた。また、都で催される「特殊青年学級研修会」（年に一、二回）に参加したり、社会教育全国研究集会で「社会福祉と社会教育」の分科会に出席し、各地の実践について、とくに住民

の側で行なわれている実践について学んだ。

10 月初旬に訪れた宮津青年学級での青年たちの輝くように明るい顔と集団形成のなかで主体者としての青年の自立が「生きる力、働く力を身につけるために」行なわれている週一度の学級によるものであるのを目のあたりに見た時、「これならやれる」という気持を起こさせた。すなわち、それまで、労働観・社会観を学習し、仲間づくりをすることを目ざす学級にとりこんでいた私にとって、とくに「主体形成」の面で、どう取り組んだらいいのか分からなかったのであるが、宮津青年学級はその解答を明らかにしてくれた。

しかしながら「ゆたか作業所」「宮津青年学級」は、民間で障害者の親や教師や指導員そして青年自身の長い運動のなかで形成されてきたものであり、行政が親たちの運動がまだ十分熟さないうちにどのようにとりこんでいか悩みは大きかった。すなわち、行政の先取りから住民の運動の芽を摘み、主権者意識を失わせることを多々見かける。そのようにならないためには、青年や親たちの話を聞き、そしていま青年はどんなくらしをし、何を求めているかを知らねばならなかった。そして、そのために行政事務として、あるいは公民館事業として、一歩住民の側に踏み出すことになった。

大石さんにとって、まず、障がい者の社会教育は、「青年対策の対象として、あるいは『厄介者』としての青年をどうするかということ」ではなく、「発達を保障する教育」でなければならないと考えられた。そして、大石さん自身の町田市での社会教育の経験は、「労働観・社会観を学習し、仲間

づくりをすることを目ざす」取り組みであったので、「主体者としての青年の自立が「生きる力、働く力を身につけるために」行なわれている週一度の学級によるものであるのを目のあたりに見た時、「これならやれる」という気持を起こさせた。」というのです。

障がい者の社会教育という未踏の世界に、大石さんが、これだけのしっかりとした見通しをもって、一歩を踏み出していったという事実には驚かされますが、大石さんは、当時、まだ 30 歳になったばかりだったということにも驚嘆させられます。

また、細かな経緯はわかりませんが、しっかりとした予算措置もなされ、ボランティアによる運営ではなく、相応の謝礼が払われる仕事として担当者が位置づけられて、他の障がい者青年学級では類を見ないきっちりとした体制が生まれ、今日にいたっています。

なお、引用した文章は、青年学級開設直後に書かれたものですが、『教育』という雑誌は、教育界では知られた雑誌でしたから、こうした大石さんの取り組みが、すでにその世界では注目されていたものだったということにもなるでしょう。

2. 若葉とそよ風コンサート始まりの頃

こうして、始まった青年学級ですが、筆者が参加した 1981 年には、担当者体制は学生を中心としたものとして確立していました。毎週開かれる会議での熱のこもった議論、長時間をさいて行われる年度末の総括など、たいへん新鮮に映りました。

また、大石さんは、経験にのみに頼るのではなく理論的な学びもたいへん重視しており、毎月開

かれる学習会では、発達保障や社会教育の諸理論などが学ばれていきました。

1980年代に、自治や生活、文化といった実践の重要な柱とされるものを確立していったのは、こうした背景からでした。

また、この当時、多摩地区の障がい者青年学級のスタッフの学習の場というものも存在しており、方向性をめぐる議論がありました。議論の相手は主として国立の公民館でしたが、障がい者青年と若いスタッフとが共に対等に活動することを重視していた国立に対して、担当者が学びながら実践の方向性について議論を重ねていく町田のスタイルは、対照的なものでした。私たちがまた、障がい者青年とスタッフとが共に対等に付き合うことを求めていることに変わりはないのですが、担当者だけで学習会を開き、担当者会で議論するということは、外から見ると対等とは異なるものと映ったようでした。しかし、一定の責任と専門性をもって障がい者青年と関わることと、対等にかかわることは、本来矛盾するものではありません。むしろ、きちんとした議論をふまえて責任をもって関わることによって質を高めていくことこそが、障がいのある青年の本来の姿を引き出すのであり、その次元で求められる対等の関係こそが、重要であったのではないかと思います。

そんな中、1987年の夏、大石さんは突然、脳梗塞で倒れました。激震が走ったと言ってもよいでしょう。お二人のお子さんを支えるために学生スタッフも奔走しました。幸い、後遺症は残ったものの、仕事にも復帰でき、ことなきをえたのですが、この時の大石さんは、当時、片麻痺の高齢の学級生がいらっしまったのですが、その人に「私

もあなたと同じになりましたよ」と明るい口調で語ったのでした。それは、後遺症をめぐるマイナスの思いよりも、障がいのある人々と対等になれたことにプラスのものを見ていたということだったのででしょうか。

2004年に東京大学で行なった講義をまとめた「町田の社会教育とともに」という文章には、次のような箇所があります。

「一九八七年に、私は仕事で出張しているときに炎天下で倒れました。九死に一生を得て、障がい者として職場に復帰するまでの時間は半年でした。障がい者になって何が一番悲しかったかというところ、ハイヒールをはけなくなってしまったことでした。いつでも走り回って、いろいろな仕事をかけもちでやっていましたが、走るができなくなりました。」(月刊『社会教育』2004年7～9月号)

ハイヒールがはけなくて悲しいとは書かれているものの、障がいを負ったことが人生そのものには何のダメージを与えていないと宣言しているかのようでもあります。実際、大石さんから泣き言のようなことを聞いたことはありませんでした。



平和と憲法と私の映画 山田洋次監督と市民ホールにて

若葉とそよ風のハーモニーコンサートが始まったのは1988年のことですが、この第1回目のコンサートの準備は、ちょうど、大石さんの闘病の時

期と重なっていました。学級開設から15年目となった年でしたが、大石さんたちが開設当初に掲げた「地域で主人公として生きる」という青年学級の理念は、このコンサートを通じて、一つの答えを得たと言ってもよいでしょう。



3 多様な社会問題への視点

大石さんが、公民館で取り組んでいたのは、障がい者青年学級だけではなくありませんでした。1997年に市民大学に異動になったのですが、異動前の公民館でも、異動後の市民大学でも、平和問題など様々な取り組みを展開していました。

私たちは、こうした取り組みが青年学級との関係を十分に構想することができていなかったのですが、2004年にとびたつ会が発足すると、大石さんはとびたつ会の支援者となり、そうした成果が少しずつ、とびたつ会にも持ち込まれるようになりました。今、とびたつ会と青年学級では、自分たちの問題を訴えるだけでなく、広く社会問題に目を向ける広がりを持つようになりましたが、その背景には、障がい者の問題のみに限定されない広い社会教育の視点があったと言ってもよいのではないのでしょうか。

今年、ウクライナの戦禍のことなどもあって、私たちは、「生きてゆこう」に新しい意味を感じながら歌っていますが、この歌のもとになったもの

は、広島で原爆に被爆した町田市在住の助産師、神戸美和子さんにお話をうかがったことが直接のきっかけとなっていますが、こうしたつながりは、公民館で行なわれてきた平和学習の中で培われてきたものですが、そうしたつながりは、大石さんが時間をかけて作り上げてきたものだったと言ってよいでしょう。

4 おわりに

障がい者青年学級は、学級生と担当者、保護者などの力がたくさん集まってここまで続けられてきたものですが、その活動がここまで継続できた背景には、開設当初にきちんとした理念を据え、しっかりとした制度的な裏付けがあったことが小さくありません。

制度としての青年学級は、障害者権利条約の批准によって、障がい者の生涯学習に光があたるまで、長い間、その意義がきちんと議論されることはありませんでした。

しかし、私たち町田市障がい者青年学級は、半世紀にわたって、単なるボランティア活動やレクレーション活動ではない、社会教育としての活動を続けてきました。創設に大きな力があつた大石さんのご逝去を機に、改めて、大石さんの足跡を振り返り、私たちがもう一度何を学ぶべきであるかを再確認できたらと思います。



資料

年 表

町田市障がい者青年学級の歩み

1973年
(S. 48)

- 親の要求 → 障がい者のための青年学級
 ～非行に走らないように～
 ＊育成会 ＊福祉事務所ケースワーカー
 ＊社会教育課長 ＊精薄指導員
 ＊社会教育主事

- 準備期間 (社会教育主事)
 ◇ゆたか作業所 (名古屋) 訪
 ◇宮津青年学級 (京 都) 問

町田市障がい者青年学級準備会

- * 青年心理研究者 (1名)
- * 人形劇研究者 (1名)
- * 社会教育主事 (2名)
- * 社会教育関係者 (1名)

- ◇参加者募集
- ◇説明会
- ◇要領作成
- ◇映画上映
- ◇スタッフ募集

ねらい
 障がい者青年が豊かな生活を築くため、仲間たちと話し合ったり、学習したり、思いきり遊ぶなかで、生きる力や働く力を獲得することをめざす。

1974年
(S. 49.11)

20名

一
年
目

時 間 割		
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>
各自が学校卒業後の生活の中で「学びたいこと」	集団芸術活動を通しての集団化	青年自身のものとして、生きる力、働く力、自立心
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい ①仲間づくり ②創造する喜びを集団で ③生活の見つめ直しと表現力育成	

<担 当 者>

- * 市内の教師 (5名)
- * 福祉施設作業職員・児童学園職員 (3名)
- <行政職員>
- * ケースワーカー (2名)
- * 社会教育主事 (1名)
- 計 11名

父母会誕生

月2回の青年学級予算が決まる

1975年
(S. 50)

32名

二
年
目

時 間 割		
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい 思いきり体を動かす。	ねらい 自分の思っている事をはっきり言う。
☆ 小集団編成	生活班	
☆ 全員が役割	「よくばりこぐま」上演	
☆ 運営委員会		

<担 当 者>

- * 学生・市民 (12名)
- <行政職員>
- * 社会教育主事 (1名)
- * 社会教育職員 (1名)
- * ケースワーカー (2名)
- 計 16名
- ・ 健全者青年学級演劇コースに初めて2名参加
(障がい者青年学級・健全者青年学級に両方参加)
- ・ 障がい者に対する差別観念のたたかい
- ・ K・Yさんの家出
- ・ テレビ出演問題 (76年2月)
↓
- ・ 文集づくり → 文集委員 ↓

障がい
の多様化代

<p>1976年 (S. 51) 37名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">三 年 目</p>	<p style="text-align: center;">時 間 割</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 33%;"><各自の課題></th> <th style="width: 33%;"><人形劇作り></th> <th style="width: 33%;"><話し合い></th> </tr> <tr> <td> 数 学 美 術 国 語 技術工作 サイクリング 音 楽 手 芸 ↓ 手芸サークル化 (あみもの) </td> <td> ねらい どうやって青年 を劇づくりの主 役にするか。 ☆要求別劇班 ①人間劇班 一言いたい事を読み合った ②オペレッタ班 一へっこき嫁さん→体を動かす ③かげえ班 一あわて床屋 </td> <td></td> </tr> </table> <p>☆ 運営委員会 (土曜午後) ☆ 実行委員会 (フェスティバル・クリスマス)</p>	<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>	数 学 美 術 国 語 技術工作 サイクリング 音 楽 手 芸 ↓ 手芸サークル化 (あみもの)	ねらい どうやって青年 を劇づくりの主 役にするか。 ☆要求別劇班 ①人間劇班 一言いたい事を読み合った ②オペレッタ班 一へっこき嫁さん→体を動かす ③かげえ班 一あわて床屋		<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「通級可能な者」をとりはずす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二学級制検討 <ol style="list-style-type: none"> ①数的増大 ②要求多様化 ③担当者の能力限界 <p>父母との話し合い、青年の要求をふまえて</p> <p><担 当 者> *学生・市民 (15名) <行政職員> *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ケースワーカー (3名) 計20名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェスティバル→学級として参加 ・生きがいコース・料理コースの検討
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>						
数 学 美 術 国 語 技術工作 サイクリング 音 楽 手 芸 ↓ 手芸サークル化 (あみもの)	ねらい どうやって青年 を劇づくりの主 役にするか。 ☆要求別劇班 ①人間劇班 一言いたい事を読み合った ②オペレッタ班 一へっこき嫁さん→体を動かす ③かげえ班 一あわて床屋							
<p>1977年 (S. 52) 42名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">四 年 目</p> <p>改築のため 公民館↓ 町田第一 中学校へ</p> <p>青年の 多様化 (年齢障害)</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">二 学 級 生 実 施</p> <p>☆ ねらいはくずさず、二学級別々に運営する。</p> <p>☆ 午後 (文化活動・話し合い) →生活班 四つの基礎集団 (一学級二班)</p> <p style="text-align: center;">時 間 割</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 33%;"><各自の課題></th> <th style="width: 33%;"><人形劇作り></th> <th style="width: 33%;"><話し合い></th> </tr> <tr> <td> ① 手 芸 班 →サークル ② 手 芸 班 ① } 学 習 班 ② } ① } スポーツ班 ② } 音 楽 班 </td> <td> ねらい 集団としての自 治の高まり </td> <td></td> </tr> </table> <p>☆ 生活班としての劇づくり ①かしの木班「泣いた赤鬼」 — 友情 — 「人形劇」 ②ラーメン屋班「むぎひとつぶ」 — 青年の気持ちをひきだす — ③くりご班「ももたろう」 — 重たい人をどうまきこむか — ④ごろね班 — 感想をつづらせる —</p> <p>○素材として劇は妥当かどうか</p> <p>☆運営委員会 (やりたいもの学級運営にたずさわる) ☆実行委員会 (クリスマス会) 劇会ベース (担当者) では自治活動が積みあげられない。</p>	<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>	① 手 芸 班 →サークル ② 手 芸 班 ① } 学 習 班 ② } ① } スポーツ班 ② } 音 楽 班	ねらい 集団としての自 治の高まり		<p><担 当 者> *学生・市民 (15名) *地域青年 (2名) *人形劇団員 (1名) <行政職員> *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ケースワーカー (3名) 計23名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の移行 <ol style="list-style-type: none"> ①任務分担 <ul style="list-style-type: none"> ・文化活動担当 ・条件整備担当 ・生活担当 ②かかわり方の明確化 ③学級主事 代表者会 } 設置 ・学習会 (月1回) 行なう ・土曜学級生きがいコース } 開催 ・料理教室 ・地域へ <ol style="list-style-type: none"> ①盆踊り大会→土曜学級実施 ②ゲーム大会→ゴボーの会と ・送迎 — 教育としての送迎 職員の負担 ・父母会 — 通勤寮構想 ・公運審 — 父母等が参加
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>						
① 手 芸 班 →サークル ② 手 芸 班 ① } 学 習 班 ② } ① } スポーツ班 ② } 音 楽 班	ねらい 集団としての自 治の高まり							

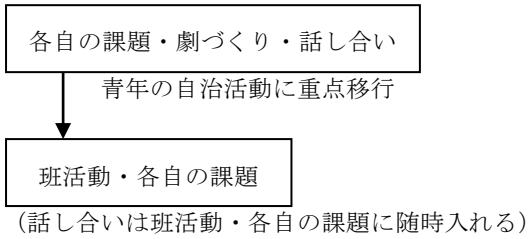
1978年
(S. 53)
49名

五年目

改築後

町田第一中学校
↓
公民館へ

3つに分かれた時間割りを2つに減らす



- ①集团的文化活動 劇づくり→行事を節に
- ②班→四つの基礎集団 (一学級二班)
- ③運営委員会 劇会→ 班長会・実行委員会へ

時間割

＜班活動＞午前	＜各自的課題＞午後
前半—キャンプ 後半—班ごとの活動 ①ペンペン草班 ・楽しみ仲間を意識し話し合いを成立させる ・お料理 ②デン助班 ・仲間を意識し、班活動を青年の手ですすめる ③トマト班 ・援助し合い、自治活動を高めよう ・ソフトボール ④ひゃっか店班 ・班員を知り、青年の手ですすめ、青年間で助け合う ・ソフトボール	手芸班 工作班 美術班 スポーツ班 国語班 算数班 音楽班 A・B学級の枠を超えて編成 養護学校生は、各自的課題のみ参加(疲れ、家族との関係の為) →午前・午後と集団の質の違い
☆ 班長の役割の不明確、青年の手で →担当者の援助方法・班のみの行動	

- ☆青年たちの要求
- ・自分たちの力でやりたい
 - ・ゆったりとした学級をやりたい
 - ・学習時間を長くしてほしい

積極的に受けとめ、ゆったりとした学級へ

- 担当者 → 学生増
(新旧交代)
代表者会 → 調整委員会へ
(担当者会で話しきれないもの)

- ＜担当者＞
- *在宅訪問事業 (2名)
 - *地域青年 (2名)
 - *人形劇団員 (1名)
 - *学生・市民 (14名)
- ＜行政職員＞
- *社会教育主事 (1名)
 - *社会教育職員 (1名)
 - *ケースワーカー (3名)
- 計24名
- 地域へ
- ・キャンプ → ゴボーの会
 - ・フェスティバル → 日曜実行委員会
 - ・クリスマス会 → 実行委員会
 - ・ソフトボール → 健康者青年学級
ゴボーの会
 - ・スケート → 希望者
 - ・料理教室
- 送迎問題 → 運動方針出す
- 学級卒業 → 夜間中学へ1名

1979年
(S. 54)
54名

六年目

- ☆ A・B学級でまとまろう
- ☆ 青年の手による自主的な運営をめざす

時間割

＜班活動＞午前	＜各自的課題＞午後
○A学級 { フレンド班 バラ班 ○B学級 { ピンクレディ班 たんぼぼ班	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班
<前期> ・キャンプを通して仲間意識、班意識、学級意識を高める ・キャンプの準備 (班内係・メニュー決め・調理実習)	

- ＜担当者＞
- *地域の専門家 (2名)
 - *訪問事業担当者 (2名)
 - *青年心理研究者 (1名)
 - *学生 (14名)
- ＜行政職員＞
- *ケースワーカー (2名)
 - *社会教育主事 (1名)
 - *社会教育職員 (1名)
- 計23名
- 地域の専門家に広がる

	<p><後期> 学級単位の活動 A タコづくり B レク・料理等班長会主導 ↓ 各班単位へ ・ピンクレディ班 — 野外活動・ゲーム ・たんぼぼ班 — 劇づくり ☆ 自治活動をすすめる上での共通体験、生活の広がりが必要 ☆ 重度の青年の発達過程をどう保障するか ☆ 成人（30代以上）にとっての課題は何か</p>	<p>○地域への広がり→クリスマス会 日曜学級、地域のサークル、金曜教室、 「交流会の意義を考える」 ○送迎問題→運動の視点から考える</p>										
<p>1980年 (S. 55) 50名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">七 年 目</p>	<p>☆ ゆとりある活動の中で、生活経験を広げ、その上で自主的に活動する力を獲得する ☆ 重度の青年、成人たちへの課題を考え、独自のグループをつくる</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">時間割</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;"><班活動>午前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><各自の課題>午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>生活と共にし、ゆったりした中で生活を語り合う 重度の青年と共に活動する</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p><後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題</p> </td> </tr> </tbody> </table>	時間割		<班活動>午前	<各自の課題>午後	<p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p>	<p>生活と共にし、ゆったりした中で生活を語り合う 重度の青年と共に活動する</p>		<p><後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題</p>		<p><担当者> *地域の専門家 (3名) *学生 (16名) <行政職員> *ケースワーカー (2名) *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ひかり療育園指導員 (1名) 計24名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">父母会 (学習会)</p> <p>福祉事務所ケースワーカー近藤氏を招いての講演「障がい者の足の保障」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クリスマス会</p> <p>公民館事業からクリスマス会実行委員会主催に移行</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文集づくり</p> <p>文集委員会が中心 文集の表題に「障害者青年学級」を入れることにより問題が起こった</p>
時間割												
<班活動>午前	<各自の課題>午後											
<p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p>											
<p>生活と共にし、ゆったりした中で生活を語り合う 重度の青年と共に活動する</p>												
<p><後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題</p>												
<p>1981年 (S. 56) 54人</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">八 年 目</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し (1年目) ☆ 表現活動 (劇活動) への取り組み</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">時間割</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;"><班活動>午前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><各自の課題>午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p> </td> </tr> </tbody> </table>	時間割		<班活動>午前	<各自の課題>午後	<p>A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (16名) *市民 (5名) <行政職員> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) 計27名</p>				
時間割												
<班活動>午前	<各自の課題>午後											
<p>A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p>											

<p>B学級（班替えなし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 ・二班 <p><前期></p> <p>話し合い 仕事の悩み 家族の様子等</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観劇 ・プール <p><後期></p> <p>↓</p> <p>劇づくり 台本委員 (自主的な劇づくり)</p> <p>○ 生活上の抱えている問題を出し合う ○ 否定的側面が強調されすぎた ↓ 広く生活をとらえ直すことの必要性</p> <p>(注1) のびのび班—障がいの重い青年に必要な課題を特に設定したグループ。これは前年度班活動の中で取り組まれた重度者（からだほぐし）グループが発展的に解消されたもの。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術班 ・スポーツ班 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">重度者グループ</div> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのび班（注1） <p>班長会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学級日 ・第4日曜日 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">地域へ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場クリスマス会へ参加 ・自主的な学習サークル「すぎの子」誕生 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">送迎問題</div> <p>送迎委員会の再建</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの公民館利用を考える ・公民館利用者懇談会参加 <p>「送迎を考える会」誕生</p>
---	--	--

<p>1982年 (S. 57) 52名</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し（2年目）</p> <p>☆ 表現活動への取り組み</p> <p style="text-align: right;">※ 班替えなし（班名の変更）</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家（1名） *学生（11名） *市民（4名） <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（2名） *ひかり療育園職員（1名） <p style="text-align: right;">計21名</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">九 年 目</div>	<p>時 間 割</p>	
	<p><班活動>午前</p> <p>A学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれ班 「～できる」という心 劇づくり（すみれヶ丘） ・さくら班 生活を広い領域でとらえ カードを文章化していく ことで、生活の自覚化・ 共有化をはかる <p>B学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 「夢」を通して生活を見 つめる 劇づくり（ハ班の夢） ・スイートピー班 生活場面を表現する 劇づくり（13名の同窓会） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・プール ・合宿 ・狛江との交流 </div> <p style="text-align: center;">・班長会、実行委員会の役割が不明確</p>	<p><各自の課題>午後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <p>・班長会</p> <p>・実行委員会 (合宿、狛江との交流)</p>

十 年 目	1983年 (S. 58) 53名 ☆ 生活の見つめ直し(3年目) ☆ 青年の手による自主的な運営をめざす ☆ 新しい班で仲間を知り合う ☆ 表現活動への取り組み	<担当者> *教育心理学の専門家(1名) *学生(9名) *市民(8名) <行政職員> *公民館職員(3名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計24名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・土曜学級 <送迎問題> 学級活動の一環としてとりくむ 担当者間で位置づけにバラつきがあった
	時 間 割	
	<班活動>午前 (班替え)	<各自の課題>午後
<前期> ↓ 話し合い [お互いに知り合う 仕事のこと 生活の悩み など] ↓ ・狛江との交流 ↓ ・プール <後期> ↓ ・合宿 ↓ ・もちつき大会 <表現活動> ↓ ・ガチャガチャ班(15名) — 人形劇づくり — 人形をとおして、自分を語り 自分の想いをアピールする ・チューリップ班(13名) — 歌づくり — 歌によって自分の意見や、思 いを表現する ・レモン班(13名) — 劇づくり — 自分たちの職場を紹介しあい お互いの理解を深める ・考える班(12名) — 劇づくり — 職場の実態や生活、そして 「仲間とは何か」を考える	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <班長会> ・各班活動の情報交換 ・学級全体のことについて 話し合う ・行事の企画運営を行なう <実行委員会> ・狛江との交流会 ・合宿 ・もちつき大会	
十 一 年 目	1984年 (S. 59) 63名 ☆ 青年の自主的運営 ☆ 2年目の班で活動内容を深める ☆ 10周年行事、「とびたとう」発行を中心活動とする	<担当者> *教育心理学の専門家(1名) *学生(10名) *市民(6名) <行政職員> *公民館職員(2名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計22名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会
	時 間 割	
	<班活動>午前	<各自の課題>午後
<前期> ↓ ・2年目の班としての活動 ・狛江との交流 ・合宿 ・プール ↓ <後期> ↓ ・10周年記念行事 パーティー ・クリスマス会 ・もちつき大会 ↓ ・とびたとう ↓ ・ガチャガチャ班(17名) ガチャガチャ新聞	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 ・サイクリング班 <班長会> ・実行委員会と合同で行事の 進行をする	

	<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップ班（14名） うた作り、絵 ・レモン班（14名） 文集「レモンの友だち」 ・考える班 自己表現—思ったことを を大声でいう 	<p><実行委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・狛江との交流会 ・合宿 ・10周年 ・クリスマス会 ・とびたとう 	<p><送迎問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の一環とする ・ハンディキャブの利用はじまる
<p>1985年 (S. 60) 57名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 十二 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり (コース制 1年目)</p> <p><コース別活動>全日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コース ・文化芸術コース ・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース <ul style="list-style-type: none"> ・班長会 ・狛江交流実行委員会 <p>(行事)</p> <p>プール 狛江との交流会 合宿 (水元青年の家) 公民館まつり</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (15名) *市民 (6名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計27名</p> <p><サークル活動 ~地域へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・ふれあいクリスマス会参加 ・公民館まつり 	
<p>1986年 (S. 61) 64名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 十三 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 2年目)</p> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽Aコース ・音楽Bコース ・文化・芸術コース ・健康・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース <p><班長会></p> <p>実行委員会と同時進行</p> <p><実行委員会></p> <p>狛江との交流会 クリスマス会 とびたとう</p> <p><行事></p> <p>スポーツ大会 狛江交流会 合宿 (山中湖) 公民館まつり クリスマス会</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (15名) *市民 (6名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計27名</p> <p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・おなべの会 ・らくだバンド <p><地域へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 	
<p>1987年 (S. 62) 77名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 十四 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 3年目)</p> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康・体づくりコース ・生活コース ・自然コース 	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (16名) *市民 (3名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (1名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計24名</p>	

	<p><班長会> 実行委員会と並行</p> <p><実行委員会> 狛江交流会（クリスマス会）</p> <p><行事> 合宿（山中湖）、公民館まつり 狛江交流会（クリスマス会） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート（町田）</p>	<p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加</p> <p>※きらきら笑顔のメッセージコンサート参加（国立） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート参加（町田）</p>
<p>1988年 (S. 63) 83名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 十五年 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 4年目）</p> <p><コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・生活コース ・自然コース</p> <p><班長会> <新聞委員会> <狛江実行委員会></p> <p>（行事） 合宿（府中青年の家） 公民館まつり 狛江市青年学級との交流会 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（7名） *学生（9名） *市民（3名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園職員（1名） 計24名</p> <p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>
<p>1989年 (H. 1) 91名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 十六年 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 5年目）</p> <p><コース別活動> ・音楽①コース ・音楽②コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ※各コースで生活について考えていく</p> <p><班長会> クリスマス会実行委員会と並行</p> <p><新聞委員会> <とびたとう編集委員会></p> <p><行事> 合宿（府中青年の家） 公民館まつり ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（10名） *学生（9名） *市民（2名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園指導員（1名） 計26名</p> <p><地域へ> 公民館まつり参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p> <p><サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会</p>

1990年
(H. 2)
99名

十七
年
目

☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 6年目)

<コース別活動>

- ・音楽①コース
- ・音楽②コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・ものづくりコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<班長会>

<クリスマス会実行委員会>

<新聞委員会>

<行事>

合宿 (水元青年の家)

公民館まつり

※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (7名)
- *市民 (5名)

<行政職員>

- *公民館職員 (3名)
 - *ケースワーカー (1名)
 - *ひかり療育園職員 (1名)
- 計27名

<地域へ>

公民館まつり参加

※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<会場>

1～3月、公民館改修工事のため、町田第2小学校で通常学級活動を、成果発表会を地域センター (成瀬) でおこなう

1991年
(H. 3)
105名

十八
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制7年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年センター)
公民館まつり

<班長会>

*ひかり学級

<班別活動>

- ・コスモス班
- ・ハチ公班
- ・コンドル班
- ・JR班

<行事>

合宿 (府中青年の家)
公民館まつり

<班長会>

<行事委員会>

<合同実行委員会>

- ・クリスマス会実行委員会
- ・とびたとう編集委員会

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (15名)
- *市民 (6名)

<行政職員>

- *公民館職員 (3名)
- *ひかり療育園指導員 (1名)

計35名

1992年
(H. 4)
118名

十
九
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制8年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (山中湖)
- 公民館まつり

<班長会>

*ひかり学級 (コース制1年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (山中湖)
- 公民館まつり

<班長会>

<合同実行委員会>

- ・クリスマス会実行委員会
- ・とびたとう編集委員会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (18名)
- *市民 (6名)

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会
- ・音楽サークル

<行政職員>

<地域へ>

※共作連全国大会「うたごえ東京」(ペイNKホール)に参加

※若葉とそよ風のハーモニー合唱団「芸術祭

おまつり広場」(都庁ホール)に参加

- *公民館職員 (3名)
 - *ひかり療育園指導員 (1名)
- 計38名

1993年
(H. 5)
131名

二
十
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制9年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (長野県川上村)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制2年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・ものづくりコース

<行事>

- 合宿 (長野県川上村)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (14名)
- *市民 (23名)

<地域へ>

※第5回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<行政職員>

- *公民館職員 (3名)
 - *ひかり療育園指導員 (1名)
- 計51名

1994年
(H. 6)
141名

二十一年
目

☆ 生活づくり・文化創造
☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制10年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (水元青年の家)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制3年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活ものづくりコース

<行事>

- 合宿 (水元青年の家)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

20周年記念行事 (昼) 健康福祉会館…20周年記念行事実行委員会
20周年記念パーティ (夜) ホテル・ザ・エルシー…20周年記念パーティ実行委員会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *大学院生 (1名)
- *学生 (12名)
- *市民 (24名)

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<行政職員>

<地域へ>

※第6回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

*公民館職員 (3名)

*公民館嘱託職員 (1名)

計51名

1995年
(H. 7)
152名

二十二年
目

☆ 生活づくり・文化創造
☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制11年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制4年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *施設職員 (8名)
- *学生 (18名)
- *市民 (27名)

<地域へ>

※第7回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<行政職員>

*公民館職員 (4名)

計58名

1996年
(H. 8)
162名

二十三年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制12年目)

<コース別活動>

- ・音楽ハッピーコース
- ・音楽トマトバナナコース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・新聞づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

*ひかり学級 (コース制5年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *施設職員 (8名)
- *学生 (14名)
- *市民 (39名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)

計66名

1997年
(H. 9)
169名

二十四年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制13年目)

<コース別活動>

- ・うさぎミュージカルコース
- ・チャンピオンバンドコース
- ・抱きしめたいコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制6年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>

*土曜学級 (班制1年目)

<班別活動>

- ・あじさい班
- ・コスモス班
- ・スピッツ班

<行事>

- 合宿 (青梅青年の家)
- 公民館まつり
- 新年会

<班長会>

<新年会実行委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第8回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担 当 者>
 *教育心理学の専門家 (1名)
 *社会教育職員 (1名)
 *施設職員 (8名)
 *学生 (20名)
 *市民 (38名)
 <行 政 職 員>
 *公民館職員 (4名)
 計72名

1998年
 (H. 10)
 182名

二
 十
 五
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
 *公民館学級 (コース制14年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・ものづくりコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<つどい委員会>
・Jバンドコース	公民館まつり	
・ブロード・スマイルコース	クリスマス会	
・健康からだづくりコース		
・自然コース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制7年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・劇ミュージカルコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<新聞委員会>
・健からオールスターズコース	公民館まつり	<喫茶のぞみ>
・さんぽでけんからコース	クリスマス会	
・生活コース		
・自然コース		

*土曜学級 (班制2年目)

<班別活動>	<行事>	<班長会>
・ひまわり班	合宿 (青梅青年の家)	<新年会実行委員会>
・トマト班	公民館まつり	
・トトロ班	新年会	

<サークル活動>	<担 当 者>
・さなえサークル	*教育心理学の専門家 (1名)
・おなべの会	*施設職員 (14名)
	*学生 (21名)
	*市民 (38名)

<地域へ>	<行 政 職 員>
※第9回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加	*公民館職員 (4名)
	計78名

1999年
 (H. 11)
 192名

二
 十
 六
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
 *公民館学級 (コース制15年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・パフィーコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<つどい委員会>
・ミッキーコース	公民館まつり	
・ラビッツコース (バンド)	クリスマス会	
・ひまわりコース		
・自然オレンジーズコース		
・生活コース		

*ひかり学級（コース制8年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>
- <とびたとう編集委員会>
- <行事委員会>

*土曜学級（班制3年目）

<班別活動>

- ・スイートピー班
- ・スマップ班
- ・ミッキーコースター班

<行事>

- 合宿（青梅青年の家）
- 公民館まつり
- 新年会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家（1名）
- *施設職員（14名）
- *学生（21名）
- *市民（30名）
- <行政職員>
- *公民館職員（4名）

計70名

2000年

(H. 12)

188名

二
十
七
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制16年目）

<コース別活動>

- ・ストロベリーコース
- ・健康からだづくりコース
- ・キッカーズコース（バンド）
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制9年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>
- <とびたとう編集委員会>
- <行事委員会>

*土曜学級（班制4年目）

<班別活動>

- ・ひまわり班
- ・のぞみ班
- ・すずらん班
- ・さくらんぼ班

<行事>

- 合宿（狭山青年の家）
- 公民館まつり
- 年忘れ大運動会&
- クリスマス会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家（1名）
- *施設職員（14名）
- *学生（21名）
- *市民（28名）
- <行政職員>
- *公民館職員（4名）

計68名

2001年
(H. 13)
185名

二十八年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制17年目)

<コース別活動>

- ・はいくキングコース
- ・健康からだづくりコース
- ・うたダンスミュージカルコース
- ・ものづくりコース
- ・町田たんけんコース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制10年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<行事委員会>

*土曜学級 (班制5年目)

<班別活動>

- ・うたとゆめ班
- ・つばさ班
- ・あさぎり班
- ・うさぎ班

<行事>

- 合宿 (狭山青年の家)
- 公民館まつり
- 新年会

<班長会>

<つどい委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

*学生・市民 (60名)

<行政職員>

*公民館職員 (4名)

計64名

2002年
(H. 14)
183名

二十九年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制18年目)

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・あさがおコース
- ・ももコース
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制11年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<行事委員会>

*土曜学級 (班制6年目)

- <班別活動>
- ・あるき班
 - ・らくだものづくり班
 - ・ブギウギ班
 - ・ブルースカイ班

- <行事>
- 合宿（狭山青年の家）
 - 公民館まつり
 - 新年会

- <班長会>
- <つどい委員会>

- <サークル活動>
- ・さなえサークル
 - ・おなべの会

- <担当者>
- *学生・市民 (61名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計65名

2003年
(H. 15)
181名

三十
年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制19年目）

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・トマバナミュージカルコース
- ・ニコニコバンドコース
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制12年目）

<コース別活動>

- ・劇・ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・企画づくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 日帰りハイキング（府中郷土の森）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <つどい>

*土曜学級（班制7年目）

<班別活動>

- ・ストロベリージャンプ班
- ・にじ班
- ・生活をつくる班
- ・ひまわり班

<行事>

- 合宿（水元青年の家）
- 公民館まつり
- 冬のイベント

<班長会>

- <つどい委員会>

<サークル活動>

- ・おなべの会
- ・（仮称）共同学習識字の会

<担当者>

- *学生・市民 (61名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)

計65名

2004年
(H. 16)
193名

三十
一
年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制20年目）

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・スマイルコース
- ・ジャニーズコース
- ・ピンクガーデンコース
- ・ものづくりコース
- ・コスモス人生コース

<行事>

- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制13年目）

<コース別活動>

<行事>

<班長会>

- ・スポーツ&ハイキングコース 合宿（大地沢青少年センター） <新聞委員会>
- ・ハイキングするコース 公民館まつり <つどい委員会>
- ・企画づくりコース クリスマス会
- ・音舞団
- ・さつまいも南アルプスハイジコース

*土曜学級（班制8年目）

- | | | |
|-----------------|------------|----------|
| <班別活動> | <行事> | <班長会> |
| ・そら班 | 合宿（水元青年の家） | <つどい委員会> |
| ・ズームイン班 | 公民館まつり | |
| ・ハートおんぷ班 | 新年会 | |
| ・Shooting Star班 | | |

- | | |
|----------------|--------------|
| <サークル活動> | <担当者> |
| ・おなべの会 | *学生・市民 (60名) |
| ・(仮称) 共同学習識字の会 | <行政職員> |
| ・とびたつ会 | *公民館職員 (4名) |
| | 計64名 |

2005年

(H.17)

☆ 生活づくり・文化創造

196名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三
十
二
年
目

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制21年目）

- | | | |
|--------------------|-----------|---------|
| <コース別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・イルカさかなコース | ・班長会 | ・クリスマス会 |
| ・ものコース | ・新聞委員会 | ・忘年会 |
| ・やりたいことと暮らしを考えるコース | | |
| ・ジャーニーオレンジコース | | |
| ・さくらコース | | |
| ・すまいるミュージカルコース | | |

*ひかり学級（コース制14年目）

- | | | |
|----------------|-----------|---------|
| <コース別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・おいしいたべものコース | ・班長会 | ・クリスマス会 |
| ・みんなでGO!!コース | ・つどい委員会 | |
| ・ダンス&ミュージックコース | | |
| ・歩くんです。コース | | |
| ・ザ・家庭と暮らしコース | | |

*土曜学級（班制9年目）

- | | | |
|------------|-----------|------|
| <班別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・ハッスル班 | ・班長会 | ・忘年会 |
| ・キネマゴーゴー班 | ・つどい委員会 | ・新年会 |
| ・のりものでゴー!班 | | |

- ・ F 班
- ・ ちっちゃいお店班

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2006年

(H.18)

☆ 生活づくり・文化創造

188名

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

三十三年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

*公民館学級 (コース制22年目)

<コース別活動>

- ・ イルカキラキラソナタミュージカルコース
- ・ ものぷーさんコース
- ・ やりたいことと暮らしを考えるコース
- ・ 自然まんきつコース
- ・ みんなでGOコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

*ひかり学級 (コース制15年目)

<コース別活動>

- ・ ライブクリップコース
- ・ みんなのものづくり隊コース
- ・ 自分で自分コース
- ・ レッツゴーハイキングコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

*土曜学級 (班制10年目)

<班別活動>

- ・ ねこバス班
- ・ ドレミ班
- ・ グルメハイキング班
- ・ 夢新聞班
- ・ イルカ班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2007年

(H.19)

☆ 生活づくり・文化創造

176名

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）
- ・バスハイク（こどもの国）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制23年目）

- <コース別活動>
 生活とやりたいことを考えるコース
 ポンタコース
 劇団キャッツアイ
 みんなでチャレンジコース
 つばめコース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

*ひかり学級（コース制16年目）

- <コース別活動>
 GO!GO!チャレンジコース
 富士山コース
 ひまわり・コスモスコース
 ミュージックコース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

*土曜学級（班制11年目）

- <班別活動>
 ハッピー班
 空色美術班
 ホットなごみ班
 キラキラ班
 レインボー班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

◇学級外のサークル活動

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

担当者	63名
（学級日当日担当者）	13名）
公民館職員	4名

※ 学級日当日担当者の制度を
新設しました

2008年

(H. 20)

☆ 生活づくり・文化創造

173名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制24年目）

- <コース別活動>
 生活とやりたいことを考えるコース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・クリスマス会

パンダコース
ブルースコース
フレンズドリームコース
ものピカソコース

・つどい委員会

*ひかり学級（コース制17年目）

<コース別活動>

スポガイGO!GO!コース
にじいろ・たいようコース
GO!GO!ハイキングコース
音楽&とびたとうコース
ひまわりコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制12年目）

<班別活動>

ドンドン班
アドベンチャー班
アリス班
ほしとひまわり班
うんどうすば一つ班

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・新年会

◇学級外のサークル活動

・おなべの会
・とびたつ会

担当者	67名
(学級日当日担当者)	19名
公民館職員	3名

2009年

(H. 21) ☆ 生活づくり・文化創造

169名 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十六年目

◇全体行事

・東京都障がい者スポーツ大会
・公民館まつり
・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制25年目）

<コース別活動>

ROBOTコース
作品づくりコース
ドリームレインボーコース
生活とやりたいことを考えるコース
ルーキーズコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*ひかり学級（コース制18年目）

<コース別活動>

みんなの手コース
元気あいじょうコース
ステージJコース
フラワー・ヤッホーコース
企画チャレンジコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制13年目）

<班別活動>

- ラッキー班
- あるくものづくり班
- ピッピスポーツ班
- チャレンジ班
- キラキラげんき班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

担当者	81名
(学級日当日担当者)	13名
公民館職員	3名

◇学級外のサークル活動

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

2010年

(H. 22)

☆ 生活づくり・文化創造

178名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十七年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

* 公民館学級（コース制26年目）

<コース別活動>

- ・ スターウォーズコース
- ・ ひまわりコース
- ・ オールスターコース
- ・ ゆめをみようコース
- ・ ミュージカルインストルメンツコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級（コース制19年目）

<コース別活動>

- ・ スポーツドリームコース
- ・ 冒険散歩コース
- ・ 星のつばさコース
- ・ ラベンダーのかなたへコース
- ・ あじさいコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 20周年記念イベント

* 土曜学級（班制14年目）

<班別活動>

- ・ ビクトリー班
- ・ ステップでどん班
- ・ ニコニコお祭り班
- ・ ぞうさんのあくび班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	73名
(学級日当日担当者)	21名
公民館職員	3名

2011年

(H. 23)

186名

三十八年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

* 公民館学級 (コース制27年目)

<コース別活動>

- ・ ハピネスクローバー コース
- ・ ダンシングミュージカル コース
- ・ 銀河鉄道999 コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ きずな コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級 (コース制20年目)

<コース別活動>

- ・ 探検ハト コース
- ・ 健康スポーツ コース
- ・ レッドビッキーズ
- ・ パンダ コース
- ・ パフォーマンスアカデミー コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ クリスマス会

* 土曜学級 (班制15年目)

<班別活動>

- ・ ひまわり 班
- ・ げきだんランランロック 班
- ・ ハッピーミュージック 班
- ・ ワクワク体験 班
- ・ お陽さまごつつんこ 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	82名
(学級日当日担当者)	23名)
公民館職員	3名

2012年

(H. 24)

183名

三十九年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇ 全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇ 学級別活動

* 公民館学級（コース制28年目）

<コース別活動>

- ・ コンサート♪ コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ 健康・体力づくり コース
- ・ 劇団 宇宙のかがやき コース
- ・ ギブア・ハピネススクローバー・トゥ・ビーナス コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級（コース制活動21年目）

<コース別活動>

- ・ 笑顔&ミュージカル コース
- ・ スマイル コース
- ・ ひまわりものづくり コース
- ・ 愛情料理 コース
- ・ さんぼ コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ クリスマス会

* 土曜学級（班制16年目）

<班別活動>

- ・ はくちょうで野球しようぜ 班
- ・ ラビットグルメ 班
- ・ なんでもチャレンジ 班
- ・ やったねストライク 班
- ・ ムーンランド♥ドラエモンバンド 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	77名
(学級日当日担当者)	32名)
生涯学習センター職員	3名

2013年
(H. 25)
183名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・ 東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制29年目）

<コース別活動>

- ・ みんなのゆめ コース
- ・ みんなのあかりコース 2013
- ・ ヘルス・パワーアップ コース
- ・ 夢よびたい コース
- ・ ものづくり コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 合宿
(大地沢青少年センター)
- ・ クリスマス会

※ ひかり学級（コース制活動22年目）

<コース別活動>

- ・ みんなのいのち コース
- ・ ハッピースポーツ探検さんぼ コース
- ・ メニーハンズ コース
- ・ うさぎのダンス コース
- ・ ふれあいのぞみ コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ バスハイク
(こどもの国)
- ・ クリスマス会

※ 土曜学級（班制17年目）

<班制活動>

- ・みどりのはっぱとたんぼぼ 班
- ・じぇじぇじぇ！あじさいだー 班
- ・ラビット・ミッフィー・ドルフィン 班
- ・ひまわり 班
- ・住・行（考） 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	73名
（うち学級日当日担当者	26名）
生涯学習センター職員	4名

2014年

(H.26)
182名

四十一年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）
- ・青年学級40周年記念式典

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制30年目）

<コース別活動>

- ・こころ夢 コース
- ・はれの日 コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・スマイルヘルスアップ コース
- ・カリビアン コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制23年目）

<コース別活動>

- ・世界にひとつだけの花 コース
- ・江ノ島かもがわ水族館 コース
- ・元気はつらつ夏椿 コース
- ・トトロミュージック コース
- ・イベント・ドリーム コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・バスハイク
（よこはま動物園ズーラシア）
- ・新年会

※ 土曜学級（班制18年目）

<班制活動>

- ・青空クローバー 班
- ・ギターとラップと夢とともだち 班
- ・健康グルメ 班
- ・あまちゃん 班
- ・生活まじめ 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江ノ島）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	71名
（うち学級日当日担当者	22名）
生涯学習センター職員	4名

2015年

(H. 27)

174名

四十二年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制31年目)

<コース別活動>

- ・楽器大好き コース
- ・ものづくり コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・ケンカラ コース
- ・劇・ミュージカル コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制24年目)

<コース別活動>

- ・にじスマイル コース
- ・強くて負けないスーパー電車 スポーツコース1・2・3
- ・小さなしあわせ すみれ コース
- ・ミュージカル・ダンス コース
- ・おでかけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行 (江ノ島)
- ・新年会

※ 土曜学級 (班制19年目)

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	71名
(うち学級日当日担当者)	22名)
生涯学習センター職員	5名

2016年

(H. 28)

171名

四十三年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制32年目)

<コース別活動>

- ・抱きしめたい心 コース
- ・ものづくり コース
- ・生活とくらしを考える コース
- ・炎のファイト! 健康からだづくり コース
- ・あおのなかま コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制25年目)

<コース別活動>

- ・ふれあいをつくっていく コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行

- ・無敵最強スポーツ コース
- ・ひまわり味彩大作戦 コース
- ・コスマリッパ劇ダンス コース

(藤野芸術の家)
・クリスマス会

※ 土曜学級 (班制20年目)

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	26名)
生涯学習センター職員	6名

2017年

(H. 29)

171名

四十四年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制33年目)

<コース別活動>

- ・なでしこ コース
- ・たんぼぼ コース
- ・よりみち コース
- ・エビカニクス コース
- ・自由カンガルー コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制26年目)

<コース別活動>

- ・花 コース
- ・虹ドリームアンド創作 コース
- ・何でも最強スポーツ コース
- ・お出かけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級 (班制21年目)

<班制活動>

- ・ハワイと虹 班
- ・トーマスレインボースポーツ 班
- ・一刀両断 班
- ・トレンドィものづくり 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・新年会
- ・20周年記念式典

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	27名)
生涯学習センター職員	4名

2018年

(H. 30)

166名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制34年目）

- <コース別活動>
- ・わかそよづくり コース
 - ・みんなのたいせつなことば コース
 - ・ひわまり コース
 - ・くらし コース
 - ・ハッピー生き生き！スポーツ コース
 - ・夢のあかり コース

- <学級内代表活動>
- ・班長会
 - ・つどい委員会

- <行事>
- ・合宿
（大地沢青少年センター）
 - ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制27年目）

- <コース別活動>
- ・エキスポ コース
 - ・おまかせ芸術 コース
 - ・レッドスターズ
 - ・みんなの未来 コース

- <学級内代表活動>
- ・班長会

- <行事>
- ・日帰り旅行
（相模原公園）
 - ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制22年目）

- <班制活動>
- ・流れ星🌟ダンス 班
 - ・スマイルイベント 班
 - ・ものづくりブリヂストン 班
 - ・秋桜 班

- <学級内代表活動>
- ・班長会

- <行事>
- ・日帰り旅行
（小田原）
 - ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	73名
（うち学級日当日担当者	30名）
生涯学習センター職員	4名

2019年
(H. 31)
163名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制35年目）

- <コース別活動>
- ・みんなのしあわせづくり コース
 - ・まあるいゆめ コース
 - ・さくら コース
 - ・ハッピーハッピーくらし コース
 - ・さくらんぼスポーツ体づくり コース
 - ・ゆめのつづき コース

- <学級内代表活動>
- ・班長会
 - ・つどい委員会

- <行事>
- ・合宿
（大地沢青少年センター）
 - ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制28年目）

- <コース別活動>
- ・イトチョコパイ青空 コース
 - ・サルビアダンス コース
 - ・GoGo みずいろスターズ コース
 - ・あじさい コース

- <学級内代表活動>
- ・班長会

- <行事>
- ・日帰り旅行
（江の島）
 - ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制23年目）

- <班制活動>
- ・星空ドルフィンスポーツ 班
 - ・みんなのイベント 班
 - ・あじさい 班
 - ・青空いなずま 班

- <学級内代表活動>
- ・班長会

- <行事>
- ・日帰り旅行 (横浜)
 - ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム
- ・風になる会

担当者	66名
(うち学級日当日担当者)	16名)
生涯学習センター職員	4名

2020年

☆ 生活づくり・文化創造

(R. 2)

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

164名

四十七年目

◇全体行事

- ・生涯学習センターまつり (インターネット会場)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制36年目)

<コース別活動>

- ・みんなのしあわせづくり コース
- ・まあるいゆめ コース
- ・さくら コース
- ・ハッピーハッピー暮らし コース
- ・さくらんぼスポーツ体づくり コース
- ・ゆめのつづき コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制29年目)

<コース別活動>

- ・エールハイキング コース
- ・スイートゆめいろ創作 コース
- ・ゆかいなフラワー コース
- ・ライブダンス2020 コース

<学級内代表活動>

-

<行事>

-

※ 土曜学級 (班制24年目)

<班制活動>

- ・星空ドルフィンスポーツ 班
- ・みんなのイベント 班
- ・あじさい 班
- ・青空いなずま 班

<学級内代表活動>

-

<行事>

-

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム
- ・上を向く会 (気流)

担当者	47名
生涯学習センター職員	4名

2021年

☆ 生活づくり・文化創造

(R. 3)

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

158名

四十八年目

◇全体行事

- ・生涯学習センターまつり (インターネット会場)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制37年目)

<コース別活動>

- ・みんなのしあわせづくり コース
- ・まあるいゆめ コース
- ・さくら コース
- ・ハッピーハッピー暮らし コース
- ・さくらんぼスポーツ体づくり コース
- ・ゆめのつづき コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制30年目)

<コース別活動>

- ・ミニー・コスモス コース
- ・さざんかアートグループ コース
- ・スポーツで伝える2022 コース
- ・ふれあって飛びたとう編集部 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・クリスマス会
- ・日帰り旅行 (こどもの国)

※ 土曜学級 (班制25年目)

<班制活動>

- ・夢と音 班
- ・虹色パブリカ 班
- ・アマビエ 班
- ・けやき坂 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・クリスマス会
- ・日帰り旅行 (小田原・箱根)

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム
- ・上を向く会 (気流)

担当者	54名
生涯学習センター職員	4名

☆学級生の就労状況

未就労	1	福祉サービス	美術工芸館	3	
		かがやき	19	第2シャロームの家	1
一般就労		ころみ農園	3	秦野市くず葉学園	1
菓子工場	1	シャロームの家	4	花の家	9
紙器	1	スワンカフェ&ベーカリー	2	ペロニカ苑	9
特例子会社	1	つるかわ学園	3	町田とも	2
特例子会社	1	デンマーク牧場	1	らっく	1
理容・美容	1	なないろ	12	サポートセンター町田とも	2
老人ホーム	1	プラスアルファ	6	ひかり療育園	2
惣菜製造	1	ポワ・アルモニー	1	わさびだ療育園	1
		メイク2	1	町田生活実習所	4
		ゆめ工房	1	町田福祉園	3
		ラ・まの	6	島田療育センター	1
		花の郷	6	町田福祉園	2
		喫茶けやき	2		
		共働学舎	6		
		森工房	1		
		赤い屋根	7		
		大賀藕絲館	18		
		町田おかしの家	3		
		町田かたつむりの家	5		
		町田リス園	2		

☆学級生の在籍年数

(初年度は1年)	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	合計
公民館学級	8	7	13	6	31	65
ひかり学級	3	0	6	2	37	48
土曜学級	4	4	7	7	23	45

☆学級生の持っている手帳

愛の手帳(療育手帳)

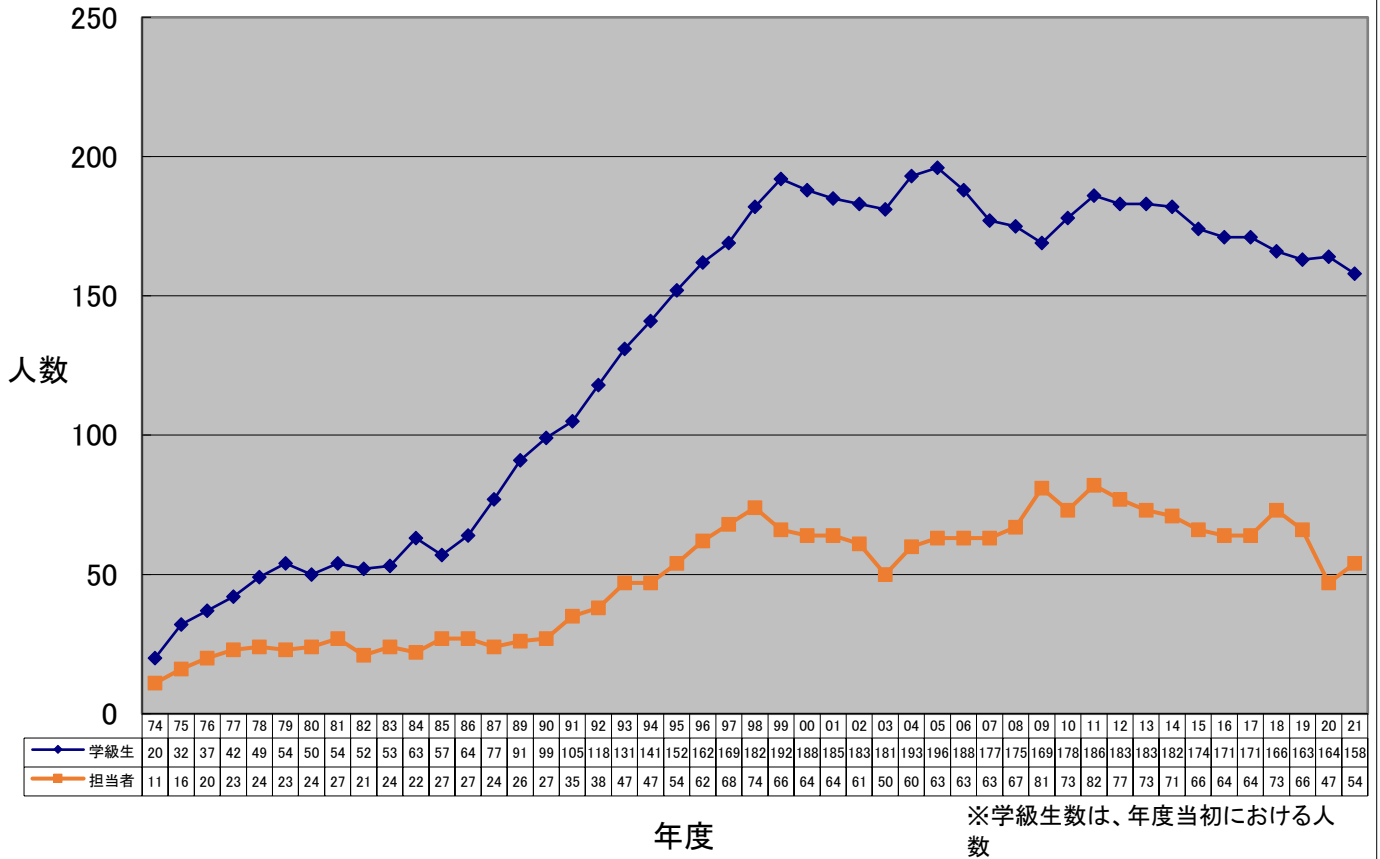
		1度	2度	3度	4度	計
公民館学級	男	1	22	14	4	41
	女		10	10	3	23
ひかり学級	男	1	10	18	2	31
	女	1	11	3	1	16
土曜学級	男	1	14	13	4	32
	女		6	5	2	13
計	男	3	46	45	10	104
	女	1	27	18	6	52
総計		4	73	63	16	156

身体障害者手帳

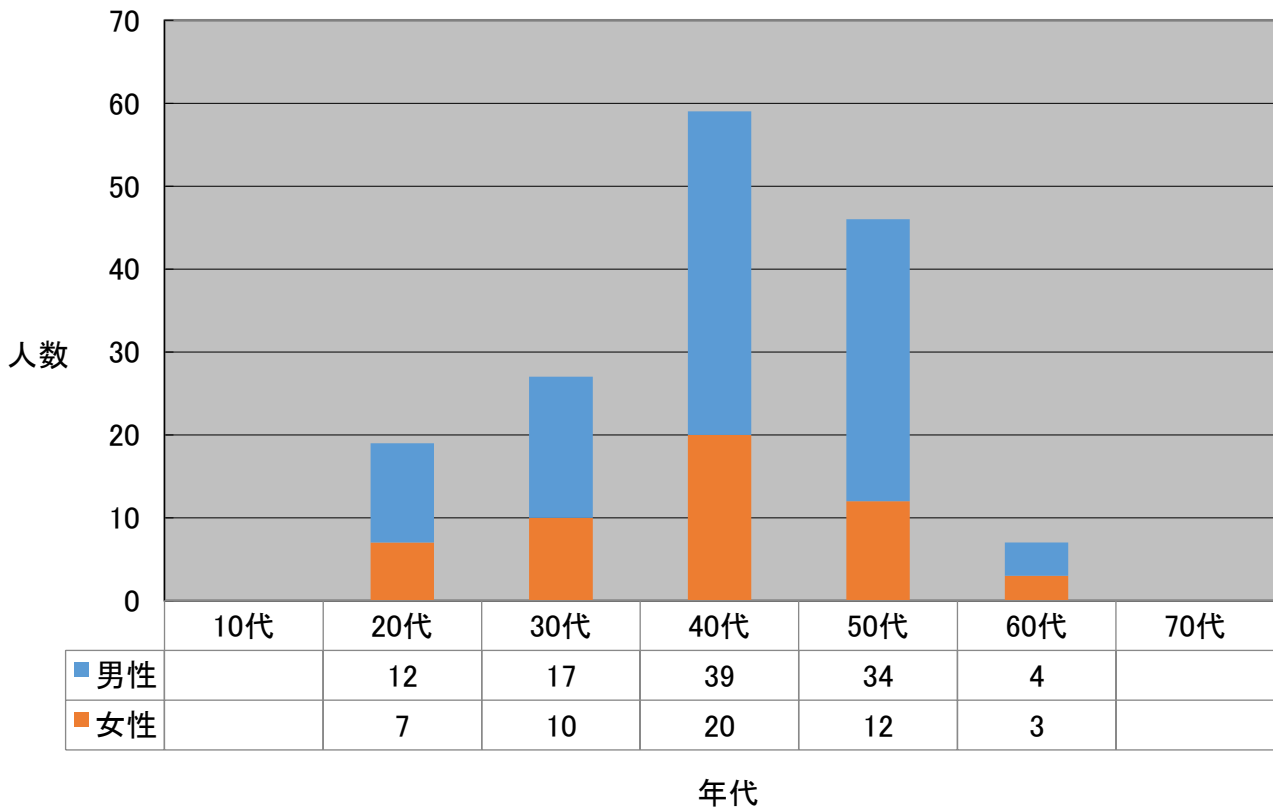
		1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
公民館学級	男	6	1	1	1	1	1	11
	女	2	2	1	1			6
ひかり学級	男		3	1	1			5
	女	6	4			1	1	12
土曜学級	男	2	2		1			5
	女	2						2
計	男	8	6	2	3	1	1	21
	女	10	6	1	1	1	1	20
総計		18	12	3	4	2	2	41

学級生数とボランティア担当者数の推移

◆ 学級生
■ 担当者



学級生の年代・男女別構成比



担当者紹介（2021年4月～2022年3月）

公民館学級（22名）

伊藤 美紀子
内田 桃香
遠藤 孝規
大毛 萌子
唐木 照美
日下部 洋介
小島 道子
原子 昌平
斉藤 由衣
櫻井 明美
柴田 保之
末永 智美
鈴木 邦子
関水 末子
高井 大輔
春山 祥子
星野 芳朋
堀井 あすか
牧野 恵里香
山之内 敦郎
横田 靖子
若林 一哉

ひかり学級（15名）

秋山 枝里奈
飯塚 葵
井原 洋子
今泉 晴世
岩見 郁菜子
大高 綾音
加藤 沙耶香
河井 神一
志賀 健二
田中 優笑
鈴木 幸江
鈴木 蒼
藤野 蒼大
宮崎 仁美
吉岡 英樹

土曜学級（17名）

石橋 堯弥
伊藤 直光
井上 廣美
小野寺 浩文
片岡 千栄子
川上 昴大
小山 京子
澤口 文男
瀧本 克芳
富沢 タツ子
千葉 誠司
西村 鎮男
彦根 睦
福島 妙子
堀部 秀人
宮城 幸生
三井 恒充

行政職員

（生涯学習センター）

☆ 岩田 武（16～）
☆ 戎谷 昭浩（18～）
☆ 河井 優幸（20～）
☆ 永井 里枝子（18～）

町田市障がい者青年学級 実践報告集 第47号

発行日 2022年12月

編集 町田市障がい者青年学級 担当者会

発行 町田市教育委員会生涯学習部生涯学習センター

〒194-0013 東京都町田市原町田6-8-1

TEL 042-728-0071

刊行物番号 22-49

この冊子は、200部作成し、1部あたりの単価は1,401円です。

(職員の人件費を含みます。)

